

平成26年度

アニュアルレポート 年報



独立行政法人 国立病院機構

京都医療センター





序 文

京都医療センター平成26年度版のアンニュアルレポートが出来上がりました。

発刊を再開してから4冊目となります。アンニュアルレポートが当センターの活動をできるだけ反映するように工夫をしてきました。作成に携わった者として、このレポートが当センターの活動への理解の助けとなることを願っています。

我が国の急速な少子高齢化対策として、社会保障と税の一体改革が平成23年度より進められ、平成24年から25年にかけて関連法案が成立しました。その方針に基づき、引き上げ分の税収は社会保障費に充てるということで、平成26年4月1日より消費税が8%に引き上げられました。消費税引き上げ前の駆け込み需要の反動の結果4月からの景気の停滞は経済指標の悪化を示し、その後の、さらなる消費税の10%への引き上げ計画は、延期されました。消費税の引き上げの影響が無くなるのに半年ほどかかり、昨年夏過ぎより景気が持ち直してきています。消費税の引き上げは、収支差が3～4%である当センターにおいても大変厳しく、医療費の改定では消費税引き上げ分はほとんど回収できず、大きな負担となりました。その結果、収入は伸びていますがそれ以上に費用が上昇し、平成26年度の黒字幅は縮小となりました。

一方、社会保障と税の一体改革では少子高齢化の進行を考慮して、2025年を見据えた医療供給体制改革も含まれています。病院から地域で支える医療への移行を目指し、現在の7対1病床に偏った病床構造の改革が提唱され、病床の機能分化が推進されています。「医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会」が2025年度の医療需要の見込みから必要病床数を計算し、都道府県での病床の増減が示され、京都府は病床数を減らす必要があると指摘されています。当院は病床区分で高度急性期を目指すことを決めています。今後、京都府や地域の医療機関との密接な連携を進めながら対応を図ることが求められています。

京都医療センターでは平成26年度に手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)の導入と新外来棟が稼働を始め今年度も順調に運営されています。新外来棟の1階ではPET-CTを設置することができ、ダ・ヴィンチとあわせて、地域がん連携病院としてがんの診断・治療に一段と力を注げることになりました。また、外来部門が広がり、医療安全のみでなく、患者アメニティーの改善も進めることができました。更に、新しいアンギオ装置が入りハート治療センター(心血管治療センター)が新しく立ち上がり循環器疾患の治療にも大きな進展がみられています。生活習慣病の関連では、当院メタボ外来と栄養管理室との協力で「京都医療センターメタボ外来のやせるレシピ」という書籍が出版され3万5千部以上を売り上げています。これは内分泌代謝領域・糖尿病領域に強い臨床研究センターを持つ当センターの特徴が生かした活動であると感じています。

平成26年度状況をみると、社会情勢の荒波のなかで順調な歩みを続けていくことは大変な努力が必要であると感じます。国立病院機構は平成27年度より職員を非公務員化し、より自由な立場で医療を進めて行くことが可能となったとされていますが、政策医療を進めることが機構の使命とされた上に、本来、国が支払うべき公務員時代の基礎年金を機構が肩代わりするため、運営はより厳しくなると考えられます。しかし、このレポートに示されているように、当センターには医師を始めとして優れた人材があり、力を合わせるならば困難を乗り越え、地域の中核病院として高度先進医療と急性期医療を継続し、充実させる事ができるものと確信しています。

最後になりましたが、医療は病院だけでは成立しません。患者さんを始め行政や地域の医療機関の方々のご支援が不可欠であります。皆様のご支援に感謝すると共に、今後も益々の当センターへのご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

院長 中村 孝志

京都医療センター診療年報 目次

序文	1
京都医療センターの理念	4
概要	5
組織図	14
幹部職員	15
職員の状況	16
診療実績	18
総合内科	21
血液内科	23
内分泌・代謝内科	24
糖尿病センター	32
腎臓内科	42
腫瘍内科	46
精神科	49
神経内科	51
呼吸器センター	54
消化器内科	57
循環器内科	62
小児科	69
外科	72
整形外科	78
形成外科	82
脳神経外科	84
血管外科	87
心臓外科	89
皮膚科	91
泌尿器科	93
産科婦人科	98
緩和ケア科	101
眼科	103
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	107
麻酔科	110
放射線科	112
リハビリテーション科	115

歯科口腔外科	117
救命救急センター	120
健診センター	127
臨床研究センター	132
医療安全管理部	141
医療情報部	144
感染制御部	149
教育研修部	155
地域医療部	156
薬剤部	161
臨床検査科	165
病理診断科	168
臨床栄養科	170
医療技術部 臨床工学科	172
看護部	174
京都看護助産学校	192
編集後記	210

京都医療センターの理念

私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、
患者さんが安心できる医療を提供します。

□ 基本方針

- 一、常に高度で先進的な医療を導入し、地域の医療機関との連携を図り、急性期医療を中心とした質の高い医療を提供することで患者さんに信頼される病院となることを目指します。
- 一、十分な説明のうえで患者さんの同意を得た医療を提供します。
- 一、臨床医学の発展を常に念頭におき、臨床研究を積極的に推進し、新しい医療技術の研究開発に努めます。
- 一、教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に努めます。
- 一、職員の働きやすい職場環境であることが、安全で高度かつ効率的な医療提供に不可欠であると考え、職員の福利厚生の上に努めます。

□ 患者さんの権利の尊重に関して

京都医療センターでは、患者さんと医療従事者との信頼関係のもとで患者さんとともに歩む病院をめざしています。ここに患者さんの権利に関する事項と守っていただく事項について記します。

【患者さんの権利に関する事項】

1. 尊厳ある人間として医療を受ける権利を大切にします。
2. 良質で適切な医療を平等に提供します。
3. 検査や治療について十分に理解していただけるように説明します。
4. 検査や治療について自ら選択する権利を尊重します。
5. 医療のどの段階においても他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利を尊重します。
6. 自分に関する医療情報の開示を求める権利を尊重します。
7. プライバシーを守ります。

【守っていただく事項】

1. 健康状態及び診療に必要な情報の提供をお願いします。
2. 医療内容について理解していただけない場合にはお知らせください。
3. 病院のルールを守り他の人に迷惑をかけないようにお願いします。

概要

(平成27年4月1日現在)

1. 施設の概要

(1) 環境

京都市の南にある市内最大の人口を擁する伏見区のおおむね中央に位置し、伏見稻荷大社で有名な稻荷山の南麓に広がる深草地区に立地している。深草地区は「うづらの里」と呼ばれるように、かつては多くの鶉(うづら)が生息したことで知られる。南へ下がると伏見の酒造りの町があり、白壁の酒蔵が立ち並び独特の風情がある。東南部には桃山城の城下町桃山地区がある。桃山時代に伏見城の城下町として始まり、また江戸時代には淀川水運の重要な港町・宿場町としても栄えた地域である。

現在は、伏見城の城下町の伝統を受け継ぐ商業拠点である一方、京都市中心部や京都府南部、大阪方面へのベッドタウンとしての性格をもち、診療圏も二次医療圏にとどまらず、京都府南部地域はもとより大阪府北摂地域をはじめ他府県に及んでいる。

(2) 沿革

明治40年 6月 (1907年)	京都衛 ^{えいじゆ} 戎病院として設立
昭和12年 (1937年)	京都陸軍病院と名称変更
昭和20年12月 (1945年)	国立京都病院として厚生省に移管
昭和53年 4月 (1978年)	臨床研究部(内分泌代謝疾患)設置
昭和59年12月 (1984年)	救命救急センター設置
昭和63年11月 (1988年)	WHOより糖尿病協力センターに指定
平成7年 4月 (1995年)	開放型病院に認定
平成7年 7月 (1995年)	京都府エイズ治療拠点病院に指定
平成10年 6月 (1998年)	臓器提供施設に指定
平成11年 3月 (1999年)	国の政策医療「内分泌代謝疾患」の高度専門医療施設として位置付けられる
平成12年 4月 (2000年)	(財)日本医療機能評価機構 病院機能評価『一般病院種別・B』に認定
平成14年 6月 (2002年)	地域医療連携室の開設
平成15年10月 (2003年)	臨床研究センター(内分泌代謝疾患)設置
平成16年 4月 (2004年)	独立行政法人へ移行。京都医療センターと改称

平成17年 4月 (財)日本医療機能評価機構
 (2005年) 病院機能評価『一般病院 (Ver.4.0)』に認定
 平成19年 1月 地域がん診療連携拠点病院に指定
 (2007年)
 平成20年 8月 地域医療支援病院に指定
 (2008年)
 平成22年 6月 (財)日本医療機能評価機構
 (2010年) 病院機能評価『一般病院 (Ver.6.0)』に認定
 平成23年 1月 新中央診療棟竣工 緩和ケア病棟開設
 (2011年)
 平成26年 6月 第2外来棟竣工
 (2014年)
 平成27年 4月 京都府災害拠点病院に指定
 (2015年)
 平成27年 4月 病院機能評価『一般病院2 (Ver.1.0)』『救急医療機能 (Ver.2.0)』に認定

(3) 医療圏・近隣医療機関の状況

● 2次医療圏

・京都・乙訓医療圏

(京都市、向日市、長岡京市、大山崎町3市1町)

● 2次医療圏内人口

・京都市 1,473千人

・向日市 54千人

・長岡京市 80千人

・大山崎町 15千人 計1,622千人

(4) 職員数

● 1,283名 (平成27年4月1日現在)

・常勤職員 1,001名

・非常勤職員 281名

・期間職員 1名

(5) 敷地・建物の状況

● 所在地 京都府京都市伏見区深草向畑町1-1

●敷地面積

区 分	面 積
病 院 敷 地	54,695 m ²
宿 舎 敷 地	11,572 m ²
合 計	66,267 m ²

●建物面積

区 分	建 築 面 積	延 床 面 積
病 棟	2,976 m ²	18,748 m ²
外 来 診 療 棟	2,711 m ²	10,840 m ²
中 央 診 療 棟	2,405 m ²	13,301 m ²
第 2 外 来 棟	421 m ²	1,228 m ²
新中央診療棟	1,952 m ²	8,672 m ²
臨床研究センター	827 m ²	3,117 m ²
看 護 学 校	3,298 m ²	6,560 m ²
そ の 他	4,660 m ²	10,560 m ²
合 計	19,250 m ²	73,026 m ²

2. 診療機能の状況

(1) 病床数 医療法病床数(一般病床) 600床

(2) 診療科(39科)

内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、心臓外科、血管外科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、頭頸部外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、緩和ケア外科、歯科口腔外科、小児歯科、病理診断科、臨床検査科、救急科

(3) 当院が担う政策医療

1. 内分泌代謝性疾患(高度専門医療施設)
2. 成育医療(近畿ブロック基幹医療施設)
3. がん(専門医療施設)
4. 循環器(専門医療施設)
5. 腎疾患(専門医療施設)
6. 感覚器疾患(専門医療施設)
7. 高度総合医療施設
8. エイズ拠点病院
9. 国際医療協力施設
10. NHO災害ブロック拠点病院

(4) 主な機能、施設認定等

- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・地域医療支援病院
- ・地域災害拠点病院
- ・救命救急センター
- ・E R (北米型救急外来)
- ・地域周産期母子医療センター
- ・エイズ拠点病院
- ・臓器提供施設
- ・京都府難病医療協力施設
- ・WHO糖尿病協力センター
- ・健診センター
- ・外来化学療法センター
- ・人工透析センター
- ・(財)日本医療機能評価機構 病院機能評価認定『一般病院2 (Ver.1.0)』『救急医療機能(Ver.2.0)』

(5) 教育研究機能

- ・臨床研究センター
- ・臨床研修指定病院(管理型)
- ・附属京都看護助産学校(看護師科・助産師科)

(6) 各学会認定専門医研修施設及び修練施設

日本内科学会、日本消化器学会、日本循環器学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本消化器外科専門医、日本整形外科学会、日本産婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医研修施設、日本周産期(新生児)専門医、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本手外科学会、日本神経学会、日本呼吸器外科基幹施設、日本消化器内視鏡学会、日本内分泌学会、日本腫瘍学会、日本頭頸部外科学会、日本がん治療認定医機構、日本緩和医療学会、胆管膵外科高度技能専門医、日本外科感染症学会、日本心血管インターベンション治療学会

3. 診療機能等の特色

(1) 救命救急センター(30床:ICU8床、HCU22床)

昭和59年12月に開設された歴史あるセンターであり、京都府内に6つある救命救急センターのひとつである。活動拠点は京都市のみならず、近隣市からの救急隊による収容要請にも応え24時間365日、質の高い救急医療を提供している。

平成23年1月に新中央診療棟に移転し、30床全床で生体監視モニター管理が可能となった。また、広範囲熱傷処置対応のための熱傷治療室も設置した。

(2) 集中治療室(ICU・6床)

平成15年7月に設置。集中治療室では、全身麻酔下手術等における重篤患者等の術後全身管理や入院中に集学的治療が必要となった患者の全身管理を行っている。救命救急センターの集中治療室と2ヶ所の集中治療室を有している。

(3) 新生児集中治療室(NICU・6床)

平成12年2月に設置し、平成12年4月に施設基準を取得。低出生体重児等の新生児の治療管理を集中的に行っている。地域周産期母子医療センターとして京都府南部地域の中核病院としての役割を果たしている。

(4) 新生児治療回復室(GCU・6床)

平成23年12月に設置し、平成24年1月に施設基準を取得。

NICUでの集中管理が終了した新生児が一定の体重・週数に達し、なおかつ合併症コントロールの目的が立ち退院できるまで管理している。

(5) 特別室個室病棟(30床)

平成23年1月にオープンした全室個室の病棟。セキュリティを確保した特別病棟は、病棟専属のコンシェルジュを配置し、クオリティーの高い療養環境と最高のサービスを提供している。新型インフルエンザの発生時等において隔離病棟として使用できるよう陰圧機能を備えた病室を備えている。

(6) 緩和ケア病棟(20床)

平成23年1月にオープン。京都府で初めて地域がん診療連携拠点病院にできた緩和ケア病棟であり、各診療科と連携を積極的に行って苦痛症状の緩和に努めている。医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、音楽療法士、ボランティアなど多職種でチームを組んで対応している。

(7) 開放型病床(20床)

地域医療機関との連携強化を図るため、伏見医師会との協定により開放型病床を設置し、登録医からの紹介入院患者を共同して診療、指導にあっている。平成7年4月に開放型病院の承認。平成20年8月に地域医療支援病院の承認。地域医療の向上を図り、紹介患者に対する医療の提供のみならず、地域の医療関係者の生涯教育の充実等地域医療の確保に努めている。

※登録医数 170名(平成26年4月1日現在)

(8) 特殊専門外来

特殊診療として、内視鏡センター、呼吸器センター、心臓センター、糖尿病センター、内分泌・甲状腺・高血圧センター、スポーツ医学センター、めまいセンター、脳・神経センター、産婦人科超音波外来、フットケア外来、セカンドオピニオン外来、腫瘍外来、遺伝子外来、禁煙外来、発達障害外来、外来化学療法センター、メタボリック症候群外来、妊娠糖尿病外来、糖尿病透析予防外来、婦人科骨粗鬆症更年期外来

(9) 健診センター(平成16年6月1日開設)

早期に病気を発見する予防医学の役割が一層重要になっていることから、当院の政策医療である内分泌・代謝疾患の高度専門医療施設の特性を生かし、生活習慣病を主な対象とするとともに、各診療科の専門性を有効に活用した健診とし、専門医との連携による的確な判定を行う。

(10) 研修医・レジデントの教育、研修の充実

教育研修部を設置して「患者を包括的にケアできる」医師の育成を行っている。

臨床研修指定病院(管理型)

NHO専修医制度

600床あたり臨床研修医10人×2

スーパーローテーション方式

ランチタイムセミナー

双方向性の評価方式の導入

(11) 臨床研究センター

平成15年10月に臨床研究センターが設置され、「糖尿病を中心とした内分泌・代謝性疾患の病態と発症機序の解明および予防・診断・治療法の開発研究」を担っている。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度からは「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになった。

(12) 手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入(平成26年6月20日)

患者さんの負担が少ない低侵襲の術式として導入された腹腔鏡下手術を支援する、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しました。このダヴィンチを用いた手術は通常の腹腔鏡下手術と同様に傷口が小さく低侵襲で術後の痛みも少ないことから回復も早く、早期の退院が可能となります。(保険適用手術は限られています。)

(13) PET/CT導入(平成26年6月23日稼働)

当院は平成19年1月から地域がん診療拠点病院の認定を受けており、がん治療は当院の柱の一つとなっています。

この度、「がん」の早期発見、早期治療の充実・発展のため京都府南部地域初のPET/CT(GE社製Discovery710型)を導入しました。

(14) 地域医療連携室

平成14年6月に地域医療連携室が設置され、地域の診療所や各医療機関及び保健福祉機関との連携を強化し、患者サービスの向上に努めています。前方後方支援業務はもとより、年2回開催の医療連携フォーラムや脳卒中等の市民講座の開催にも力を入れています。

□人員配置

○地域医療部長(医師) 地域医療連携室長(医師) 地域医療連携係長・病床管理師長
医療社会事業専門員4名 看護師2名 係員1名 事務助手5名 計15名

(15) がん診療支援

地域がん診療連携拠点病院である当センターでは、カンサーボードが設置され「がん診療セミナー」等、医師だけでなく、看護師、技師、その他医療職を対象とした、オープンセミナーを開催しています。

また、がん診療相談(地域医療連携室)や患者情報室(1階ホール)、京都では初となるNPO法人キャンサーリボンズが設置をサポートするリボンズハウス(外来化学療法室)を設置して患者さんの日常生活支援に力を入れ、最先端の総合的ながん治療から患者さんの視点に立って生活を支援することができる施設を目指しています。

□リボンズハウス(平成23年10月から運用開始)

- がん患者さんの「治療と生活」をつなぐ具体的な情報とケアを提供する。
- 医療者やヘルスケアに携わる多くの専門家の手によるプログラムを通して、患者さんがより自分らしく少しでも快適な生活を送れるようサポートする。
- 広く地域に開かれたスペースとして多くの人々が情報を共有し支えあいを実践できる場になることを目的とする。
- 主な内容としては、がんに係る相談、がんに係る情報提供、がん患者支援のイベント等の企画運営、インターネット検索コーナー、展示コーナー(ウィッグ、帽子等)アロマセラピー等

(16) 感染制御部

平成9年4月に組織横断的院内感染対策チーム(ICT)を設立し平成22年4月には、院内感染管理と職員の健康管理を通じて、患者さんが安心して診療を受けられる環境を提供するため、ICTを核とする感染制御部が発足しました。医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務等多くの職員がそれぞれ得意とする分野を分担しています。ICTリーダーを中心に週に1回ICTミーティングを行い、更に週1回定期的に院内ICTラウンドを実施し、日々の感染対策に関する相談に関しても随時対応しています。

□人員配置

○感染制御部長(医師) 副部長(医師2名) 医師2名 専任薬剤師 専従認定看護師 専任検査技師
事務2名 計10名

□主な活動例

- インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核等の院内感染対策
- 手術部位感染、血流感染等のサーベイランス
- 抗菌薬適正使用推進業務等
- これらの活動は、病院長直轄の「院内感染対策委員会」(月1回)と「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」(月1回)にて報告及び審議決定されるシステムとなっている。また、院内感染対策委員会については、感染対策の必要に応じて臨時開催され迅速な対応を行っている。(27年1月の開催回数は11回)

(17) 医療安全管理体制

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために医療安全管理部が設置されています。各部門にリスクマネージャーを置き、患者や家族に対する対応及び医療安全管理部門や幹部職員への報告・連絡・相談を速やかに行える様にしています。

更に客観的事実の確認や事故原因の追及と再発防止策の検討の為にオカーレンス事例検討会や医療安全管理委員会及び医療事故対策本部会議を開催しています。尚、必要に応じて弁護士や外部評価委員を構成メンバーに加えた拡大医療安全管理委員会も開催しています。また、顧問弁護士を配置し、必要に応じて法的観点からの意見を含め、病院として見解を常に決定するとともに、専任の医療安全管理係長や訴訟専門職を配置してあらゆるケースに対応出来る体制を構築しています。

また、クレームや暴言暴力への対策として警察OBを2名採用して対応している。

□人員配置

○副院長(医療安全担当) 医療安全管理部長(医師) 医療安全管理副部長(医師) 訴訟専門職
看護師長(医療安全管理専従) 副看護師長(医療安全管理専従)

リスクマネージャー(各部署から1名:59名) 顧問弁護士 計67名

□主な会議

- 拡大医療安全管理委員会
- 医療安全管理委員会
- 医療事故本部対策会議
- オカーレンス事例検討会
- ハイリスク診療検討会議
- リスクマネージャー会議

(18) 医療情報部

平成15年7月に設置された医療情報部は国立病院としては初めて認可された部門であり、医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当している。ベンダーに依存することなく医療現場のニーズにマッチした情報システムの開発、導入、構築を迅速かつ正確に行っている。平成11年に導入した病院総合情報システム(電子カルテ)は、平成28年の稼働を目標として準備中の新システムで第4世代となる。

また、京都府及び京都市が設置した情報基盤協議会である「ITコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し「ポケットカルテ」等の二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画、設計、開発、構築、運用等も行っている。更に、情報システムや診療記録管理だけではなく、診療諸記録作成の作成等の医師事務作業補助の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し、各診療科に配置する事で、医師や看護師等の専門職が業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療の質の向上に努めている。

□人員配置

○部長(医師・SE) 副部長(医師) 診療情報管理士4名 スペシャル医療クラーク28名
医療クラーク2名 情報システム管理室員4名 流動研究員(SE等)5名 計45名

4. 附属京都看護助産学校

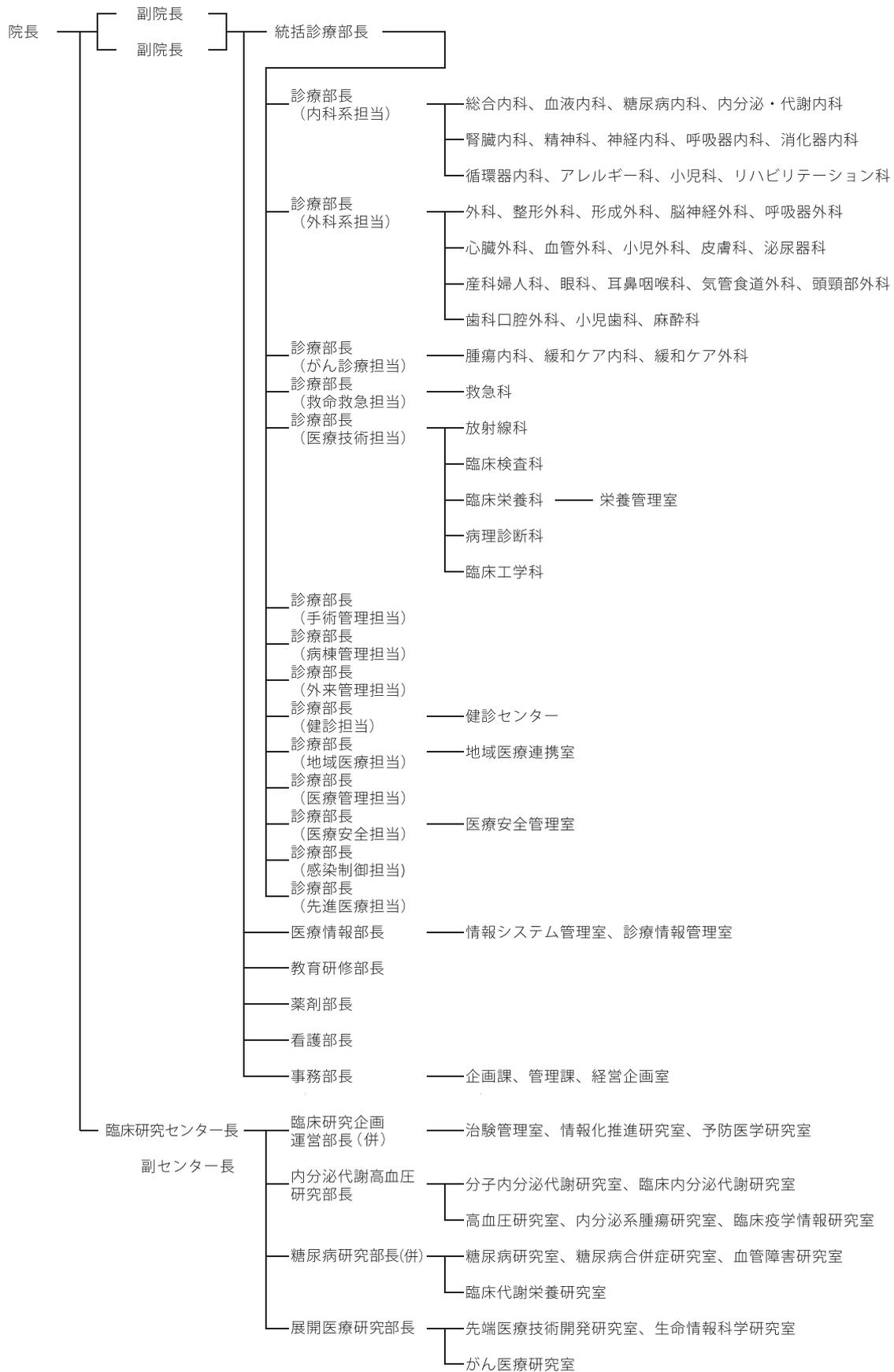
(1) 沿革

昭和24年 (1949年)	4月 1日	附属高等看護学院設置
昭和44年 (1969年)	4月 1日	附属高等看護助産学院設置
昭和50年 (1975年)	4月 2日	国立京都病院附属看護助産学校、看護婦科および助産婦科に名称が変更される。
平成14年 (2002年)	4月 1日	看護師科、助産師科に名称が変更される
平成16年 (2004年)	3月 25日	看護学校大型化整備工事竣工
平成16年 (2004年)	4月 1日	国立京都病院附属看護助産学校及び国立療養所宇多野病院附属看護学校並びに国立療養所南京都病院附属看護学校を当院の地で統合し、附属京都看護助産学校となる。

※1学年定員 看護師科80名
助産師科25名

京都医療センター 組織図

(平成27年4月1日現在)



学校長(併) — 副学校長 — 附属京都看護助産学校

京都医療センター 幹部職員



院長 中村 孝志



副院長 塚原 徹也



副院長 高倉 賢二



臨床研究センター長
島津 章



統括診療部長
猪飼 伊和夫



内科系診療部長
教育研修部長
小山 弘



外科系診療部長
中川 泰彰



がん診療部長
土屋 宣之



救命救急部長
志馬 伸朗



医療技術部長
伊藤 剛



手術管理部長
七野 力



病棟管理部長
赤尾 昌治



外来管理部長
三尾 直士



健診部長
田上 哲也



地域医療部長
秋山 祐一



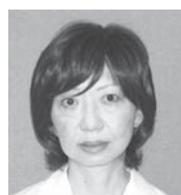
医事管理部長
勝島 慎二



医療安全部長
白神 幸太郎



感染制御部長
奥野 博



先進医療部長
喜多 美穂里



医療情報部長
北岡 有喜



臨床研究センター副センター長
内分泌代謝高血圧研究部長
成瀬 光栄



展開医療研究部長
長谷川 浩二



薬剤部長
北村 良雄



看護部長
三井 佐代子



事務部長
宮本 博之



副学校長
山本 薫里

職員の状況

(平成27年4月1日現在)

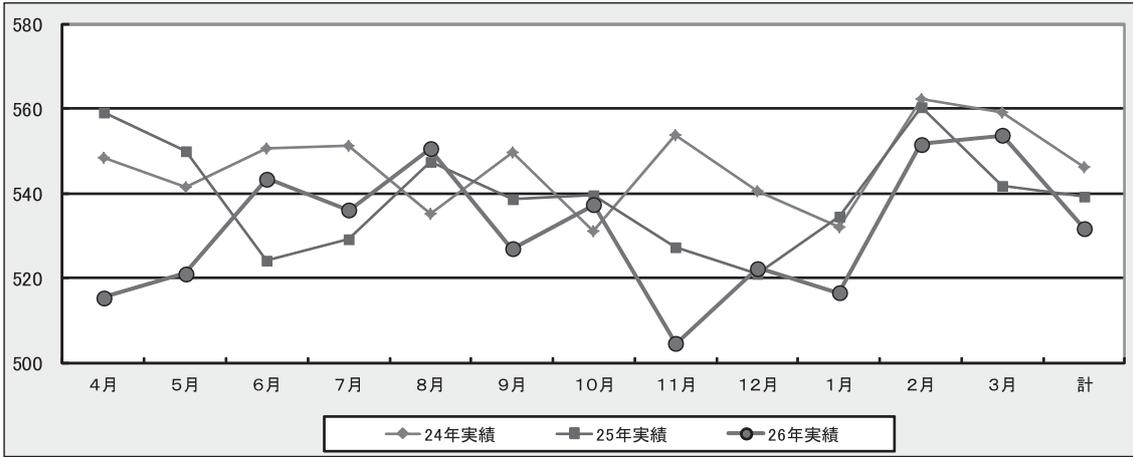
	職 種 ・ 職 名		常勤職員		非常勤職員			期間職員			職 員 合 計
			定 数	現 員	定 数	現 員	常勤換算	定 数	現 員	常勤換算	
医 師	院長・年俸表一	院長	1	1							1.00
		副院長	3	3							3.00
		部長	18	18							18.00
		医長	44	39							39.00
		歯科医長	1	1							1.00
		小計	67	62							62.00
	一般医師 医療職(一)	医師	87	91	20.79	62	48.10	0.90	1	0.90	139.10
		歯科医師		1	2.31	2	1.54				2.54
		小計	87	92	23.10	64	49.64	0.90	1	0.90	141.64
	医 師 計		154	154	23.10	64	49.64	0.90	1	0.90	203.64
医 療	薬剤師	薬剤科長	1	1							1.00
		副薬剤科長	2	2							2.00
		主任薬剤師	7	7							7.00
		薬剤師	26	27							27.00
		小計	36	37							37.00
	放射線技師	診療放射線技師長	1	1							1.00
		副診療放射線技師長	2	2							2.00
		主任診療放射線技師	6	5							5.00
		診療放射線技師	22	23							23.00
		小計	31	31							31.00
	検査技師	臨床検査技師長	1	1							1.00
		副臨床検査技師長	2	2							2.00
		主任臨床検査技師	8	8							8.00
		臨床検査技師	23	23		3	2.31				25.31
		小計	34	34		3	2.31				36.31
	管理栄養士	栄養管理室長・班長	1	1							1.00
		副臨床検査技師長	1	1							1.00
		主任栄養士	2	1							1.00
		栄養士	3	4	2.31	2	1.66				5.66
小計		7	7	2.31	2	1.66				8.66	
職	理学療法士	理学療法士長	1	1							1.00
		副理学療法士長									
		主任理学療法士	1	1							1.00
		理学療法士	14	14							14.00
		小計	16	16							16.00
(一)	作業療法士	作業療法士長									
		副作業療法士長									
		主任作業療法士	1	1							1.00
		作業療法士	4	4							4.00
		小計	5	5							5.00
医療技術職員	臨床工学技士	10	10							10.00	
	視能訓練士	4	3	1.85	2	1.54				4.54	
	言語聴覚士	3	4		1	0.52				4.52	
	心理療法士			0.92	5	0.81				0.81	
	歯科衛生士			1.54	2	1.54				1.54	
	歯科技工士			0.77	1	0.77				0.77	
	小計	17	17	5.08	11	5.18				22.18	
医 療 職 (二) 計		146	147	7.39	16	9.15				156.15	

医療職 (三)	看護師、助産師	看護部長	1	1						1.00
		副看護部長	3	3						3.00
		看護師長	22	22						22.00
		副看護師長	48	48						48.00
		助産師	538	34		1	0.80			34.80
		看護師		523	33.99	27	19.45			542.45
		准看護師		1						1.00
	医療職(三)計		612	632	33.99	28	20.25			652.25
事務職・診療情報管理職	事務職員	事務部長	1	1						1.00
		課長・室長	3	3						3.00
		班長	4	2						2.00
		専門職		2						2.00
		係長	12	7						7.00
		主任								
		一般職員(事務補助)	3	9	105.23	141	108.83			117.83
	小計		23	24	105.23	141	108.83			132.83
	診療情報管理職	診療情報管理士	7	7		1	0.80			7.80
		小計		7	7		1	0.80		7.80
事務職・診療情報管理職計		30	31	105.23	142	109.63			140.63	
技能職員		自動車運転手		1						1.00
		調理師		12						12.00
		看護助手				23	19.09			19.09
		その他	13		25.31	3	2.49			2.49
		技能職員計		13	13	25.31	26	21.58		
教育職		副学校長・教育主事	4	4						4.00
		教員(教務補助)	15	15						15.00
		教育職計		19	19					19.00
研究職		センター長・部長								
		室長・主任研究官								
		研究(補助)員			3.49	4	3.14			3.14
研究職計				3.49	4	3.14			3.14	
福祉職		保育士	1	1		1	0.77			1.77
		医療社会事業専門員	4	4						4.00
		福祉職計		5	5		1	0.77		5.77
職員総数		979	1,001	198.51	281	214.16	0.90	1	0.90	1215.16
(男性)			301		64	48.08		1	0.90	349.98
(女性)			700		217	166.08				866.08

診療実績(年度別統計)

○平均入院患者数(年間目標数=540人)

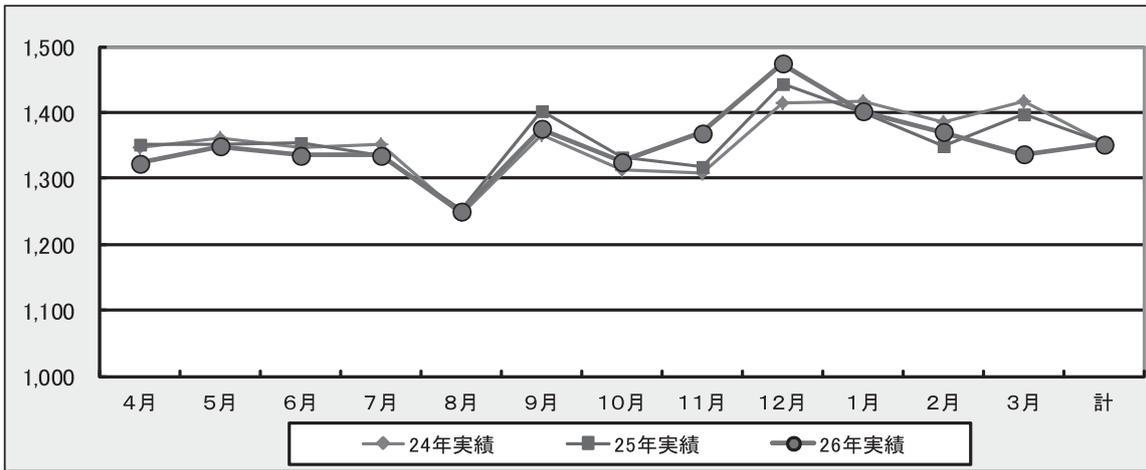
(単位:人/日)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	利用率
24年実績	548.3	541.3	550.7	551.2	535.1	549.7	531.1	553.7	540.6	531.9	562.3	559.1	546.1	91.0%
25年実績	559.2	549.9	524.0	529.2	547.5	538.6	539.5	527.3	521.0	534.4	560.2	541.7	539.2	89.9%
26年実績	515.4	521.1	543.4	536.0	550.4	526.9	537.2	504.5	522.3	516.5	551.6	553.7	531.5	88.6%

○平均外来患者数(年間目標患者数=1340人)

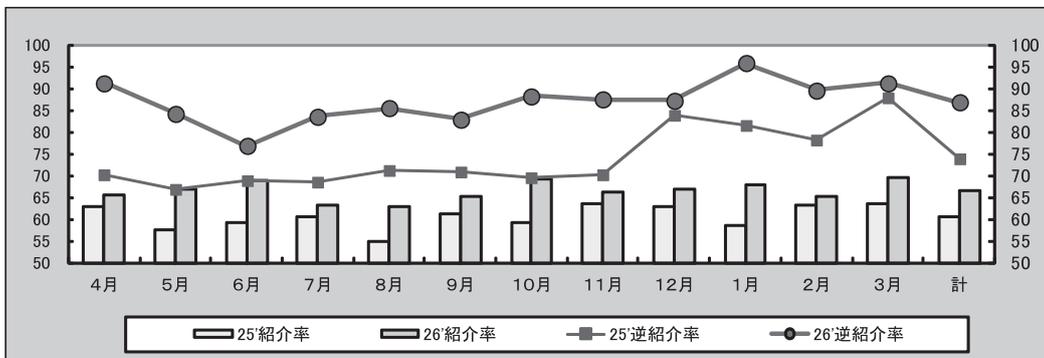
(単位:人/日)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24年実績	1,345.6	1,360.7	1,346.4	1,350.9	1,245.8	1,366.5	1,312.0	1,307.9	1,415.3	1,415.7	1,384.1	1,417.3	1,353.1
25年実績	1,351.5	1,351.9	1,354.4	1,334.2	1,252.1	1,402.7	1,331.0	1,318.7	1,443.9	1,398.8	1,348.3	1,396.2	1,355.0
26年実績	1,323.2	1,348.3	1,335.1	1,335.7	1,248.9	1,375.6	1,326.0	1,369.4	1,473.7	1,401.5	1,370.6	1,336.3	1,351.6

○紹介率、逆紹介率の推移

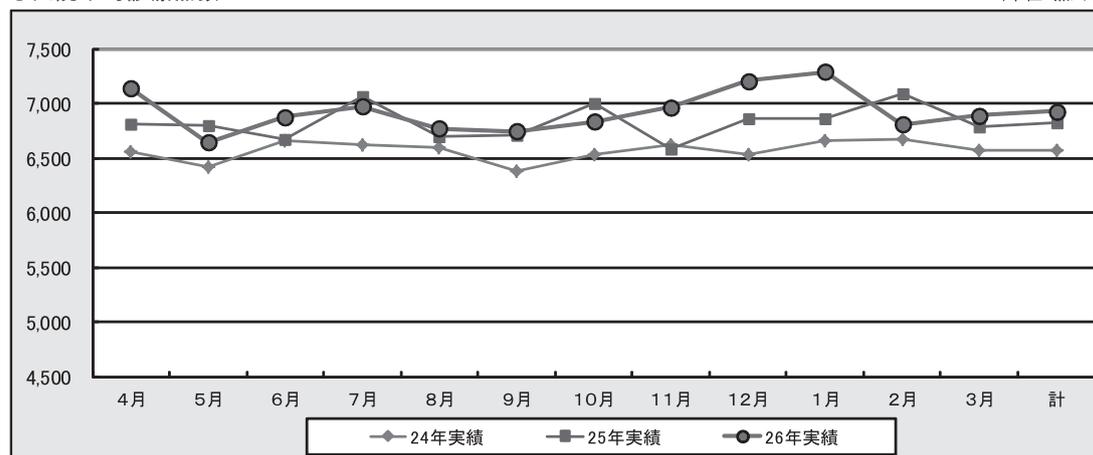
(単位:%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25'紹介率	62.9	57.5	59.1	60.6	55.0	61.3	59.1	63.4	62.7	58.4	63.1	63.4	60.5
26'紹介率	65.6	66.8	68.7	63.3	62.9	65.2	69.3	66.1	66.9	67.7	65.2	69.5	66.5
25'逆紹介率	70.2	66.7	68.8	68.4	71.3	70.7	69.6	70.1	84.0	81.4	78.3	87.9	73.7
26'逆紹介率	91.3	84.3	76.8	83.6	85.5	83.0	88.3	87.5	87.2	95.8	89.6	91.3	86.8

○入院平均診療点数

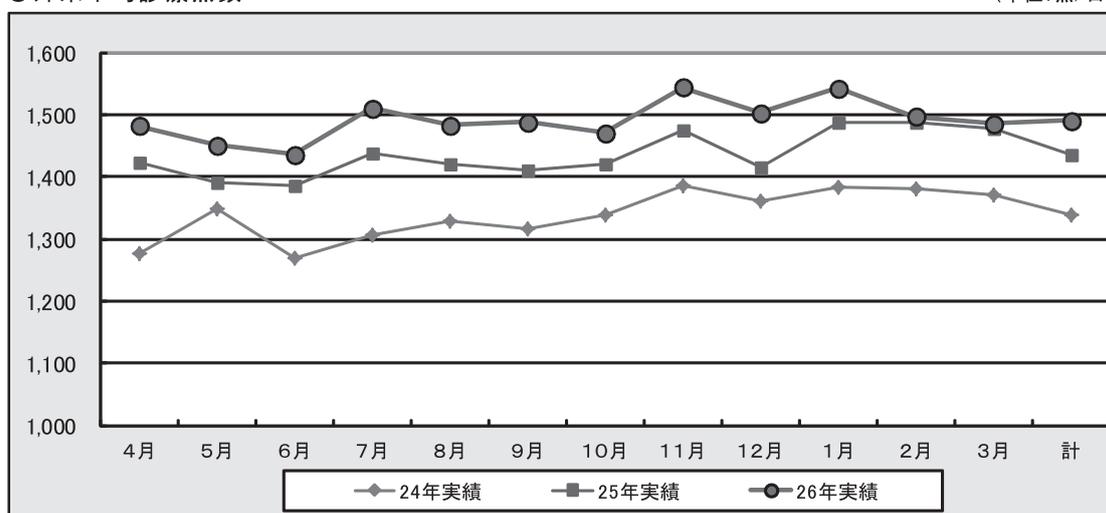
(単位:点/日)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24年実績	6,559.7	6,414.3	6,652.7	6,621.9	6,589.5	6,383.9	6,531.4	6,623.8	6,530.9	6,660.3	6,669.1	6,572.5	6,567.1
25年実績	6,812.5	6,791.3	6,667.4	7,057.9	6,696.6	6,706.6	6,997.6	6,578.7	6,854.6	6,860.1	7,091.1	6,783.5	6,825.0
26年実績	7,136.8	6,645.5	6,874.8	6,973.0	6,772.1	6,745.2	6,835.1	6,962.3	7,203.3	7,289.0	6,805.3	6,892.3	6,926.5

○外来平均診療点数

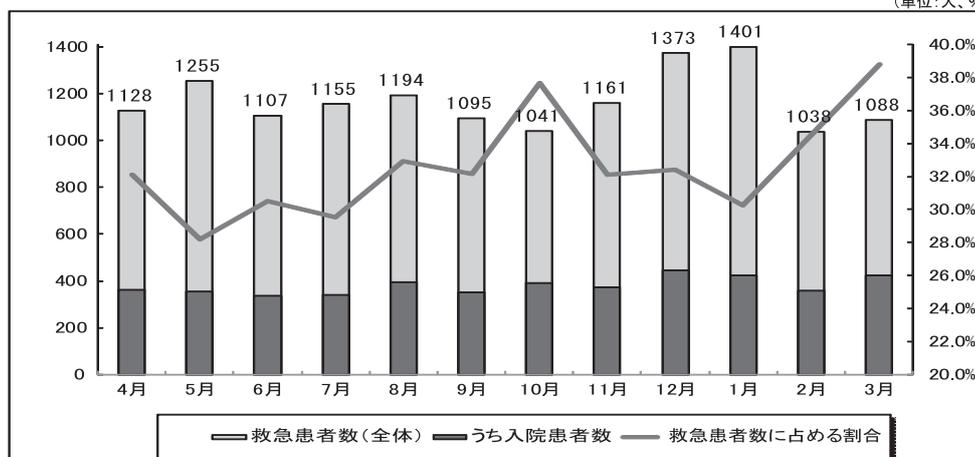
(単位:点/日)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24年実績	1,275.8	1,349.1	1,269.1	1,306.1	1,327.3	1,316.6	1,339.0	1,385.6	1,360.9	1,384.1	1,381.2	1,369.8	1,338.5
25年実績	1,421.5	1,391.6	1,386.0	1,436.8	1,420.1	1,411.3	1,421.2	1,474.3	1,414.7	1,487.2	1,486.9	1,476.6	1,435.1
26年実績	1,482.1	1,450.7	1,436.2	1,510.1	1,483.3	1,487.6	1,470.5	1,543.2	1,502.2	1,541.8	1,496.3	1,485.7	1,490.2

○救急患者数推移

(単位:人、%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
救急患者数(全体)	1128	1255	1107	1155	1194	1095	1041	1161	1373	1401	1038	1088	1,169.7
うち入院患者数	362	354	338	341	393	352	392	373	445	424	358	422	379.5
救急患者数に占める割合	32.1%	28.2%	30.5%	29.5%	32.9%	32.1%	37.7%	32.1%	32.4%	30.3%	34.5%	38.8%	32.4%
救急搬送患者数	380	363	351	377	383	343	328	401	457	513	349	398	386.9
新規入院患者数(参考)	1,132	1,105	1,145	1,156	1,192	1,096	1,223	1,121	1,180	1,290	1,077	1,264	1,165.1

經常収支率

損益計算書

(千円)

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医業収益	17,425,407	18,076,242	18,235,906
入院診療収益	12,656,564	12,981,180	12,955,293
室料差額収益	423,313	436,022	446,335
外来診療収益	4,266,822	4,570,975	4,740,257
保険予防活動収益	95,690	99,535	104,994
文書料収益	69,691	74,372	73,421
その他医業収益	1,891	2,141	2,287
保険等査定減(△)	▲88,564	▲87,983	▲86,681
診療業務費	16,605,978	17,448,096	18,063,338
給与費	7,973,081	8,303,447	8,587,732
材料費	4,721,005	5,159,362	5,387,213
委託費	754,158	738,670	727,064
設備関係費	2,042,466	2,025,906	2,079,935
研究研修費	4,619	4,461	6,850
経費	1,110,649	1,216,250	1,274,544
医業収支差	819,429	628,146	172,568
医業収支率	104.9%	103.6%	101.0%
人件費率	45.8%	45.9%	47.1%
材料費率	27.1%	28.5%	29.5%
委託費率	4.3%	4.1%	4.0%
経費率	6.4%	6.7%	7.0%
人件費+委託費率	50.1%	50.0%	51.1%
經常収益	18,168,626	18,875,773	19,083,993
經常費用	17,374,112	18,245,753	18,878,406
經常収支差	794,514	630,020	205,587
經常収支率	104.6%	103.5%	101.1%

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
教育研修収益	241,082	246,332	216,175
教育研修費用	235,181	268,778	265,720
収支差	5,901	▲22,446	▲49,545

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
臨床研究収益	301,215	326,213	374,464
臨床研究費用	357,853	381,508	418,752
収支差	▲56,638	▲55,295	▲44,288

総合内科



部長
小山 弘

専門医資格等 日本内科学会総合内科専門医
専門分野 内科一般
得意疾患 内科一般

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	小田垣孝雄	日本内科学会総合内科専門医 Infection Control Doctor 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 アメリカ心臓協会ACLSコースディレクター、 BLSインストラクター 日本救急医学会 ICLSコースディレクター 日本医師会認定産業医	内科一般	内科一般、感染制御、救急蘇生法教育
医 師	桂 敏明	日本内科学会認定内科医	内科一般	内科一般
医 師	後藤 雅史	日本内科学会総合内科専門医 公衆衛生学修士	内科一般	内科一般
専 修 医	孫 瑜		内科一般	内科一般
専 修 医	張 福鍊		内科一般	内科一般

□ 診療科の特徴

1. 器官系を横断的に考えます
2. 患者と病院のインターフェースとして、窓口機能を果します
3. 専門診療科との連携を重視します
4. 医学的なエビデンスに配慮します

□ 主な対象疾患

急性感染症(気道、尿路、皮膚軟部組織、骨、その他)

不明熱、多発関節痛など診断の確定していない症候

免疫膠原病(関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症など。診断後自科で治療または必要に応じ専門診療科に紹介)

□ 診療(業務)内容

外来では重篤でない急性疾患の診断・管理や、不明熱や多発関節痛など診断の確定していない症候の診断・管理と必要に応じた専門診療部門・機関への紹介などを行っております。健診その他での高血圧や脂質異常症などについて相談に受診される方もおられ、生活指導や薬物療法が継続的に必要と考えられた場合、地域の医療機関を紹介することがありますので、よろしくお願い致します。

入院では、おもに救急外来から緊急入院した内科系非重篤患者のうち、肺炎、腎盂腎炎などの急性感染症、原因不明の発熱(最終的には薬剤熱、血管炎症候群、血液学的腫瘍、自然治癒するウイルス感染症や一過性の肺への吸引など)や意識障害、電解質異常、栄養不良を受け持ち、診断および管理、必要に応じた他科への紹介を行っています。他科入院中の患者の感染症や原因不明の発熱についての共診も主たる活動の一部になっています。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
13.8名	266名	18.5日

外来患者数

1日平均患者数
36.3名

主な疾患の件数など

感染症	リウマチ性疾患	水・電解質異常	神経疾患	血液疾患
162件	25件	17件	14件	13件

□ 地域医療連携・広報活動

伏見医師会理事

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者	演題	学会名
国際学会	熊切将宜、小田垣孝雄、孫瑜、後藤雅史、桂敏明、張福鍊、小見山麻紀、小山弘	肺炎球菌性髄膜炎にぶどう膜炎を合併した1例	第205回日本内科学会近畿地方会
国内学会 座長	小田垣孝雄	感染症	第205回日本内科学会近畿地方会
国内学会 座長	小田垣孝雄	感染症	第206回日本内科学会近畿地方会

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ
DVD 研修医のための診察手順	大倉敬之、小山弘	悪心・嘔吐の診かた	第4巻
JIM	小山弘、孫瑜、高林健介、中谷理恵子、大倉敬之、桂敏明、小田垣孝雄	What's your diagnosis? アンドロイドは光速で	24巻8号(2014.8)
総合診療	孫瑜、小山弘、桂敏明、大倉敬之、小田垣孝雄	What's your diagnosis? 三重県注意報	25巻3号(2015.3)

血液内科



医 長
奥野 芳章

専門医資格等 日本内科学会内科専門医
日本血液学会専門医・指導医
京都大学医学博士
専門分野 血液一般

□ 診療科の特徴

1. 当科では貧血から、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など血液悪性疾患に至るまでいろいろな血液疾患の診断、治療をおこなっています。血液疾患は自覚症状に乏しく、血液検査をして初めて異常が明らかになることが多いため、まず、お近くのかかりつけの医師に診察して頂いて、血液疾患の疑いがあれば当科にご紹介して頂いています。
2. 血液疾患の治療法の進歩はめざましく、血液幹細胞移植の適応になることもありますが、残念ながら当院では移植治療は行っておりません。そのような治療が必要な場合、移植施設をご紹介いたします。

□ 主な対象疾患

貧血・出血傾向・リンパ腫・白血病・骨髄腫 など

□ 診療(業務)内容

再生不良性貧血に対する免疫抑制療法や血液悪性疾患に対する通常量化学療法、貧血などに対する輸血などの対症療法を行っています。治療法を選択するにあたっては、広く認められている標準療法であること、患者さんが十分ご理解、ご納得頂けることを重視しています。

血液疾患は診断、あるいは治療の選択に困難を伴う場合が多いかと思いますが、患者さんと常にご相談しながらよりよい治療法を探していきます。

- ・貧血
- ・出血傾向
- ・リンパ腫
- ・白血病
- ・骨髄腫など

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	8.5	144	20.7

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	14.8

内分泌・代謝内科



診療部長・診療科長
田上 哲也

専門医資格等 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医・指導医・教育責任者
日本甲状腺学会 専門医
厚生労働省 臨床研修指導医
京都大学医学部 臨床教授・非常勤講師
京都大学 医学博士

専門分野 内科
内分泌・代謝

得意疾患 甲状腺疾患

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	立木 美香	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医・指導医 日本高血圧学会 専門医 東京女子医科大学 医学博士	内科 内分泌・代謝	
レジデント	垣田真以子	日本内科学会 認定内科医 日本抗加齢医学会 専門医 日本医師会 認定産業医	内科 内分泌・代謝	
専修医	中谷理恵子	日本内科学会 認定内科医	内科、内分泌・代謝	
専修医	小笠原辰樹		内科、内分泌・代謝	
レジデント	廣田 圭昭		内科、内分泌・代謝	
レジデント	横田 美紀	日本内科学会 認定内科医 日本糖尿病学会 専門医	内科 内分泌・代謝	
臨床研究センター・センター長	島津 章	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医・指導医 日本糖尿病学会 専門医 京都大学医学部 臨床教授・非常勤講師 京都大学 医学博士	内科 内分泌・代謝 臨床検査医学	神経内分泌・下垂体疾患
臨床研究センター・副センター長 (内分泌代謝高血圧研究部長)	成瀬 光栄	日本内科学会 認定内科医・指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医・指導医 日本高血圧学会 専門医 日本糖尿病学会 専門医 日本腎臓学会 専門医・指導医 東京医科歯科大学医学部 臨床教授・非常勤講師 東京女子医科大学 医学博士	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
臨床研究センター・室長 (臨床内分泌代謝研究室)	臼井 健	日本内科学会 認定内科医・指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医・指導医 日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会 臨床遺伝専門医 厚生労働省 臨床研修指導医 京都大学医学部 臨床教授・非常勤講師 京都大学 医学博士	内科 内分泌・代謝 臨床遺伝学	神経内分泌・遺伝性疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本内分泌学会研修施設 日本甲状腺学会認定施設
-------	----------------------------

1. 内分泌代謝疾患に関する、良質で高水準の医療を提供しています。
2. 満足のいく十分な説明を行い、安心できる医療を提供しています。
3. 十分な診療情報提供と逆紹介により、病診連携を促進しています。
4. 地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っており、1999年には内分泌代謝性疾患に関する高度専門医療施設(準ナショナルセンター)として国の指定を受けています。全国の内分泌・代謝疾患の「専門医療施設」と内分泌・代謝疾患ネットワークを構築しています。また、日本内分泌学会認定教育施設および日本甲状腺学会認定専門医施設に認定されています。

□ 主な対象疾患

● 下垂体疾患

下垂体インシデンタローマ:脳ドックなど、CTやMRIで偶然見つかった下垂体腫瘍の機能評価をします。

下垂体機能亢進症:先端巨大症(アクリロメガリー)、クッシング病(下垂体性クッシング症候群)、プロラクチン産生下垂体腫瘍(プロラクチノーマ)、TSH産生下垂体腫瘍(中枢性甲状腺機能亢進症)などです。糖尿病や肥満、不順月経の原因になります。

下垂体機能低下症:シーハン症候群(出産後下垂体機能低下症)などの汎下垂体機能低下症、ACTH単独欠損症(下垂体性副腎不全)、成長ホルモン分泌不全症、リンパ球性下垂体炎、中枢性尿崩症などがあります。無月経や低身長、低血圧・低血糖、口渇・多飲・多尿などが主徴候となります。小児科からのトランジション(引き継ぎ治療)も大切です。

● 甲状腺疾患

甲状腺腫:学校検診や人間ドックなどで指摘された甲状腺腫の評価をします。

甲状腺インシデンタローマ:頸動脈エコーなどで偶然見つかった甲状腺腫瘍の良性・悪性の判定をします。

甲状腺機能亢進症:バセドウ病のほか、プランマー病(機能性結節)、妊娠性甲状腺機能亢進症があります。眼球突出や心房細動がきっかけで見つかることもあります。振戦や筋力低下の原因にもなります。コントロール不良のバセドウ病にはアイソトープ治療(¹³¹I内用療法)も考えてみてください。

破壊性甲状腺中毒症:発熱・前頸部痛を主訴とする亜急性甲状腺炎や、橋本病をベースとした無痛性甲状腺炎、インターフェロンやアミオダロンなどによる薬剤性甲状腺中毒症があります。

甲状腺機能低下症:原因として橋本病(慢性甲状腺炎)が最も多いですが、先天性甲状腺機能低下症や薬剤性甲状腺機能低下症(向精神薬など)も少なくありません。便秘や体重増加、皮膚の乾燥、顔のむくみ、脱毛などを訴えます。

● 副甲状腺疾患

高カルシウム血症:副甲状腺腫による原発性副甲状腺機能亢進症や悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症、ビタミンD中毒があります。尿路結石を繰り返します。

低カルシウム血症:成人では特発性副甲状腺機能低下症があります。小児では、先天性副甲状腺機能低下症や偽性副甲状腺機能低下症があります。

骨粗鬆症:高齢化に伴い、閉経後の原発性骨粗鬆症が増加しています。ステロイドホルモンによる続発性骨粗鬆症にも注意が必要です。

● 副腎疾患

副腎インシデンタローマ:CTやMRIで偶然見つかった副腎腫瘍の機能評価をします。

副腎皮質機能亢進症:原発性アルドステロン症(PA)やクッシング症候群などがあります。多くは副腎腫瘍が原因です。高血圧や糖尿病、メタボリック症候群の原因になります。高血圧の~10%にPAが見つかります。

当院では副腎静脈サンプリングが可能です。

副腎髄質機能亢進症:褐色細胞腫や傍神経節腫が原因です。術後数年後に転移が見つかるケースも少なくありません。発作性の高血圧が特徴です。

副腎皮質機能低下症:アヂソン病や先天性副腎過形成などが原因となります。急性副腎不全(副腎クリーゼ)を発症することがあります。

●その他の内分泌代謝疾患

性腺疾患：ターナー症候群、クラインフェルター症候群、多嚢胞性卵巣症候群などです。

生活習慣病：高血圧（高血圧の約15%はホルモンの異常による内分泌性高血圧で、種々のホルモン過剰が原因になります。適確な診断と治療で治癒可能なことが少なくありません）。その他、メタボリック症候群、脂質異常症、高尿酸血症、電解質異常（低カリウム血症、低ナトリウム血症など）なども診療しています。

遺伝性疾患：多発性内分泌腺腫症（MEN）などです。一部の疾患では遺伝子検査が可能です。白井医師（遺伝診療部）にご相談ください。

□診療（業務）内容

●内分泌代謝疾患とは「ホルモンの乱れに起因する病気」を総称するもので、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性ホルモンの異常をきたす疾患の他、内分泌疾患を疑う必要のある、高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症などの生活習慣病、電解質異常、骨粗鬆症などを対象として、診療にあたっています。

●外来では、血液検査、画像検査（レントゲン、CT、MRI、アイソトープ検査や甲状腺エコー）、甲状腺の細胞診などを行っています。遺伝子診断・遺伝相談、セカンドオピニオン外来を実施しています。

●入院では、上記疾患の診断と治療の他、バセドウ病のアイソトープ治療、甲状腺眼症のステロイドパルス療法、原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリング検査などを実施しています。

□診療実績（平成26年度）

入院患者数

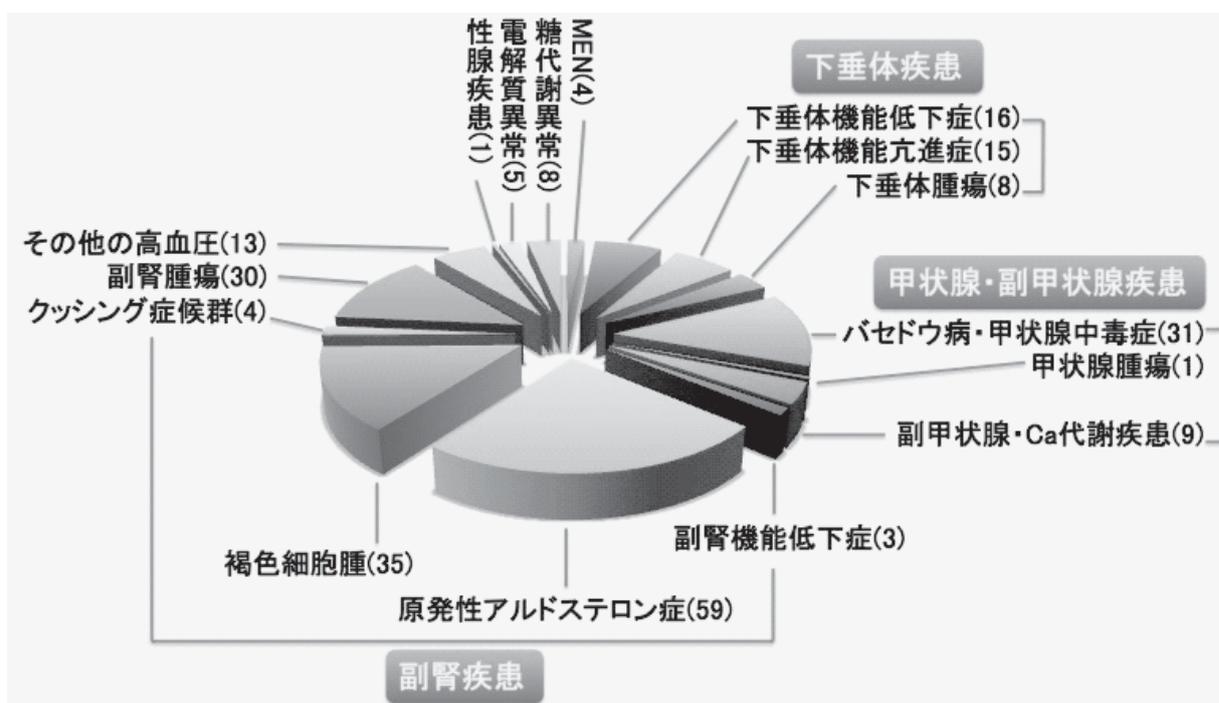
	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	5.5名	228名	8.6日

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	60.2名

主な検査の件数など

	甲状腺エコー	甲状腺細胞診
2014年度	1,670件	168件



□ 学術活動報告(学会・研究発表 など)

区分	演者	演題	学会名
国際学会	Kakita M, Tsuiki M, Ueda Y, Nakao K, Nakatani R, Nanba K, Usui T, Tagami T, Shimatsu A, Naruse M	Electrocardiographic Left Ventricular Hypertrophy (ECG-LVH) in Primary Aldosteronism.	ENDO 2014: The Endocrine Society's 96th Annual Meeting & Expo 2014 2014/6/21-6/24 Chicago
国際学会	Kakita M, Tsuiki M, Nakatani R, Nanba K, Usui T, Tagami T, Abe T, Shimatsu A, Naruse A	A case of recurrent malignant paraganglioma responded to CVD chemotherapy after repeated surgery and MBG radiotherapy	International Symposium on Pheochromocytoma and Paraganglioma 2014 2014/9/17-9/20 Kyoto
国内学会	田上 哲也、立木 美香、中尾 佳奈子、中谷 理恵子、垣田 真以子、植田 洋平、松尾 奈緒美、白井 健、成瀬 光栄、島津 章	甲状腺中毒症状の特異性に関する検討	第111回日本内科学会講演会 2014.4.11-13 東京
国内学会	福田 佑紀、二若 久美、主田 綾佳、根津 祥子、小山 理恵、笠原 正登、田上 哲也、森山 賢治	合成活性型ビタミンD3の転写活性の比較評価	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	垣田 真以子、木戸 愛、白井 健、植田 洋平、中谷 理恵子、中尾 佳奈子、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、笹野 公伸、島津 章	FDG-PETで強陽性を呈し副腎皮質癌との鑑別が困難だったadrenocortical oncocytomaと考えられた副腎腫瘍の一例	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	中谷 理恵子、白井 健、加藤 純子、植田 洋平、垣田 真以子、中尾 佳奈子、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、島津 章	21歳で両側褐色細胞腫が発見され遺伝学的検査にて診断されたvon Hippel-Lindau(VHL)病	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	小山 理恵、二若 久美、福田 佑紀、主田 綾佳、根津 祥子、山本 浩範、笠原 正登、田上 哲也	活性型ビタミンD3によるエネルギー代謝調節メカニズムの基礎的検討	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	中尾 佳奈子、立木 美香、中谷 理恵子、植田 洋平、垣田 真以子、田上 哲也、白井 健、島津 章、橋本 重厚、方波見 卓行、小河 淳、奥村 中、馬越 洋宜、成瀬 光栄	原発性アルドステロン症術後の腎機能悪化の予知因子	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	垣田 真以子、立木 美香、植田 洋平、中谷 理恵子、中尾 佳奈子、難波 多拳、白井 健、田上 哲也、島津 章、成瀬 光栄	原発性アルドステロン症における心電図を用いた左室肥大の検討	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	松尾 奈緒美、立木 美香、中尾 佳奈子、中谷 理恵子、垣田 真以子、植田 洋平、白井 健、田上 哲也、島津 章、土居 健太郎、成瀬 光栄	機能確認検査と副腎静脈サンプリングの局在判定が乖離を示した原発性アルドステロン症疑いの若年者高血圧の1例	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	立木 美香、中尾 佳奈子、難波 多拳、植田 洋平、垣田 真以子、中谷 理恵子、白井 健、田上 哲也、広川 侑奨、田辺 晶代、島津 章、成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の機能確認検査で病型診断が可能か	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	根津 祥子、二若 久美、主田 綾佳、小山 理恵、福田 佑紀、原 正登、田上 哲也、森山 賢治	IGF-1以降のエネルギー代謝調節に関する標的遺伝子の探索	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	主田 綾佳、二若 久美、根津 祥子、小山 理恵、福田 佑紀、笠原 正登、田上 哲也、森山 賢治	GHのエネルギー代謝調節に関する基礎的検討	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	中谷 理恵子、浅井 志高、植田 洋平、垣田 真以子、中尾 佳奈子、立木 美香、白井 健、田上 哲也、方波見 卓行、島津 章、成瀬 光栄	副腎皮質癌12例の臨床像・治療効果・予後に関する検討	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	垣田 真以子、難波 多拳、安井 久見、植田 洋平、中谷 理恵子、中尾 佳奈子、立木 美香、白井 健、田上 哲也、成瀬 光栄、島津 章	多発肝転移を伴う肺原発神経内分泌腫瘍による異所性ACTH産生腫瘍に対するエベロリムスの治療効果	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	田上 哲也、二若 久美、森山 賢治、白井 健、島津 章、成瀬 光栄	甲状腺ホルモンおよびビタミンDによる糖・脂質・エネルギー代謝に関わる遺伝子の発現調節	第87回日本内分泌学会学術総会 2014.4.24-26 福岡
国内学会	根津 祥子、二若 久美、主田 綾佳、小山 理恵、福田 佑紀、笠原 正登、田上 哲也、森山 賢治	PI3K/Akt経路のシグナル伝達における基礎的検討	第57回日本糖尿病学会年次学術集会 2014.5.22-24 大阪
国内学会	主田 綾佳、二若 久美、根津 祥子、小山 理恵、福田 佑紀、笠原 正登、田上 哲也、森山 賢治	JAK/STAT経路によるエネルギー代謝調節に関する基礎的検討	第57回日本糖尿病学会年次学術集会 2014.5.22-24 大阪
国内学会	垣田 真以子、難波 多拳、今井 更衣子、江川 晴人、小笠原 辰樹、廣田 圭昭、馬越 洋宜、横田 美紀、中谷 理恵子、中尾 佳奈子、立木 美香、白井 健、田上 哲也、成瀬 光栄、高倉 賢二、島津 章	治療抵抗性的高血圧を契機に発見されたCushing症候群合併妊娠の一例	第29回日本女性医学学会学術集会 2014.11.1-2 東京
国内学会	垣田 真以子、小笠原 辰樹、松尾 奈緒美、白井 健、廣田 圭昭、横田 美紀、中谷 理恵子、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、山本 鉄郎、広川 侑奨、元石 充、澤井 聡、中本 裕士、河本 泉、島津 章	多発性内分泌腫瘍症1型における組織別腫瘍発症機構についての検討	第18回日本内分泌病理学会学術集会 2014.11.1-2 東京
国内学会	小笠原 辰樹、立木 美香、廣田 圭昭、横田 美紀、中谷 理恵子、垣田 真以子、白井 健、田上 哲也、上戸 賢、奥村 和弘、桑田 博仁、辻井 悟、藤田 久美、本庄 原、島津 章、成瀬 光栄	コレチゾール及びアルドステロン産生を認めた副腎皮質癌の一例	第18回日本内分泌病理学会学術集会 2014.11.1-2 東京
国内学会	廣田 圭昭、金本 巨哲、山下 唯、金井 有吾、桑原 智子、上田 依利子、藤井 寿人、田浦 大輔、曾根 正勝、三浦 晶子、八十田 明宏、荒井 宏司、田上 哲也、稲垣 暢也	心房細動を契機に診断したR429Q変異甲状腺ホルモン不応症の一例	第57回日本甲状腺学会学術集会 2014.11.13-15 大阪

国内学会	中谷 理恵子、小笠原 辰樹、廣田 圭昭、横田 美紀、 垣田 真以子、立木 美香、白井 健、成瀬 光栄、田上 哲也	甲状腺中毒症の鑑別に苦慮した2例	第57回日本甲状腺学会学術 集会	2014.11.13 -15	大阪
国内学会	垣田 真以子、中尾 佳奈子、小笠原 辰樹、廣田 圭昭、 横田 美紀、中谷 理恵子、立木 美香、白井 健、成瀬 光栄、島津 章、田上 哲也	¹³¹ I内用療法に有痛性筋痙攣を繰り返したBasedow病の1例	第57回日本甲状腺学会学術 集会	2014.11.13 -15	大阪
国内学会	田上 哲也、垣田 真以子、中谷 理恵子、廣田 圭昭、 小笠原 辰樹、横田 美紀、立木 美香、白井 健、成瀬 光栄、島津 章	甲状腺機能異常症状の特異性について	第57回日本甲状腺学会学術 集会	2014.11.13 -15	大阪
国内学会	廣嶋 佳歩、中谷 理恵子、白井 健、小笠原 辰樹、廣田 圭昭、横田 美紀、垣田 真以子、立木 美香、田上 哲也、 成瀬 光栄、奥野 博、三品 睦輝、加藤 純子、島津 章	副腎皮質機能温存を試みたVHL病に伴う両側褐色細胞腫の手術例	第24回臨床内分泌代謝 Update	2014.11.28 -29	埼玉
国内学会	垣田 真以子、松尾 奈緒美、小笠原 辰樹、白井 健、廣田 圭昭、横田 美紀、中谷 理恵子、立木 美香、田上 哲也、 成瀬 光栄、島津 章	複数の臓器病変が同時に明らかとなったMEN1型への治療アプローチ	第24回臨床内分泌代謝 Update	2014.11.28 -29	埼玉
国内学会	廣田 圭昭、白井 健、中谷 理恵子、加藤 友美、 湯野 暁子、小笠原 辰樹、馬越 洋宣、横田 美紀、垣田 真以子、田上 哲也、成瀬 光栄、島津 章	両側褐色細胞腫における癌抑制遺伝子コピ数とエピゲノム解析	第24回臨床内分泌代謝 Update	2014.11.28 -29	埼玉
国内学会	中谷 理恵子、小笠原 辰樹、廣田 圭昭、横田 美紀、 垣田 真以子、立木 美香、白井 健、成瀬 光栄、島津 章、 田上 哲也	Basedow病の ¹³¹ I内用療法における至適投与量の検討	第24回臨床内分泌代謝 Update	2014.11.28 -29	埼玉
国内学会	松尾 奈緒美、植田 洋平、白井 健、廣田 圭昭、中谷 理恵子、垣田 真以子、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、島津 章	TSHR体細胞変異を伴うPlummer病とPHPTの合併例	第24回臨床内分泌代謝 Update	2014.11.28 -29	埼玉
国内学会	小笠原 辰樹、廣田 圭昭、白井 健、横田 美紀、中谷 理恵子、垣田 真以子、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、島津 章	偶発的に後腹膜腫瘍を指摘され褐色細胞腫と診断した1例	第206回日本内科学会近畿 地方会	2014.12.6	京都
研究会	垣田 真以子、中尾 佳奈子、小笠原 辰樹、廣田 圭昭、 横田 美紀、中谷 理恵子、立木 美香、白井 健、成瀬 光栄、島津 章、田上 哲也	¹³¹ I内用療法に有痛性筋痙攣を繰り返したBasedow病の1例	第14回京滋臨床甲状腺懇 話会	2014.7.5	京都
研究会	小笠原 辰樹、松尾 奈緒美、垣田 真以子、白井 健、 立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、山本 鉄郎、広川 侑奨、中本 裕士、河本 泉、島津 章	多彩な神経内分泌腫瘍が同時に明らかとなったMEN1型	日本神経内分泌腫瘍研究 会学術集会	2014.9.20	東京
研究会	田上 哲也	腎臓と骨の因果な関係	伏見CKD医療連携の会	2014.9.27	京都
研究会	廣田 圭昭、中谷 理恵子、白井 健、小笠原 辰樹、横田 美紀、垣田 真以子、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、 青木 友和、藤澤 一朗、島津 章	海綿静脈洞サンプリングでACTHの上昇を認めなかった下垂体マイクロアデノーマによるクッシング病の1例	第87回京都内分泌同好会	2014.10.18	京都
研究会	中谷 理恵子、植田 洋平、垣田 真以子、津曲 綾、中尾 佳奈子、難波 多季、立木 美香、白井 健、成瀬 光栄、 島津 章、田上 哲也	チアマゾールによる無顆粒球症に対してG-CSF治療を行ったバセドウ病の1症例	第37回京都甲状腺研究会	2015.1.24	京都
研究会	田上 哲也	骨粗鬆症Update	第4回京都医療センター医 療連携フォーラム	2015.1.31	京都
研究会	垣田 真以子、小笠原 辰樹、白井 健、廣田 圭昭、横田 美紀、中谷 理恵子、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、 片岡 通子、安里 亮、島津 章	MEN1遺伝子に新規変異を同定した多発性内分泌腫瘍症(MEN) 1型症例	第88回京都内分泌同好会	2015.2.28	京都
研究会	横田 美紀	Primary aldosteronism and Cushing's syndrome by multiple adrenal tumors.	Mayo-Japan Endocrine Seminar	2015.1.15	京都
研究会	立木 美香	人間ドック健診認定医・専門医が見逃してはいけない内分泌性高血圧	第39回人間ドック健診認定 医・専門医研修会	2015.3.8	東京

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ		
Endocr J	Ueda Y, Tagami T, Tamanaha T, Kakita M, Tanase-Nakao K, Nanba K, Usui T, Naruse M, Shimatsu A.	A family of RTH β with p.R316C mutation presenting occasional syndrome of inappropriate secretion of TSH.	Endocr J. 2015 Mar 30;62(3):251-60. doi: 10.1507/endocrj.EJ14-0422. Epub 2014 Dec 12.		
Endocrinol Diabetes Metab Case Rep	Kawashima ST, Usui T, Ueda Y, Kobayashi MK, Tsuiji M, Tanase-Nakao K, Nanba K, Tagami T, Naruse M, Watanabe Y, Asato R, Kato S, Shimatsu A.	Primary hyperparathyroidism due to atypical vertically long cystic adenoma.	Endocrinol Diabetes Metab Case Rep. 2014;2014:140086. doi: 10.1530/EDM-14-0086. Epub 2014 Oct 1.		
Clin Endocrinol (Oxf)	Tanase-Nakao K, Naruse M, Nanba K, Tsuiji M, Tagami T, Usui T, Okuno H, Shimatsu A, Hashimoto S, Katabami T, Ogo A, Okumura A, Umakoshi H, Suzuki T.	Chronic kidney disease score for predicting postoperative masked renal insufficiency in patients with primary aldosteronism.	Clin Endocrinol (Oxf). 2014 Nov;81(5):665-70. doi: 10.1111/cen.12497. Epub 2014 Jun 12.		
甲状腺・副甲状腺疾患診療ポケットブック	田上 哲也		中外医学社		全185頁
今日の診療のためにガイドライン外来診療2014	田上 哲也	甲状腺機能異常症	日経メディカル開発		232-248

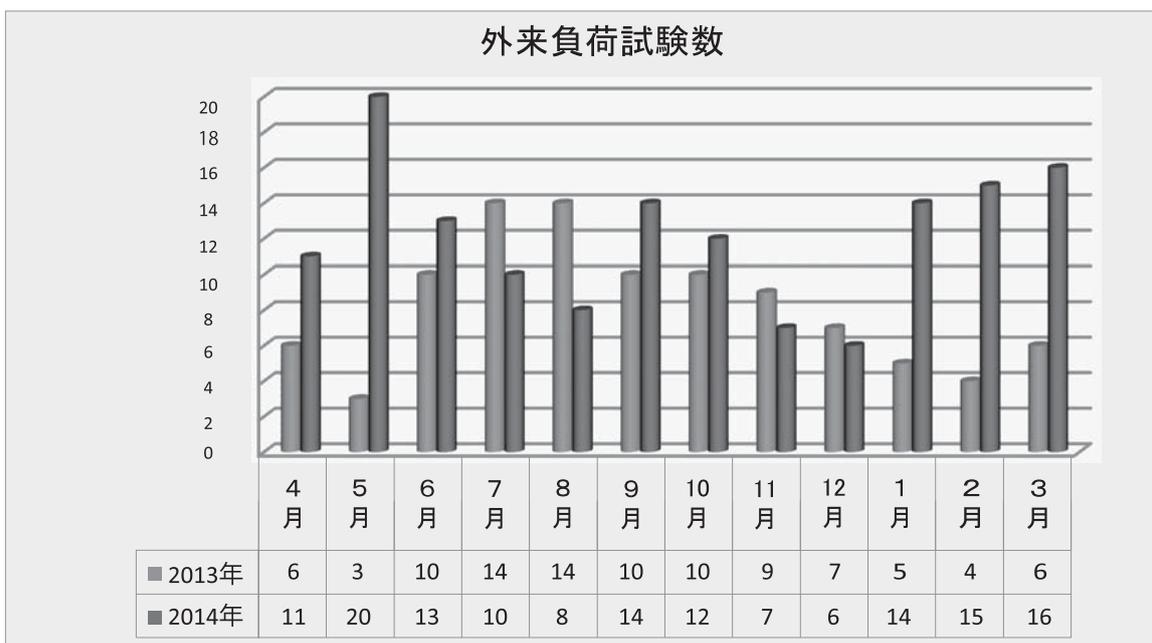
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	田上 哲也	甲状腺機能検査の選択方法と読み方 のポイントは？	診断と治療社		40-41
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	田上 哲也	潜在性甲状腺機能亢進症は治療す べきか？	診断と治療社		43
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	田上 哲也	甲状腺機能亢進症で抗TSH受容体抗 体が陰性の場合はどうする？	診断と治療社		44
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	田上 哲也	亜急性甲状腺炎と橋本病の鑑別のポ イントは？	診断と治療社		57-58
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	田上 哲也	潜在性甲状腺機能低下症の治療方針 は？	診断と治療社		64-65
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	成瀬 光栄、立木 美香、難波 多拳	原発性アルドステロン症の機能確認 検査の種類と特徴は？	診断と治療社		102-103
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	成瀬 光栄、馬越 洋宜	副腎静脈サンプリング (AVS) の判定基 準は？	診断と治療社		104-105
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	立木 美香、馬越 洋宜、田辺 晶代、成瀬 光栄	サブクリニカルCushing症候群の手術 適応は？	診断と治療社		109
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	立木 美香、成瀬 光栄	褐色細胞腫クリーゼの診断と治療は？	診断と治療社		132-133
内分泌代謝疾患クリニカル ケース100	馬越 洋宜、立木 美香、成瀬 光栄	膵神経内分泌腫瘍 (PNET) の診断と治 療法のポイントは？	診断と治療社		165-166
内科外来処方navi	田上 哲也	亜急性甲状腺炎	中外医学社		115
内科外来処方navi	田上 哲也	甲状腺腫瘍	中外医学社		116-117
京都醫學會雑誌	田上 哲也、立木 美香、垣田 真以子、中 谷 理恵子、廣田 圭昭、横田 美紀、小笠 原 辰樹、馬越 洋宜、白井 健、成瀬 光栄、 島津 章	甲状腺中毒症状の特異性に関する検討	京都府医師会	61(2)	115-122
京都醫學會雑誌	中谷 理恵子、小笠原 辰樹、廣田 圭昭、 横田 美紀、垣田 真以子、立木 美香、 白井 健、成瀬 光栄、島津 章、田上 哲也	Basedow病 ¹³¹ I内用療法における至適 投与量の検討	京都府医師会	61(2)	123-128
成長科学協会研究年報 (0386-7617)37号 Page123-130(2014.08)	田上 哲也、森山 賢治	成長ホルモン/IGF-1シグナル下流の転 写因子群と核内受容体による糖・脂質 ・エネルギー代謝調節メカニズムに関 する研究	成長科学協会	37	123-130
成長科学協会研究年報 (0386-7617)37号 Page173-176(2014.08)	森山 賢治、二若 久美、田上 哲也	成長ホルモン/インスリン様成長因子-1 のエネルギー代謝制御における分子 基盤の解明	成長科学協会	37	173-176
日本内分泌学会雑誌 (0029-0661)90巻Suppl. Page72-74(2014.09)	植田 洋平、渡邊 知一、白井 健、垣田 真 以子、中谷 理恵子、中尾 佳奈子、難波 多 拳、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、金 子 恵一、本間 桂子、長谷川 奉延、島津 章	未治療成人17 α 水酸化酵素欠損症患 者の遺伝学的、内分泌学的解析	日本内分泌学 会雑誌	90(Suppl.)	72-74
日本内分泌学会雑誌 (0029-0661)90巻Suppl. Page81-83(2014.09)	中尾 佳奈子、白井 健、八幡 兼成、中谷 理恵子、植田 洋平、垣田 真以子、金子 恵一、難波 多拳、立木 美香、田上 哲也、 成瀬 光栄、島津 章	Gitelman症候群におけるgenetic background解析	日本内分泌学 会雑誌	90(Suppl.)	81-83
ACTH RELATED PEPTIDES	中谷 理恵子、廣嶋 佳歩、白井 健、松尾 奈緒美、植田 洋平、垣田 真以子、立木 美香、中尾 佳奈子、田上 哲也、成瀬 光栄、 加藤 純子、島津 章	VHL病に伴う両側褐色細胞腫の1例	第25回間脳・ 下垂体・副腎 系研究会報告	25	47-49

□ 内分泌・甲状腺・高血圧外来 平成26年度看護概況内容

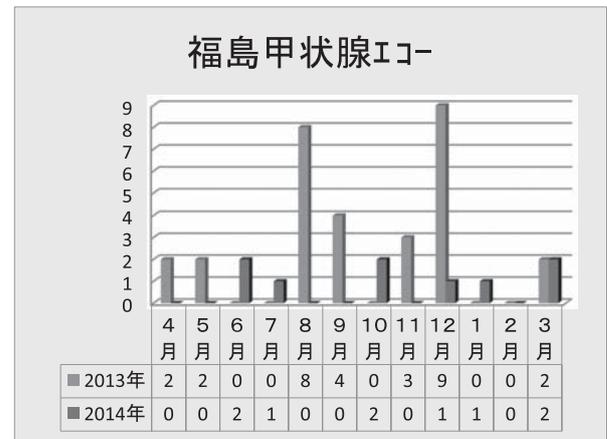
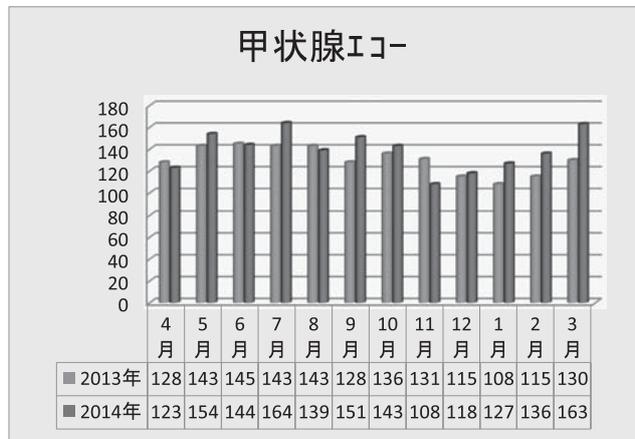
- 平成24年12月より内分泌・甲状腺外来から内分泌・甲状腺・高血圧外来に名称が変わり、高血圧の初診患者を全て当科で対応することとなった。
- 内分泌・甲状腺・高血圧センターは、小児から高齢者と年齢層も幅広く、また疾患も多岐にわたる。
- 治療方針や診断確定のために外来での安静採血や負荷試験、検査入院が必要となることが多い。
- 平成25年1月より、東日本大震災で被災し福島県より避難された放射能影響の可能性のある子供の方を対象にした甲状腺エコーの協力施設となり、木曜日と金曜日に福島エコー枠を設け実施している。
- 内分泌・甲状腺・高血圧外来では負荷試験や検査に不安をもったり苦痛をとまなわないように精神的なフォローに努めている。
- 疾患によっては服薬や自己注射など長期にわたってコントロールを必要とするため、(外来→入院→外来と)継続した関わり、患者の立場に立った援助が行えるように日々心がけている。
- 他院で検査を受け甲状腺疾患を指摘されたり、下垂体疾患で治療中だが専門医での治療目的、高血圧で降圧剤を服用するがコントロールが悪く紹介状を持参されたりして受診される患者さんが多い。



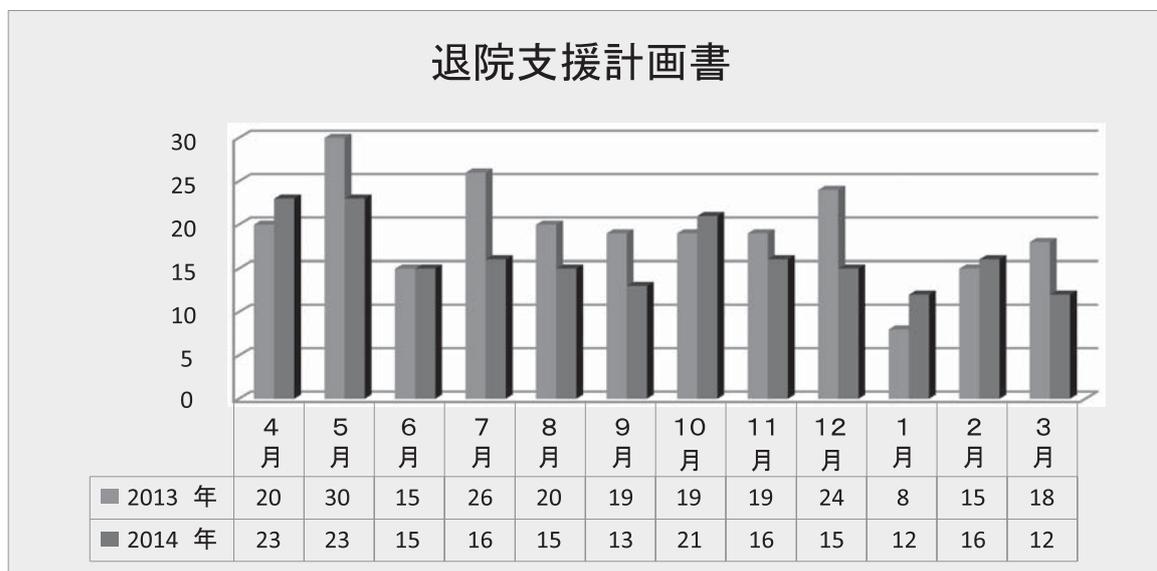
- 高血圧疾患が増加しており副腎偶発腫瘍や原発性アルドステロン症などの鑑別疾患や下垂体疾患評価目的で外来で安静採血や負荷試験を実施している。安静採血はベッドに30分安静になった状態で採血を行っている。
- 下垂体疾患では成長ホルモンの筋肉注射が多い。油性のため調整時、注射時は慎重を要する。成長ホルモン自己注射導入では若い患者さんが多いため外来受診時に患者さんとその家族に継続的に関わりがもてるように心がけている。



- 甲状腺エコーの細胞診検査は穿刺への恐怖と不安感がみられるためできるだけ付き添い状態把握に努めている。
- 福島甲状腺エコーでは2歳から21歳までの若年者が受診される。東日本大震災で福島で被災し原発の影響に不安を抱えて来院される両親が多く、また実際に検査を受けるは小さい子供さんが多いため検査が不安無くスムーズに進むように心がけている。



- 2012年11月より活用になった退院支援計画書は入院説明時に記載し、支援必要患者には自宅での状況やサービスの使用状況、介護保険の申請状況等を確認しカルテ記載するようにして、病棟との連携がはかれるようにしている。
- 退院時次回受診時の説明や退院後の指導も行えるときは病棟に行って行っている。



(内分泌・甲状腺・高血圧センター看護師 細井 静香)

糖尿病センター(糖尿病内科)



診療科長
(外来部門)
山田 和範

専門医資格等
京都大学医学博士
京都大学臨床教授
専門分野
糖尿病
得意疾患
糖尿病



診療科長
(入院部門)
河野 茂夫

専門医資格等
日本糖尿病学会
糖尿病専門医
日本内分泌学会 内
分泌代謝科専門医・指
導医
日本内科学会 認定
内科医・総合内科専門
医・指導医
日本糖尿病学会 評
議員
京都大学医学博士
京都大学臨床教授
専門分野
糖尿病
得意疾患
足病変



医長
中川内 玲子

専門医資格等
日本糖尿病学会
糖尿病専門医
日本内科学会 認定内
科医・総合内科専門医
専門分野
糖尿病
得意疾患
足病変

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	村田 敬	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門 医・指導医 日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 東京大学医学博士	糖尿病	若年者糖尿病
医師	小鳥 真司	日本糖尿病学会 糖尿病専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医 日本内科学会認定内科医 日本肥満学会 肥満症専門医 日本抗加齢医学会専門医 京都大学医学博士	糖尿病	糖尿病
医師	岸 純一郎		糖尿病	糖尿病
専修医	四枚田耕平	日本内科学会 認定内科医	糖尿病	糖尿病
専修医	水谷結香子	日本内科学会 認定内科医 日本抗加齢学会 専門医 日本医師会認定 産業医	糖尿病	糖尿病
専修医	渡邊 知一	日本内科学会 認定内科医	糖尿病	糖尿病
臨床研究 センター長	島津 章	日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指 導医 日本糖尿病学会 糖尿病専門医 日本内科学会 総合内科専門医・指導医 京都大学医学博士 京都大学臨床教授	内分泌代謝疾患、 検査医学、神経内 分泌	内分泌代謝疾患、 検査医学、神経内 分泌
予防医学 研究室長	坂根 直樹	日本内科学会 認定医 日本肥満学会 評議員 京都府立医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病教育

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
臨床代謝 栄養研究 室長	浅原 哲子	日本内科学会 認定内科医 日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導 医・評議員 日本心血管内分泌代謝学会 評議員 日本肥満学会 肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会 評議員 日本動脈硬化学会 評議員 日本病態栄養学会 評議員 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満(メタ ボリックシンドロ ーム)疾患	糖尿病、 肥満(メタボリッ クシンドローム) 疾患
非常勤医師	吉良 友里	日本糖尿病学会 糖尿病専門医 日本内科学会 認定内科医	糖尿病	糖尿病
非常勤医師	小谷 和彦	日本内科学会 総合内科専門医 日本臨床検査医学会 臨床検査専門医 日本動脈硬化学会 専門医 自治医科大学医学博士	糖尿病	脂質異常症、 糖尿病

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定専門病院
-------	-------------------------------

1. 生活習慣病である糖尿病の治療には、患者さんご自身が自己管理能力を身につけることが大切です。当科では糖尿病教育、すなわち患者さんへの教育を実施すると同時に、患者さんに対する指導能力を高めた教育スタッフを育成し、より一層の治療実績アップに努めます
2. 地域の糖尿病基幹病院としての責務を果たすべく、地域連携に努めます

□ 主な対象疾患

2型糖尿病、耐糖能異常、1型糖尿病、肥満症、メタボリック症候群、糖尿病神経障害と糖尿病足病変、糖尿病腎症、糖尿病網膜症(眼科)、妊婦糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病性昏睡、重症低血糖

□ 診療(業務)内容

糖尿病センターでは一般糖尿病外来および入院での診療に加えてさまざまな専門外来を開設し、さまざまなタイプの糖尿病および関連疾患およびそれらの合併症の充実した診療活動につながっている。

下記に専門外来の診療活動について紹介する。

- ・フットケア外来 毎週月曜日14時~/フットセンター外来 毎週火曜日14時~(2000年開設)フットケア外来では、主に糖尿病に由来する足病変に対応し、全国各地からの紹介患者を集めている。また、非糖尿病足病変患者に対する問い合わせも多く、難治性の足病変を扱う集学的な欧米型のフットセンターを目指している。フットセンター外来では初診は糖尿病センターで行い、一般診察をした上で、関係担当診療科へ紹介している。
- ・フットウェア外来(月2回:木曜日13時~16時 完全予約制)フットウェア外来では義肢装具士がオーストリア人の整形外科靴マイスター(Orthopedic Shoe Meister)と協力して、靴・装具の指導や調整にあたっている。
- ・1型糖尿病外来(2005年開設)毎週 火曜日9時~16時・金曜日9時~12時/インスリンポンプ外来(2010年開設)毎週 月曜日 14時~16時

1型糖尿病はインスリン分泌の廃絶を特徴とする。生命維持のみならず慢性の合併症予防のためにはインスリンを上手に用いて平均血糖レベルや血糖値のバラツキをコントロールすることが重要である。1型糖尿病外来では、重症低血糖を起こすことなく平均血糖レベルを改善する方法(カーボカウント、修正インスリンなどによるインスリン自己注射)につき、医師・看護師・管理栄養士のチームがわかりやすく指導している。

インスリンポンプ療法(CSII)はこのためのきわめて有効な血糖管理法である。2015年3月末の1型糖尿病外来通院患者数は約220名(初診13名)、インスリンポンプ療法を行っている患者は71名(新規導入9名)であった。また皮下持続ブドウ糖濃度モニターシステム(CGM)機能をもつインスリンポンプミニメド620型が我が国にも導入され、当院においても2015年2月から装着を開始している。

- ・肥満・メタボリックシンドローム外来(2001年開設) 毎週 月曜日・水曜日9時～14時
肥満・メタボリックシンドローム外来では、医師・看護師・栄養士によるチーム医療をベースに、体重グラフや食事記録表を登載した当院独自の「ダイエットノート」を活用し、日本肥満学会が提唱する減量指導を行い、動脈硬化等の合併症も定期的に評価している。
また、外来患者を中心に2006年よりメタボ会(患者会)を定期的開催。さらにメタボ通信、スマートランチ等をチーム医療で展開し、外来開設から現在まで延べ14,000人以上の患者治療を行ってきた。
また、2014年11月にはスマートランチのレシピを家庭でも作りやすいように再編・監修した「京都医療センターメタボ外来の3か月で確実!やせるレシピ」、2015年元旦には「読むだけでやせる 女医の言葉」をセブン&アイ出版から発刊し、肥満・メタボ治療に様々な形で取り組んでいる。
- ・高脂血症(脂質異常症)外来(2005年開設) 毎週木曜日10時～13時/高脂血症(脂質異常症)療養指導外来(2006年開設) 毎週木曜日10時～13時。家族性コレステロール血症(FH)、家族性複合型高脂血症(FCHL)などの脂質異常症受診者を対象。FH診療認定施設(2013年～:日本動脈硬化学会)。頸動脈硬化や特殊検査による動脈硬化リスク評価を行い、管理目標値を設定。管理栄養士による療養指導を併設し、飲酒問題を抱える高中性脂肪血症に対する節酒指導(HAPPYプログラム)を実施。スタチン副作用例への対応なども行っている。症例数604例(2005年11月～2015年3月)内訳;家族性高コレステロール血症(100例)、高LDL-コレステロール血症(371例)、高トリグリセライド血症(261例)、高LDL-コレステロール血症+高トリグリセライド血症(151例)、低HDL-コレステロール血症(49例)。
- ・妊娠糖尿病外来(2007年3月開設) 第2,4火曜及び毎週金曜日13時～15時 妊娠糖尿病は妊娠中に初めて発見された軽度の(糖尿病には至っていないレベルの)耐糖能異常で巨大児その他の周産期合併症の原因となる。また出産後の糖尿病発症リスクが増大する。妊娠前に糖尿病を発症した場合、糖尿病合併妊娠となり、胎児奇形が大きな問題となり、妊娠前血糖管理が重要となる。2014年度当外来を受診した新規患者数は72名であった。
- ・糖尿病血管合併症外来 毎週金曜日13時～16時 糖尿病血管合併症外来では、糖尿病血管合併症のスクリーニングを行い、他科との緊密な連携によって治療にあたっている。特に、閉塞性動脈硬化症などの合併症に加え腎機能障害を有する糖尿病患者の短期入院で、外来での施行が困難な造影剤による画像検査を施行し、定期的なスクリーニング・治療への展開も検討している。
- ・糖尿病透析予防指導外来(2012年10月開設)糖尿病腎症2期以上の患者を対象とし、医師、看護師、管理栄養士が連携して自己管理指導を行う。2014年度当外来を受診した受診者数はのべ70名であった。毎週月、水、木曜日に1名ずつの予約枠となっていて、現在3回シリーズとして指導を実施している。
さらに、糖尿病センターではコメディカルスタッフによる指導として一般糖尿病食事指導(管理栄養士)および糖尿病療養指導外来(インスリン自己注射、血糖自己測定、フットケア指導など:看護師)を開設している。また、自己管理(療養)を患者に指導する医療スタッフである糖尿病療養指導士(CDEJ)は、当院内で看護部、薬剤科、栄養科、検査科などに多数を擁し、綿密な糖尿病セルフケアを支援している。

□ 診療実績(平成26年度)

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	16.7	370	16.7

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	105.1

主な手術・検査の件数など

	CGM(連続皮下ブドウ糖測定)	CAVI/ABI測定	CT(内臓脂肪面積測定)
2014年度	47件	258件	76件

□ 地域医療連携・広報活動

- ・糖尿病センターだより(糖尿病センター広報紙)：2008年4月に糖尿病センター創立40周年を記念して発刊された患者向け広報紙。2015年3月現在、季刊発行となっていて通巻31号を数えている。糖尿病センターおよび関連診療科、伏見医師会の医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師等が分担して執筆。毎号4000部を通院患者と糖尿病センター関連医療施設に配送付している。全号を京都医療センターHP上で閲覧できる。
- ・糖友会(患者会)：日本糖尿病協会傘下の糖尿病患者会として昭和36年に発足した。初代会長は大村春男氏(後に日本糖尿病協会会長)、現会長は藤井弘氏である。2014年度総会は2014年11月8日に京都医療センター大会議室で開催された。28名の参加者が当院栄養管理室、調理師長らの全面的な協力で用意されたお弁当を楽しみながら、食事療法の学習を行った。
- ・糖尿病市民公開講座「第29回DM京都」進化する糖尿病治療 2014年7月19日 参加者100名 特別講演 進化する糖尿病治療～その可能性と注意点について考える～講師：国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科 診療科長 梶尾 裕 講演「これからの糖尿病ケア」京都医療センター2-8病棟 副看護師長 仁谷 めぐみ 講演「くすりとリスク～おくすりの注意点～」京都医療センター 薬剤科 横山 晋一郎 講演「食品交換表のおはなし」京都医療センター 栄養管理室主任 市岡 利恵・第15回メタボリックシンドローム会 2015年1月25日 参加者120名
- ・特別講演「肥満及び糖尿病患者に対する食事療法成功のコツ」講師：医療法人親友会 島原病院 肥満・糖尿病センター長 吉田 俊秀先生・運動指導：“からだばかばか!”のびのび～ストレッチ 講師：京都医療センター2-8看護師、健康運動指導士 小峰 圭子先生・食事療法：「やせるレシピ」～自宅で簡単病院推奨レシピ～講師：京都医療センター 管理栄養室 室長 西田 博樹先生・第11回 京都医療センター1型糖尿病セミナー「リアルタイム CGM と センサー付インスリンポンプ (SAP)」2015年2月14日(土) 17:30-19:30、参加人数：94名 国内で新規に使用可能となったセンサー付インスリンポンプのエビデンスと実際の使用方法につき、徳島大学糖尿病臨床・研究開発センターの黒田暁生先生を招聘して研修会を開催。
- ・1型交流会(2005年4月～)は第22回(2014年4月6日：21名参加)、第23回(2014年12月14日：参加17名)の2回開催された。

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	
国際学会	Shigeo Kono Symposium : Diabetic Foot DayIWGDF Session : New challenges 「The WPR diabetic Foot Program」The 24th Conference of the European Wound Management Association Madrid, Spain
国際学会	Shigeo Kono Symposium : Diabetic Foot DayInternational Perspectives and Updates 「Diabetic Foot Problems in Asia」The 24th Conference of the European Wound Management Association Madrid, Spain
国際学会	Shigeo Kono Evening Symposium: Diabetic Foot Management Inpatient management of patients with diabetic foot infections 10th IDF-WPR Congress 2014 Singapore
国際学会	Satoh-Asahara N, Matsuo Y, Tanaka M, Sasaki Y, Yamakage H, Muranaka K, Ikai I, Hata H, Shimatsu A, Inoue M, Tae-Hwa Chun. Sexually dimorphic, fat depot-dependent expression of a fibrogenic adipokine, thrombospondin 1 (THBS1) in human obesity 2015 Keystone Symposia Conference Wistler, Canada
国際学会	Tanaka M, Matsuo Y, Muranaka K, Yamakage H, Sasaki Y, Shimatsu A, Satoh-Asahara N.GLP-1 receptor agonist attenuates the oxidized-LDL-induced foam cell formation through autophagy in macrophages and monocytes 2015 Keystone Symposia Conference Wistler, Canada
国際学会	Noriko Satoh-Asahara, Masashi Tanaka, Yoshiyuki Matsuo, Hajime Yamakage, Kazuya Muranaka, Yousuke Sasaki, Shinji Odori, Shigeo Kono, Akira Shimatsu Effect of Sitagliptin and Vildagliptin, Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors, on M1/M2-like Phenotypes of Peripheral Blood Monocytes and Arterial Stiffness in Type 2 Diabetic Patients 9th Metabolic Syndrome, Type 2 Diabetes and Atherosclerosis Congress Kyoto, Japan
国際学会	Masashi Tanaka, Yoshiyuki Matsuo, Yousuke Sasaki, Hajime Yamakage, Kazuya Muranaka, Tetsuya Tsukahara, Akira Shimatsu, Noriko Satoh-Asahara Unbalanced M1/M2 phenotypes of monocytes and hyperglycemia associate with M1/M2 macrophages in the carotid atherosclerotic plaque in the patients with obesity and diabetes undergoing carotid endarterectomy. 9th Metabolic Syndrome, Type 2 Diabetes and Atherosclerosis Congress Kyoto, Japan

国際学会	Yoshiyuki Matsuo, Masashi Tanaka, Yousuke Sasaki, Hajime Yamakage, Kazuya Muranaka, Iwao Ikai, Hiroaki Hata, Akira Shimatsu, Mayumi Inoue, Tae-Hwa Chun, Noriko Satoh-Asahara Sexually dimorphic, fat depot-dependent expression of a fibrogenic adipokine, thrombospondin 1 (THBS1) in human obesity. 9th Metabolic Syndrome, Type 2 Diabetes and Atherosclerosis Congress Kyoto, Japan
国際学会	Noriko Satoh-Asahara The Utility of CAVI in Predicting the cardiovascular risks of Obesity and Metabolic Syndrome. The Pulse of Asia in ATHENS Greece, Athens
国際学会	Hiroshi Okada, Mitsuko Onda, Masaki Soji, Yasusi Nakagawa, Naoki Sakane Development and Evaluation of Motivational interviewing Training Program for Japanese Community Pharmacists: Three Star Pharmacist Training Program 74th FIP 2014 Bangkok, Thailand
国際学会	Tsuzaki K, Sukino S, Kotani K, Sakane N. The effect of lifestyle intervention on weight loss in male shift workers: a feasibility study The 21st Annual Meeting of Japanese Society for Chronobiology Fukuoka, Japan
国際学会	Kotani K, Tsuzaki K, Ito Y, Sakane N Correlation between the methods for high-density lipoprotein subfraction analyses: an electrophoretic method and a homogeneous assay method. The European Atherosclerosis Society 2015 Glasgow, UK
国際学会	Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, Yamamoto T Impaired awareness of hypoglycemia in insulin-treated patients with type 2 diabetes mellitus 50th EASD Annual Meeting Vienna, Austria
国際学会	Sakane N, Okazaki K, Kotani K, Takahashi K, Sano Y, Tsuzaki K, Sato J, Suzuki S, Morita S, Oshima Y, Izumi K, Kato M, Ishizuka N, Noda M, Kuzuya H Japan Diabetes Outcome Intervention Trial-1 (J-DOIT1), Effects of telephone-delivered lifestyle support on the development of diabetes in subjects at high risk of type 2 diabetes: J-DOIT1, a pragmatic cluster randomized trial in the primary health care setting 74th scientific sessions, ADA San Francisco, USA
国内学会	河野 茂夫 教育講演糖尿病足病変 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	中川内 玲子, 浅野 照子, 井関 紗代, 伊藤 遼, 水谷 結香子, 渡邊 知一, 四枚田 耕平, 小久保 敦子, 仁谷 めぐみ, 岸 純一郎, 小鳥 真司, 村田 敬, 浅原 哲子, 山田 和範, 島津 章, 小林 美保, 河野 茂夫 糖尿病足病変患者の健康関連QOL (Quality of Life) とうつに関する検討 第2報 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	四枚田 耕平, 伊藤 遼, 水谷 結香子, 渡邊 知一, 岸 純一郎, 村田 敬, 山田 和範, 浅原 哲子, 島津 章, 中川内 玲子, 小鳥 真司, 河野 茂夫 当院における糖尿病足病変患者の死因および予後規定因子に関する検討 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	渡邊 知一, 四枚田 耕平, 伊藤 遼, 水谷 結香子, 岸 純一郎, 村田 敬, 山田 和範, 浅原 哲子, 中川内 玲子, 島津 章, 小鳥 真司, 河野 茂夫 糖尿病足病変患者の長期予後の検討 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	水谷 結香子, 伊藤 遼, 渡邊 知一, 四枚田 耕平, 岸 純一郎, 難波 多季, 村田 敬, 山田 和範, 浅原 哲子, 島津 章, 中川内 玲子, 小鳥 真司, 河野 茂夫 糖尿病足病変の創部検出細菌のプロファイルに関する検討 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	松井 浩, 坂根 直樹, 河口 八重子, 河野 茂夫, 山田 和範 高齢者糖尿病患者における開眼片足立ち能力の歩行に及ぼす影響 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	河野 茂夫 糖尿病フットケアの実際 第7回枚方東部DMネットワーク 大阪府枚方市
国内学会	河野 茂夫 糖尿病フットケアの実際 第19回京都透析ネットワーク 京都府宇治市
国内学会	河野 茂夫 糖尿病とフットケアのトピックスと実際 第2回PADセミナー ～末梢血管再生治療とフットケア～ 千葉
国内学会	河野 茂夫 糖尿病フットケアの実際とトピックス 第6回山梨フットケア研究会 山梨県中巨摩郡
国内学会	河野 茂夫 教育講演3 糖尿病フットケア 第51回日本糖尿病学会近畿地方会 大阪
国内学会	水谷 結香子, 中川内 玲子, 伊藤 遼, 四枚田 耕平, 岸 純一郎, 小鳥 真司, 村田 敬, 山田 和範, 浅原 哲子, 島津 章, 河野 茂夫 保存的治療で救済しえた非クロストリジウムガス壊疽の一例 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	四枚田 耕平, 中川内 玲子, 水谷 結香子, 渡邊 知一, 岸 純一郎, 小鳥 真司, 村田 敬, 浅原 哲子, 山田 和範, 島津 章, 河野 茂夫 重症虚血症に併発した骨髄炎に9か月間の保存的治療で寛解しえた糖尿病足病変の1例 第51回日本糖尿病学会 近畿地方会 大阪
国内学会	中川内 玲子, 中谷 理恵子, 水谷 結香子, 渡邊 知一, 岸 純一郎, 小鳥 真司, 村田 敬, 浅原 哲子, 山田 和範, 島津 章, 河野 茂夫 高齢者糖尿病患者の虚血症に生じた足壊疽をAutoamputationで治療した2例 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	渡邊 知一, 益永 信豊, 四枚田 耕平, 小鳥 真司, 村田 敬, 浅原 哲子, 山田 和範, 島津 章, 中川内 玲子, 河野 茂夫 集学的治療によって大切断を回避しえた末梢動脈疾患 (PAD) 合併重症足感染症の一例 第51回日本糖尿病学会近畿地方会 大阪
国内学会	河野 茂夫 教育セミナー糖尿病足病変の診断と治療 第20回日本血管外科学会 岡山県倉敷市
国内学会	河野 茂夫 糖尿病フットマネジメントのトピックスと実際 第12回和歌山糖尿病合併症研究会 和歌山
国内学会	河野 茂夫 糖尿病診療に必要な知識6「糖尿病足病変」 第49回糖尿病学の進歩 岡山
国内学会	河野 茂夫 糖尿病とフットケアのトピックスと実際 糖・代謝フォーラム2015 三重県津市
国内学会	河野 茂夫 糖尿病とフットケアのUp To Date 松本糖尿病フォーラム 長野県松本市
国内学会	小鳥 真司, 村中 和哉, 田中 将志, 松尾 禎之, 山陰 一, 浅原 哲子, 河野 茂夫, 島津 章 抗精神病薬の変更によって減量および糖・脂質代謝の顕著な改善を認めた肥満症の一例 第35回日本肥満学会 宮崎
国内学会	浅原 哲子 メタボリックシンドロームにおけるEPAの抗動脈硬化作用～EPA/AA比の重要性～ 京滋北陸EPAフォーラム 京都
国内学会	浅原 哲子 肥満症・メタボリックシンドロームにおけるDUALインピーダンス法を用いた内臓脂肪面積測定の意味 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	浅原 哲子 インクレチン関連薬の脾外作用～心血管疾患リスク抑制効果～ 佐賀城内カンファレンス 佐賀
国内学会	浅原 哲子 心血管疾患予防のための糖尿病治療戦略～食後高血糖改善と動脈硬化予防の重要性～ 第5回琉球臨床糖尿病フォーラム 沖縄
国内学会	浅原 哲子 糖尿病治療戦略の新たなる展望～インクレチン関連薬の抗動脈硬化作用～International Diabetes Expert Seminar～Global Speaker Tour in 京都

国内学会	浅原 哲子 脂肪酸トータルマネジメント～EPA/AA比を活用した食事・薬物療法～福岡動脈硬化カンファレンス 福岡
国内学会	浅原 哲子 心血管疾患予防を目指した2型糖尿病治療戦略 第6回糖尿病治療の新時代～基礎と臨床を学ぶ～ 大阪
国内学会	真田 樹義、宮也 元参、浅原 哲子、石井 好二郎 サルコペニア肥満とSite-specificサルコペニア 第35回日本肥満学会 宮崎
国内学会	浅原 哲子、村中 和哉、佐々木 洋介、山陰 一、小谷 和彦、山田 努、荒木 里香、岡嶋 泰一郎、田邊 真紀人、大石 まり子、島津 章 多施設肥満コホートにおける脳心血管イベント発症予測指標の探索-CAMI・新規酸化LDL-第35回日本肥満学会 宮崎
国内学会	山陰 一、小谷 和彦、小島 真司、大谷 すみれ、米澤 一也、小河 淳、足立 雅広、岡嶋 泰一郎、荒木 里香、吉田 和朗、齋藤 実穂、永岡 匡、豊永 哲至、田中 剛史、山田 努、太田 逸朗、宮永 史子、大石 まり子、島津 章、浅原 哲子 肥満症・糖尿病における心腎関連進展指標としてのシスタチンCの有用性-NHO多施設共同研究- 第35回日本肥満学会 宮崎
国内学会	田中 将志、松尾 禎之、佐々木 洋介、山陰 一、村中 和哉、塚原 徹也、島津 章、浅原 哲子 頸動脈プラーク浸潤マクロファージ及び末梢血単球のM1/M2様形質に及ぼす肥満・糖尿病の影響 第35回日本肥満学会 宮崎
国内学会	松尾 禎之、田中 将志、佐々木 洋介、山陰 一、村中 和哉、猪飼 伊和夫、畑 啓昭、島津 章、井上 真由美、Chun Tae-Hwa、浅原 哲子 肥満における内臓・皮下脂肪蓄積と線維化関連因子TSP-1との関連性 第35回日本肥満学会 宮崎
国内学会	石井 輝、笠原 正登、横井 秀基、桑原 孝成、保野 慎治、森 潔、藤本 明、田中 佐智子、浅原 哲子、阪本 貴、森井 成人、堀井 和子、酒井 健、向山 政志、上嶋 健治 アムロジン内服下の高血圧患者の尿尿酸線に及ぼすアトルバスタチンの影響(DUET試験) 第37回日本高血圧学会総会 東京
国内学会	浅原 哲子 多施設共同前向きコホート研究における肥満症の脳心血管イベント発症予測指標の探索-CAMI測定の臨床的意義- 第22回西日本肥満研究会 九州
国内学会	浅原 哲子、田中 将志、松尾 禎之、山陰 一、村中 和哉、森崎 裕子、森崎 隆幸、宮本 恵宏、島津 章 Protein Tyrosine Phosphatase 1B(PTP1B)遺伝子多型は日本人の肥満発症及び減量治療抵抗性に関連する 日本内分泌学会第32回内分泌代謝学サマーセミナー 山梨
国内学会	田中 将志、松尾 禎之、佐々木 洋介、山陰 一、村中 和哉、塚原 徹也、島津 章、浅原 哲子 頸動脈プラークのM1/M2マクロファージ浸潤と炎症性サイトカイン産生に対する肥満・糖尿病の影響 日本内分泌学会第32回内分泌代謝学サマーセミナー 山梨
国内学会	浅原 哲子、小谷 和彦、山陰 一、村中 和哉、山田 努、荒木 里香、岡嶋 泰一郎、足立 雅広、大石 まり子、島津 章 多施設共同肥満症・糖尿病コホートにおける心腎関連進展早期評価系の確立-新規酸化LDLとシスタチンC測定の有用性- 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	山陰 一、伊藤 遼、小谷 和彦、小島 真司、大谷 すみれ、米澤 一也、小河 淳、岡嶋 泰一郎、足立 雅広、荒木 里香、吉田 和朗、齋藤 実穂、長岡 匡、豊永 哲至、田中 剛史、山田 努、太田 逸朗、大石 まり子、宮永 史子、島津 章、浅原 哲子 肥満症・糖尿病における心腎関連指標としてのシスタチンCの有用性についての検討-NHO多施設共同研究- 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	浅原 哲子、村中 和哉、佐々木 洋介、山陰 一、小谷 和彦、山田 努、荒木 里香、岡嶋 泰一郎、田邊 真紀人、大石 まり子、島津 章 多施設共同前向きコホート研究における肥満症の脳心血管イベント発症予測指標の探索-CAMI測定の臨床的意義- 第87回日本内分泌学会学術総会 福岡
国内学会	山陰 一、島津 章、浅原 哲子 多施設共同肥満症・糖尿病コホートにおける心腎関連進展早期評価系の確立-新規酸化LDLとシスタチンCの有用性- 第87回日本内分泌学会学術総会 福岡
国内学会	浅原 哲子 肥満・メタボリックシンドローム対策の必要性 京都府教育大学附属桃山小学校 育友会(保健体育部)講演会 京都
国内学会	岸純 一郎、山田 和範 ビルダグリプチンとミチグリニドの併用経験 糖尿病臨床フォーラム 大阪
国内学会	岸純 一郎 1型糖尿病の治療の進歩 国立病院機構内分泌代謝研修会 京都
国内学会	岸純 一郎、四枚田 耕平、水谷 結香子、渡邊 知一、小島 真司、中川内 玲子、村田 敬、河野 茂夫、山田 和範 当院救急外来を受診した重症低血糖症例の臨床的検討 国立病院機構総合医学会 横浜
国内学会	中川内 玲子 「糖尿病と眼病変」「内科の立場」 第26回京都糖尿病医学会学術講演会 京都
国内学会	村田 敬、青木 雄次、加藤 泰久、田中 剛史、荒木 里香、加藤 研、肥田 和之、河村 智一、吉田 和矢、今村 洋一、豊永 哲至、山田 和範、坂根 直樹 NHO 1型糖尿病研究グループ若年成人および高齢1型糖尿病患者の血糖コントロールとインスリンポンプの使用状況(国立病院機構11病院における横断調査)第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	村田 敬 先進糖尿病治療とコミュニケーション 第14回日本先進糖尿病治療研究会 徳島
国内学会	岸純 一郎、四枚田 耕平、山下 大生、吉田 浩輔、村田 敬、志馬 伸朗、山田 和範 CSII療法中にDKAを発症、その後ARDSに至った1型糖尿病の1例 第51回日本糖尿病学会近畿地方会 大阪
国内学会	村田 敬、河口 八重子、吉岡 二三、岡田 浩、市岡 利恵、渡邊 知一、岸純 一郎、中川内 玲子、坂根 直樹、山田 和範 インスリンポンプ導入初期における持効型インスリンまたは中間型インスリン併用の安全性と有効性の検討 第14回日本先進糖尿病治療研究会 徳島
国内学会	村田 敬 糖尿病エンパワメント入門「聴く力」を鍛える 第8回糖尿病治療セミナー 大阪
国内学会	村田 敬 治療法と生活調整・療養支援 地域医療機能推進機構本部研修センター 糖尿病認定看護師教育課程 千葉
国内学会	村田 敬 インスリンポンプ療法を成功させるコツ Insulin Group Meeting 岡山
国内学会	村田 敬 インスリンポンプの自己管理教育-チームアプローチのコツ- 三田クリニックリサーチカンファレンス 東京
国内学会	岡田 浩、岡崎 研太郎、大橋 健 糖尿病エンパワメントとコーチングを活かした療養指導 第49回糖尿病学の進歩 岡山
国内学会	岡田 浩 薬局薬剤師による糖尿病患者支援は有効なのか?:COMPASSプロジェクト結果より 第76回九州山口薬学会 長崎
国内学会	岡田 浩、大石 まり子、坂根 直樹 地域医療スタッフによる糖尿病患者支援を目指した「伏見スタッフのための糖尿病教室」の試み 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	鋤納 心 Facebookを用いた体重管理プログラムの開発:実行可能性試験 第14回日本糖尿病情報学会 岐阜
国内学会	鋤納 心 肥満女性における終末糖化産物(AGE)に及ぼす要因の検討:減量との関連を含めて 第35回日本肥満学会 宮崎
国内学会	高橋 かおる、正木 智子、玉田 幸恵、曾我部 緑、内藤 睦、坂根 直樹、小谷 和彦 安価で精度の高いHbA1cの精度管理:自家作製プル血球と市販品との比較 第57回日本糖尿病学会学術集会 大阪
国内学会	宮崎 亮、米井 嘉一、綾部 誠也、石井 好二郎 中高齢者男女における骨格筋量と連続歩行時間、インスリン様成長因子およびBMIとの相互関係 第35回日本肥満学会 宮崎

国内学会	宮崎 亮、米井 嘉一、綾部 誠也、石井 好二郎 1.5年間の身体活動増加プログラム期間における中高齢者の筋量変化とインスリン感受性との関連 第69回日本体力医学会大会 長崎
国内学会	津崎 ころこ、坂根 直樹、小谷 和彦、岡崎 研太郎、佐藤 寿一、鈴木 貞夫、森田 智視、和 生、野田 光彦、葛谷英嗣 健診で空腹時血糖異常を示した交代勤務男性への電話支援による生活習慣介入効果: J-DOIT1サブ解析 第35回日本肥満学会 宮崎
国内学会	津崎 ころこ、小谷 和彦、山田 和範、坂根 直樹 食事負荷によるLPLの食後高脂血症への関与について 第57回日本糖尿病学会学術集会 大阪
国内学会	津崎 ころこ “いつ食べる?”からはじめる食とからだとのリズム～時間栄養学から生まれた早寝・早起き・朝ごはん～ 中丹地区食育・学校給食研究大会 京都
国内学会	津崎 ころこ からだのリズムは食事から～“いつ食べる?”からはじめる時間栄養学～ 健康アクション佐賀2 1 県民会議 佐賀
国内学会	津崎 ころこ 子どもの免疫力や体力を高める身体づくり～生活習慣を見直そう～ 子どもの健康を考える研修会 滋賀
国内学会	市岡 利恵 京都医療センター1型糖尿病外来 近畿糖尿教育フォーラム第5回講演会 京都
国内学会	市岡 利恵 食品交換表を使った具体的な献立実践 第17回京都CDEの会講習会 京都
国内学会	市岡 利恵、松岡 幸代、藤本 容子、山田 和範 低血糖予防に難渋している60歳1型糖尿病患者の1例 第1回糖尿病医療学研究会 奈良
国内学会	松岡 幸代 動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012年版に基づく脂質異常症の食事管理 第61回日本栄養改善学会学術総会 自由集会 横浜
国内学会	松岡 幸代 17歳で1型糖尿病を発症し5年経過した22歳女性の1例 第1回糖尿病医療学研究会 奈良
国内学会	松岡 幸代 山田和範 2型糖尿病患者の炭水化物摂取状況の実態調査 第51回日本糖尿病学会近畿地方会 大阪
国内学会	松岡 幸代 食品交換表第7版をどう活用するか 2型糖尿病外来における炭水化物に着目した食事指導 近畿糖尿病教育フォーラム 第5回講演会 京都
国内学会	松岡 幸代 生活習慣病予防に関する保健指導 食生活に関する保健指導 平成26年度特定保健指導実施者育成研修 青森
国内学会	松岡 幸代 炭水化物に着目した糖尿病食事療法 第2回和歌山県在宅保健師の会研修会 和歌山
国内学会	松岡 幸代 動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012年版に基づく脂質異常症に対する食事療法のポイント 和歌山県御坊保健所研修会 和歌山
国内学会	西村 元伸、山田 和範、鴻山 調一、河部 備次郎、郡山 暢之、齋藤 美穂、鈴木 誠司、利根 淳仁、瀧 秀樹、田中 剛史、加藤 泰久 国立病院機構EBMのための大規模研究「糖尿病性腎症発症進展阻止のための家庭血圧管理指針の確立」最終報告 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	岡嶋 昭、村田 敬、坂根 直樹、山田 和範 1型糖尿病におけるSMBGの意義 CGMデータをもちいた解析 第2報 第57回日本糖尿病学会年次学術集会 大阪
国内学会	吉岡 二三、坂根 直樹、山田 和範、村田 敬、岸 純一郎、小谷 和彦、渡辺 直也、鋤納心、津崎 ころこ、真鍋 悟、佐野 喜子、岡田 浩 成人1型糖尿病における骨粗鬆症骨折の予測: TRACP-5bを用いて 第57回日本糖尿病学会 大阪
国内学会	河口 八重子、津崎 ころこ、鋤納心、小谷 和彦、坂根 直樹 脂質異常症者における酸化LDLに及ぼす食事因子の検討 第57回日本糖尿病学会学術集会 大阪
国内学会	河口 八重子 リバウンドしない5つのコツ糖尿病学術講演会～糖尿病治療における体重管理を考える～ 兵庫
国内学会	河口 八重子 おうちごはんを100倍楽しむ7つのコツ 八尾市立久宝寺幼稚園 家庭教育学級 大阪
国内学会	河口 八重子 はじめてのカーボカウント 広島県栄養士会 研修会 広島
国内学会	村田 敬、河口 八重子、吉岡 二三、岡田 浩、市岡 利恵、渡邊 知一、岸 純一郎、中川内 玲子、坂根 直樹、山田 和範 インスリンポンプ導入初期における持続型インスリンまたは中間型インスリン併用の安全性と有効性の検討 第14回日本先進糖尿病治療研究会 徳島
国内学会	村田 敬 インスリンポンプの自己管理教育-チームアプローチのコツ-三田クリニカルリサーチカンファレンス 東京
国内学会	松井 浩 骨と筋肉を強くする運動実際～認知症にも糖尿病にも効果的!～骨粗鬆症財団主催市民公開講座2014 東京
国内学会	坂根 直樹 多職種参加糖尿病教室の立ち上げと運営 多職種が参加する「楽しくてためになる糖尿病教室」のワークショップ 第57回日本糖尿病学会学術集会 大阪
国内学会	杉本 正毅、鈴木 恵喜、倉澤 聡、丁 毅文、松村 いづみ、坂根 直樹治療ナイーブ症例におけるGLP-1受容体作動薬の長期効果第57回日本糖尿病学会学術集会 大阪
国内学会	松井 浩、坂根 直樹、河口 八重子、河野 茂夫、山田 和範 高齢糖尿病患者における開眼片足立ち能力の歩行に及ぼす影響第57回日本糖尿病学会学術集会 大阪
国内学会	坂根 直樹、土肥 誠太郎、坂田 晃一、萩原 真一、柳沢 佳子、片嶋 充弘 Webと内臓脂肪の測定を組み合わせた減量プログラムの効果 (JVALUE2試験) ランダム化比較試験(第一報)第87回日本産業衛生学会 岡山
国内学会	滝川 奈都子、富永 典子、北條 佑佳、松岡 幸代、坂根 直樹 みんなでチャレンジ・チェンジ!効果が高く脱落率が低い教室を目指して 第87回日本産業衛生学会 岡山
国内学会	本窪田 直子、駒居 南保、坂根 直樹、森谷 敏夫、永井 成美 夜型タイプが食欲感覚や胃運動の概日リズムに及ぼす影響 第68回日本栄養・食糧学会大会 札幌
国内学会	松井 浩、坂根 直樹 糖尿病患者に対する運動療法・生活指導をどう行うか? 運動への動機づけについて 第33回日本臨床運動療法学会学術集会 大阪
国内学会	藤本 容子、真鍋 悟、松岡 幸代、岡嶋 昭、岸 純一郎、村田 敬、坂根 直樹、山田 和範 SMBG解析ソフトを用いた1型糖尿病患者の血糖変動評価(第2報)第51回日本糖尿病学会近畿地方会 大阪
国内学会	長崎 沙耶香、北野 由美、坂井 洋子、笹原 道子、松岡 律子、田口 いづみ、杉本 那央子、大森 富美子、勝島 慎二、前川 高天、水本 吉則、島 伸子、米田 俊貴、岩本 諭、江坂 直樹、遠藤 文司、太田 義之、下釜 翼、坂根 直樹 上部消化管内視鏡検査(EGD)における前処置法(ジメチコン水)の検討 第87回日本消化器内視鏡学会総会 福岡
国内学会	大林 秀樹、瀬川 正昭、藤原 真治、西木 まゆみ、田中 正巳、富田 基郎 四国の過疎高齢化地区における医療実態を処方箋統計解析から考察する 日本薬剤疫学会学術総会 愛媛

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	内容
Clinical Research on Foot & Ankle	Shigeo Kono, Reiko Nakagawachi, Jun Arata, Benjamin A Lipsky Massive Gas-forming Gangrene in a Diabetic Foot Infection. Clinical Research on Foot & Ankle vol.2 No.4 i101, 2014
Endocrine Journal	Yamakage H, Ito R, Tochiya M, Muranaka K, Tanaka M, Matsuo Y, Odori S, Kono S, Shimatsu A, Satoh-Asahara N. The Utility of Dual Bioelectrical Impedance Analysis in Detecting Intra-abdominal Fat Area in Obese Patients during Weight Reduction Therapy in Comparison with Waist Circumference and Abdominal CT. Endocrine Journal Vol.61 No.8 807-819, 2014
Heart Vessels	Komiyama M, Wada H, Ura S, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimada S, Akao M, Koyama H, Kono K, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K The effects of weight gain after smoking cessation on atherogenic α 1-antitrypsin-low-density lipoprotein. Heart Vessels Epub ahead of print, 2014
Endocrine Journal	Ito R, Yamakage H, Kotani K, Wada H, Otani S, Yonezawa K, Ogo A, Okajima T, Adachi M, Araki R, Yoshida K, Saito M, Nagaoka T, Toyonaga T, Tanaka T, Yamada T, Ota I, Oishi M, Miyayama F, Shimatsu A, Satoh-Asahara N, The Japan Diabetes and Obesity Study (J-DOS) Group. The Japan Diabetes and Obesity Study (J-DOS) Group. Comparison of Cystatin C- and Creatinine-based Estimated Glomerular Filtration Rate to Predict Coronary Heart Disease Risk in Japanese Patients with Obesity and Diabetes. Endocrine Journal Vol.62 No.2 201-7, 2015
Jpn.J. Soc.Pharm.	Masaki Shoji, Mitsuko Onda, Hiroshi Okada, Yukio Arakawa, Naoki Sakane A Study about "YARIGAI": What makes work worth doing for the community pharmacists who participated in a workshop of the COMPASS project. Jpn.J. Soc.Pharm. Vol.33 No1 2-7,2014
J Obes Weight Loss Ther	Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Takahashi K, Nagai N, Moritani T, Egawa K, Yoshimura M, Kitagawa Y, Shibata H Short-term effects of supplementation with a multi-ingredient weight-loss product on weight maintenance and fat oxidation in obese female with weight reduction: preliminary results. J Obes Weight Loss Ther vol.4 No.4 1000231, 2014
J Diabetes Res	Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, and Yamamoto T Impaired awareness of hypoglycemia and driving mishaps in patients with type 1 diabetes mellitus: A multi-center survey in Japan. J Diabetes Res Vol.1 No.1, 2014
BMJ Open Diabetes Research & Car	Sakane N, Sato J, Tsushita K, Tsujii S, Kotani K, Tominaga M, Kawazu S, Sato Y, Usui T, Kamae I, Yoshida T, Kiyohara Y, Sato S, Tsuzaki K, Takahashi K, Kuzuya H; the Japan Diabetes Prevention Program (JDPP) Research Group Effect of baseline HbA1c level on the development of diabetes by lifestyle intervention in primary healthcare settings: Insights from subanalysis of the Japan Diabetes Prevention Program BMJ Open Diabetes Research & Car Vol.2 No.1 e000003, 2014
Ann Acad Med Singapore	Kotani K, Tsuzaki K, Sakane N. The Relationship Between Gamma-Glutamyltransferase (GGT), Bilirubin (Bil) and Small Dense Low-Density Lipoprotein (sdLDL) in Asymptomatic Subjects Attending a Clinic for Screening Dyslipidaemias. Ann Acad Med Singapore Vol.43 No.4 216-219, 2014
PLoS One	Yamaguchi M, Kotani K, Tsuzaki K, Takagi A, Motokubota N, Komai N, Sakane N, Moritani T, Nagai N. Circadian Rhythm Genes CLOCK and PER3 Polymorphisms and Morning Gastric Motility in Humans. PLoS One Vol.10 No.3 e0120009, 2015
Nutr J	Yamauchi K, Katayama T, Yamauchi T, Kotani K, Tsuzaki K, Takahashi K, Sakane N. Efficacy of a 3-month lifestyle intervention program using a Japanese-style healthy plate on body weight in overweight and obese diabetic Japanese subjects: a randomized controlled trial. Nutr J Vol.13 108,2014
Diabetes Research and Treatment	Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, Yamamoto T. Fear of hypoglycemia and patient-physician communication in adult patients with type 1 diabetes mellitus. Diabetes Research and Treatment in press, 2014
Diabetes Research and Treatment	Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, Yamamoto T. Impaired awareness of hypoglycemia in insulin-treated patients with type 2 diabetes. Diabetes Research and Treatment Vol.1 No.2 109, 2014
BMJ Open	Sakane N, Kotani K, Takahashi K, Sano Y, Tsuzaki K, Okazaki K, Sato J, Suzuki S, Morita S, Oshima Y, Izumi K, Kato M, Ishizuka N, Noda M, Kuzuya H. Effects of telephone-delivered lifestyle support on the development of diabetes in subjects at high risk of type 2 diabetes: J-DOIT1, a pragmatic cluster randomized trial. BMJ Open accepted, 2014
J Diabetes Invest	Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, Yamamoto T. Fear of hypoglycemia and its determinants in insulin-treated patients with type 2 diabetes mellitus. J Diabetes Invest in press, 2015
読むだけでやせる女医の言葉	浅原 哲子 読むだけでやせる女医の言葉
京都医療センターメタボ外来の3ヵ月でやせるレシピ	独立行政法人国立病院機構京都医療センター 京都医療センターメタボ外来の3ヵ月でやせるレシピ
Modern Physician	河野 茂夫 足病変のチーム医療とは:足のベッドサイド診察 Modern Physician Vol.34 No.4 365-368, 2014
Medical Tribune Special Issue	河野 茂夫 フットケアの徹底で足を守るー発症予防が重要 Medical Tribune Special Issue 第2部 s i -6, 2014
糖尿病合併症	河野 茂夫 シンポジウム4 Diabetic Foot — 診断・治療のUpdate 糖尿病合併症 vol.28 No.1 104-105, 2014
糖尿病専門医研修ガイドブック改訂第6版	河野 茂夫 糖尿病足病変 糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第6版 304-309, 2014
まるわかり創傷治療のキホン	河野 茂夫 糖尿病足病変とは まるわかり創傷治療のキホン 226-231, 2014
内分泌・糖尿病・代謝内科	河野 茂夫 糖尿病重症化予防の診療報酬算定ーフットケア 内分泌・糖尿病・代謝内科 Vol.39 No.3 255-260, 2014

糖尿病研修ノート 改訂第2版	河野 茂夫 糖尿病足病変とフットケア 糖尿病研修ノート 改訂第2版 400-403, 2014
Modern Physician	河野 茂夫 糖尿病を抱える足病変患者のケア Modern Physician vol.35 No.1 77-80, 2015
内分泌・糖尿病・代謝内科	河野 茂夫 糖尿病足病変の診断と治療 内分泌・糖尿病・代謝内科 vol.40 No.2 104-110, 2015
血管医学	田中 将志、浅原(佐藤) 哲子 特集「単球・マクロファージの多様性と病態」生活習慣病における単球形質の診断的意義 血管医学 Vol.15 No.2 53-60, 2014
血管医学	松尾 禎之、浅原(佐藤) 哲子、小川 佳宏 連載「バイオマーカーと心血管疾患の評価」Fatty Acidと心血管疾患 血管医学 Vol.15 No.2 73-81, 2014
日本医事新報	浅原 哲子 肥満症患者における院外対策の重要性 日本医事新報 第4698号 29-35, 2014
実験治療	浅原 哲子 特集「 ω 3系脂肪酸の可能性を探る」8.炎症・動脈硬化 実験治療 713号, 2014
肥満研究	浅原(佐藤) 哲子 総説企画テーマ「睡眠時無呼吸症候群:SAS」「肥満研究」「肥満症・メタボリックシンドロームと睡眠時無呼吸症候群」肥満研究 Vol.20 No.2 77-88, 2014
臨床医のためのクリニカルスタディー	浅原(佐藤) 哲子 「糖尿病と脳梗塞・心筋梗塞」臨床医のためのクリニカルスタディー vol.18 No.2, 2014
糖尿病ケア2015年春季増刊	中川内 玲子 みるみるわかる!糖尿病患者の足病変(壊死性筋膜炎、ガス産生性壊疽、末梢動脈疾患(PAD)、プルートウー症候群) 糖尿病ケア2015年春季増刊 140-145, 150-151, 2015
糖尿病ケア2015年春季増刊	中川内 玲子 写真で見える!流れがわかる!チームで取り組むフットケア(A:防御感覚が低下した患者さん) 糖尿病ケア2015年春季増刊 154-156, 2015
血糖値をめぐる88の物語	村田 敬、岡崎 研太郎、大澤 理代、大橋 健、岡田 浩、加藤 研、加藤 頼子、久保田 亜希、小久保 敦子、騎馬 早苗、佐野 喜子、澤木 秀明、陣内 秀昭、清家 美香、鶴尾 美穂、西村 博之、能登 洋、原 栄子、平田 匠、廣田 勇士、古家 美幸、真鍋 悟、円山 歩、三浦 順之助、村内 千代、村田 裕子、山根 あゆみ 血糖測定の世界と患者さんの歴史、患者と医者の気持ちは平行線?、解説、あとがき
インスリンポンプ療法マニュアル(改訂第2版)	村田 敬 インスリンポンプ療法の指導におけるチーム作り インスリンポンプ療法マニュアル(改訂第2版)181-185, 2014
日本先進糖尿病治療研究会雑誌	村田 敬、吉岡 二三、河口 八重子、岡田 浩、市岡 利恵、真鍋 悟、渡邊 知一、四枚田 耕平、岸 純一郎、中川内 玲子、坂根 直樹、山田 和範 当院で外来CSII導入した患者の特性について - 外来CSII導入した患者の特性 - 日本先進糖尿病治療研究会雑誌 vol.10 16-20, 2014
内科	村田 敬 Book Review 2週間でマスターする エビデンスの読み方・使い方のキホン すぐのできるEBM実践法 内科 Vol.113 No.6 1134, 2014
糖尿病診療マスター	村田 敬 血糖連続モニタリングのみから得られる情報-理想的コントロールと現実的コントロール-(理想的コントロールと現実的コントロール、血糖コントロールの質と合併症との関連) 糖尿病診療マスター Vol.12 No.6 607-611, 2014
日本医事新報	村田 敬、能登 洋 高齢糖尿病患者の治療目標と薬物療法上の注意点 日本医事新報 第4710号 62-63, 2014
YAKUGAKU ZASSHI	岡田 浩 「糖尿病劇場」~糖尿病エンパワメントに基づく薬剤師の新たな役割 YAKUGAKU ZASSHI, Vol.135, No.3, 349-350, 2015
YAKUGAKU ZASSHI	西村 博之、岡田 浩 糖尿病劇場in熊本:演劇シナリオとディスカッション内容 YAKUGAKU ZASSHI, Vol.135, No.3, 357-361, 2015
YAKUGAKU ZASSHI	岡田 浩 当日の「糖尿病劇場」の評価と今後の方向性:アンケート結果の集計と考察 YAKUGAKU ZASSHI, Vol.135, No.3, 363-366, 2015
YAKUGAKU ZASSHI	西村 博之、岡田 浩 エンパワメントを薬剤師にどう伝えるか YAKUGAKU ZASSHI, Vol.135, No.3, 367-371, 2015
Nutrition Care	青山 有紀、坂根 直樹 ダメダメ指導にさようなら 栄養指導の〇と× 小児1型糖尿病患者の栄養指導 Nutrition Care vol.7 No.7 707-712, 2014
Nutrition Care	高橋 かおる 8.中性脂肪やコレステロールを検査する際の注意点は? Nutrition Care vol.7 No.11 27-29, 2014
Nutrition Care	津崎 ころろ 外来で行われる特殊な血液検査には何があるの? Nutrition Care vol.7 No.11 30-31, 2014
Nutrition Care	鋤 納心 ⑨高コレステロール血症の食事療法のポイントは?⑩高トリグリセリド血症の食事療法のポイントは? Nutrition Care vol.7 No.11 32-37, 2014
Nutrition Care	河口 八重子 脂質異常症患者の病態生理・治療・献立展開(高TG血症に対する節酒指導のポイントは?脂質異常症患者への献立展開 患者が家でつくる食事の提案) Nutrition Care vol.7 No.11 38-41, 52-61, 2014
Nutrition Care	坂上 京子、吉田 聖子、齋藤 恭代、坂根 直樹 ダメダメ指導にさようなら 栄養指導の〇と× 自閉症をもつクローン病患者への栄養指導 Nutrition Care Vol.7 No.12 1217-1220, 2014
Nutrition Care	箕輪 宏美、坂根 直樹 ダメダメ指導にさようなら 栄養指導の〇と× 脳卒中患者の入院中の栄養指導 Nutrition Care Vol.8 No.2 197-202
臨床検査	高橋 かおる、正木 智子、坂根 直樹、小谷 和彦 自家製血球試料によるHbA1cの精度管理 臨床検査 Vol.58, No.6 768-769, 2014
月刊糖尿病	坂根 直樹 【境界型糖尿病の診断と治療管理】境界型糖尿病患者に対する療養指導のコツ 月刊糖尿病 Vol.6 No.8 45-51, 2014
プラクティス	坂根 直樹 糖尿病の療養指導Q&A スマートフォンでの健康管理(Q&A) プラクティス Vol.31 No.5 659-661, 2014
内分泌・糖尿病・代謝内科	坂根 直樹 【糖尿病診療とICT(Information and Communication Technology)】ICTを用いた患者教育 内分泌・糖尿病・代謝内科 Vol.38 No.6 480-489, 2014
日本医事新報	坂根 直樹 【困った患者の生活習慣指導】(CASE6)体質と習慣 治療に抵抗する 「体質的に太っている」「遺伝だから仕方がない」と言って減量指導に抵抗する 日本医事新報 第4722号 40-43, 2014
日本医事新報	坂根 直樹 【困った患者の生活習慣指導】(CASE8)高度肥満 減量とリバウンド 食事療法・運動療法も焼け石に水。一時的な減量の効果、外科手術の適応は? 日本医事新報 第4722号 49-53, 2014
日本医事新報	坂根 直樹 【困った患者の生活習慣指導】(CASE14)2型糖尿病 インスリンの導入が困難 インスリンへの切り替えを拒否する。糖尿病歴が長く、血糖コントロールが悪い 日本医事新報 第4722号 77-80, 2014

産業衛生学雑誌	岡崎 浩子、土肥 誠太郎、井手 宏、村田 陽稔、村松 銀次郎、伊東 大輔、坂根 直樹、森本 聡尚、内田 隆信、片嶋 充弘、柳沢 佳子、安増 毅 職域における内臓脂肪測定とWebを利用した減量支援プログラムが内臓脂肪減少に及ぼす要因 JVALUE2からの検討 産業衛生学雑誌 Vol.56 No.5 109-115, 2014
レジデントノート	坂根 直樹 【糖尿病診療でみんなが困る疑問を集めました。血糖コントロールがうまくいくコツ】(第4章)糖尿病教育 自覚症状がなく、危機感が少ない患者への対応は? レジデントノート Vol.16 No.17 3296-3301, 2015
Modern Physician	坂根 直樹 【肥満症診療最前線】肥満症治療の新しい考え方 生活習慣の改善のためにはどのような方法が適切ですか? Modern Physician Vol.35 No.2 137-140, 2015
地域医療	藤原 真治 診療所新時代 いまこそ診療所の時代! 地域を楽しもう(第16回) 思いのある人が集い、活動する拠点として地域医療 Vol.52 No.2 154-157
日本糖尿病情報学会誌	藤原 真治 「食前に団子を食べる」という地域の食習慣が心血管リスクに及ぼす影響:美馬研究より日本糖尿病情報学会誌 in press, 2014

腎臓内科



診療科長
八幡 兼成

スタッフ

専門医資格等 日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会専門医
京都大学医学博士

	氏名	専門医資格等
医 長	瀬田 公一	日本腎臓学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医・指導医 日本高血圧学会専門医・指導医 総合内科専門医 日本集中治療医学会専門医 ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター 日本急性血液浄化学会認定指導者 京都大学医学博士
医 師	菊地 祐子	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本内科学会認定医 認定産業医
医 師	小泉 三輝	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本内科学会認定医
専 修 医	村田 真紀	日本内科学会認定医
専 修 医	北村 憲子	
専 修 医	高橋 昌宏	

診療科の特徴

施設認定等	日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設
-------	---

1. 積極的に腎生検を行い、早ければ翌日には診断がつく体制を取っている
2. 血液透析だけでなく、血漿交換や持続血液ろ過透析など急性血液浄化に対応できる
3. 腹膜透析も多く導入している
4. 学会発表・論文執筆・臨床研究を積極的に行っている

主な対象疾患

急性腎不全、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、多発性嚢胞腎、Gitelman症候群、高血圧症

診療(業務)内容

1. 慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などに対して腎生検を行い、その結果に基づいて治療を行っている。

2. 保存期腎不全に対し、血圧管理を始めとした腎保護療法を行い、末期腎不全への進行を抑制できるようにしている。
3. 末期腎不全に陥った場合、腎移植・腹膜透析・血液透析の3つの選択肢を提示し、患者に合った治療を提供している。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

外来患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数	1日平均患者数
14.5名	353名	14.3日	33.6名

主な疾患の件数など

腎生検数	血液浄化療法延べ件数	血液透析導入患者数	腹膜透析導入患者数
83件	3,223件	55件	5件

□ 地域医療連携・広報活動

- ・第3回シーメンス尿検査セミナーin京都
「CKD診療における尿検査の使い方」 八幡 兼成
2015年3月14日 ホテル京阪京都
- ・多発性嚢胞腎 地域医療連携講演会 -変わる難病治療-
「ADPKD診療の新たな展開 -TEMPO試験から実臨床へ-」 瀬田 公一
2015年3月19日 名古屋マリオットアソシアホテル
- ・長崎市臨床整形外科学術講演会
「腎臓にやさしい整形外科医とは -鎮痛薬の選択に関連して-」 瀬田 公一
2015年3月18日 サンプリエール
- ・世界腎臓デー関連イベント
2014年3月12日 京都医療センターロビー
- ・第3回 Vasopression Forum 2015 -ADPKD治療戦略-
「ADPKD診療の新たな展開 -TEMPO試験から実臨床へ-」 瀬田 公一
2015年3月3日 福岡大学病院新館
- ・Kyoto ADPKD Expert Meeting
「ADPKD診療の新たな展開 -TEMPO試験から実臨床へ-」 瀬田 公一
2015年2月26日 ハイアットリージェンシー京都
- ・第14回六地蔵木幡地域医療研究会
「CKD・糖尿病性腎症のマネージメント～CKD診療ガイド2012に沿って～」 小泉 三輝
2015年2月26日 京都タワーホテル
- ・第13回痛みの臨床フォーラム
「腎臓にやさしい疼痛コントロール -腎臓も痛いんです!-」 瀬田 公一
2015年2月7日 スイスホテル南海大阪
- ・神戸明石腎セミナー
「ADPKD診療の新たな展開 -TEMPO試験から実臨床へ-」 瀬田 公一
2015年2月5日 シーサイドホテル舞子ビラ神戸
- ・守山野洲医師会学術講演会
「非専門医のための慢性腎臓病講座 -鎮痛薬の選択に関連して-」 瀬田 公一
2014年12月18日 守山市すこやかセンター

- ・西陣ADPKD講演会
 「ADPKD診療の新たな展開 -TEMPO試験から実臨床へ-」 瀬田 公一
 2014年12月17日 西陣病院
- ・練馬区整形外科医会学術講演会
 「腎臓にやさしい整形外科医とは -鎮痛剤の選択に関連して-」 瀬田 公一
 2014年11月19日 ホテルカデンツァ光が丘
- ・毎日血圧、時々尿検査セミナー
 「CKD病診連携における尿検査」 八幡 兼成
 2014年11月8日 ホテルグランヴィア京都
- ・サムスカADPKD講演会
 「ADPKD診療の新たな展開 -TEMPO試験から実臨床へ-」 瀬田 公一
 2014年11月4日 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ
- ・京都整形外科医会学術講演会
 「腎臓にやさしい整形外科医とは -鎮痛剤の選択に関連して-」 瀬田 公一
 2014年10月4日 京都ブライトンホテル
- ・伏見CKD医療連携の会講演会
 「糖尿病患者の腎障害 ～こんな症例もあります～」 村田 真紀
 「腎後性腎不全を忘れずに ～当院での検討から～」 小泉 三輝
 「CKD患者の高血圧と腎性貧血の治療戦略」 ～京都医療センター腎臓内科発 臨床研究途中経過の御報告第3報～ 瀬田 公一・八幡 兼成
 「腎臓と骨の因果な関係」 内分泌・代謝内科 田上 哲也先生
 2014年9月27日 烏丸京都ホテル
- ・腎臓病教室応用編
 2014年9月23日 京都医療センター多目的ホール
- ・stroke oriented...研究会
 「高血圧ガイドラインと実臨床 -京都医療センター腎臓内科の取り組み-」
 北村 憲子、村田 真紀、小泉 三輝、菊地 祐子、瀬田 公一、八幡 兼成
 2014年8月30日 ホテルグランヴィア京都
- ・佐世保市医師会第1回県北疼痛セミナー
 「腎臓にやさしい整形外科医とは -鎮痛剤の選択に関連して-」 瀬田 公一
 2014年7月17日 セントラルホテル佐世保
- ・京滋腎移植研究会
 「腎移植を増やすために -まずICをしよう-」 八幡 兼成
 2014年6月28日 京都都ホテル
- ・第1回ADPKDカンファレンス in 滋賀
 「ADPKDにおけるトルバプタンの使用経験」 瀬田 公一
 2014年6月27日 琵琶湖ホテル
- ・横須賀市整形外科医研修会
 「腎臓にやさしい整形外科医とは -鎮痛剤の選択に関連して-」 瀬田 公一
 2014年5月14日 セントラルホテル
- ・諫早医師会学術講演会
 「非専門医のための慢性腎臓病講座 -薬で失敗しないために-」 瀬田 公一
 2014年4月11日 ホテルグランドパレス諫早
- ・伏見CKD医療連携の会講演会
 「連携パスを改訂します ～よりよい地域連携を目指して～」 菊地 祐子
 「CKD患者の高血圧と腎性貧血の治療戦略」 ～京都医療センター腎臓内科発 臨床研究途中経過の御報告第2報～ 瀬田 公一・八幡 兼成
 「CKDにおける貧血・高血圧対策」 神戸大学腎臓内科教授 西 慎一先生
 2014年4月5日 新都ホテル

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
国内学会	当院におけるバンコマイシン起因性AKI症例の腎予後と急性血液浄化療法を要した1例 小泉 三輝、瀬田 公一、高橋 昌宏、北村 憲子、村田 真紀、菊地 祐子、八幡 兼成 第42回集中治療医学会学術集会 東京 2015.2.9-11
国内学会	急速に腎不全が進行し腎生検でコレステロール結晶塞栓症と診断した糖尿病患者の一例 村田 真紀、北村 憲子、小泉 三輝、菊地 祐子、瀬田 公一、八幡 兼成 第51回日本糖尿病学会近畿地方会 大阪 2014.10.25
国内学会	腸腰筋膿瘍発症後無尿となり、1.5ヶ月間の透析が必要であった1型糖尿病の一例 菊地 祐子、北村 憲子、村田 真紀、小泉 三輝、菊地 祐子、瀬田 公一、八幡 兼成 第51回日本糖尿病学会近畿地方会 大阪 2014.10.25
国内学会	保存的加療にて救命し得た気腫性腎盂腎炎・気腫性膀胱炎の1例 桑田 康弘、小泉 三輝、高橋 昌宏、北村 憲子、村田 真紀、菊地 祐子、瀬田 公一、八幡 兼成 第44回日本腎臓学会西部学術大会 神戸 2014.10.3-4
国内学会	軽微な検尿異常にて腎生検を施行しproliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits(PGNMID)の診断に至った一例 村田 真紀、北村 憲子、小泉 三輝、菊地 祐子、瀬田 公一、八幡 兼成 第44回日本腎臓学会西部学術大会 神戸 2014.10.3-4
国内学会	NMDA受容体拮抗薬(メマンチン塩酸塩)により意識障害をきたした透析患者の一例 小泉 三輝、北村 憲子、村田 真紀、菊地 祐子、瀬田 公一、八幡 兼成 第59回日本透析医学会学術集会・総会 神戸 2014.6.12-15
国内学会	当院でのAKIに対する腎代替療法(IRRT、SLED、CRRT)選択 瀬田 公一、北村 憲子、村田 真紀、小泉 三輝、菊地 祐子、八幡 兼成 第59回日本透析医学会学術集会・総会 神戸 2014.6.12-15
国内学会	当院における保存期腎不全患者への腎性貧血治療の変遷 北村 憲子、村田 真紀、小泉 三輝、菊地 祐子、瀬田 公一、八幡 兼成 第59回日本透析医学会学術集会・総会 神戸 2014.6.12-15
国内学会	腹水コントロール困難のため血液透析から腹膜透析に変更し、腹水とADLが顕著に改善した一例 菊地 祐子、北村 憲子、村田 真紀、小泉 三輝、瀬田 公一、八幡 兼成 第59回日本透析医学会学術集会・総会 神戸 2014.6.12-15
国内学会	地域医療での降圧療法の質向上のための方策 Quality Indicator評価 瀬田 公一、北村 憲子、村田 真紀、小泉 三輝、菊地 祐子、八幡 兼成 第57回日本腎臓学会学術総会 横浜 2014.7.4-6
国内学会	よりよい連携バスを目指して かかりつけ医へのアンケート調査 菊地 祐子、村田 真紀、小泉 三輝、瀬田 公一、八幡 兼成 第57回日本腎臓学会学術総会 横浜 2014.7.4-6
国内学会	京都の地域医療におけるCKD患者への腎性貧血治療の実態とその効果[京都伏見腎性貧血研究:KFRA study] 八幡 兼成、村田 真紀、小泉 三輝、菊地 祐子、瀬田 公一 第57回日本腎臓学会学術総会 横浜 2014.7.4-6
国内学会	CKD合併高血圧患者における診察室血圧・家庭血圧の目標達成率 瀬田 公一、村田 真紀、小泉 三輝、菊地 祐子、八幡 兼成 第3回日本高血圧学会臨床高血圧フォーラム 広島 2014.5.24-25

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
CEN Case Report Date: 19 Aug 2014	Post-infectious acute glomerulonephritis with vasculitis and pulmonary hemorrhage Mitsuteru Koizumi, Kensei Yahata, Keiichi Kaneko, Yuko Kikuchi, Koichi Seta, Noriko Uesugi
日本急性血液浄化学会雑誌5巻2号:149-152, 2014	村田 真紀、瀬田 公一、北村 憲子、小泉 三輝、菊地 祐子、八幡 兼成. 急性血液浄化療法を施行し救命したピグアナイドによる乳酸アシドーシスの1例
日本内分泌学会雑誌90巻Suppl.:81-83, 2014	中尾 佳奈子、白井 健、八幡 兼成、中谷 理恵子、植田 洋平、垣田 真以子、金子 恵一、難波 多挙、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄、島津 章. Gitelman症候群におけるgenetic background解析
国立医療学会誌 医療 68(9):433-441, 2014	塚原 徹也、瀬田 公一. 京都医療センターでの医療連携への取り組み.
腎と透析77巻別冊 腹膜透析2014:130-131, 2014	北村 悠樹、大杉 治之、藤井 将人、眞鍋 由美、伊東 晴喜、三品 睦輝、奥野 博、村田 真紀、菊地 祐子、八幡 兼成. 腹部手術既往症例に対する腹腔鏡補助下腹膜透析カテーテル留置術の検討について
救急・集中治療 26:510-516, 2014	瀬田 公一、八幡 兼成. 徹底ガイド 急性血液浄化法 2014-15 持続 vs 間歇血液浄化療法と患者予後
日集中医誌 21:63-4, 2014	瀬田 公一、小泉 三輝、村田 真紀、金子 恵一、菊地 祐子、八幡 兼成. リネソリドによる乳酸アシドーシスをsustained low efficiency dialysis with filtration (SLED-f)により改善できた一例.
Mebio 31.20-27, 2014	瀬田 公一、八幡 兼成、笠原 正登. AKIの疫学 ～AKIは増えているか?どの領域で問題となっているか?～

腫瘍内科



診療科長
外来化学療法
センター長
安井 久晃

専門医資格等 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医／指導医、評議員
「原発不明がん診療ガイドライン」作成委員
「がん薬物療法における曝露対策合同ガイドライン」作成委員
がん治療認定医機構／がん治療認定医、暫定教育医
日本内科学会 認定内科医
独立行政法人医薬品医療機器総合機構 専門委員

専門分野 腫瘍内科学(臨床腫瘍学)
緩和医療

得意疾患 固形腫瘍(消化器がん)
原発不明がん

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	岡崎 俊介	日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 日本内科学会 認定内科医	腫瘍内科学(臨床腫瘍学) 緩和医療	消化器がん
レジデント	津田 萌	検診マンモグラフィ読影認定医	腫瘍内科学(臨床腫瘍学)	乳がん

□ 診療科の特徴

施設認定等 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

1. 患者さんが納得し満足いただける医療を提供します
2. 患者さんとご家族を徹底的に支援します
3. エビデンスに基づいた最善の化学療法を行ないます
4. 化学療法と並行して、緩和医療を提供します
5. 患者さんと一緒に歩み、成長する姿勢を大切にします
6. 地域の医療機関との連携を大切にします

□ 主な対象疾患

- ・消化器がん(食道がん、胃がん、大腸がん、消化管間質腫瘍など)
- ・膵臓がん、胆道がん
- ・原発不明がん
- ・その他の固形腫瘍

□ 診療(業務)内容

- ・化学療法(がん薬物療法)の実施
- ・緩和医療の実施
- ・緩和ケアチーム参加
- ・他職種カンファレンスの実施
- ・他科からのコンサルテーション
- ・セカンドオピニオン
- ・外来化学療法センターの運営
- ・化学療法委員会の運営
- ・中心静脈ポート造設
- ・臨床試験・治療への参加

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
16.4名	399名	14.8日

外来患者数

1日平均患者数
24.1名

□ 地域医療連携・広報活動

京都臨床漢方医学講座「大腸がん化学療法と副作用マネジメント」2014年4月19日:京都(安井久晃)

第3回京都医療センター医療連携フォーラム「外来化学療法センターにおけるチーム医療」2014年7月12日:京都(安井久晃)

NPO法人キャンサーリボンズ「がん治療と暮らしサポーター」研修 -第1期集中講座-「患者の立場に立って理解するー痛みを例にー」2014年9月6日:大阪(安井久晃)

がん哲学外来メディカルカフェ「がんと向き合う～がん治療と生きる覚悟～」2015年2月22日:京都(安井久晃)

CVポートトレーニングセミナー「①VADにおけるCVポートの位置づけ CVポートの管理、②CVポートの留置手技～腋下静脈穿刺～」2014年5月17日、6月28日、7月26日、10月4日:東京(安井久晃)

CVポートトレーニングセミナー「①VADにおけるCVポートの位置づけ CVポートの管理、②CVポートの留置手技～内頸静脈穿刺～」2014年11月30日、2015年3月14日:東京(安井久晃)

いのちを見つめる日の取組(綾部市立綾部小学校)「「がん」って?」2014年10月17日:京都(安井久晃)

保健体育授業(宇治市立槇島中学校)「「がん」って?」2014年12月8日:京都(安井久晃)

生命のがん教育(京都教育大学付属桃山小学校)「「がん」って?」2015年2月25日:京都(安井久晃)

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
国内学会	垣田真以子、難波多挙、安井久晃、植田洋平、中谷理恵子、中尾佳奈子、立木美香、臼井健、田上哲也、成瀬光栄、島津章、多発肝転移を伴う肺原発神経内分泌腫瘍による異所性ACTH産生腫瘍に対するエペロリムスの治療効果。第87回日本内分沁学会学術総会。2014年4月26日:福岡
国内学会	安井久晃。がん薬物療法におけるパワーポートの有用性ーパワーポートを用いた治療・管理・造影CTの実際ー(ランチョンセミナー)。第12回日本臨床腫瘍学会学術集会。2014年7月19日:福岡
国内学会	安井久晃、岡崎俊介、佐治雅史、田中雅子。進行・再発膀胱癌に対するGEM+nab-パクリタキセル併用療法の使用経験。第12回日本臨床腫瘍学会学術集会。2014年7月19日:福岡
国内学会	岩佐悟、濱口哲弥、後藤昌弘、岡崎俊介、笹木有佑、長井祐志、浅見千佳、長島健悟、島田安博。高齢者切除不能の進行・再発胃癌を対象としたS-1/CDDP療法の多施設共同第Ⅱ相試験。第52回日本癌治療学会学術集会。2014年8月28日:横浜
国内学会	安井久晃。チームで取り組むがん薬物療法における曝露対策～根拠に基づくガイドラインの活用～医師の立場から(日本がん看護学会ガイドライン委員会がん薬物療法曝露対策講演会・シンポジウム)。第29回日本がん看護学会学術集会。2015年3月1日:横浜
国内学会	安井久晃。がん患者が腹部症状を訴えて来院したら～オンコロジーにおけるエマージェンシー～(ランチョンセミナー)。第51回腹部救急医学会総会。2015年3月6日:京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	タイトル	著者
悪液質とサルコペニア リハビリテーション栄養アプローチ、荒金英樹・若林秀隆編著、p92-100、医歯薬出版株式会社、2014年2月	第2章 主な疾患の悪液質に対するリハビリテーション栄養 1.がん ③化学療法(がん薬物療法)	安井久晃
産婦人科の進歩 Vol.66, No.2, p231、近畿産科婦人科学会、2014年5月	当院における卵巣癌に対するペバシズマブ(BeV)投与の実際	秦さおり、関山健太郎、下園寛子、中木絢子、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、高尾由美、江川晴人、山本紳一、北岡有喜、徳重誠、安井久晃、高倉賢二
Journal of integrative oncology Vol. 3, No.2, p120、2014年7月	Multicenter Phase II Study of FOLFOX6 for Previously Untreated Unresectable Metastatic Colorectal Cancer.	Satoru Iwasa, Yasuhiro Shimada, Yoshitaka Inaba, Kiyomi Mera, Hisateru Yasui, Yutaka Ogata, Kenichi Sugihara, Tatsuhiro Arai, Kenji Katsumata, Satoshi Ikeda, Makoto Akaike, Takeshi Kato, Tetsuya Hamaguchi and Tomoyuki Kato.

著書・雑誌名	タイトル	著者
ガイドラインには載っていない消化管がん Practical Treatment、山田康秀ら編、p167-169、メジカルビュー社、2014年8月	IV 胃がん治療のpractice ⑦胃がんによる腸閉塞に対する内科的治療の考え方	安井 久晃
消化器外科ナーシング Vol. 19, No.9、p864-866、メディカ出版、2014年9月	【特集】観察・対応・説明ポイントを早しらべ!消化器がん化学療法のレジメンと副作用「すぐわかる」帳 臓器がん編 2 胃	安井 久晃、田中 雅子
消化器外科ナーシング Vol. 19, No.9、p881-883、メディカ出版、2014年9月	副作用編 7 悪心・嘔吐	安井 久晃、田中 雅子
消化器外科ナーシング Vol. 19, No.9、p888-889、メディカ出版、2014年9月	副作用編 10 口内炎(口腔粘膜炎)	安井 久晃、田中 雅子
消化器外科ナーシング Vol. 19, No.9、p890-891、メディカ出版、2014年9月	副作用編 11 味覚障害	安井 久晃、田中 雅子
消化器外科ナーシング Vol. 19, No.9、p900-901、メディカ出版、2014年9月	副作用編 14 脱毛	安井 久晃、田中 雅子
日本臨牀 増刊号、p209-214、日本臨牀社、2015年2月	V.系統別抗がん剤の副作用 2.分子標的薬 2) 抗HER2抗体薬	安井 久晃
BMC Cancer Vol. 15、p176、2015年3月	Multicenter phase II study of FOLFIRI plus bevacizumab after discontinuation of oxaliplatin-based regimen for advanced or recurrent colorectal cancer (CR0802)	Mitsukuni Suenaga, Tomohiro Nishina, Nobuyuki Mizunuma, Hisateru Yasui, Takashi Ura, Tadamichi Denda, Junichi Ikeda, Taito Esaki, Hogara Nishisaki, Yoshinao Takano, Yasuyuki Sugiyama and Kei Muro.

精神科



医 長
杉崎 全良

専門医資格等 精神保健指定医
日本精神神経学会認定 精神科専門医
専 門 分 野 精神病理学

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏 名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 師	吉田 貴子	精神保健指定医 日本精神神経学会認定 精神科専門医	精神病理学	
医 師	沼本 和記	日本医師会認定産業医	精神病理学	
非常勤臨床心理士	梶川 和行	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	中前 純治	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	筒井 優介	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	西尾ゆう子	臨床心理士		

□ 診療科の特徴

施設認定等 日本精神神経学会精神科専門医研修施設

1. 確定診断と精神療法的な意味を兼ねて、初診時診察に十分な時間をかける。
2. 精神疾患の病態を自然科学的、人間学的視点から多角的に把握する。
3. 共感的、探究的な診察態度を心がけ、繊細な薬物療法を工夫する。
4. 器質性精神障害が疑われるときには、他科と連携し、頭部MRI等を利用して病態検索が可能である。

□ 主な対象疾患

- ・睡眠障害
- ・身体表現性自律神経機能不全、その他の身体表現性障害
- ・パニック障害、その他の不安障害
- ・適応障害、その他のストレス関連障害
- ・強迫性障害、その他の神経症性障害
- ・躁うつ病、その他の気分障害
- ・統合失調症、妄想性障害等
- ・器質性あるいは症状性精神障害

□ 診療(業務)内容

1. 精神科入院病棟は無いため、入院治療が必要と判断される時は、精神科病院等に紹介する。
2. 医師による診療後、病態として心理学的に複雑な葛藤が想定される場合は、心理療法士による標準型精神分析療法等を併用することが可能。
3. 一般病棟の他科入院患者に対し、依頼に応じて、リエゾン・コンサルテーション精神科医療に従事している。

□ 診療実績(平成26年度)

外来患者数

1日平均患者数
48.8名

神経内科



診療科長
中村 道三

専門医資格等 日本神経学会専門医 指導医
日本内科学会認定医 指導医
京都大学医学部神経内科臨床教授
京都大学医学博士
専門分野 神経内科、臨床神経学
得意疾患 ミオパチー、認知症

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	大谷 良	日本神経学会専門医 指導医 日本脳卒中学会専門医 評議員 日本認知症学会専門医 指導医 日本内科学会認定医 指導医 京都脳神経超音波研究会世話人 脳血管内治療(各種デバイス) 資格医 京都大学医学部神経内科 臨床准教授 京都大学医学博士	神経内科(臨床神経学) 脳血管障害 認知症	脳血管障害 認知症
医 長	村瀬 永子	日本神経学会専門医 指導医 日本内科学会認定医 指導医 脳波筋電図学会認定医 京都大学医学部 高次脳機能総合解析センター・非常勤講師 関西脳波・筋電図研究会世話人 京都大学医学博士 日本定位・機能神経外科学会 技術認定医	神経内科 電気生理 運動異常症	ジストニア パーキンソン病 運動異常症
専 修 医	安田 謙		神経内科	
専 修 医	後藤 昌広		神経内科	
専 修 医	齊ノ内 信		神経内科	
専 修 医	栗田 康弘		神経内科	
専 修 医	高田 真基		神経内科	

□ 診療科の特徴

施設認定等 日本神経学会研修施設

1. 納得できる医療を目指します
2. 紹介医との密な連絡(病診連携)および大学や機関病院との連携に努めます
3. 看護師、薬剤師、理学療法士など他の医療従事者とのチーム医療を推進します
4. 若手医師の教育に尽力します

□ 主な対象疾患

脳血管障害(脳梗塞、脳出血など)、認知症(アルツハイマー病など)、パーキンソン病、ジストニア脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの数多の神経難病、多発性硬化症、重症筋無力症などの免疫神経疾患、脳炎、髄膜炎など神経感染症、頭痛、てんかんなどの発作性疾患、ギランバレー症候群、種々のニューロパチーなどの末梢神経疾患、筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患など

□ 診療(業務)内容

神経内科一般

脳血管障害外来:脳血管障害の予防及び再発予防(臨床研究対象も含む)、頸部血管エコー検査

電気生理外来:電気診断学にもとづく神経・筋疾患の電気生理検査

ボツリヌス治療:対象疾患 ジストニア、脳卒中後の痙縮、半側顔面痙攣

深部脳刺激、脊髄電気刺激を使った治療

神経内科・音楽療法外来:認知症を対象とする音楽療法

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	22.3名	349名	22.0日

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	46.7名

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

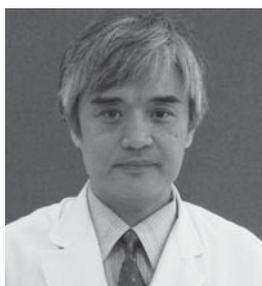
区分	演者	演題・学会名
国内研究会	大谷良	最新の脳梗塞診療について ～再発予防はどうする?～国立病院機構京都医療センター 神経内科 Fushimi Stroke Conference 2014.4京都
国内研究会	後藤昌広 ¹ 、大谷良 ¹ 、川端康弘 ² 、齋ノ内信 ¹ 、安田謙 ¹ 、村瀬永子 ¹ 、中村道三 ¹ 、塚原徹也 ²	頭頸部癌放射線治療後にhemodynamic TIAを繰り返した一例 国立病院機構京都医療センター 神経内科 ¹ 、脳神経外科 ² Stroke 研究会 2014.8京都
国内研究会	中村道三、大谷良	ディスカッション:地域で取組む認知症対策 国立病院機構京都医療センター 神経内科 脳神経疾患学術交流会 2014.10京都
国内学会	大谷良 ¹ 、川端康弘 ² 、後藤昌広 ¹ 、安田謙 ¹ 、齋ノ内信 ¹ 、村瀬永子 ¹ 、中村道三 ¹ 、塚原徹也 ²	脳梗塞超急性期に対して、rt-PA療法とステント型血栓回収機器による血管内治療(combination 治療)が奏功した一例 ～今後の脳梗塞超急性期治療を再考する～国立病院機構京都医療センター 神経内科 ¹ 、脳神経外科 ² 第48回 OSK 2014.12京都
国内学会	後藤昌広 ¹ 、大谷良 ¹ 、川端康弘 ² 、齋ノ内信 ¹ 、安田謙 ¹ 、村瀬永子 ¹ 、中村道三 ¹ 、塚原徹也 ²	放射線治療後の頸部血管狭窄に対して血管内治療を施行した2症例の検討 国立病院機構京都医療センター 神経内科 ¹ 、脳神経外科 ² 第40回 日本脳卒中学会総会(STROKE 2015) 2015.3広島
国内学会	中村道三、飯塚三枝子	認知症の診療に音楽を使う～ 基礎から実際まで～認知症学術講演会 2014.4.19京都
国内学会	飯塚三枝子、中村道三	認知症学術講演会 ～基本的な考え方から実践～ 認知症学術講演会 2014.4.19京都
国内学会	吉永健二、端祐一郎、村瀬永子、大谷良、中村道三	Pregabalinにより陰性ミオクローヌスを呈した2症例の臨床像と表面筋電図 日本神経学会総会 2014.5.21福岡
国内学会	端祐一郎、吉永健二、村瀬永子、大谷良、中村道三	脳虚血の血管再開通後のMRAにおける血管拡張像の有無の検討 日本神経学会総会 2014.5.21福岡
国際学会	Mieko Iizuka, Michikazu Nakamura	Flash Song Therapy: A Method of Active Music Therapy for Dementia World Congress of Music Therapy 2014.7.7 Krems/Austria
国内学会	飯塚三枝子、中村道三、塚原徹也	外来認知症患者に対する音楽療法 国立病院総合医学会 2014.11.14横浜
国内学会	中村道三、飯塚三枝子	認知症の診療に音楽を使う 日本看護技術学会学術集会 2014.11.22京都
国内学会	飯塚三枝子、中村道三	病院における音楽療法患者さんの心や身体が音楽を通して語りかける時間 日本看護技術学会学術集会 2014.11.22京都
国内学会	飯塚三枝子	前日音楽療法セミナー「病院における音楽療法」 日本音楽医療研究会学術集会 2015.1.10京都
国内学会	中村道三、飯塚三枝子、塚原徹也	音楽療法には副作用がないか? 日本音楽医療研究会学術集会 2015.1.10京都
国内学会	飯塚三枝子、中村道三、塚原徹也	音楽療法にタブレットPCを使う 日本音楽医療研究会学術集会 2015.1.10京都
国内学会	中村道三	シンポジウム・認知症に対する音楽・音楽療法「認知症患者に対する外来音楽療法 自由診療として」 日本音楽医療研究会学術集会 2015.1.10京都
国内学会	飯塚三枝子、中村道三、塚原徹也	認知症に対する外来音楽療法の5年間 院内成果発表会 2015.2.7京都
国内学会	飯塚三枝子、中村道三	認知症・音楽療法 TBS 朝チャン・サタデー 2015.2.7
国内学会	飯塚三枝子	シリーズ「認知症と言われて」～本人・家族が語る 日々の暮らし～<シリーズ1>「中西栄子さん母娘の葛藤」前編・後編 認知症フォーラム.comhttp://www.ninchisho-forum.com/md/kurashi/001/
国際学会	Murase N, Hashi Y, Yoshinaga K, Yasuda K, Ohtani R, Nakamura M	Dissociation between the ordered and spontaneous voluntary movement in corticobasal syndrome 30th International Congress of Clinical Neurophysiology (ICCN) of the IFCN 2014.5.20 Berlin, Germany

国際学会	Nagako Murase, Bülent Cengiz, John C. Rothwell	The role of somatosensory input in paired associative stimulation 30th International Congress of Clinical Neurophysiology (ICCN) of the IFCN 2014.5.20 Berlin, Germany
国内学会	村瀬永子、飯塚美枝子、仲山卓志、木山裕美、森静香	パーキンソン病について パーキンソン病勉強会 第一回 2014.5.31 京都
国内学会	村瀬永子	脳内ドーパミン系システムと 脳の可塑性:パーキンソン病を中心に ノウリアスト発表1周年記念講演会 2014.6.18 滋賀
国内学会	Nagako Murase, Bülent Cengiz, John C. Rothwell	連合性ペア刺激における体性感覚入力の役割 日本神経科学学会 2014.9.11 横浜
国内学会	村瀬永子	イブニングビデオセッション:軸索スフェロイドを伴う遺伝性びまん性白質脳症 日本パーキンソン病・運動障害疾患学会 2014.10.2 京都
国内学会	村瀬永子	磁気刺激と不随意運動 第44回日本臨床神経生理学会 2014.11.19 福岡
国内学会	Cif L, Hariz M, Blomstedt P, 平孝臣、星田徹、平林秀裕、村瀬永子、内山卓也、加藤天美	深部脳刺激法の最新線 第2回奈良ニューロモジュレーションセミナー 2014.11.21 奈良
国内学会	村瀬永子	電気生理検査 京都府技師会 2014.12.6 京都
国内学会	村瀬永子、平林秀裕、河原崎知、松橋真生、他	PARK2関連若年性パーキンソン病における淡蒼球内節のlocal field potential解析 第54回日本定位・機能神経外科学会 2015.1.16 東京
国内学会	村瀬永子	経頭蓋磁気刺激(TMS) 第8回 関西脳波・筋電図セミナー 2015.2.21 京都
国内学会	久保田有一、木村暢佑、中村道三、村瀬永子	救急症例の脳波を学ぶ会 京都医療センター神経内科勉強会 2015.2.27 京都
国内学会	安田謙、齋ノ内信、後藤昌弘、廣田圭昭、垣田真似子、村瀬永子、大谷良、青木友和、中村道三	多発脳神経障害、下垂体炎を合併したMPO-ANCA関連肥厚性硬膜炎の1例 第101回 神経学会近畿地方会 2014.12.23 兵庫
国内学会	安田謙、端祐一郎、吉永健二、村瀬永子、大谷良、中村道三	著明な多発神経肥厚を認め、CIDPが疑われた一例 第47回 OSK 2014.5.17 大阪
国内学会	安田謙、齋ノ内信、後藤昌弘、河原崎知、川端康弘、村瀬永子、大谷良、青木友和、中村道三、福田俊一、塚原徹也、赤尾昌治	伏見AFレジストリにおける脳卒中イベントの解析 ストップ! NO卒中プロジェクト 全国一斉エリア会議 2014.7.19 京都
国内学会	安田謙、齋ノ内信、後藤昌弘、河原崎知、川端康弘、村瀬永子、大谷良、青木友和、中村道三、福田俊一、塚原徹也、赤尾昌治	伏見AFレジストリにおける脳卒中イベントの解析 Kyoto Stroke Summit 2014.11.1 京都
国内学会	安田謙、齋ノ内信、後藤昌弘、河原崎知、川端康弘、村瀬永子、大谷良、青木友和、中村道三、福田俊一、塚原徹也、赤尾昌治	伏見AFレジストリにおける脳卒中発症イベントについて エリキュース講演会 In Fushimi 2014.12.12 京都
国内学会	安田謙	脳卒中と不整脈 ~心房細動による脳卒中を防ごう!~ 第12回 脳卒中市民講座 2015.1.10 京都
国内学会	齋ノ内信、村瀬永子、後藤昌弘、安田謙、大谷良、中村道三	進行性の大脳白質病変と石灰化を認めた1例 脳神経画像フォーラム 2014.8.2 京都
国内学会	齋ノ内信、村瀬永子、後藤昌弘、安田謙、大谷良、中村道三	歩行障害と四肢のしびれを来した1例 京都神経ケースカンファレンス 2014.11.6 京都
国内学会	齋ノ内信、村瀬永子、後藤昌弘、安田謙、大谷良、中村道三	HDLS(hereditary diffuse leukoencephalopathy with axonal spheroids: 軸索腫大を伴う遺伝性白質脳症) 電気生理学的所見の検討 日本神経学会第101回近畿地方会 2014.12.13 京都

□ 投稿論文など

著者・雑誌名	タイトル
Music Therapy Today Mieko Iizuka, Michikazu Nakamura	Flash Song Therapy: A Method of Active Music Therapy for Dementia
Brain Stimul. Nagako Murase, Bülent Cengiz, John C. Rothwell	Inter-individual Variation in the After-effect of Paired Associative Stimulation can be Predicted From Short-interval Intracortical Inhibition With the Threshold Tracking Method
難病と在宅ケア 中村道三	脊髄小脳変性症の検査・診断・治療
血栓と循環 vol.22 No.1 2014年5月 (メディカルレビュー社) 大谷良	特集 データブック 血栓症治療ガイドライン up-to-date 1. 脳 15. 認知障害と認知症に対する脳血管の寄与 米国心臓協会 (AHA) および米国脳卒中協会 (ASA) からの声明

呼吸器センター



診療科長
(呼吸器内科)
三尾 直士

専門医資格等
 日本がん治療認定医
 機構暫定教育医
 日本内科学会認定内
 科医、指導医
 日本医師会認定産業医
 アメリカ胸部疾患学会
 (ATS)
 アメリカ臨床腫瘍学会
 (ASCO)
 京都大学 医学博士
 京都大学 臨床教授
 専門分野
 呼吸器内科全般
 得意疾患
 肺癌・間質性肺炎



医長
(呼吸器外科)
澤井 聡

専門医資格等
 日本呼吸器外科学会/
 指導医・評議員
 呼吸器外科専門医
 気管支鏡指導医
 外科専門医
 滋賀医科大学医学博士
 専門分野
 呼吸器外科全般
 得意疾患
 肺癌・縦隔腫瘍

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	中谷 光一	日本内科学会 認定内科医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医	呼吸器内科全般	肺癌・睡眠時無呼吸症候群・呼吸器内科全般
医師	元石 充	外科専門医 呼吸器外科専門医 気管支鏡専門医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
医師	岡村 美里	日本内科学会 認定内科医	呼吸器内科全般	肺癌・呼吸器内科一般
医師	藤田 浩平	日本内科学会 認定内科医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医 日本感染症学会 感染症専門医 京都大学医学博士	呼吸器内科全般	呼吸器感染症・呼吸器内科全般
医師	金井 修	日本内科学会 認定内科医 日本エイズ学会 認定医 エイズ拠点病院 施設代表 京都市HIV感染症対策専門委員会 委員 日本がん治療認定医	呼吸器内科全般	HIV感染症・睡眠時無呼吸症候群・呼吸器内科一般
医師	岡本 圭伍	呼吸器外科専門医	呼吸器外科全般	肺癌・縦隔腫瘍
医師	賀来 良輔		呼吸器外科全般	肺癌・縦隔腫瘍

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器外科基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設
-------	--

呼吸器疾患は悪性腫瘍・感染症・気道系疾患・呼吸不全・びまん性肺疾患・生活習慣病・産業病など、他の臓器には見られないほど多岐にわたり、その多くは生命に直接関わる重要な領域です。

肺癌は癌死の中で最も多い罹患率が高く、治癒率の低いがんです。肺癌は難治ではありますが、分子標的剤などの新しい治療法の開発により予後が改善しつつあります。当院はがん拠点病院であり、最新のエビデンスやガイドラインに基づいた適切な治療を行なうよう努力しています。

悪性腫瘍の治療は外科治療・放射線治療・化学療法の本三本柱がありますが、さらに現在では緩和医療の重要性も叫ばれています。当院での肺癌診療は、呼吸器内科・外科はもとより放射線科、化学療法部、緩和ケア部と緊密な協力関係を保ちながら進めていますので、診断・治療から緩和ケアまで、患者さんに安心して治療を受けていただけます。また、肺癌については新たな治療への取り組みも重要ですが、京都胸部腫瘍研究グループ、関西臨床腫瘍研究会、西日本がん研究機構、日本・多国間臨床研究機構などの臨床研究に参加すると共に、当院独自の臨床研究も行っております。

気道系疾患である喘息、慢性閉塞性肺疾患は特に有病率が高い疾患ですが、終生にわたって治療を続けていく必要性があり、当科では診断・治療導入やリハビリテーションなどの専門病院でないとできない診療を中心に、患者さんの負担を出来るだけ少なくするように地域の医療機関と連携して診療を行なっています。

感染症、急性・慢性の呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、間質性肺疾患など重要な疾患が多数あります。それらの疾患をもつ患者さんに対しても常に最良の治療を提供できるように日々研鑽しながら診療に当たっています。

1. 呼吸器外科は、肺癌をはじめとする胸部の腫瘍(肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍)や気胸を代表とする嚢胞性肺疾患に対して主に胸腔鏡を用いた手術を行っております。
2. 膿胸などの炎症性疾患に対しても積極的な外科治療(局所麻酔下胸腔鏡を含む)を行っております。
3. 気道狭窄に対するステント留置やレーザー焼灼術などの気管支鏡下手術も行っております。
4. 漏斗胸に対する矯正術(Nuss法)も行います。

□ 主な対象疾患

肺癌 転移性肺腫瘍 縦隔腫瘍 中皮腫 胸腺腫 胸壁腫瘍 気胸 肺嚢胞症 気道狭窄 漏斗胸 膿胸
慢性閉塞性肺疾患 気管支喘息 慢性・急性呼吸不全、呼吸器感染症(肺炎・非結核性抗酸菌症・結核)
びまん性肺疾患(間質性肺炎、サルコイドーシス、好酸球性肺炎、膠原病に伴う間質性肺炎など)
睡眠時無呼吸症候群 HIV感染症

□ 診療(業務)内容

呼吸器内科の外来診察日は月曜から金曜まで毎日新患外来を含めて3外来を行なっています。

呼吸器外科の外来診察日は月、火、木、金曜日で、手術は水、金曜日に行っています。

睡眠時無呼吸症候群の専門外来は毎週水曜日です。完全紹介制としております。初めての方は紹介元の施設で予約を取得して頂きますよう、よろしくお願い致します。

気管支鏡検査、CTガイド下生検検査は原則として1泊の入院で行なっています。

それぞれ月・火・木と火・木曜日の午後に行っています。

□ 診療実績(平成26年度)

呼吸器内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
41.9名	1,129名	13.5日

呼吸器内科外来患者数

1日平均患者数
61.8名

呼吸器外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
8.5名	238名	12.5日

呼吸器外科外来患者数

1日平均患者数
11.3名

主な手術・検査の件数など

手術(全身麻酔)	肺癌手術(診断含)	気管支鏡検査	局所麻酔下胸腔鏡検査	CTガイド下肺生検
156件	80件	299件	7件	32件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
呼吸器内科	
国際学会	K Fujita, Y Ito, T. Hitai ,M Mishima. Prevalence and risk factors for chronic co-infection in pulmonary Mycobacterium avium complex disease: 2014 American Thoracic Society Annual meeting
国内学会	金井修、井上悠、竹松茂樹. 自立困難HIV陽性者に対するサポート体制について. 第28回日本エイズ学会学術集会
国内学会	金井修、井上悠、竹松茂樹. 当院におけるドルテグラビル使用例の分析第28回日本エイズ学会学術集会
国内学会	藤田浩平、伊藤穰、平井豊博、前川晃一、小熊毅、三嶋理晃、藤田浩平、伊藤穰、平井豊博、前川晃一、小熊毅、三嶋理晃. 日本呼吸器学会総会(2014年4月26日)
国内学会	藤田浩平、伊藤穰、平井豊博、前川晃一、小熊毅、三嶋理晃. Effect of persistent Mycobacterium avium complex infection on serum vitamin D status and its regulating factors. 日本感染症学会(2014年5月)
国内学会	藤田浩平、伊藤穰、平井豊博、前川晃一、小熊毅、三嶋理晃. 肺Mycobacterium avium complex症患者における病原微生物の重複感染とそのリスク要因. 日本感染症学会(2014年5月)
国内学会	山谷昂史、藤田浩平、三尾直士、et. al. 肺と肝臓に多発する小結節と末梢血好酸球の異常増多を認め、寄生虫感染が疑われた1例. 日本呼吸器学会近畿地方会(2014年12月13日)
国内学会	藤田浩平、三尾直士、et. al. 経気管支肺生検で早期に確定診断に至ったびまん性すりガラス陰影を伴った血管内悪性リンパ腫の1例. 日本呼吸器学会近畿地方会(2014年12月13日)
国内学会	富岡洋海、加持 雄介、藤田 浩平、伊藤 功朗、平井 豊博. 成人肺炎球菌性市中肺炎の多施設共同前向き 調査—2012 年分報告—呼吸器学会地方会
呼吸器外科	
国内学会	片岡瑛子、岡本圭伍、大塩麻友美、元石充、澤井聡、花岡淳. 肺癌術後異時性多発気管支内転移をきたした1例. 第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 2014年4月15日: 京都
国内学会	元石充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井聡. 肺癌手術時の気管内挿管後に発症した声門下狭窄の1例. 2014年4月15日: 京都
国内学会	岡本圭伍、片岡瑛子、元石充、澤井聡. 気管支鏡検査で診断し得た十二指腸乳頭部癌孤立性肺転移の1切除例. 2014年4月15日: 京都
国内学会	元石充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井聡. 術後約20年目に切除され確定診断を得た甲状腺癌孤立性肺転移の1例. 第31回日本呼吸器外科学会総会. 2014年5月29日: 東京
国内学会	片岡瑛子、岡本圭伍、元石充、花岡淳、澤井聡. 右下葉気管支切離時に気管支吸引チューブを同時に切離した1例. 第31回日本呼吸器外科学会総会. 2014年5月29日: 東京
国内学会	元石充、岡本圭伍、片岡瑛子、澤井聡. 孤立性小結節を呈した肺原発diffuse large B-cell lymphomaの1例. 第31回日本呼吸器外科学会総会. 2014年5月29日: 東京
国内学会	片岡瑛子、岡本圭伍、五十嵐知之、元石充、寺本晃治、花岡淳、澤井聡. 末梢型肺腺癌における胸膜浸潤の病理学的検討. 第31回日本呼吸器外科学会総会. 2014年5月29日: 東京
国内学会	岡本圭伍、片岡瑛子、元石充、澤井聡、葉山学. 細胞質性好中球細胞質抗体が腫瘍マーカーの様に推移した肺扁平上皮癌の1切除例. 第31回日本呼吸器外科学会総会. 2014年5月29日: 東京
国内学会	岡本圭伍、賀来良輔、元石充、澤井聡. 呼吸器外科手術における術後心筋トロポニンI測定の意義について. 第67回日本胸部外科学会定期学術集会. 2014.10.1: 福岡
国内学会	元石充、岡本圭伍、賀来良輔、澤井聡. 皮膚病変出現3年後に診断したThymoma-associated graft-versus-host-disease(GVHD)-like erythrodermaの1例. 第55回日本肺癌学会総会. 2014.11.14: 京都
国内学会	岡本圭伍、賀来良輔、元石充、澤井聡. 肺原発透明細胞腺癌の1切除例. 第55回日本肺癌学会総会. 2014.11.14: 京都
国内学会	片岡瑛子、岡本圭伍、大塩麻友美、元石充、花岡淳、澤井聡. 肺癌術後に乳腺転移をきたした1例. 第55回日本肺癌学会総会. 2014.11.14: 京都
国内学会	元石充、岡本圭伍、賀来良輔、澤井聡、三尾直士、岡村美里. 冠動脈CTを契機に発見された肺癌症例の検討. 第55回日本肺癌学会総会. 2014.11.16: 京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
呼吸器内科	
BMJ Open Respir Res.	Fujita K, Ito Y, Hirai T, Kubo T, Togashi K, Ichiyama S, Mishima M. Prevalence and risk factors for chronic co-infection in pulmonary Mycobacterium avium complex disease. 2014 Aug 28;1(1)
BMJ Case Rep.	Hayama M, Shime N, Mio T. Invasive pulmonary aspergillosis in a patient presenting with idiopathic systemic capillary leak syndrome. 2014 May 23;2014.
呼吸器外科	
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	Makoto Motoishi, Keigo Okamoto, Yoko Kataoka, Satoru Sawai, Mayumi Oshio, Jun Hanaoka. Low-Grade Osteosarcoma of the Lung Diagnosed at the Time of Recurrence. 20 (Supplement):595-598
気管支支	岡本圭伍、片岡瑛子、元石充、澤井聡、花岡淳. 胸腔鏡下に診断した肝細胞癌術後胸膜・肺転移再発の1例. 36(5): 525-529
日本臨床外科学会雑誌	片岡瑛子、元石充、澤井聡. 異時性両側肺転移を切除した胆管癌の1例. 75(11): 3002-3005
日本呼吸器外科学会雑誌	元石充、岡本圭伍、賀来良輔、澤井聡. 孤立性小結節を呈した肺原発diffuse large B-cell lymphomaの1例. 28(1): 85-90

消化器内科



診療科長
勝島 慎二

専門医資格等 日本消化器病学会消化器病専門医・指導医・同評議員
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医・同評議員
日本医学放射線学会放射線科診断専門医
日本肝臓学会肝臓専門医
日本内科学会認定内科医 同近畿支部評議員
日本がん治療認定医機構がん治療暫定教育医・認定医
日本消化器がん検診学会胃認定医
京都大学医学博士

専門分野 消化器内科一般

得意疾患 肝疾患
炎症性腸疾患

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長 副健診 センター長	島 伸子	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化器内科疾患 全般
医 長	水本 吉則	日本消化器病学会消化器病専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 ・指導医 同近畿支部評議員 日本内科学会総合内科専門医	消化器内科一般	消化管・胆・膵の 内視鏡検査・治 療全般、炎症性 腸疾患
医 長	米田 俊貴	日本消化器病学会消化器病専門医 日本肝臓学会肝臓専門医・指導医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 京都大学医学博士	消化器内科一般	肝疾患
医 師	笠原 勝宏	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医 日本プライマリ・ケア連合会プライマリ・ケア 認定医	消化器内科一般	消化管・内視鏡 検査・治療全般
医 師	岩本 諭	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本内科学会認定内科医 京都大学医学博士	消化器内科一般	消化管・内視鏡 検査・治療全般
医 師	江坂 直樹	日本消化器病学会消化器病専門医 日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	ESD、小腸内視鏡、 食道胃静脈瘤治 療、緩和医療、 PEG
医 師	遠藤 文司	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 同近畿支部評議員 日本肝臓学会肝臓専門医 日本内科学会認定内科医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本医師会認定産業医 ICD協議会認定インфекションコントロール ドクター 臨床研修指導医	消化器内科一般	胆道・膵疾患検査・ 治療全般、EUS、 EUS-FNA

医師	太田 義之	日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化管疾患
レジデント	熊谷 健	日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化管疾患
専修医	下釜 翼	日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化管疾患
専修医	中野 重治		消化器内科一般	消化管疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設
-------	--

1. 三次救急病院の消化器内科として、緊急内視鏡検査(ERCP含む)治療・PTCDなどに24時間対応
2. 地域がん診療連携拠点病院の消化器内科として消化器癌全般の診断と早期癌の内視鏡的あるいは経皮的治療に全て対応
3. 地域医療支援病院の消化器内科として紹介による内視鏡検査の実施、PEG/PTEGの造設・管理に対応
4. 炎症性腸疾患の専門診療を実施
5. 多数の慢性肝疾患症例を専門的に診療
6. 逆流性食道炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、神経内分泌腫瘍に対する治験Phase II・IIIを実施

□ 主な対象疾患

消化器癌全般(食道、胃、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢、胆管系)

炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)

急性および慢性肝疾患(ウイルス性、自己免疫性)

肝硬変

ヘリコバクター感染症関連疾患(消化性潰瘍、MALT)

□ 診療(業務)内容

消化器内科一般外来および肝臓専門外来

上部消化管、下部消化管内視鏡検査および治療

ERCPおよびERCP関連治療

PTCおよびPTC関連治療

EUSおよびEUS-FNA、Interventional EUS

消化管・胆膵系ステント留置

小腸内視鏡(カプセルおよびバルーン内視鏡)

炎症性腸疾患に対する免疫療法(免疫抑制剤、生物学的製剤)

ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法(内服薬、インターフェロン)

肝臓に対する経皮的治療

セカンドオピニオン外来

内視鏡技師の育成

治験Phase II およびIII

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	54.4	1,341	14.7

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	129.5

主な手術・検査の件数など

	上部消化管内視鏡検査	下部消化管内視鏡検査	ERCP	食道・胃ESD	大腸ESD	肝臓ラジオ波焼灼術
2014年度	6,235件	2,762件	547件	106件	56件	86件

□ 地域医療連携・広報活動

<開催研究会等>

- ・第6回深草消化器医療連携の会 2014/5/31京都
- ・第17回伏見栄養療法・胃腸研究会 2014/8/30伏見医師会館

<講演・パネリストなど>

演者	演題	講演会名
水本吉則	Interventional EUS	第6回深草消化器医療連携の会2014/5/31京都
遠藤文司	IgG4関連疾患の1例	第6回深草消化器医療連携の会2014/5/31京都
江坂直樹	Barrett食道癌の1例	第6回深草消化器医療連携の会2014/5/31京都
勝島慎二	新しいABC検診の考え方	第6回深草消化器医療連携の会2014/5/31京都
遠藤文司	便検体の採取	平成26年度第1回院内感染対策講習会 2014/6/17.7/10京都医療センター
遠藤文司	当院における胆膵疾患診療の現状	京阪奈胆膵フォーラム2014/6/27京都
前川高天	より良いヘリコバクター・ピロリ除菌療法を求めて	第223回与謝医師会学術研修会 2014/7/17宮津市
水本吉則	消化管ステントの過去・現在・未来	第121回総合画像診断症例検討会 2014/8/2京都
米田俊貴	HBV再活性化肝炎の対策について	宇治久世医師会生涯教育講演会 2014/10/18京都
勝島慎二	肝硬変の栄養学	宇治久世医師会生涯教育講演会 2014/10/18京都
勝島慎二	遺伝性大腸癌の二類型—自験例の紹介—	第12回京都医療センターCANCER BOARD がん診療セミナー第2回グランドセミナー 2014/11/27京都医療センター
水本吉則	私の特許取得から商品発売までの経緯 (臨床結果を含めて)	京都消化器医のつどい2014/12/13京都
水本吉則	大腸癌における新しい治療オプション～ステント治療を含めて～	京都GIクラブ第34回勉強会2015/1/31京都
米田俊貴	C型肝炎ほとんど治る時代を前に残された問題は	八幡市肝炎勉強会2015/1/31八幡市
水本吉則	各種治療の不耐例に対する対応策	UC Forum in Kyoto2015/3/5京都
米田俊貴	当院での2剤併用療法の使用感	京都南部エリア肝炎セミナー 2015/3/6京都

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者	演題	学会名
国際学会	Toshiki Komeda	Electronic notifying system improved the coverage of HBV-related serum markers in the prevention of HBV reactivation hepatitis	American Association for the Study of Liver Diseases THE LIVER MEETING 2014/11/7 Boston,USA
国内学会	遠藤文司、水本吉則、勝島慎二、下釜翼、江坂直樹、太田義之、岩本諭、米田俊貴、島伸子、前川高天	当院で施行した急性胆嚢炎に対する経乳頭的胆嚢ドレナージについての検討	第100回日本消化器病学会総会 2014/4/24東京
国内学会	古林麻美、清輔良江、熊谷健、日野真太郎、吉田司、久保敦司、石田悦嗣、松枝和宏、山本博	当院における膵疾患に対するEUS-FNAの現状	第100回日本消化器病学会総会 2014/4/24東京
国内学会	水本吉則	胆管ロングカバーの開発経緯と今後の期待	第87回日本消化器内視鏡学会総会 サテライトシンポジウム2014/5/15 福岡
国内学会	杉浦香織、下立雄一、毛利裕一、木口賢之、武澤梨央、日野真太郎、古林麻美、山崎辰洋、熊谷健、三谷洋介、辻川尊之、尾崎直子、濱口京子、土井頭、西村直之、藤田英行、松枝和宏、山本博	超高齢者早期胃癌に対するESDの短期及び長期成績に関する検討	第87回日本消化器内視鏡学会総会 2014/5/16福岡
国内学会	遠藤文司、水本吉則、勝島慎二、下釜翼、江坂直樹、太田義之、岩本諭、島伸子、前川高天	十二指腸ステント留置後の急性膵炎に対して超音波内視鏡ガイド下尿管ドレナージが奏効した一例	第87回日本消化器内視鏡学会総会 2014/5/15福岡
国内学会	楠本聖典、濱田暁彦、水本吉則	上部消化管内視鏡検査におけるプロポフォル鎮静からの経時的覚醒度と安全性の評価	第87回日本消化器内視鏡学会総会 2014/5/16福岡
国内学会	米田俊貴、岩本諭、遠藤文司、勝島慎二、前川高天	電子カルテ二次利用による、HBV再活性化を予防するための関連情報の一元管理	第50回日本肝臓学会総会2014/5/29 東京
国内学会	井本勉、金守良、田中靖人、矢野嘉彦、米田俊貴、勝島慎二、堀江裕、鄭浩柄、國立裕之、廣畑成也、尹聖哲、榎本大、二宮俊明	C型肝炎におけるIL28B遺伝子近傍のrs8099917の多型性と血清IFN-λ1値の関連性の検討	第50回日本肝臓学会総会2014/5/30 東京
国内学会	西澤俊宏、前川高天、渡邊典子、原田直彦、細田泰雄、良永雅弘、由雄敏之、太田肇、井上修志、豊川達也、山下晴弘、齊藤裕樹、桑井寿雄、片山俊介、増田栄治、宮林秀晴、木村宗士、西澤優子、鈴木雅之、高橋正彦、鈴木秀和	H.pylori一次除菌におけるメトロニダゾールの有用性の検討	第20回日本ヘリコバクター学会学術集会2014/6/28-29東京
国内学会	遠藤文司	胆管ステントのさらなる機能向上を目指して～逆流防止機構付胆管ステントの開発経緯と今後への期待～	第50回日本胆道学会学術集会ランチョンセミナー2014/9/27東京
国内学会	勝島慎二、前川高天、島伸子、中野重治、下釜翼、太田義之、江坂直樹、遠藤文司、岩本諭、笠原勝宏、水本吉則、西村俊一郎	より効率的な胃がんリスク評価	第88回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW2014) 2014/10/25神戸
国内学会	楠本聖典、水本吉則、濱田暁彦	大腸内視鏡検査の苦痛度評価と通常光観察VS色素内視鏡観察の右側結腸のpolyp発見率における前向き検討	第88回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW2014) 2014/10/26神戸
国内学会	池田亜希、岩本諭、渡部則彦	自己免疫性肝炎(AIH)の劇症化における抗TNFα抗体治療の可能性:マウスモデルでの解析から	第18回日本肝臓学会大会 (JDDW2014) 2014/10/23神戸
国内学会	長崎沙耶香、北野由美、坂井洋子、笹原道子、松岡律子、田口いつみ、杉本那央子、大森富美子、勝島慎二、前川高天、水本吉則、島伸子、米田俊貴、岩本諭、江坂直樹、遠藤文司、太田義之、下釜翼、坂根直樹	上部消化管内視鏡検査(EGD)における前処置法(ジメチコン水)の検討	第73回日本消化器内視鏡技師学会 2014/10/24-25大阪
国内学会	笠原勝宏、水本吉則、勝島慎二、中野重治、下釜翼、熊谷健、江坂直樹、太田義之、見島裕之、岩本諭、遠藤文司、米田俊貴、島伸子、前川高天、坂井洋子、島津章	膵悪性充実性腫瘍の診断におけるEUS-FNA検体によるK-ras遺伝子変異検査の意義	第68回国立病院総合医学会 2014/11/15横浜
国内学会	中野重治、勝島慎二、下釜翼、熊谷健、太田義之、江坂直樹、遠藤文司、笠原勝宏、米田俊貴、島伸子、水本吉則	肝生検にて診断し得た肝血管肉腫の1例	日本消化器病学会近畿支部第102回例会2015/2/21京都
国内学会	下釜翼、遠藤文司、水本吉則、中野重治、熊谷健、太田義之、江坂直樹、岩本諭、笠原勝宏、米田俊貴、島伸子、前川高天、勝島慎二	EUS-FNAが診断に有用であった肝門部結核性リンパ節炎の1例	日本消化器病学会近畿支部第102回例会2015/2/21京都
国内学会	濱田聖子、遠藤文司、中野重治、下釜翼、熊谷健、江坂直樹、太田義之、岩本諭、笠原勝宏、米田俊貴、水本吉則、島伸子、勝島慎二	自己免疫性内分泌腺症候群(Autoimmune polyglandular syndrome:APS)の経過中にUnclassified colitisを発症した1例	日本消化器病学会近畿支部第102回例会2015/2/21京都
国内学会	笠原勝宏、中野重治、下釜翼、熊谷健、太田義之、江坂直樹、遠藤文司、岩本諭、米田俊貴、水本吉則、島伸子、前川高天、勝島慎二	肝好酸性肉芽腫症の2例	日本消化器病学会近畿支部第102回例会2015/2/21京都
研究会	米田俊貴	高齢者におけるSMV3剤併用療法	HCVクリカカソアレス2014/4/19 大阪

研究会	中野重治、勝島慎二、下釜翼、熊谷健、太田義之、江坂直樹、遠藤文司、岩本諭、笠原勝宏、水本吉則	肝生検にて診断し得た肝血管肉腫の1例	第36回京大 消化器症例検討会 2014/6/7神戸
研究会	中野重治	症例検討	第121回総合画像診断症例検討会 2014/8/2京都
研究会	熊谷健	症例検討	第121回総合画像診断症例検討会 2014/8/2京都
研究会	下釜翼	症例検討	第121回総合画像診断症例検討会 2014/8/2京都
研究会	勝島慎二	症例検討	第122回総合画像診断症例検討会 2014/10/4京都
研究会	熊谷健、遠藤文司、中野重治、下釜翼、太田義之、江坂直樹、岩本諭、笠原勝宏、米田俊貴、水本吉則、島仲子、前川高天、勝島慎二	腎癌手術7年目で再発した転移性胃腫瘍の1例	第37回京大 消化器症例検討会 2014/12/6高松
研究会	遠藤文司	Roux-en-Y再建後腸管に対する胆膵管挿管の工夫	第6回京滋ERCPテクニク交流会 2015/3/7大津
班研究報告	米田俊貴	高齢者に対するSMV併用療法	平成26年度第1回国立病院機構共同臨床研究第1回厚生労働科学研究費補助金合同班会議 2014/7/11大村
班研究報告	米田俊貴	免疫抑制療法に際するHBVキャリアの掘り起しとDNA変動症例の発生について	平成26年度第2回国立病院機構共同臨床研究第2回厚生労働科学研究費補助金合同班会議 2015/2/6大村

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
消化器と免疫 2014;50:9-12.	渡部則彦、丸岡隆太郎、青木信裕、木戸政博、池田亜希、岩本諭、西浦尚代、千葉勉.肝胆道疾患と免疫 慢性から劇症まで多様な病態を呈する自己免疫性肝炎モデルを用いたAIH病態形成機構の解明.
肝臓 2014;55: 335-348.	勝島慎二、中村武史、角田圭雄、田中齊祐、小畑達郎、鍋島紀滋、岡野明浩、山東剛裕、川崎俊彦、藤村和代、長尾泰孝、新井正弘、辻和宏.70歳以上の高齢者C型肝炎における瀉血療法とインターフェロンベータ治療の比較検討:肝発癌と生存成績,多施設共同.
Gastroenterological Endoscopy 2014;56:3607-3616.	楠本聖典、濱田暁彦、勝島慎二、水本吉則、上古直人.上部消化管内視鏡検査におけるプロポフォール鎮静からの経時的覚醒度と安全性の前向き評価検討.
Hepatology 2014;60:224-236.	Aki Ikeda,Nobuhiro Aoki,Masahiro Kido,Satoru Iwamoto,Hisayo Nishiura,Ryutarō Maruoka,Tsutomu Chiba, Norihiro Watanabe.Progression of autoimmune hepatitis is mediated by IL-18-producing dendritic cells and hepatic CXCL9 expression in mice.
INTENSIVIST 2014;6: 459-469.	遠藤文司、志馬伸朗.【Severe Sepsis&Septic Shock】感染源コントロール 最適なタイミングで低侵襲かつ最大限の効果を目指す.
日本消化器病学会雑誌 2014;111:915-923.	楠本聖典、水本吉則、濱田暁彦.計画的マーキングクリップとダイナミックCT検査を併用し出血部位が同定可能となった大腸憩室出血の2症例.
Digestive Endoscopy 2014;26:192-199	Iruu Maetani,Yoshinori Mizumoto,Hiroaki Shigoka,Shigefumi Omuta,Michihiro Saito,Junya Tokuhisa and Toshio Morizane. Placement of a triple-layered covered versus uncovered metallic stent for palliation of malignant gastric outlet obstruction:A multicenter randomized trial

循環器内科



部長
診療科長
赤尾 昌治

専門医資格等 日本循環器学会認定循環器専門医、近畿支部評議員
日本内科学会認定内科医、指導医、近畿支部評議員
日本心電学会評議員
京都大学臨床教授
京都大学非常勤講師

専門分野 心房細動、不整脈、臨床疫学、医学教育

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長 カテ室チーフ 医療安全管理副部長	阿部 充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医・指導医 日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医	心臓カテーテル検査・治療、造影剤腎症、医学統計	
医 長 CCUチーフ	益永 信豊	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会認定医	冠動脈カテーテル治療、末梢動脈カテーテル治療、大動脈ステントグラフト治療	
医 師 不整脈チーフ	小川 尚	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	不整脈、電気生理、カテーテルアブレーション治療、デバイス治療	
医 師	井口 守丈	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	心不全、循環器領域の画像診断	
医 師	石井 充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	狭心症・心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症などのインターベンション、循環器全般	
医 師	鷓木 崇	日本内科学会認定内科医	心臓救急、心肺停止蘇生、低体温療法、虚血性心疾患	
医 師	濱谷 康宏	日本内科学会認定内科医	循環器一般	
医 師	山下 侑吾	日本内科学会認定内科医	虚血性心疾患・不整脈・心不全・肺循環疾患・救急一般	
医 師	高木 大輔		循環器一般	
展開医療研究部部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医 (FAHA) アメリカ心臓病学会専門医 (FACC) 日本禁煙科学会認定 禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究	
展開医療研究部室長	和田 啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学	
医 長	中島 康代	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 総合内科専門医・指導医	循環器一般、心臓リハビリテーション	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設
-------	---

診療科モットー:「地域、世界、そして将来に貢献する循環器内科」

1. 「地域」: 命を守る責任感をもって、信頼される地域医療を提供すること
2. 「世界」: より良い医療を探求する情熱を持ち、世界に向けて情報発信すること
3. 「将来」: 指導者として人を教え育て、学習者として人から学び成長すること

「地域」は診療、「世界」は研究、「将来」は教育をあらわしています。診療・研究・教育の3本柱は、それぞれが互いを刺激して高めあう関係にあります。この3本柱がバランス良くしかも高いレベルで達成されていること、これが我々の診療科の目指す姿であり、また課せられた使命であると考えています。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)
不整脈
心不全、心原性ショック
心筋症、心筋炎
心臓弁膜症
感染性心内膜炎

心膜疾患、心タンポナーデ
高血圧
大動脈瘤、大動脈解離
閉塞性動脈硬化症
静脈血栓症
肺塞栓症

□ 診療(業務)内容

心臓、血管系の疾病全般を扱っています。専門性に偏ることなく、バランスの取れた診療を行っていくよう、常に心がけています。冠動脈疾患に対するカテーテル検査・治療が当科診療の中心です。知識も技術もともに“世界に通用する心臓カテーテル検査と治療”を提供するべくスタッフ全員で日夜頑張っております。これに加えて、2009年から下肢閉塞性動脈硬化症のカテーテル治療(PTA)を、また2010年から心房粗動・発作性上室性頻拍のカテーテルアブレーションを開始しました。2011年1月の新病棟落成にあわせて、CCU、心臓リハビリテーションが開始となり、さらに4月からは256列冠動脈CTが導入され、6月からは心臓外科の開設によって開心術が開始されました。開心術の開始により、重症不整脈患者を対象とした植込型除細動器(ICD)、重症心不全患者を対象とした心臓再同期療法(両心室ペースメーカー)の実施施設基準を取得し、治療を開始しています。2014年9月8日には、心臓カテーテル検査室が移転、新装オープンし、「心血管治療センター」として稼働を開始しました。最新鋭のレントゲン透視装置で鮮明な画像が得られるため、より正確な診断と、より確実な治療が行えます。放射線の被ばく量も減少させることができます。より安全確実に、そして清潔で快適な環境で、患者さんに検査や治療を受けて頂けるよう、そしてさらにレベルの高い医療を提供して地域に貢献できるよう、スタッフ一同精進してまいります。さらに高度先進医療を積極的に推進し、心臓・血管系の疾病でお困りの皆さんに少しでもお役に立ちたいと願っています。今後とも何卒ご指導とご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。また、当科ではつねに多くの臨床研究や、新しい薬剤や医療機器の治験をおこなっており、より有効性・安全性の高い医療を求めて積極的に研究活動を行っています。とくに、当科が中心となって行っております「伏見心房細動患者登録研究(伏見AFレジストリ)」は、日本の実臨床の現場における心房細動患者の実態を反映するデータとして、全国の注目を集めております。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
27.8名	1,128名	8.9日

外来患者数

1日平均患者数
69.1名

主な手術・検査の件数など

冠動脈カテーテル治療	冠動脈カテーテル検査	下肢動脈カテーテル治療	カテーテルアブレーション
313件	712件	35件	10件

ペースメーカー植込
45件

□ 地域医療連携・広報活動

第7回伏見心血管病勉強会「心不全チーム医療」平成26年10月9日

第2回伏見AFネットワークミーティング 平成27年3月21日

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

学会名	演題	演者
日本神経学会東海北陸地方会ランチョンセミナー 平成26年7月5日(土)、名古屋市	特別講演「抗凝固薬のunderuseとunderdose～伏見AFレジストリからの考察」	赤尾 昌治
日本動脈硬化学会シンポジウム「血栓症(抗血栓薬の使い方)」 平成26年7月10日(木)、東京	シンポジウム講演「心房細動患者に対する抗凝固療法の実態:伏見AFレジストリから」	赤尾 昌治
第117回日本循環器学会近畿地方会 平成26年7月12日(土)	Lower common pathwayを伴ったleft variant type AVNRTに対しカテーテルアブレーションを行った一例 1)国立病院機構京都医療センター 循環器内科 2)京都大学医学部附属病院 循環器内科 3)国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター 展開医療研究部	小川 尚1)、高橋 昌宏1)、後藤 貢士2)、高木 大輔1)、濱谷 康弘1)、山下 侑吾1)、高林 健介1)、鶴木 崇1)、石井 充1)、井口 守丈1)、益永 信豊1)、中島 康代1)、和田 啓道3)、長谷川 浩二3)、阿部 充1)、赤尾 昌治1)
第117回日本循環器学会近畿地方会 平成26年7月12日(土)	甲状腺クリーゼに対して短時間作用型β遮断薬が有効であった一例 国立病院機構京都医療センター循環器内科1) 同臨床研究センター展開医療研究部2)	山下 侑吾1)、井口 守丈1)、高木 大輔1)、濱谷 康弘1)、高林 健介1)、鶴木 崇1)、石井 充1)、小川 尚1)、益永 信豊1)、中島 康代1)、和田 啓道2)、長谷川 浩二2)、阿部 充1)、赤尾 昌治1)
第117回日本循環器学会近畿地方会 平成26年7月12日(土)	全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群に合併した冠動脈疾患の一例 1)国立病院機構 京都医療センター 循環器内科 2)同臨床研究センター	濱谷 康弘1)、小川 尚1)、阿部 充1)、鶴木 崇1)、高木 大輔1)、山下 侑吾1)、石井 充1)、井口 守丈1)、益永 信豊1)、中島 康代1)、和田 啓道2)、長谷川 浩二2)、赤尾 昌治1)
第117回日本循環器学会近畿地方会 平成26年7月12日(土)	低左心機能による心原性脳梗塞を来したと考えられる拡張型心筋症の一例 1)国立病院機構京都医療センター 循環器内科 2)同 神経内科 3)同 臨床研究センター 展開医療研究部	高木 大輔1)、小川 尚1)、中村 道三2)、濱谷 康弘1)、山下 侑吾1)、高林 健介1)、鶴木 崇1)、石井 充1)、井口 守丈1)、益永 信豊1)、中島 康代1)、和田 啓道3)、長谷川 浩二3)、阿部 充1)、赤尾 昌治1)
日本循環器病予防学会ランチョンセミナー 平成26年7月20日(日)、京都市	特別講演「心房細動治療におけるβ遮断薬使用の現状～伏見AFレジストリからの考察」	赤尾 昌治
日本心電学会・不整脈学会合同学術集会 平成26年7月23日(水)、東京	Anti-arrhythmic drugs did not reduce progression from paroxysmal to sustained atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry.	Hisashi Ogawa, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Stroke or systemic embolism in atrial fibrillation with renal insufficiency: from the Fushimi AF registry	Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao.

European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Baseline Characteristics and Clinical Outcomes of patients with Atrial Fibrillation undergoing Catheter Ablation: From the Fushimi AF Registry.	Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Tetsuo Hashimoto, Mitsuru Abe, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	The relationship between left atrial enlargement and incidence of stroke in patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF registry.	Yasuhiro Hamatani, Daisuke Takagi, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	The relationship between left atrial enlargement and incidence of heart failure in patients with non-valvular atrial fibrillation: From the Fushimi AF registry.	Yasuhiro Hamatani, Kensuke Takabayashi, Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Diabetes mellitus may not be a risk of stroke in Japanese patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry.	Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	The clinical characteristics and the risk of bleeding in atrial fibrillation patients receiving anti-platelet drugs: One-year follow-up of the Fushimi AF Registry.	Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Kensuke Takabayashi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	One-year outcomes of Japanese atrial fibrillation patients with vascular disease: From the Fushimi AF Registry.	Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Anti-arrhythmic drugs did not reduce progression from paroxysmal to sustained atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Yugo Yamashita, Takashi Unoki, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Female gender may not be a risk of stroke in Japanese patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Kensuke Takabayashi, Takashi Unoki, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Incidence of hospitalization for heart failure in atrial fibrillation patients with anemia: One-year follow-up of the Fushimi AF Registry.	Kensuke Takabayashi, Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Takashi Unoki, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Incidence of hospitalization for heart failure in patients with paroxysmal and sustained type of atrial fibrillation: One-year follow-up of the Fushimi AF Registry.	Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Clinical characteristics of young atrial fibrillation patients: From one-year follow-up of the Fushimi AF Registry.	Daisuke Takagi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Kensuke Takabayashi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Clinical characteristics and one-year outcomes of atrial fibrillation patients under rate- or rhythm-control strategy: From the Fushimi AF Registry	Takashi Unoki, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Clinical characteristics and one-year outcomes of atrial fibrillation patients with versus without a previous stroke: From one-year follow-up of the Fushimi AF Registry.	Yugo Yamashita, Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Kensuke Takabayashi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain. 2014.8.30-9.3.	Stroke and bleeding in super-elderly patients with atrial fibrillation: From one-year follow-up of the Fushimi AF Registry.	Yugo Yamashita, Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Kensuke Takabayashi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第205回日本内科学会近畿地方会 平成26年9月20日(土)	心房粗動に対するカテーテルアブレーション施行後に心嚢水貯留を来たステロイド投与が有効だった一例 国立病院機構京都医療センター循環器内科1) 同呼吸器科2) 京都大学医学部付属病院循環器内科3)	沈 載紀1)、小川 尚1)、益永 信豊1)、金井 修2)、濱谷 康弘1)、山下 侑吾1)、井口 守丈1)、後藤 貢士3)、阿部 充1)、赤尾 昌治1)
第205回日本内科学会近畿地方会 平成26年9月20日(土)	失神をきたした冠攣縮性狭心症の一例 国立病院機構京都医療センター循環器内科1) 同臨床研究センター展開医療研究部2)	廣嶋 佳歩1)、阿部 充1)、山下 侑吾1)、小川 尚1)、高木 大輔1)、鶴木 崇1)、石井 充1)、益永 信豊1)、長谷川 浩二2)、赤尾 昌治1)

第205回日本内科学会近畿地方会 平成26年9月20日(土)	薬剤性QT延長症候群からtorsades de pointesを来した高齢女性の一例 国立病院機構京都医療センター循環器内科1) 同臨床研究センター展開医療研究部2)	柴田 康弘1)、小川 尚1)、井口 守丈1)、高木 大輔1)、濱谷 康弘1)、石井 充1)、中島 康代1)、和田 啓道2)、阿部 充1)、赤尾 昌治1)
American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA. 2014.11.	Female gender is not a risk of various adverse events in Japanese patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Yasuhiro Hamatani, Takashi Unoki, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA. 2014.11.	Digitalis is not associated with increased mortality in Japanese patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Daisuke Takagi, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA. 2014.11.	Validation of a risk score for hospitalization for heart failure in atrial fibrillation patients: From the Fushimi AF registry	Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA. 2014.11.	Low body weight is significantly associated with the incidence of stroke in atrial fibrillation patients. Insight from the Fushimi AF Registry.	Yasuhiro Hamatani, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Yugo Yamashita, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA. 2014.11.	Incidence of stroke or systemic embolism in paroxysmal versus sustained atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Kensuke Takabayashi, Yasuhiro Hamatani, Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
第118回日本循環器学会近畿地方会 平成26年11月29日(土)	当院に於ける静脈血栓症に対する下大静脈フィルターの使用実態調査 国立病院機構京都医療センター循環器内科1) 同臨床研究センター展開医療研究部2)	山下 侑吾1)、鶴木 崇1)、高木 大輔1)、濱谷 康弘1)、石井 充1)、井口 守丈1)、小川 尚1)、益永 信豊1)、中島 康代1)、和田 啓道2)、長谷川 浩二2)、阿部 充1)、赤尾 昌治1)
第118回日本循環器学会近畿地方会 平成26年11月29日(土)	巨大左房内血栓を認めた心房細動合併透析患者の一例 国立病院機構 京都医療センター循環器内科1) 同 血管外科2) 同 心臓外科3)	小川 尚1)、山下 侑吾1)、吉良 浩勝2)、片岡 剛3)、白神 幸太郎3)、浅田 秀典2)、高木 大輔1)、濱谷 康弘1)、鶴木 崇1)、石井 充1)、井口 守丈1)、益永 信豊1)、中島 康代1)、和田 啓道4)、長谷川 浩二4)、阿部 充1)、赤尾 昌治1)
第118回日本循環器学会近畿地方会 平成26年11月29日(土)	心窩部痛とST上昇を呈しカペシタピン関連心筋障害を疑った結腸癌の一例 1)国立病院機構京都医療センター循環器内科 2)同臨床研究センター展開医療研究部	高木 大輔1)、石井 充1)、小川 尚1)、濱谷 康弘1)、山下 侑吾1)、鶴木 崇1)、井口 守丈1)、益永 信豊1)、中島 康代1)、和田 啓道 2)、長谷川 浩二 2)、阿部 充1)、赤尾 昌治1)
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Antithrombotic Therapies and Clinical Outcomes of Patients with Atrial Fibrillation and History of Coronary Intervention: From the Fushimi AF Registry (シンポジウム講演)	Mitsuru Abe, Takashi Unoki, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Exploration of predictors for stroke and systemic embolism in Japanese patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Masaharu Akao, Satoshi Morita, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Relationship between Creatinine Clearance and Clinical Outcomes in Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Clinical Characteristics and Mid-term Outcome of Atrial Fibrillation Patients under Rate- or Rhythm-control Strategy: From the Fushimi AF Registry.	Masahiro Esato, Takashi Unoki, Yeong-Hwa Chun, Tetsuo Hashimoto, Mitsuru Abe, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Impact of overweight on the incidence of stroke or systemic embolism in Japanese atrial fibrillation patients: The Fushimi AF Registry.	Yasuhiro Hamatani, Daisuke Takagi, Yugo Yamashita, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Incidence and predictors of ischemic stroke during hospitalization for heart failure: A single-center retrospective analysis.	Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Michikazu Nakamura, Yugo Yamashita, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Predictors for stroke and death in non-anticoagulated Japanese patients with atrial fibrillation: from the Fushimi AF Registry.	Yasuhiro Hamatani, Daisuke Takagi, Yugo Yamashita, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Gregory Y.H. Lip, Masaharu Akao.

第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Validation of a risk score for hospitalization for heart failure in atrial fibrillation patients: From the Fushimi AF registry.	Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	The impact of systolic heart failure on the outcome in atrial fibrillation patients: From the Fushimi AF registry.	Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Hypertension is not a risk of stroke in Japanese patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry.	Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Current status of pre-operative cardiovascular evaluation and perioperative complications in patients undergoing non-cardiac surgery.	Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Daisuke Takagi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Bleeding Risk in Atrial Fibrillation Patients Receiving Concomitant Use of Oral Anticoagulant and Anti-platelet Drug: The Fushimi AF Registry.	Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Clinical outcomes of Japanese atrial fibrillation patients with concomitant vascular disease: From the Fushimi AF Registry.	Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Abe, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Digitalis is Not Associated with Increased Mortality in Japanese Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry.	Hisashi Ogawa, Daisuke Takagi, Takashi Unoki, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Progression from Paroxysmal to Sustained Atrial Fibrillation is Associated with Increased Adverse Events: From the Fushimi AF Registry.	Hisashi Ogawa, Yuugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Impacts of electrocardiographic findings on mortality in patients with atrial fibrillation: Insights from the Fushimi AF Registry.	Hiroaki Sugiyama, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Prognostic significance of fine fibrillatory wave on surface electrocardiogram: The Fushimi AF Registry.	Hiroaki Sugiyama, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Lower risk of stroke in patients with paroxysmal type of atrial fibrillation compared with sustained type: The Fushimi AF Registry.	Kensuke Takabayashi, Yasuhiro Hamatani, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Incidence of stroke or systemic embolism in young patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Yugo Yamashita, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Greater cardio-thoracic ratio as a risk of stroke or systemic embolism in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF registry.	Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Yugo Yamashita, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Comparison between the Quantitative and Qualitative Assay of Troponin for the Long-term Clinical Outcomes in Patients with Suspected Acute Coronary Syndrome.	Daisuke Takagi, Takashi Unoki, Hamatani Yasuhiro, Yugo Yamashita, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Year-to-year change in oral anticoagulant therapies of patients with atrial fibrillation in the real-world: The Fushimi AF Registry.	Yugo Yamashita, Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会総会、大阪 2015.4.24-26	Clinical characteristics and outcomes of atrial fibrillation patients with versus without a previous stroke: From the Fushimi AF Registry.	Yugo Yamashita, Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会ランチョンセミナー16 平成27年4月24日(金)、大阪	講演「クレアチニンクリアランスからNOAC適正使用を考える」	赤尾 昌治
第79回日本循環器病学会学術集会ランチョンセミナー54 平成27年4月26日(日)、大阪	講演「NOAC前夜、そして登場後の抗凝固療法～伏見AFレジストリからの考察」	赤尾 昌治

□ 投稿論文など

タイトル・著書・雑誌名	著者
Inappropriate use of oral anticoagulants for patients with atrial fibrillation: One-year outcomes of the Fushimi AF Registry.Circ J. 2014; 78: 2166-72.	Akao M, Chun YH, Esato M, Abe M, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, on behalf of the Fushimi AF Registry Investigators.
Atrial fibrillation and coronary artery disease: Resembling twins?J. Cardiol. 2014; 63: 169-170.	Akao M.
Relation of Contrast-Induced Nephropathy to Long-Term Mortality After Percutaneous Coronary Intervention Am J Cardiol. 2014;114(3):362-8.	Abe M, Morimoto T, Akao M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Shizuta S, Ehara N, Taniguchi R, Doi T, Nishiyama K, Ozasa N, Saito N, Hoshino K, Mitsuoka H, Toma M, Tamura T, Haruna Y, Kita T, Kimura T.
A case of delayed complete atrioventricular block and cardiac arrest after percutaneous coronary intervention of left anterior descending coronary artery.Cardiovasc Interv Ther. 2014; 29: 270-4.	Yasuhiro Hamatani, Takashi Unoki, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
Incidence and Outcome of Surgical Procedures After Coronary Artery Bypass Grafting Compared With Those After Percutaneous Coronary Intervention: A Report From the Coronary Revascularization Demonstrating Outcome Study in Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2.Circ Cardiovasc Interv. 2014;7:482-91.	Tokushige A, Shiomi H, Morimoto T, Ono K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Shizuta S, Tada T, Tazaki J, Kato Y, Hayano M, Abe M, Hamasaki S, Ohishi M, Nakashima H, Mitsudo K, Nobuyoshi M, Kita T, Imoto Y, Sakata R, Okabayashi H, Hanyu M, Shimamoto M, Nishiwaki N, Komiya T, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2 Investigators.
Long-term clinical outcomes after everolimus- and sirolimus-eluting coronary stent implantation: final 3-year follow-up of the randomized evaluation of sirolimus-eluting versus everolimus-eluting stent trial. Circ Cardiovasc Interv. 2014 Jun;7(3):343-54.	Shiomi H, Kozuma K, Morimoto T, Igarashi K, Kadota K, Tanabe K, Morino Y, Akasaka T, Abe M, Suwa S, Muramatsu T, Kobayashi M, Dai K, Nakao K, Uematsu M, Tarutani Y, Fujii K, Simonton CA, Kimura T; RESET Investigators.
Noninvasive regional cerebral oxygen saturation for neurological prognostication of patients with out-of-hospital cardiac arrest: a prospective multicenter observational study. Resuscitation. 2014 Jun;85(6):778-84.	Ito N, Nishiyama K, Callaway CW, Orita T, Hayashida K, Arimoto H, Abe M, Endo T, Murai A, Ishikura K, Yamada N, Mizobuchi M, Anan H, Okuchi K, Yasuda H, Mochizuki T, Tsujimura Y, Nakayama T, Hatanaka T, Nagao K; J-POP Registry Investigators.
Late adverse events after implantation of sirolimus-eluting stent and bare-metal stent: long-term (5-7 years) follow-up of the Coronary Revascularization Demonstrating Outcome study-Kyoto registry Cohort-2.PCI/CABG registry cohort-2 investigators.Circ Cardiovasc Interv. 2014 Apr;7(2):168-79.	Natsuaki M, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Yamaji K, Ando K, Shizuta S, Shiomi H, Tada T, Tazaki J, Kato Y, Hayano M, Abe M, Tamura T, Shirohani M, Miki S, Matsuda M, Takahashi M, Ishii K, Tanaka M, Aoyama T, Doi O, Hattori R, Kato M, Suwa S, Takizawa A, Takatsu Y, Shinoda E, Eizawa H, Takeda T, Lee JD, Inoko M, Ogawa H, Hamasaki S, Horie M, Nohara R, Kambara H, Fujiwara H, Mitsudo K, Nobuyoshi M, Kita T, Kimura T; CREDO-Kyoto
Response of urinary liver-type fatty acid-binding protein to contrast media administration has a potential to predict one-year renal outcome in patients with ischemic heart disease. Heart Vessels. 2014 Feb 20. [Epub ahead of print]	Fujita D, Takahashi M, Doi K, Abe M, Tazaki J, Kiyosue A, Myojo M, Ando J, Fujita H, Noiri E, Sugaya T, Hirata Y, Komuro I.
高齢者心房細動の特徴とその疫学 Medicament News. 2014; 2150: 5-6.	山下 侑吾、赤尾 昌治
From the World Conference: AHA (米国心臓学会) 2013 Cardio-Coagulation. 2014; 1: 66-67.	赤尾 昌治
心房細動の疫学 循環器内科. 2014; 75(5): 440-445.	赤尾 昌治
不整脈と生命予後 Heart View. 2014; 18(7): 20-26.	濱谷 康弘、赤尾 昌治
新規経口抗凝固薬の導入によって何が変わったか - Fushimi AF Registryから脳梗塞と心房細動. 2014; 1: 15-19.	赤尾 昌治
新規抗凝固薬 (NOAC) と高齢者心房細動 循環器内科. 2014; 76: 325-330.	小川 尚、赤尾 昌治
心房細動の疫学 循環器内科. 2014; 75(5): 440-445.	赤尾 昌治
脳塞栓予防としての透析患者へのワルファリン使用可否 日本医事新報. 2014; 4707: 58-59.	赤尾 昌治
心房細動の疫学 -相手の現状と動向を知る- Medical Practice. 2014; 31(10): 1546-1551.	赤尾 昌治
抗凝固薬の効果における男女差 成人病と生活習慣病. 2014; 44(11):	小川 尚、赤尾 昌治
高齢者における抗凝固療法の現状と課題 Geriatric Medicine (老年医学). 2014; 52(12): 1415-1419.	山下 侑吾、赤尾 昌治
ミトコンドリア異常によるエネルギー枯渇と心不全の密接な関係 Circulation Up-To-Date Books「臨床心不全の基礎知識」	井口 守丈、赤尾 昌治
高齢者の心房細動、抗凝固療法を行うべきか 単行本「不整脈診療を今こそ本音で語ろう」(南山堂)	赤尾 昌治
リパーロキサパンを知る 単行本「不整脈治療update」(第3巻) (医薬ジャーナル社)	赤尾 昌治
心原性脳塞栓症リスク評価と抗凝固薬 単行本「Annual Review循環器2015」(中外医学社)	赤尾 昌治
1.心臓カテーテル検査の背景と検査室 3-1.造影剤と造影剤腎症 単行本「改訂版 心臓カテーテル検査の基本とコツ」(羊土社)	阿部 充

小児科



診療科長
秋山 祐一

専門医資格等 日本小児科学会専門医
専門分野 京都大学 小児科 臨床教授
得意疾患 血液・腫瘍・予防接種
心身症

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	黒須 英雄	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児	小児発達
医 長	河田 興	日本小児科学会専門医 日本周産期学会 新生児専門医 日本臨床薬理学会 専門医	未熟児・新生児	妊娠とくすり、新生児とくすり
医 長	浅井 康一	日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会 指導医	アレルギー疾患	喘息・アトピー、食物アレルギー
医 師	石塚 哲也		小児救急	
医 師	豊田 有子	日本小児科学会専門医 日本内分泌学会 専門医	小児内分泌代謝	低身長・甲状腺・ 遺伝子解析・先天異常
医 師	北 誠	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児/小児全般	虐待・遺伝子解析・ 先天異常
医 師	阿水 利沙	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児/小児全般	極小・超未熟児・ 先天異常

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本小児科学会研修施設 周産期(新生児)専門医暫定研修施設
-------	----------------------------------

1. お子さんの、心とからだの発達を重視します
2. スタッフ全員が未熟児・新生児から思春期までの診療がおこなえるよう研鑽しています
3. 小児期からもちこした疾患の診療に関与します
4. 御家族全体が健康であるように、配慮します
5. 長期入院の場合に学習の継続を重視します(院内学級併設)

□ 主な対象疾患

1. 平成12年4月から新生児集中治療室(NICU6床)を開設しました。
赤ちゃんの診療、発達の評価、育児相談を大切にしています。
2. 産婦人科と密接に協力して24時間体制で赤ちゃんの診療を行っています。未熟児出生の可能性のある場合は小児科医師全員が妊婦さんの状態を把握出来るシステムが完備しています。赤ちゃんの診断治療に超音波診断を積極的に行っています。
3. 小児科病棟(2-3病棟)では小児血液疾患、悪性腫瘍、慢性腎疾患、小児膠原病、難治性喘息、重症アトピー、神経疾患等の慢性疾患の入院治療を行います。院内学級に通学しながら治療を継続します。
4. 乳幼児の肺炎や脱水など短期の入院も積極的に取り扱っています。

□ 診療(業務)内容

受精から胎児期、分娩、新生児、乳児、幼児、小児、思春期、結婚・妊娠までのライフ・サイクルを考えて小児科診療を行います。

このすべてに関して小児科では相談の窓口になります。遺伝相談、不登校、小人症、糖尿病、肥満、等の相談を歓迎します。

初診の場合は可能であればかかりつけの先生の紹介状を是非御持参下さい。

主な取り扱い疾患は以下の通りです。

- ・新生児・低出生体重児(2500g未満)
- ・小児血液疾患(白血病、血小板減少症、貧血)
- ・アトピー性皮膚炎、気管支喘息、膠原病
- ・小児腎疾患(血尿・蛋白尿)
- ・小児感染症全般
- ・小児心臓疾患
- ・小児内分泌疾患(甲状腺疾患・低身長など)
- ・小児代謝疾患(糖尿病・副腎過形成など)
- ・小児のてんかん、発達障害

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14.0名	412名	12.5日

外来患者数

1日平均患者数
36.9名

□ 地域医療連携・広報活動

2015年2月8日第30回京都府小児保健研究会 理事会 秋山祐一 「思春期保健」

2014年9月20日第20回伏見臨床懇話会

1. 蛋白尿が遷延している 紫斑病性腎炎の1例:紫斑病性腎炎治療のUP-DATE

京都医療センター小児科

北誠 秋山祐一 阿水利沙 豊田有子 浅井康一 石塚哲也 黒須英雄 河田興

2015年2月28日第21回伏見臨床懇話会

1. 嘔吐を主訴としたてんかん症例

京都医療センター小児科

北誠 秋山祐一 阿水利沙 豊田有子 石塚哲也 黒須英雄 河田興 浅井康一

2. 自己免疫性肝炎

京都医療センター小児科

秋山祐一 北誠 阿水利沙 豊田有子 石塚哲也 黒須英雄 河田興 浅井康一

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

学会名	演者	演題
第23回母乳育児シンポジウム 2014年8月2日	黒須英雄、河田興、橋本恵	新生児回診の方法変更後での、母乳率の変化について(第2報)
第29回日本母乳哺育学会 2014年10月11日	黒須英雄	栄養方法と感染症発症率について、当院アンケート調査結果からの解析
第50回周産期新生児医学会 2014年7月13日	阿水利沙、北誠、黒須英雄、河田興、清水操、秦さおり、奥田亜起子、江川晴人	羊水中ラメラ体数を用いた新生児の呼吸障害予測についての検討
第39回近畿川崎病研究会 2015年2月5日	北誠	急性期CRP低値で経過した川崎病男児例
第68回国立病院総合医学会 2014年11月14日	黒須英雄、阿水利沙、北誠、豊田有子、石塚哲也、浅井康一、鶴田悟、河田興、秋山祐一、山田和範	当院で出生した母体糖尿病児の検討

第35回日本臨床薬理学会 2014年12月4日	河田 興、藤村 尚子、平野 慎也	新生児適応外医薬品リストの現状調査
第50回日本周産期・新生児医学 学会 2014年7月13日	河田 興、江川 晴人、阿水 利沙、黒須 英雄、清水 操、 秦さおり、奥田 亜紀子	Late preterm児の晩期鉄欠乏性貧血に対する娩出時長臍法の効果
第41回日本小児臨床薬理学 会2014年10月14日	河田 興、藤村 尚子、平野 慎也	新生児適応外医薬品リストの現状調査

投稿論文など

	タイトル・著書・雑誌名・著者
浅井 康一 他 アレルギーの臨床 34 1078-1081:2014	リウマチ熱の1男児例
河田 興 薬局 66 216-220 2014	【小児科領域の適応外使用 適切な薬物治療を行うためのポイント】 知っておきたい適応外使用Q&A(Q2) なぜ適応外使用はなくなるのか?
河田 興、北 誠、阿水 利沙、豊田 有子、 石塚 哲也、黒須 英雄、秋山 祐一 日本 小児臨床薬理学会誌 27 87-89:2014	先天性乳び胸に対するオクトレオチドの安全性に対する考察—閉塞性黄疸を経験して—
藤村 尚子、朴井 三矢、河田 興、阿水 利 沙、北 誠、豊田 有子、石塚 哲也、黒須 英雄、秋山 祐一 日本小児臨床薬理学 会誌 27:66-69 2014	京都医療センター新生児病棟における抗菌薬使用調査
阿水 利沙、河田 興、北 誠、豊田 有子、石 塚 哲也、黒須 英雄、秋山 祐一 日本小 児臨床薬理学会誌 27:63-65 2014	早期新生児期におけるビタミンK2シロップの投与方法についての見当
Suga S, Yasuhi I, Aoki M, Nomiyama M, Kubo N, Kawakami K, Okura N, Okazaki K, Ota A, Kawada K.J Matern Fetal Neonatal Med.1-5 2014	Risk factors associated with respiratory disorders in late preterm infants.
Kuboi T, Kusaka T, Kawada K, Koyano K, Nakamura S, Okubo K, Yasuda S, Isobe K, Itoh S.Pediatr Int.55:608-611 2014	Hour-specific nomogram for transcutaneous bilirubin in Japanese neonates.

外科



診療科長
(肝胆膵責任者)
猪飼 伊和夫

専門医資格等 日本外科学会 外科専門医、指導医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医、指導医
日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
京都大学医学部 臨床教授
京都大学 医学博士
京都大学 非常勤講師

専門分野 肝胆膵外科

得意疾患 肝臓がん、胆道がん、膵臓がん

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長 臨床栄養科長 (上部消化管責任者)	大谷 哲之	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科認定医 日本がん治療認定医機構 癌治療認定医 暫定教育医 京都大学医学部 臨床教授	上部消化管	胃がん 食道がん
医 長 (下部消化管責任者)	山口 高史	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会 大腸肛門病専門医・指導医 日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医・技術認定審査員・評議員 京都大学医学部 臨床准教授 京都大学 非常勤講師	下部消化管	大腸がん 骨盤外科
医 長 (乳 腺 責 任 者)	坂田 晋吾	日本外科学会 外科専門医 日本乳癌学会認定医 マンモグラフィ読影医	乳 腺	乳がん
医 師	成田 匡大	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会 専門医 Le Diplôme Inter Universitaire EUROPEAN CANCERS HEPATO BILIO PANCREATIQUES 京都大学 医学博士 京都大学 非常勤講師	肝胆膵外科	肝臓がん 胆道がん 膵臓がん
医 師	畑 啓昭	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 日本外科感染症学会 周術期感染管理認定医・教育医・評議員・教育委員 日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医 日本食道学会 食道科認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 ICD(インフェクションコントロールドクター)	上部消化管	胃がん 食道がん

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	松末 亮	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医 内痔核治療法研究会 四段階注射法講習会受講 京都大学 医学博士	下部消化管	大腸がん 肛門疾患
医師	花田 圭太	日本外科学会 外科専門医	外科一般	
専修医	川口 清貴			
専修医	佐治 雅史			
専修医	菊地 志織			
専修医	中西 宏貴			
非常勤医師	大和 俊夫	日本外科学会 外科認定医	外科一般	
非常勤医師	寺島 隆平		肛門科	
非常勤医師	吉川伊津美	マンモグラフィ読影医	乳腺	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本外科学会外科専門医修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設A 日本大腸肛門病学会認定施設 日本乳癌学会関連施設 日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設 JCOG大腸がんグループ参加施設 JCOG胃がんグループ参加施設
-------	---

1. 消化器がんや乳がんなど悪性腫瘍の外科治療を中心に行っています。
2. 臓器別(上部消化管・下部消化管・肝胆膵・乳腺)に専門医がおり、専門性が高く高度で安全な外科手術を行っています。
3. 腹腔鏡手術を始めとした低侵襲な手術(体への負担が少ない手術)を積極的に行なっている一方、高度進行がんに対しては、必要に応じて拡大手術を行ったり、抗がん剤や放射線を併用した集学的治療を行って臓器温存を図ったりしています。
4. 外科医、消化器内科医、放射線科医、腫瘍内科医、病理医が協議して治療方針を検討しています。各科が必要に応じた治療が可能のため、特定の科の治療にかたよることもありません。

□ 主な対象疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、乳がん

□ 診療(業務)内容

消化器がん(食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん)や乳がんを中心とし、腹部良性疾患、肛門疾患や腹部救急疾患の外科治療を行っております。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
43.3名	966名	15.8日

外来患者数

1日平均患者数
74.6名

手術実績

全手術件数(外来手術含める)	912件
全麻手術	738件
腰麻手術	59件
局麻手術	115件

※うち緊急手術件数168件

主な術式別手術件数

術式	手術件数	※うち鏡視下手術 (ポリペクトミー、EMR,ESDなど 内視鏡的切除は除く)
食道がん切除術	9	9
幽門側胃切除術(幽門保存胃切除術を含む)	55	34
胃全摘術(噴門側胃切除術を含む)	27	6
結腸切除術	119	73
直腸前方切除術	52	37
直腸切断術	5	1
肝切除術(葉切除以上)	10	0
肝切除術(区域・亜区域切除術)	27	4
肝切除術(上記以外)	10	2
膵頭十二指腸切除術	22	0
膵体尾部切除術(胃がん手術に伴うものは除く)	2	2
膵切除術(その他)	1	1
乳がん手術	82	0
胆嚢摘出術	117	83
脾摘術	3	3
虫垂切除術	44	25
ヘルニア手術(小児を除く)	108	4
良性肛門疾患手術	62	4
小児外科手術(ヘルニアも含む)	12	4

□ 地域医療連携・広報活動

2014.5.10	V.A.C.Summit 関西 症例報告 畑 啓昭
2014.5.17	第75回伏見医師学術集談会 「ESBL産生菌が検出された急性胃腸炎の1例」 畑 啓昭
2014.5.29	京都医療センター がん診療セミナー 乳がんの最新情報とチーム医療の実際 坂田 晋吾
2014.6.3	第12回京都南部外科集談会 当科における肝切除 成田 匡大、猪飼 伊和夫
2014.6.27	京阪奈胆膵フォーラム 当院における胆膵疾患外科治療について～低侵襲手術から高難易度手術まで～ 成田 匡大
2014.9.7	研修医のための輸液セミナー 「術後輸液」の部屋 何を どれだけ どんな根拠で? 畑 啓昭

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者	演題	学会名	開催地	会期
国内学会	猪飼伊和夫 成田匡大 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 森山沙也香 花田圭太 谷昌樹 松末亮 畑啓昭 山口高史 坂田晋吾 大谷哲之	肝静脈根部腫瘍における下大静脈の剥離の重要性と肝三区切術	第114回 日本外科学会 定期学術集会	京都	2014
国内学会	成田匡大 中西宏貴 菊地志織 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	臍頭十二指腸切除後の安全かつ簡便な再建-臍胃吻合-	第114回 日本外科学会 定期学術集会	京都	2014
国内学会	花田圭太 畑啓昭 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 松末亮 成田匡大 山口高史 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	胃切除・Roux-en-Y再建術後における内ヘルニアの発症に関する検討	第114回 日本外科学会 定期学術集会	京都	2014
国内学会	川口清貴 成田匡大 菊地志織 中西宏貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 松末亮 畑啓昭 山口高史 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	アンケート調査結果からみた成人鼠径ヘルニア術後慢性疼痛の現状と課題	第114回 日本外科学会 定期学術集会	京都	2014
国内学会	菊地志織 畑啓昭 大谷哲之 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 成田匡大 山口高史 猪飼伊和夫	扁平上皮癌の生検時診断で術前化学療法が著効し、胸腔鏡下食道亜全摘術後に食道類基底細胞癌と診断された一例	第195回 近畿外科学会	大阪	2014
国内学会	中西宏貴 菊地志織 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 松末亮 畑啓昭 成田匡大 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	小腸仮性憩室穿孔の一例	第195回 近畿外科学会	大阪	2014
国際学会	Nakajima K, Inomata M, Akagi T, Etoh T, Katayama H, Ito M, Fujii S, Saito S, Konishi F, Saida Y, Hasegawa H, Yamaguchi T, Fukunaga Y, Sugihara K, Watanabe M, Yamamoto S, Shimada Y, Moriya Y, Kitano S, Japan Clinical Oncology Group.	Quality control by photograph for evaluation of open (OP) and laparoscopic (LAP) colectomy with D3 resection for stage II/III colorectal cancer:Japan Clinical Oncology Group study JCOG 0404.	ASCO 2014	シカゴ	2014
国内学会	成田匡大 中西宏貴 菊地志織 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	経静脈的鎮痛・鎮静剤を必要としない膨潤麻酔のみで行うDirect Kugel法のコツ	第12回 日本ヘルニア学会学術集会	東京	2014
国内学会	川口清貴 成田匡大 菊地志織 中西宏貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	術後慢性精巣痛に対しメッシュ除去、精巣精索摘出、triple neurectomyを施行した1例	第12回 日本ヘルニア学会学術集会	東京	2014
国内学会	中西宏貴 成田匡大 菊地志織 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 森山沙也香 谷昌樹 松末亮 畑啓昭 坂田晋吾 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	鼠径ヘルニア術後慢性疼痛に対してメッシュ除去+triple neurectomyが有効であった一例	第12回 日本ヘルニア学会学術集会	東京	2014
国内学会	成田匡大 中西宏貴 菊地志織 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	当院における高齢者に対する肝胆膵外科手術の術後短期成績	第26回 日本肝胆膵外科学会学術集会	和歌山	2014
国内学会	花田圭太 成田匡大 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 松末亮 畑啓昭 山口高史 坂田晋吾 大谷哲之 猪飼伊和夫	肉眼型の分類に苦慮した肝内胆管癌の一例	第26回 日本肝胆膵外科学会学術集会	和歌山	2014
国内学会	佐治雅史 畑啓昭 大谷哲之 安井久晃 松末亮 成田匡大 山口高史 森吉弘毅 山本哲郎 猪飼伊和夫	扁平上皮癌と診断し術前化学療法にてPRが得られた食道胃接合部MANECの1例	第68回 日本食道学会学術集会	東京	2014
国内学会	成田匡大 中西宏貴 菊地志織 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	臍頭十二指腸切除後の臍胃吻合再建における術後短期成績向上へのとりくみ	第45回 日本膵臓学会大会	福岡	2014
国内学会	坂田晋吾	乳房部分切除術における欠損部位補填の工夫	第22回 日本乳癌学会学術総会	大阪	2014
国内学会	吉田和世 坂田晋吾	慢性腎不全の高齢再発乳癌患者へエリブリンを投与し、一旦は画像的にCRが得られた症例	第22回 日本乳癌学会学術総会	大阪	2014
国内学会	山口高史 松末亮 佐治雅史 川口清貴 花田圭太 谷昌樹 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	腹腔鏡下直腸低位前方切除の要点	第69回 日本消化器外科学会総会	福島	2014
国内学会	松末亮 山口高史 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	人工肛門閉鎖術後の合併症を減らす取り組みについて	第69回 日本消化器外科学会総会	福島	2014
国内学会	菊地志織 畑啓昭 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 成田匡大 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	腸管が露出している術後創部離開で、閉鎖陰圧療法が有効であった3例	第69回 日本消化器外科学会総会	福島	2014
国内学会	畑啓昭	予防的抗菌薬使用のエビデンスと実際	日本外科感染症学会特別セミナー	福岡	2014
国内学会	畑啓昭	予防的抗菌薬使用のエビデンスと実際	日本外科感染症学会特別セミナー	札幌	2014
国内学会	佐治雅史 山口高史 松末亮 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	後期研修医による鋭い剥離を意識した腹腔鏡下結腸右半切除術	第27回 日本内視鏡外科学会総会	盛岡	2014
国内学会	畑啓昭 坂井義治	腹腔鏡下大腸切除術における経口抗菌薬の予防効果について。多施設共同RCT(JMTO PREV07-01)の結果から。	JDDW2014 第22回 日本消化器関連学会	神戸	2014

国内学会	直原駿平 花田圭太 大谷哲之 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 吉川伊津美 松末亮 畑啓昭 成田匡大 山口高史 坂田晋吾 猪飼伊和夫	RFA施行後遅発性に横隔膜ヘルニア嵌頓を発症し腹腔鏡下修復術を行った肝硬変の一症例	第196回 近畿外科学会	京都	2014
国内学会	山口高史 松末亮 直原駿平 中西宏貴 菊地志織 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	ISR術後の直腸脱に対する手術療法	第69回 日本大腸肛門病学会学術集会	横浜	2014
国内学会	松末亮 山口高史 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	局所進行直腸癌に対する術前化学療法との短期治療成績	第69回 日本大腸肛門病学会学術集会	横浜	2014
国内学会	畑啓昭	CDCガイドラインドラフト版を読み解く	日本外科感染症学会特別セミナー	東京	2014
国内学会	猪飼伊和夫 成田匡大 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 坂田晋吾 山口高史 大谷哲之	肝門部グリソン鞘一括処理法の工夫-全層胆嚢摘出アプローチと肝門正中アプローチ	第76回 日本臨床外科学会総会	福島	2014
国内学会	畑啓昭 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 成田匡大 坂田晋吾 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	術後感染創の2次・3次治癒における陰圧閉鎖療法の工夫	第76回 日本臨床外科学会総会	福島	2014
国内学会	花田圭太 山口高史 松末亮 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	術前イマチニブ投与が有効であり、傍仙骨的局所切除が可能となった直腸GISTの一例	第76回 日本臨床外科学会総会	福島	2014
国内学会	佐治雅史 山口高史 松末亮 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	腹腔鏡下大腸癌切除術後に再発との鑑別を要したデスマイド腫瘍の一例	第76回 日本臨床外科学会総会	福島	2014
国内学会	菊地志織 松末亮 直原駿平 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	当院での過去20年におけるメッケル憩室5症例の検討	第76回 日本臨床外科学会総会	福島	2014
国際学会	Narita M, Ikai I.	Is it really appropriate procedure for patients with CLM?	韓国外科学会	ソウル	2014
国内学会	畑啓昭	教育委員会企画プログラム「感染対策としてのERASとその課題」	第27回 日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2014
国内学会	畑啓昭	スポンサードシンポジウム3 「SSI予防のための抗菌薬の種類/投与タイミング/追加投与について」	第27回 日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2014
国内学会	中西宏貴 畑啓昭 直原駿平 菊地志織 川口清貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 成田匡大 坂田晋吾 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	健常成人に見られたESBL産生大腸菌が検出された穿孔性虫垂炎の一例	第27回 日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2014
国際学会	Nishizawa Y, Ito M, Saito N, Katayama H, Mizusawa J, Yamaguchi T, Masaki T, Fukunaga Y, Murata K, Akagi T, Inomata M, Kitano S.	Risk factors for postoperative complications of a randomized clinical trial: laparoscopic versus open surgery with D3 lymphadenectomy for stage II/III colon cancer (JCOG0404).	ASCO-GI 2015	サンフランシスコ	2015
国内学会	川口清貴 松末亮 直原駿平 中西宏貴 菊地志織 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 坂田晋吾 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	直腸癌術後再発に対し放射線照射19年後に小腸穿孔を来した1例	日本消化器病学会近畿支部 第102回例会	京都	2015
国内学会	直原駿平 花田圭太 畑啓昭 大谷哲之 菊地志織 中西宏貴 川口清貴 佐治雅史 松末亮 成田匡大 坂田晋吾 山口高史 猪飼伊和夫	咽頭喉頭頸部食道摘出術13ヶ月後に特異性食道破裂を発症した1例	日本消化器病学会近畿支部 第102回例会	京都	2015
国内学会	畑啓昭	外科感染症 Up To Date 2015	腹部救急医学会 ランチオンセミナー	京都	2015
国内学会	畑啓昭	CDCガイドラインドラフト版を読み解く	日本外科感染症学会特別セミナー	金沢	2015

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年 および月
畑啓昭	ズバリ!日常診療の基本講座 3 救急や病棟で必ず役立つ基本手技 外傷への対応あれこれ その19 ちょっとしたキズの処置 手とり足とり	レジデントノート別冊			177-182	2014.4
Yamanaka K, Hatano E, Kanai M, Tanaka S, Yamamoto K, Narita M, Nagata H, Ishii T, Machimoto T, Taura K, Uemoto S.	A single-center analysis of the survival benefits of adjuvant gemcitabine chemotherapy for biliary tract cancer.	Int J Clin Oncol.	19	3	485-489	2014.6
Koyama Y, Taura K, Hatano E, Tanabe K, Yamamoto G, Nakamura K, Yamanaka K, Kitamura K, Narita M, Nagata H, Yanagida A, Iida T, Iwaisako K, Fujinawa H, Uemoto S.	Effects of oral intake of hydrogen water on liver fibrogenesis in mice.	Hepato Res.	44	6	663-677	2014.6

Narita M, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Liver parenchymal sparing surgery for locally advanced gallbladder cancer with extracapsular lymph node invasion.	World J Surg Oncol.	10	12	183	2014.6
Ogiso S, Yamaguchi T, Sakai Y, Okuchi Y, Murakami T, Hata H, Fukuda M, Ikai I.	Short- and mid-term outcomes after early surgical training in laparoscopic colorectal cancer surgery: trainees' performance has no negative impact.	J laparoendosc Adv Tech A.	24	7	475-483	2014.7
Narita M, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Precaution against postoperative venous complications after major hepatectomy using the pedicled omental transposition flap: Report of two cases.	Int J Surg Case Rep.	5	10	646-651	2014.10
Nakamura K, Hatano E, Miyagawa-Hayashino A, Okuno M, Koyama Y, Narita M, Seo S, Taura K, Uemoto S.	Soluble thrombomodulin attenuates sinusoidal obstruction syndrome in rat through suppression of high mobility group box 1.	LiverInt.	34	10	1473-1487	2014.11
Narita M, Oussoultzoglou E, Bachellier P, Jaeck D, Uemoto S.	Post-hepatectomy liver failure in patients with colorectal liver metastases.	Surg Today.	[Epub ahead of print]			2015.1
猪飼伊和夫	肝癌の予後予測因子-脈管侵襲-	日本臨床	73	増刊1	334-337	2015.1
Nishikawa G, Minamiguchi S, Hata H, Ogiso S, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Dedifferentiated liposarcoma involving the spleen and splenic hilum: a report of a case with a rare growth pattern.	Int Surg.	100	1	128-132	2015.1
Narita M, Oussoultzoglou E, Chenard MP, Fuchshuber P, Yamamoto T, Addeo P, Jaeck D, Bachellier P.	Predicting Early Intrahepatic Recurrence After Curative Resection of Colorectal Liver Metastases with Molecular Markers.	World J Surg.	39	5	1167-1176	2015.3

整形外科



診療科長
中川 泰彰

専門医資格等 日本整形外科学会専門医
専門分野 スポーツ、軟骨、関節
得意疾患 膝、肩、肘関節

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	山 田 茂	日本整形外科学会専門医	股関節、膝関節	股関節
医 師	向 井 章 悟	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩、小児	膝、肩
医 師	向 田 征 司	日本整形外科学会専門医	脊椎	脊椎
医 師	二 宮 周 三	日本整形外科学会専門医	股関節	股関節
医 師	佐 治 隆 彦	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩	膝、肩
医 師	坪 内 直 也		脊椎	脊椎
医 師	藪 本 浩 光		整形外科一般	
専 修 医	樽 見 映 里			

□ 診療科の特徴

施設認定等 日本整形外科学会研修施設

1. スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれのスペシャリストがいます。
2. 救命救急センターとタイアップし、様々な外傷にも対応しています。
3. スポーツ医学センターを併設し、発育期、競技スポーツ、中高年のスポーツ復帰のリハビリも行っていきます。
4. 骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術の件数は、日本最多で、中期成績も優秀です。

□ 主な対象疾患

様々な関節の変形性関節症、肩関節脱臼、腱板断裂、膝靭帯損傷、様々な脊椎疾患、離断性骨軟骨炎などのスポーツ障害

□ 診療(業務)内容

スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれの専門家が執刀する手術(安定した治療成績が獲得できています)及び、外来での経過観察や保存的治療を行っています。術後のリハビリは疾患に応じて、当院リハビリ科とスポーツ医学センターで行っており、特に、スポーツ医学センターでは、術後のスポーツ復帰だけでなく、再受傷予防などの対策も立てています。また、外来通院による保存的治療としてのリハビリも行っていきます。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
52.4名	820名	22.4日

外来患者数

1日平均患者数
89.3名

主な手術・検査の件数など

頸椎手術	胸腰椎手術	人工股関節置換術	人工膝関節置換術
27件	108件	54件	65件

自家骨軟骨移植術
52件

□ 地域医療連携・広報活動

京都府軟式野球連盟からの依頼により、2011年からスポーツ医学センターにて、小中学生野球選手のメディカルチェックを行っています。

- ・少年野球におけるスポーツ障害の予防と対策 平成26年京都府軟式野球連盟指導者研修会 2014.6.7京都(向井章悟)
- ・スポーツを有意義に行うための知識とポイントー発育期から中高年までー平成26年乙訓高校スポーツ健康学科1年生講義 2014.6.19京都(中川泰彰)
- ・予防を中心としたスポーツ医学のトピックス 平成26年乙訓高校スポーツ健康学科1年生講義2014.11.20京都(中川泰彰)
- ・予防を中心としたスポーツ医学のトピックスなど 京都府相撲連盟平成26年度生涯スポーツ指導者研修会 2015.1.12京都(中川泰彰)
- ・正座を目指した膝疾患の治療 第4回病病連携フォーラム 2015.1.31京都(中川泰彰)
- ・健康寿命を延ばすコッー変形性膝関節症を中心にー第182回清交社健康懇話会 2015.2.24大阪(中川泰彰)

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
国際学会	Y.Nakagawa,S. Mukai, Y. Hattori, T. Nakanmura More than seventy percent of sumo wrestlers have radiological abnormalities in their cervical spine The 4th IOC World Conference Prevention of Injury & Illness in Sport, 2014.4.10-12, Monaco
国際学会	K. Minami, T. Ishikawa, J. Ishida, Y. Nakagawa Effect of oral rehydration solution on hydration state during 'SUMO' training The 4th IOC World Conference Prevention of Injury & Illness in Sport, 2014.4.10-12, Monaco
国際学会	S. Mukai, Y. Nalkagawa, R.Arai, S. Murata, T.Nakamura The clinical results of shaving the implanted plugs for knee mosaicplasty The 1st APKASS、 2014.4.14-15, Nara, JAPAN
国際学会	Y.Nakagawa, S.Mukai, Y. Setoguchi, T. Goto, T. Furukawa, S. Okudaira, T. Nakamura Clinical outcome in the donor site of osteochondral grafts from the healthy knee The 16th ESSKA, 2014.5.14-17, Amsterdam, Netherland
国際学会	S. Mukai, Y. Nakagawa, T.Nakamura Lower leg alignment after osteochondral osteograft transfer against the spontaneous osteonecrosis of the knee. The 16th ESSKA, 2014.5.14-17, Amsterdam, Netherland
国内学会	樽見映里、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、中村孝志 変形性関節症を伴う大腿骨内顆骨壊死に対する高位脛骨骨切り術及び自家骨軟骨移植術の術後成績 第87回日本整形外科学会学術総会 2014.5.22-25 神戸、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、山田茂、今泉厚、橋本正、田村智英子、西平順、松岡将之、樽見映里、中村孝志 整形外科分野におけるアンチエイジングー変形性膝関節症に対するクルクミンの効用 第14回日本抗加齢医学会総会 2014.6.6-8 大阪、日本
国内学会	向井章悟 少年野球におけるスポーツ障害の予防と対策 平成26年京都府軟式野球連盟指導者研修会 2014.6.7 京都、日本
国内学会	中川泰彰 スポーツを有意義に行うための知識とポイントー発育期から中高年までー 平成26年乙訓高校スポーツ健康学科1年生講義 2014.6.19 京都、日本
国内学会	佐治隆彦、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 明らかな外傷既往なく、膝蓋骨溝軟骨損傷を来した中学生サッカー選手の1例 第24回関西臨床スポーツ医学研究会 2014.6.21 大阪、日本
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、伊藤盛春、廣瀬ちえ 変形性膝関節症に対する脛骨高位骨切り術と骨軟骨移植術併用例の術後の機能回復度 第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 2014.7.24-26 広島、日本

国内学会	樽見映里、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、藪本浩光、中村孝志 外側型変形性膝関節症に対する髓内釘を用いた大腿骨遠位内反骨切り術の術後成績 第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 2014.7.24-26 広島、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、藪本浩光、樽見映里 特発性膝骨壊死に対する自家骨軟骨移植術後のアライメント変化についての検討 第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 2014.7.24-26 広島、日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、樽見映里、中村孝志 自家骨軟骨移植術を行った外傷性足関節症の1例 第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 2014.7.24-26 広島、日本
国内学会	中川泰彰、森浩二、黒木裕士、向井章悟、山田茂、西谷江平、新井隆三、中村孝志 生体膝の大腿骨内顆の関節軟骨の力学的特性診断 第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 2014.7.24-26 広島、日本
国内学会	樽見映里、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、中村孝志 変形性関節症を伴う大腿骨内顆骨壊死に対する高位脛骨骨切り術及び自家骨軟骨移植術の術後成績 第12回ひふみ会 2014.8.2 京都、日本
国内学会	佐治隆彦、中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 前十字靭帯損傷に合併した半月板損傷に対するラスピングの治療成績 第40回日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会 2014.9.12-14 東京、日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、二宮周三、佐治隆彦、坪内直也、樽見映里 90歳以上の超高齢者に対する人工膝関節全置換術の術後成績 第123回中部日本整形外科学会災害外科学会学術集会 2014.10.3-4 名古屋、日本
国内学会	佐治隆彦、新井隆三、栗山新一、中川泰彰、向井章悟、松田秀一 小円筋萎縮をみとめた腱板断裂肩の両側小円筋の比較 第41回日本肩関節学会 2014.10.24-25 佐賀、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、佐治隆彦 上腕骨頭軟骨損傷に対するBankart修復術後の経過について 第41回日本肩関節学会 2014.10.24-25 佐賀、日本
国際学会	Y. Nakagawa, S. Mukai, S. Yamada, M. Matsuoka, E. Tarumi, T. Hashimoto, C. Tamura, A. Imaizumi, J. Nishihira, T. Nakamura Short-term effects of highly-bioavailable curcumin for treating knee osteoarthritis The 2nd International Conference on Pharma and Food (ICPF2014) 2014.11.5-6 静岡、日本
国内学会	伊藤盛春、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、新宮信之、井上直人、廣瀬ちえ、大場友裕 学童期少年野球選手における年代別関節可動域の経年変化 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2014.1.8-9 東京、日本
国内学会	大場友裕、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、新宮信之、伊藤盛春、井上直人、廣瀬ちえ 成長期の軟式野球選手における1年間の肩、肘の痛みと関節可動域変化 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2014.1.8-9 東京、日本
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、新宮信之、伊藤盛春、廣瀬ちえ、大場友裕 小学生軟式野球選手における離断性骨軟骨炎発症と関節弛緩性及び筋タイトネスの関係 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2014.1.8-9 東京、日本
国内学会	廣瀬ちえ、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、伊藤盛春、井上直人 高校相撲選手の前十字靭帯損傷前の膝関節筋力、体幹筋力の検討 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2014.1.8-9 東京、日本
国内学会	中川泰彰 予防を中心としたスポーツ医学のトピックス 平成26年乙訓高校スポーツ健康学科1年生講義 2014.11.20 京都、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰 超音波による関節軟骨損傷の診断 第30回膝関節フォーラム 2014.12.6 東京、日本
国内学会	中川泰彰 予防を中心としたスポーツ医学のトピックスなど 京都府相撲連盟平成26年度生涯スポーツ指導者研修会 2015.1.12 京都、日本
国内学会	中川泰彰 正座を目指した膝疾患の治療 第4回病病連携フォーラム 2015.1.31 京都、日本
国内学会	中川泰彰 健康寿命を延ばすコッケー変形性膝関節症を中心にー 第182回清交社健康懇話会 2015.2.24 大阪、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 モザイクドナー部の骨形成に与えるアレンドロネートの影響 第28回日本軟骨代謝学会 2015.3.6-7 東京、日本

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書雑誌名
K.Nishitani, Y. Nakagawa Ultrasound can detect macroscopically undetectable changes in osteoarthritis reflecting the superficial histological and biochemical degeneration: ex vivo study of rabbit and human cartilage. PLOS ONE 2014
Nakagawa, S. Mukai, S. Yamada, M. Matsuoka, E. Tarumi, T. Hashimoto, C. Tamura, A. Imaizumi, J. Nishihira, T. Nakamura Short-term effects of highly-bioavailable curcumin for treating knee osteoarthritis: A randomized, double-blind, placebo-controlled prospective study. J of Orthopaedic Science 2014, 19: 933-939

<p>K. Migita, S. Bito, M. Nakamura, S. Miyata, M. Saito, H. Kakizaki, Y. Nakayama, T. Matsusita, I. Furuichi, Y. Sasazaki, T. Tanaka, M. Yoshida, H. Kaneko, I. Abe, T. Mine, K. Ihara, S. Kuratsu, K. Saisho, H. Miyahara, T. Segata, Y. Nakagawa, M. Kamei, T. Torigoshi, S. Motokawa Venous thromboembolism after total joint arthroplasty: results from a Japanese multicenter cohort study. Arthritis Research & Therapy 2014, 16:R154</p>
<p>藪本浩光、中川泰彰、二宮周三、坪内直也、松岡将之 60歳以下の大腿骨頸部骨折に対する骨接合術後成績 中部整災誌 57:113-114 2014</p>
<p>中川泰彰、向井章悟、中村孝志 骨軟骨移植術後のスポーツ復帰と変形性膝関節症進行の予防 整スボ会誌 34:134-138 2014</p>
<p>井上直人、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、廣瀬ちえ、橋本雅至、田頭悟志、木下和昭 大学アメリカンフットボール選手におけるSide Bridge test と体幹筋力との関係 日臨スボ会誌 22: 297—301 2014</p>
<p>向井章悟、中川泰彰、松岡将之、田中慶尚、中村孝志 特発性骨壊死に対する自家骨軟骨移植(モザイクプラスチック)術後の成績—術後に正座が可能となる因子についての検討— JOSKAS 39:937-942 2014</p>
<p>向井章悟、中川泰彰、松岡将之、新宮信之、井上直人、廣瀬ちえ、中村孝志 K県の少年野球チームに対する投球障害の検診—初年度の取り組み— 日臨スボ会誌 22:540-543 2014</p>
<p>廣瀬ちえ、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、井上直人 学童野球選手における肩関節可動域～京都におけるメディカルチェックの取り組みから～ 日臨スボ会誌 22:552-557 2014</p>
<p>中川泰彰 変形性膝関節症の有効性を導くための被験者選定と評価項目設定 PharmStage, vol.14; no. 10: 30-34 2015</p>

形成外科



診療科長
荒田 順

専門医資格等 日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
京都大学 臨床教授

専門分野 形成外科一般
得意疾患 手外科・先天異常

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	益岡 弘	日本形成外科学会専門医	小児顔面形成 形成一般	唇裂口蓋裂 小耳症
医師	瀬崎 信一	日本形成外科学会専門医	形成一般	顔面
医師	鈴木 茉友		形成一般	
専修医	海透 修子		形成一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本形成外科学会認定施設 日本手外科学会認定基幹研修施設
-------	---------------------------------

□ 主な対象疾患

先天異常、皮膚・皮下軟部腫瘍、顔面外傷、手外科、瘢痕拘縮、頭頸部・乳房再建

□ 診療(業務)内容

当科では

- ・手足、顔面、体幹の先天異常をはじめとする小児形成外科
- ・整容を重視した眼瞼下垂、内反症および外反症などの眼瞼形成
- ・体表における腫瘍の切除、皮膚潰瘍に対する皮膚移植、遊離皮弁による潰瘍の閉鎖などの皮膚疾患に対する整容面に配慮した外科治療
- ・顔面骨骨折を中心とする顔面外傷に対する整容を重視した治療、口腔外科と合同で行う顎顔面外科
- ・切断指を含む手外科疾患の初期治療から二次的な機能再建
- ・頭頸部外科と合同で頭頸部癌に対する癌切除後の機能損失を最小限にすることを目的としたマイクロサージャリーを駆使した組織移植を積極的に行い、乳腺外科との合同で乳がんに対する乳房再建を手がけています。
- ・レーザー:ルビーレーザー(黒、茶あざ、しみ)、Vビーム(血管腫)、CO2レーザー(小腫瘍の蒸散、瘢痕の修正)を所持しており、美容を目的としたしみに対するレーザー治療など幅広い治療を行っています。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
11.4名	246名	16.7日

外来患者数

1日平均患者数
22.6名

主な疾患の件数など

皮膚皮下腫瘍	眼瞼形成	顔面骨骨折および外傷	手外科
373件	23件	87件	60件

マイクロサージャリー
35件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者	演題	学会名
国内学会	荒田 順、北山 稔大、添田 晴雄、鈴木 茉友	末節部の外傷性組織欠損に対し腹部皮弁を適用した症例の検討	第57回日本手外科学会
国内学会	鈴木 茉友、荒田 順	ジストニアに起因する骨髄炎を伴う難治性潰瘍に対しボツリヌス療法を行った1例	第57回日本手外科学会
国内学会	石坂 知華、荒田 順、田中 宏典、鈴木 茉友、海透 修子	当院における遊離空腸移植症例の検討	第57回日本形成外科学会総会
国内学会	海透 修子、荒田 順、石坂 知華、田中 宏典、鈴木 茉友	細菌培養陽性の創部に対し陰圧閉鎖療法を施行した症例の検討	第57回日本形成外科学会総会
国内学会	荒田 順、石坂 知華、瀬崎 伸一、鈴木 茉友、海透 修子	鼻骨骨切り時に超音波診断を併用した症例	第6回日本創傷外科学会
国内学会	鈴木 茉友、荒田 順、石坂 知華、瀬崎 伸一、海透 修子	ジストニアに起因する骨髄炎を伴う難治性潰瘍に対しボツリヌス療法を行った2例	第6回日本創傷外科学会
国内学会	海透 修子、荒田 順、石坂 知華、瀬崎 伸一、鈴木 茉友	局所陰圧閉鎖療法施行中に中止となった症例の検討	第6回日本創傷外科学会

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル
日本形成外科学会誌 2014	鈴木 茉友、荒田 順、葉山 佐和子、田中 宏典、石坂 知華	下腿に生じたcalcific myonecrosisの1例
日本形成外科学会誌 2015	海透 修子、荒田 順、石坂 知華、鈴木 茉友	de Quervain病に対するトリウムシロン腱鞘内注射後に長母指外転筋腱の皮下断裂をきたした1例
日本手外科学会誌 2015	鈴木 茉友、荒田 順	ジストニアのにぎりこぶし状変形に合併した潰瘍・骨髄炎の治療に有効であったボツリヌス療法
日本手外科学会誌 2015	荒田 順、北山 稔大、添田 晴雄、鈴木 茉友	末節部の外傷性皮膚軟部組織欠損に対し腹部皮弁を適用した症例の検討

脳神経外科



副院長
塚原 徹也

専門医資格等
日本脳神経外科学会
専門医
日本脳卒中学会 専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳血管障害



診療科長
福田 俊一

専門医資格等
日本脳神経外科学会
専門医
日本脳卒中学会 専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳動脈瘤
良性脳腫瘍
頭蓋底手術
バイパス術

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	青木 友和	日本脳神経外科学会 専門医 日本脳卒中学会 専門医 日本癌治療学会 暫定教育医	脳神経外科	脳腫瘍(悪性)、下垂体腫瘍、顔面痙攣、三叉神経痛
医 師	川端 康弘	日本脳神経外科学会 専門医 日本脳卒中学会 専門医 脳神経血管内治療学会 専門医	脳神経外科	脳血管障害、脳血管内治療、脳腫瘍
医 師	河原崎 知	日本脳神経外科学会 専門医	脳神経外科	

□ 診療科の特徴

施設認定等 日本脳神経外科学会研修施設

1. 当科は、脳卒中や頭部外傷などの脳神経外科領域の救急疾患に24時間対応し、地域救急医療に貢献していると同時に、困難な脳神経系疾患に対して集約的な治療も行っています。
2. 脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患など脳神経外科領域全般にわたって、患者さんの入院および外来加療を行っています。
3. 脳神経外科領域の疾患では、緊急に手術等の処置を行わなければ生命にかかわる場合もあれば、逆に病気はあるものの、定期的に外来で経過を観て行くことが適当である場合もあります。
4. 上記3のような場合を除けば、手術をすべきかどうかは、その疾患自体だけではなく、症状や年齢、全身状態、手術の難易度、さらには患者さんの性格や家族構成などを考慮して決めるべきであり、たとえ同じ疾患でも個々の患者さんによって方針が異なってきます。
5. 私たちは、患者さんご自身やご家族に十分に病気についての説明をし、相談をした上で、インフォームドコンセントをとり、その上で適切な治療方針をとることが大切であると考えています。
6. いったん手術が必要であると決まった場合には、たとえ難易度の高い手術でも、従来の顕微鏡を用いた開頭手術に加え、血管内手術や神経内視鏡手術などの様々な手術法を用い、積極的に治療を行っています。

□ 主な対象疾患

- ・脳血管障害(脳梗塞・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳内出血・その他の脳血管障害)
- ・脳腫瘍(グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫)
- ・神経内視鏡手術
- ・頭部外傷
- ・機能的脳神経外科(顔面けいれん・三叉神経痛)

□ 診療(業務)内容

- ・脳血管障害(脳梗塞に対する血行再建術・破裂および未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術および脳動静脈奇形・脳内出血に対する開頭摘出術、内視鏡手術)
- ・脳神経血管内治療(脳動脈瘤塞栓、ステント設置、腫瘍塞栓、脳動静脈奇形塞栓、急性期血管血行再建など)
- ・脳腫瘍(グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫)に対する摘出術
- ・神経内視鏡手術(下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、水頭症、脳内出血など)
- ・頭部外傷(血腫除去術)
- ・脊椎背髄疾患
- ・機能的脳神経外科(顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経減圧術)
- ・頭蓋底および頸部腫瘍:腫瘍摘出および血行再建術

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	19.3名	335名	19.5名

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	34.8名

主な手術・検査の件数など

	脳動脈瘤	脳腫瘍	脳血管内手術	脳動静脈奇形	頸動脈内膜剥離術	血管バイパス術
2014年度	22件	50件	64件	2件	9件	14件

□ 地域医療連携・広報活動

第12回脳卒中市民講座 2015年1月10日 於:京都医療センター

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
国際学会	Miyuki Fukuda, Shunichi Fukuda, Joji Ando, Koji Hasegawa; The role of wall shear stress on cerebral aneurysm development via P2X4 ion channel, a sensor for shear stress mechanotransduction, in vascular endothelial cells. Experimental Biology 2014, April 30, 2014, San Diego, CA
国際学会	Yasuhiro Kawabata; Perioperative myocardial infarction of carotid artery stenting 52nd American Society of Neuroradiology 2014.5.17~22 Montreal, Canada
国際学会	Aoki T, Mizutani T, Nojima K, Takagi T, Okumura R, Yuba Y, Ueba T, Takahashi JA, Miyatake S, Nozaki K, Taki W, Matsutani M; Phase II Study of Ifosfamide, Carboplatin and Etoposide for Patients with Glioblastoma at first relapse. 19th Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology November 13-16, 2014 Miami, Florida
国際学会	Yasuhiro Kawabata, Tetsuya Tsukahara, Kohsuke Yamashita, Hidenori Miyake, Shunichi Fukuda, Tomokazu Aoki, Satoru Kawarazaki; Thromboembolism During Coil Embolization Of Ruptured And Unruptured Cerebral Aneurysm Congress of Neurological Surgeons 2014 Annual Meeting November 18-22, 2014 Boston, USA
国際学会	Shunichi Fukuda, Yuji Shimogonya, Miyuki Fukuda; Investigations Using a Combination of Computational Fluid Dynamics Technique and an Animal Model of Experimentally Induced Cerebral Aneurysms Suggest Important Roles of Wall Shear Stress on the Cerebral Aneurysm Development International Stroke Conference 2015 Feb 11, 2015 Nashville, TN
国内学会	福田俊一、塚原徹也、青木友和、川端康弘、河原崎知、安里亮:頭頸部悪性腫瘍治療における頸動脈血行再建術について 第67回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 2014年4月5日 大阪
国内学会	青木友和:悪性グリオーマとギリアダデル 第34回日本脳神経外科コンgres総会 2014年5月16日 大阪
国内学会	田中将志、松尾禎之、佐々木洋介、山陰一、村中和哉、塚原徹也、島津章、浅原哲子:頸動脈プラーク浸潤マクロファージ及び末梢血単球のM1/M2様形質に及ぼす肥満・糖尿病の影響 第35回日本肥満学会 2014年10月24日~25日 宮崎

国内学会	伊東悠貴、福田俊一、川端康弘、塚原徹也、青木友和、河原崎知：治療が困難であったPICA近位部破裂動脈瘤の1例 第68回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 2014年9月6日 大阪
国内学会	青木友和：悪性グリオーマとBUNUウェハー 第19回日本脳腫瘍の外科学会 2014年9月13日 東京
国内学会	福田俊一、下権谷祐児、塚原徹也、福田美雪：共同臨床研究未破裂脳動脈瘤の増大・破裂危険因子に関するCFD解析を用いた研究 (CFD ABO Study) の開始について 第73回日本脳神経外科学会総会 2014年10月10日 東京
国内学会	青木友和：再発悪性神経膠腫に対するTemozolomideとACNU併用科学療法(第I/II相試験) 第32回日本脳腫瘍学会学術集会 2014年11月30日 東京
国内学会	川端康弘：破裂囊状脳動脈瘤の治療成績 第30回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 2014年12月5日 東京
国内学会	福田俊一、下権谷祐児、井本恭秀、塚原徹也、青木友和、川端康弘、河原崎知、福田美雪：脳動脈瘤発生における血行力学的因子の役割についての検討～数値流体力学(CFD)的解析～ 第40回日本脳卒中学会総会 STROKE2015 2015年3月26日、広島
国内学会	川端康弘、塚原徹也、福田俊一、青木友和、河原崎知、齊ノ内信：後下小脳動脈が硬膜内外からの二重起始であったために母血管閉塞が可能であった椎骨解離性脳動脈瘤の一例 第40回日本脳卒中学会総会 STROKE2015 2015年3月26日、広島
国内学会	後藤昌広、大谷良、川端康弘、齊ノ内信、安田謙、村瀬永子、中村道三、塚原徹也：放射線治療後の頸部血管狭窄に対して血管内治療を施行した2症例の検討 第40回日本脳卒中学会総会 STROKE2015 2015年3月26日、広島

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Acta Neurochirurgica (Wien) Suppl.119	Takeo Hatano, Tetsuya Tsukahara; Endovascular treatment for intracranial vertebral artery stenosis Acta Neurochirurgica (Wien) Suppl.119:83-89, 2014
脳神経外科ジャーナル Vol.23 (2014) No.8	福田俊一、下権谷祐児：脳動脈瘤の形成・増大・破裂における血行力学的因子の役割について—計算流体力学(CFD)解析と動物モデルによる実験を相補的に用いた検討— 脳神経外科ジャーナルVol.23 (2014) No.8: 622-666
Neurol Med Chir (Tokyo) 54	Tomokazu AOKI, Ryo NISHIKAWA, Kazuhiko SUGIYAMA, Naosuke NONOGUCHI, Noriyuki KAWABATA, Kazuhiko MISHIMA, Jun-ichi ADACHI, Kaoru KURISU, Fumiyuki YAMASAKI, Teiji TOMINAGA, Toshihiro KUMABE, Keisuke UEKI, Fumi HIGUCHI, Tetsuya YAMAMOTO, Eiichi ISHIKAWA, Hideo TAKESHIMA, Shinji YAMASHITA, Kazunori ARITA, Hirofumi HIRANO, Shinobu YAMADA, and Masao MATSUTANI for the NPC-08 study group; A Multicenter Phase I / II Study of the BGNU Implant (Gliadel® Wafer) for Japanese Patients with Malignant Gliomas Neurol Med Chir (Tokyo) 54,290–301, 2014
Acta Neurochirurgica Suppl.119	Tetsuya Tsukahara, Giuseppe Esposito, Hans-Jakob Steiger, Gabriel J.E.Rinkel, Luca Regli. Trends in Neurovascular Interventions Acta Neurochirurgica Suppl.119: 2014
国立医療学会誌 医療 Vol.68 No.9	塚原徹也、瀬田公一：京都医療センターでの医療連携への取り組み 国立医療学会誌 医療 Vol.68 No.9 (433-441) 2014

血管外科



診療科長
浅田 秀典

専門医資格等 心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医
日本脈管学会評議員
旭川医科大学 医学博士

専門分野 血管外科(閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、急性動脈閉塞、血管炎、血管外傷に対する各種血行再建術)、
静脈、リンパ疾患

□ 診療科の特徴

- あらゆる診療科や地域医療機関で直面した血管疾患の問題に迅速に対応してまいります。
- 患者さんには診療内容に対する十分な説明と満足な治療成果が得られるよう努力いたします。
2006年(平成18年)4月に発足した、主に末梢動脈疾患に対する血行再建を担当する診療科です。
近年、糖尿病や腎不全による慢性透析患者さんが増加するとともに、閉塞性動脈硬化症例(ASO)が増加しています。
閉塞性動脈硬化症とは、動脈硬化による下肢血流障害により各種症状(歩行時の下肢の痛み、安静時の足の痛みおよび足部潰瘍・壊死)を生じ、最終的には下肢切断にも至る疾患です。
このような症例には、迅速な診断とともに適切な治療が必要で、時には技術的に困難とされる足関節周囲への末梢バイパス手術と適切な局所処置が必要となります。
当科は、京都では数少ない血管外科専門科として日々下肢血流障害の治療にあたっています。
患者さんの多くは動脈硬化性の全身合併症があり、術前評価には循環器内科、脳神経外科、また、術前後には麻酔科はもちろん、糖尿病内科、腎臓内科、形成外科、整形外科、皮膚科などとの協力が必要で、各科連携した総合的診療を心がけています。

□ 主な対象疾患

大動脈疾患(腹部大動脈瘤、大動脈解離など)
閉塞性動脈硬化症(糖尿病合併症例、慢性透析例を含む)
閉塞性血栓性血管炎(バージャー病)
急性動脈閉塞症(血栓症、塞栓病、外傷など)
下肢静脈瘤、静脈(鬱滞)性潰瘍
深部静脈血栓症、肺塞栓症
リンパ浮腫
血管内治療(動・静脈閉塞性疾患、動脈瘤)
内シャント(blood access)作成

□ 診療(業務)内容

外来診療は、月、水の午前・午後、木曜日午前中の3日間実施しております。
心疾患、脳疾患、糖尿病、腎臓病などの併存症を持っている方でも院内全体の診療科が協力し、安全で安心できる治療を行っています。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
11.7名	235名	18.2日

外来患者数

1日平均患者数
10.5名

主な手術・検査の件数など

下肢末梢動脈手術	腹部大動脈瘤手術	透析内シャント手術	下肢静脈瘤手術
49件	18件	91件	2件
四肢カテーテル治療	四肢動脈造影		
36件	99件		

□ 地域医療連携・広報活動

2013年4月20日 KCJL市民公開講座「ここまでできる外科的下肢血行再建」 浅田 秀典

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演 者・演 題・学 会 名
国内学会	浅田 秀典 「ここまでできる外科的下肢血行再建」 KCJL市民公開講座 2013.4.20:京都
国内学会	浅田 秀典 「血管外科専門医の立場からのPAD治療」 末梢動脈疾患フォーラム 2013.6.27:京都
国内学会	浅田 秀典 「PAD治療に対するPTAの功罪」 第11回末梢血管外科治療戦略を考える会 2013.9.14:大阪
国内学会	浅田 秀典 「PADに対する外科治療」 神戸心臓血管外科セミナー 2013.10.25:神戸
国内学会	浅田 秀典 「血管外科医の立場からみた血管検査」 第13回京滋血管診療フォーラム 2014.2.13:京都
国内学会	浅田 秀典 「外腸骨動脈 - 大腿動脈交差バイパスの有効性」 第44回日本心臓血管外科学会 2014.2.19~2014.2.21:熊本
国内学会	浅田 秀典 「inflow確保に一考を要したdistal bypassの一例」 第28回日本血管外科学会近畿地方会 2014.3.1:神戸

心臓外科



診療科長
部長（医療安全担当）
白神 幸太郎

専門医資格等 心臓血管外科専門医、指導医
外科専門医
専門分野 成人心臓大血管疾患
得意疾患 成人心臓大血管手術

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	片岡 剛	心臓血管外科専門医 外科専門医 脈管専門医	成人心臓大血管疾患	成人心臓大血管手術

□ 診療科の特徴

京都府南部地域における循環器疾患の基幹施設として機能すべく、2011年に開設。2013年までの実績により、心臓血管外科専門医認定機構より基幹施設認定を受けた。①心臓外科診療を通して人々のお役に立つ②手術や診療の透明性を確保する③循環器診療の最後の砦となる、という3つの診療指針の下、循環器内科、血管外科、救命救急科、麻酔科との緊密な連携を維持しながら安全な医療を提供するように努力している。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞など）に対する冠動脈バイパス術
弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患など）に対する弁形成術や弁置換術、不整脈手術
大血管疾患（胸部大動脈瘤、急性大動脈解離など）に対する人工血管置換術

□ 診療（業務）内容

心臓大血管疾患の手術適応およびリスク評価を体系的にかつ厳密に行い、安全な手術治療を目指す。循環器内科、血管外科と共に心臓血管カンファレンスを行い、手術適応、術前リスクと治療方針の検討、周術期治療経過の報告を行い、治療の透明性を担保している。また緊急を要する症例について積極的に手術治療を行い、地域医療に貢献することを目標としている。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
6.6名	68名	33.0日

外来患者数

1日平均患者数
4.9名

主な手術・検査の件数など

冠動脈バイパス術	心臓弁膜症手術	胸部大動脈手術	その他心臓手術
21件	39件	18件	4件

2011年4月心臓外科開設。2011年6月より12月までに34例、2012年65例、2013年74例、2014年72例の心臓大血管手術を施行。2014年は単独冠動脈バイパス術21例中、9例を体外循環非使用手術、2例を体外循環使用心拍動下手術、5例を心停止下手術として施行している。弁膜症に対しては39例、55弁に対して治療を行った。大動脈弁手術は22例、生体弁による大動脈弁置換術が17例、機械弁使用1例、弁形成術4例であった。僧帽弁閉鎖不全症に対しては弁形成術を第一選択としており、僧帽弁手術22例のうち弁形成術が13例であった。心房細動に対しても積極的にメイズ手術を施行し、7例中5例が正常洞調律に復帰した。予定手術における院内死亡は2例で術後前縦隔洞炎から敗血症を続発した大動脈弁置換術/冠動脈バイパス術を施行した1例、術後大腿骨転子骨折から長期臥床となり肺炎にて失った大動脈弁置換術の1例で30日以内死亡はなかった。緊急手術では術前臓器灌流不全によるショックを来した急性大動脈解離症例、術中冠動脈解離を生じた急性大動脈解離症例の2例を術後早期に失った院内死亡率5.6%であった。

□ 地域医療連携・広報活動

医師会、救急隊を通じての広報活動を行い、他院循環器内科とも積極的に協働している。院外からの手術目的紹介症例は年々増加している。

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

演 題 ・ 学 会 名
白神 幸太郎 他 京都大学における心臓血管外科医教育プログラム—京都大学心臓血管外科教育プログラム評価委員会の活動 日本外科学会雑誌111号3,33-35.2014
白神 幸太郎 他 京都大学における心臓血管外科医教育プログラム—京都大学心臓血管外科教育プログラム評価委員会の活動 白神幸太郎他 第114回日本外科学会総会 2014.4.3 京都
白神 幸太郎 他 京都大学における心臓血管外科医教育プログラムとその効果 第67回日本胸部外科学会総会 2014.10.1 福岡
白神 幸太郎 他 心臓血管外科領域における客観的外科的技術試験の試験的導入 第67回日本胸部外科学会総会 2014.10.1 福岡
白神 幸太郎、吉良 浩勝、片岡 剛、浅田 秀典 心臓大血管手術を要する宗教的輸血拒否患者への取り組み 第70回京滋循環器懇話会 2014.9.18 京都
白神 幸太郎、吉良 浩勝、片岡 剛、浅田 秀典 特発性血小板減少性紫斑病、大動脈弁狭窄症、冠動脈疾患を有する症例に対する手術 第58回京都循環器談話会 2014.11.29 京都
片岡 剛、白神 幸太郎、浅田 秀典、吉良 浩勝 鈍的胸部外傷により生じた腕頭動脈、右鎖骨下動脈偽性動脈瘤に対する一手術例 第42回日本血管外科学会 2014.5.22青森
片岡 剛、白神 幸太郎、浅田 秀典、吉良 浩勝 横隔膜下大動脈からCelia, SMAへの灌流下にCeliac上遮断で施行した傍腎動脈腹部大動脈瘤の一例 第42回日本血管外科学会 2014.5.23青森
片岡 剛、白神 幸太郎、浅田 秀典、吉良 浩勝 両下肢に重度壊死を伴ったCLIIに対して、両側distal dual bypassを施行し、救済治療できた一例 第55回日本脈管学会2014.10.31倉敷
片岡 剛、白神 幸太郎、浅田 秀典、吉良 浩勝 開心術後急性期における利尿剤効果の比較検討 トルバプタンvsフロセミド 第42回日本集中治療医学会 2015.2.10 東京

皮膚科



医長
十一 英子

専門医資格等 日本皮膚科学会皮膚科専門医
京都大学医学博士
京都大学医学部臨床教授
京都皮膚科医会理事

専門分野 皮膚科一般
皮膚免疫

得意疾患 乾癬
糖尿病足病変

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	岡本奈都子	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
医師	渋谷真美		皮膚科一般	
レジデント	徳永 茉以		皮膚科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本皮膚科学会専門医研修施設 生物学的製剤使用承認施設
-------	--------------------------------

1. 乾癬に対する生物学的製剤による治療を行っています。
2. 糖尿病足病変、基礎疾患を持つ蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症や難治性潰瘍など、総合病院の特色を生かして他科と密に連携して治療しています。
3. 地域の他病院から紹介された診断困難な症例、難治例、重症例なども多く受け入れています。

□ 主な対象疾患

アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、うつ滞性皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、掌蹠膿疱症、薬疹、水疱症、細菌感染症（ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹、など）、ウイルス感染症（帯状疱疹、単純疱疹、カポジ水痘様発疹症、尋常性疣贅など）、真菌感染症（足白癬、股部白癬、爪白癬、カンジダ症など）、皮膚潰瘍、皮膚腫瘍など

□ 診療（業務）内容

糖尿病に合併する皮膚疾患：糖尿病センターとの連携のもと、糖尿病と関連した足病変、皮膚病変の診療を行っています。

乾癬：中等症～重症では、免疫抑制剤や生物製剤の治療を受ける患者さんが増えており、スクリーニング検査をし適応を決め投与しています。

帯状疱疹（ヘルペス）：重症度に応じて、抗ウイルス剤の内服、入院で点滴治療を行っています。

爪白癬：難治な爪の水虫には抗真菌剤の内服治療を行っています。

接触皮膚炎：かぶれの原因検索に、パッチテストを行っています。

薬疹：重症薬疹は入院で治療しています。

水疱症：天疱瘡の中等症以上では血漿交換療法や大量γグロブリン療法を行っています。

診断・治療のために積極的に皮膚生検を行っています。

診療実績(平成26年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	3.8	60	22.7

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	73.8

主な手術・検査の件数など

	皮膚生検	皮膚切開術	皮膚皮下腫瘍摘出術
2014年度	246件	127件	79件

学術活動報告(学会・研究発表など)

演題・演者・学会名
陰茎のみのPGの1例 徳永茉莉、渋谷真美、岡本奈都子、十一英子 第113回 日本皮膚科学会総会 2014年5月31日 京都
陰部潰瘍と口唇・口腔内潰瘍を認めたサイトメガロウイルス感染症の1例 徳永茉莉、渋谷真美、岡本奈都子、十一英子、山本鉄郎 第435回 日本皮膚科学会京滋地方会 2014年6月28日 京都
結節性紅斑を契機に肉芽腫性乳腺炎の診断に至った妊婦の1例 岡本奈都子、徳永茉莉、渋谷真美、十一英子、吉川伊津美、坂田晋吾 第438回 日本皮膚科学会京滋地方会 2014年12月20日 京都

投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
嘉山 智子、野々村 優美、岡本 奈都子、十一 英子 蜂窩織炎との鑑別を要した壊疽性膿皮症の1例 皮膚科の臨床. 56(4):558-561, 2014
十一 英子 糖尿病潰瘍 フットケアのポイント まるわかり創傷治療のキホン 254-258 宮地良樹編 南山堂 2014 9月
楠葉 展大、辻花 光次郎、浦田 あすか、鬼頭 昭彦、十一 英子 I型糖尿病を伴う慢性皮膚粘膜カンジダ症に口唇の有棘細胞癌を生じた1例. 臨床皮膚科 68(11):889-893, 2014
Okamoto N, Aoto T, Uhara H, Yamazaki S, Akutsu H, Umezawa A, Nakauchi H, Miyachi Y, Saida T, Nishimura EK. A melanocyte-melanoma precursor niche in sweat glands of volar skin. Pigment Cell Melanoma Res. 2014 Nov;27(6):1039-50

泌尿器科



診療部長 科長
奥野 博

専門医資格等 日本泌尿器科学会専門医・指導医、京都大学臨床教授、関西医科大学臨床教授、日本生殖医学会評議員、日本アン드로ロジー学会評議員、日本癌治療認定医、日本移植学会腎移植認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、京都大学医学博士

専門分野 泌尿器科一般

得意疾患 前立腺癌

男性学

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	三品 睦輝	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本癌治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 京都大学医学博士	泌尿器科一般	膀胱癌 精巣癌 尿路結石症
医 師	眞鍋 由美	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	女性泌尿器科学
医 師	田島 基史	日本泌尿器科学会専門医 ICD: Infection control doctor	泌尿器科一般	尿路性器感染症
医 師	藤井 将人	日本泌尿器科学会専門医 日本癌治療認定医	泌尿器科一般	前立腺肥大症 PVP
医 師	松本 敬優	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	膀胱癌 尿路変更術
医 師 (非常勤)	伊東 晴喜	日本泌尿器科学会専門医・指導医	泌尿器科一般	夜間頻尿

□ 診療科の特徴

施設認定等 日本泌尿器科学会研修施設

1. 体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術・検査(痛みが少なく入院期間を短く)により患者さんへの負担の軽減を図ります。
2. 最先端医療も積極的に取り入れます。
3. 地域の開業医、診療所、病院と積極的に医療連携を行います。
4. 患者さんの人権を尊重し、安心と満足のいく良質の医療提供を目指します。

□ 主な対象疾患

腎臓癌、膀胱癌、前立腺癌、副腎腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、過活動膀胱、夜間頻尿、尿失禁、膀胱瘤、骨盤臓器脱、男性不妊症、性機能障害、内分泌障害、尿路感染症、性感染症、小児泌尿器科、腹膜透析、慢性腎不全

□ 診療(業務)内容

- ・尿路性器悪性腫瘍に対する集学的治療を多部門と連携し積極的に行っている
- ・体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術に取り組んでいる
- ・初診外来担当医は患者さんの入院、手術、退院後の診療を一貫して責任をもって受け持つ
- ・外来及び入院看護師には排尿機能検査士の取得者を配置し、専門的な医療と看護を提供
- ・外来診療:木曜は4診 火曜、金曜は3診、月曜、水曜は2診
- ・手術:月、水、金曜日の週3日間
- ・火曜日の早朝には外来カンファレンス、夕方からは病理医を招いて臨床病理カンファレンス

- ・木曜日の早朝から全体回診(医師、看護師長)
- ・木曜日の朝に放射線科医を招いて放射線画像・放射線治療カンファレンス
- ・木曜日夕方から薬剤師、看護師を交えた症例カンファレンス
- ・金曜日早朝には最新の海外文献の抄読会やビデオ供覧会
- ・平成23年11月～前立腺肥大症に対し、光選択的前立腺レーザー蒸散術(PVP)を導入
- ・平成25年02月～前立腺癌に対し、腹腔鏡下前立腺全摘を導入
- ・平成26年08月～前立腺癌に対し、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘を導入



左から:コンソールにて操作する奥野部長 第1助手の三品医長 第2助手の眞鍋医師

□ 診療実績(平成26年度)

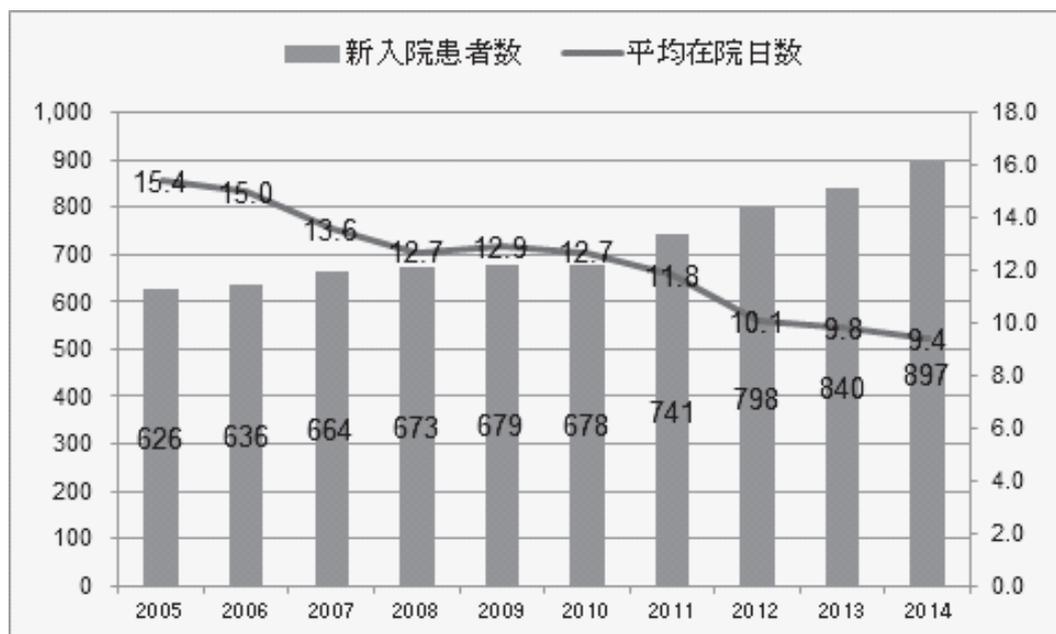
入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	23.3	897	9.4

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	77.2

入院統計(年度)過去10年間の推移

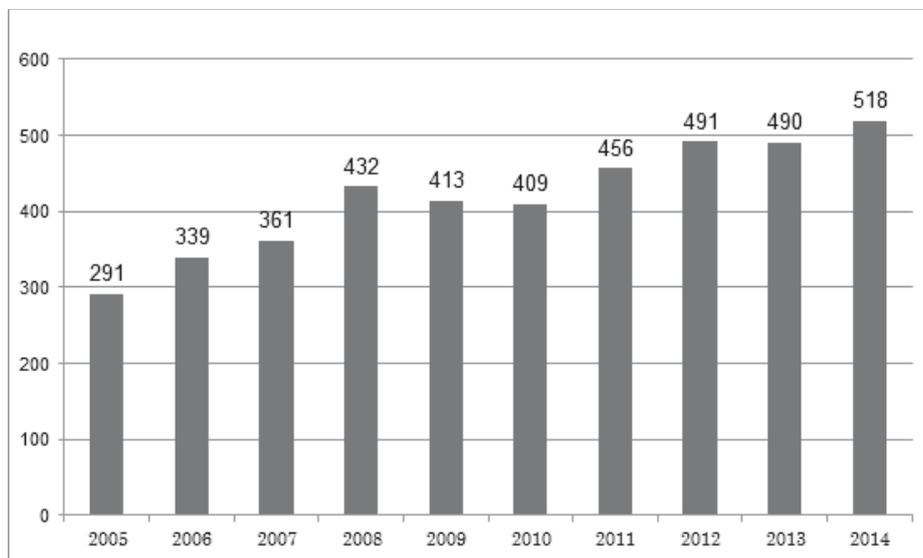


主な手術・検査の件数など

	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘	腹腔鏡下前立腺全摘	腎摘 (腹腔鏡含め)	前立腺肥大症 内視鏡手術	膀胱癌内視鏡 手術	骨盤臓器脱・ 尿失禁手術
2014年度	23件	7件	25件	86件	90件	20件

手術統計(年度) 過去10年間の推移

---ESWLを除く(2012年2月手術室導入 2014年2月放射線部門へ移転)



□ 地域医療連携・広報活動

第19回 内科ー泌尿器科病診連携の会(藤ノ森カンファレンス) テーマ「ロボット支援手術の最前線」
2015.03.14(京都・ホテルグランヴィア京都)

第1回Kyoto Hands-on Seminar 座長 奥野博:基調講演 奥村和弘「腹腔鏡下前立腺全摘の実践」
2014.05.17(京都・アーバンネット四条烏丸ビル7F)

Male Luts懇話会 講師 奥野博「前立腺肥大症の最近の話題」～実地医家との連携の重要性～2014.06.21
(京都・グランヴィア京都)

第3回京都医療センター医療連携フォーラム 演者 奥野博:臓器別紹介「泌尿器科癌」 2014.07.12(京都・京都医療センター看護助産学校)

第3回京都医療センター医療連携フォーラム 演者 奥野博:トピックス「ロボット(ダ・ヴィンチ)支援手術が始まります」 2014.07.12(京都・京都医療センター看護助産学校)

伏見医師会ランチョンセミナー 講師 奥野博:泌尿器科腫瘍最前線ー当院でロボット支援(ダ・ヴィンチ)手術がはじまりましたー 2014.10.17(京都・伏見医師会館)

FM8 4 5「からだ元気コーナー」 出演 奥野博:「前立腺がん手術の最前線ー当院でロボット支援手術がはじまりましたー」 2014.10.28(京都・FM8 4 5)

市民公開講座 もう前立腺がんなんか怖くない 講師 奥野博:「知っておこう!聞いておこう!検診を受けよう!前立腺がんの基本」 2014.11.23(京都・キャンパスプラザ京都)

伏見泌尿器科連携の会 座長 奥野博:特別講演 濱砂良一「尿路感染症-ウソとホント」 2015.02.14(京都セ
ンチュリーホテル・京都市)

第14回京都医療センターがん診療セミナー 講師 奥野博:「膀胱がんのオーバービュー」もっと知ってほしい
膀胱がんのこと 2015.03.26(京都・京都医療センター多目的ホール)

市民公開講座 トイレが近くて困っていませんか? 講師 三品睦輝:「50歳からの男性の健康を考える～前立
腺の病気～」 2015.01.24(京都・京都市呉竹文化センター)

日医生涯教育協力講座 かかりつけ医のための泌尿器科疾患診療のポイント 講師 眞鍋由美:「尿が近い、
漏れる」 パネルディスカッション「主訴から考える泌尿器科疾患診療のポイント」 2014.11.29 (京都・京都府
医師会館3階310大会議室)

第14回京都医療センターがん診療セミナー 講師 松本敬優:「尿路変更術とは?」もっと知ってほしい膀胱がん
のこと。 2015.03.26(京都・京都医療センター多目的ホール)

院内感染対策講習会 尿検体の採取法 田島基史:2014.06.17,2014.07.10(京都医療センター 多目的ホール)

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

	演者・演題・学会名
国内学会 (神戸)	奥野博、増田憲彦、佐倉雄馬、大杉治之、北村悠樹、藤井将人、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝:PSAグレーゾーン症例において不必要な前立腺生検回避のための生検前MRIとPSA/パラメーターは有用か? 第102回日本泌尿器科学会総会 2014.04.24-27(発表04.24)
国内学会 (神戸)	奥野博:ランチョンセミナー28「光選択的前立腺レーザー蒸散術(PVP)の最前線2014」国内におけるPVP治療の現状。第102回日本泌尿器科学会総会 2014.04.24-27(発表04.26)
国内学会 (東京)	奥野博、藤井将人、増田憲彦、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝:光選択的前立腺レーザー蒸散術(PVP)治療に対する医師及び看護師の医療者側の視点から見た評価(導入初期と現在の比較)。第3回 PVP研究会学術集会 2014.06.15
国内学会 (京都)	奥野博:基調講演「前立腺癌骨転移治療について」。京都泌尿器科骨転移セミナー。2014.07.09(京都・センチュリーホテル)
国内学会 (京都)	奥野博:Opening Remarks「ロボット支援手術の概要」。第19回 内科-泌尿器科病診連携の会(藤ノ森カンファレンス) 2015.03.14(京都・ホテルグランピア京都)
国内学会 (神戸)	眞鍋由美、大杉治之、藤井将人、北村悠樹、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:前立腺癌患者のQOLに関するEPIC調査票を用いた単施設前向き縦断的研究:内分泌治療によるQOL変化について。第102回日本泌尿器科学会総会 2014.04.24-27(発表04.24)
国内学会 (神戸)	藤井将人、増田憲彦、佐倉雄馬、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:PSAグレーゾーン症例において不必要な前立腺生検回避のために生検前MRIとPSA/パラメーターは有用か?前立腺全摘標本からの解析。第102回日本泌尿器科学会総会 2014.04.24-27(発表04.24)
国内学会 (神戸)	北村悠樹、大杉治之、藤井将人、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:異好性抗体によるPSA偽高値の臨床的検討。第102回日本泌尿器科学会 2014.04.24-27(発表04.27)
国内学会 (東京)	藤井将人、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:80ml以上の前立腺肥大症に対する光選択的前立腺レーザー蒸散術(PVP)は有効で安全か?(当院の治療経験より) 第3回 PVP研究会学術集会 2014.06.15
国内学会 (宮崎)	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博、瀬崎伸一、荒田順:難治性尿道狭窄に対し尿道狭窄部口腔粘膜移植術を施行した1例日本泌尿器科学会第86回宮崎地方会 2015.01.17
国内学会 (横浜)	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:光選択的前立腺レーザー蒸散術(PVP)後の勃起・射精能についての検討 第33回泌尿器科手術研究会 2015.01.24
国内学会 (福岡)	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:当院における光選択的前立腺レーザー蒸散術(PVP)196例の治療成績 第28回日本泌尿器内視鏡学会総会 2014.11.26-28 (発表 11.28 福岡・ヒルトン福岡シーホーク)
国内学会 (横浜)	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:PVP術前後における勃起・射精に関する検討 第33回泌尿器科手術手技研究会2015.01.24 (横浜・ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル)
国際学会 (京都)	Masato Fujii, Haruyuki Ohsugi, Yuki Kitamura, Yumi Manabe, Haruki Ito, Mutsuki Mishina, Hiroshi Okuno, Maiko Kakita, Rieko Nakatani, Mitsuhide Naruse: Pheochromocytoma associated with multiple paragangliomas that were difficult to distinguish from malignancy: two case reports. International Symposium on Pheochromocytoma and Paraganglioma 2014.09.17(京都・メルパルク京都)
国内学会 (岡山)	伊東晴喜、増田憲彦、増井仁彦、松本敬優、藤井将人、田島基史、眞鍋由美、三品睦輝、奥野博:前立腺癌内分泌療法に伴う排尿障害の検討～特に夜間頻尿を中心に～ 第21回日本排尿機能学会 2014.09.18-20(発表09.19)
国内学会 (京都)	田島基史、北村悠樹、藤井将人、松本敬優、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:集学的治療により制御されている前立腺癌肉腫の1例。第224回Monthly Meeting 2014.07.26(京都・京都大学医学部芝蘭会館別館)

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Nanba A, Usui T, Tagami T, Okuno H, Suzuki T, Shimbo T, Shimatsu A, Naruse M. A subtype prediction score for primary aldosteronism. J Hum Hypertens 20: 1-5, 2014
奥野博:特集 副腎腫瘍を再考する一診断と最新の低侵襲治療 『副腎癌』 臨泌68:608-613, 2014
奥野博:光選択的前立腺レーザー蒸散術 (photoselective vaporization of the prostate: PVP) 治療に関する医師および看護師の観点からの評価-導入初期と現在の比較。泌尿器外科27(12): 1909-1912, 2014
北村悠樹、奥野博、佐倉雄馬、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、田岡利宣也、寺井章人、杉元幹史、箕善行:ピカルタミド治療中に乳房痛を発現した前立腺癌患者に対するフルタミドへの変更療法の有用性に関する研究。泌尿紀要 60:17-23, 2014
大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:筋層非浸潤性膀胱癌に対する再発予防目的Mitomycin C膀胱内注入療法の経験。泌尿紀要 60:375-379, 2014
大杉治之、藤井将人、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:腎細胞癌胃転移の2例。泌尿紀要 60:475-479, 2014
藤井将人、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博、中谷理恵子、垣田真以子、成瀬光栄:悪性との鑑別が困難であった多発褐色細胞腫に多発傍神経節腫を合併した2症例 西日本泌尿器科 77: 88-94, 2015
眞鍋由美、大杉治之、北村悠樹、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博:前立腺肥大症に伴う蓄尿症状に対するナフトピジルの有用性に関する単施設研究。「新薬と臨床」64(3): 266-274 (34-42)、2015 (2015.03.10)

産科婦人科



副院長
診療科長
高倉 賢二

専門医資格等 日本産科婦人科学会専門医・代議員
日本婦人科腫瘍学会専門医
日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
日本婦人科腫瘍学会 評議員
日本産婦人科内視鏡学会 評議員
日本内分泌学会 代議員
日本受精着床学会 評議員
京都大学 医学博士
京都大学医学部 非常勤講師
京都大学医学部 臨床教授
三重大学医学部 非常勤講師
三重大学医学部 リサーチ・アソシエイト
三重大学医学部 客員教授
関西医科大学 臨床教授

専門分野 婦人科腫瘍
産婦人科手術
内分泌疾患の診断・治療
不妊症の診断・治療

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医療情報部長	北岡 有喜	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学	
産科医長	山本 紳一	日本産科婦人科学会専門医・母体保護法指定医・京都大学 医学博士	産科一般	周産期
婦人科医長	高尾 由美	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士	産婦人科一般	婦人科腫瘍
産科医長	江川 晴人	日本産科婦人科学会専門医・京都大学 医学博士・日本周産期・新生児医学会専門医制度暫定指導医・母体保護法指定医・京都大学医学部 非常勤講師	産婦人科一般	周産期・合併症妊娠の管理・更年期・腹腔鏡下手術
婦人科医長	住友 理浩	日本産科婦人科学会専門医・日本婦人科腫瘍学会専門医・日本がん治療認定医機構がん治療認定医・日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コースインストラクター・ALSO-Japan認定インストラクター	産婦人科一般	婦人科腫瘍・周産期救急・リスクマネジメント
医師	伊藤 美幸	日本産科婦人科学会専門医 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	産婦人科一般	腹腔鏡下手術・更年期
医師	奥田亜紀子	日本産科婦人科学会専門医・日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	産婦人科一般	腹腔鏡下手術・周産期
医師	秦 さおり	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	婦人科腫瘍
医師	川村 洋介	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	
医師	中木 絢子	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	
専修医	下園 寛子		産婦人科一般	
専修医	平田侑里子		産婦人科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本婦人科腫瘍学会認定研修施設 日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医制度研修施設(指定) 日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医研修施設
-------	--

～産科～

何よりも安全で、妊婦さんひとりひとりが心から満足のいく分娩を提供します。

女性にとって、お産は重要なイベントです。そして、それぞれのお産についての妊産婦さんの考えや要望は年々変化してきています。私たちは、お産の質の向上、および医療者側のお産に対する的確な対応が、ますます大切なものとなってきていると考えています

～婦人科～

女性の社会進出に伴い、外来治療や低侵襲手術(腹腔鏡手術や腔式手術、小開腹手術)を推進し、早期の社会復帰を目指します。充実した診療スタッフにより、幅広い婦人科疾患に対して対応可能です。特に、婦人科がんに対してハイレベルな診療を行います。

□ 診療(業務)内容

～産科～

1. 妊婦健診では、一般的な健診のみならず、病棟助産師が立ち会い、継続して保健指導を行い、生活指導なども適宜行っています。
2. 分娩(出産)は、自然分娩を尊重しながらも、合併症や急変に対しても、小児科(NICU)・内科・麻酔科などとも連携をとり、チームワークで対応します。
3. 産前・産後の母乳ケアを行い、母乳育児をサポートします。
年間600例の分娩を取り扱っています。合併症妊娠やハイリスク妊娠の症例も多く取り扱っています。周産期救急搬送(母体搬送)の受け入れ件数は34件で地域の周産期医療にも貢献しています。なによりも安全で安心なお産を提供します。

～婦人科～

1. 治療前のインフォームド・コンセントを重視します
十分な説明を行い、納得いただいたうえで治療を行うことにより、満足の得られる医療を行うことを診療のモットーとしています。また、疾患について画一化された治療を行うのではなく、それぞれの患者さんの身体的・精神的・社会的状況や希望なども十分ふまえたうえで治療方針を決定します。
2. 幅広い婦人科疾患に対応します
充実した診療スタッフにより、良性疾患から悪性疾患まで幅広い婦人科疾患に対応可能です。
3. 低侵襲手術を行います
女性の社会進出に伴い、入院期間・自宅療養期間の短縮が求められています。そのような社会のニーズに応えるため、悪性(癌)の疑いのない腫瘍に対しては、積極的に低侵襲手術(腹腔鏡下手術、腔式手術、小開腹手術)を行い、早期の社会復帰を目指します。
4. 悪性腫瘍に対してハイレベルな診療を行います
京都府のがん診療拠点病院および日本婦人科腫瘍学会認定施設に指定されており、悪性腫瘍に対する診療経験が豊富にあります。常に最新の情報に基づいて、他科と連携してハイレベルな治療を行います。子宮頸癌に対する神経温存広汎性子宮全摘術に関しては2007年から先駆けて行っています。卵巣癌、子宮体癌に対しても、傍大動脈リンパ節郭清までの必要十分な手術を行う一方で、緻密な出血量の少ない手術操作により術後合併症を回避し、術後早期回復をはかります。リンパ浮腫専門外来を擁し、退院後のQOLにも配慮した診療を行います。
5. 更年期からの健康管理を推進します
直面する超高齢化社会においては、元気な老後を迎えられるよう更年期(50歳前後)からの健康管理がますます重要となります。女性特有の健康変化に対応するため、新たに更年期・骨粗鬆症外来を開設し、更年期からの健康管理を推進します。

□ 診療実績(平成26年度)

産科婦人科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	31.4	1,353	8.5

産科婦人科外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	74.1

主な手術・検査の件数など

	分娩件数	帝王切開件数	婦人科開腹手術
2014年度	555件	142件	199件
	悪性腫瘍手術	腹腔鏡下手術	腔式手術
	89件	97件	173件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	学会名・演題・演者
国内学会	第14回近畿産科婦人科内視鏡手術研究会・婦人科腫瘍専門医がTLHを習得する過程における問題点・関山健太郎、下園寛子、秦さおり、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、江川晴人、高尾由美、北岡有喜、山本紳一、徳重誠、高倉賢二
国内学会	KANPO Science Forum ～漢方薬で腹部愁訴の治療について考える～・周産期領域における漢方・江川晴人
国内学会	第66回日本産科婦人科学会学術講演会・12症例の自験例から明らかになったカルボプラチン過敏反応のリスク因子・伊藤美幸、下園寛子、秦さおり、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、関山健太郎、江川晴人、高尾由美、山本紳一、北岡有喜、高倉賢二
国内学会	第66回日本産科婦人科学会学術講演会・卵巢未熟奇形腫治療後19年目に発症したGrowing teratoma syndromeの一例・下園寛子、関山健太郎、秦さおり、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、高尾由美、江川晴人、山本紳一、北岡有喜、高倉賢二
国内学会	130回 近畿産科婦人科学会総会ならびに学術集会・当院における卵巢癌に対するペバシズマブ(BeV)投与の実際・秦さおり、関山健太郎、下園寛子、中木絢子、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、高尾由美、江川晴人、山本紳一、徳重誠、安井久晃、高倉賢二
国内学会	130回 近畿産科婦人科学会総会ならびに学術集会・当科における輸血拒否患者受け入れの考え方と現状・中木絢子、下園寛子、秦さおり、関山健太郎、江川晴人、高尾由美、山本紳一、北岡有喜、高倉賢二
国内学会	第50回日本周産期・新生児医学会学術集会・UAEを行うも止血困難であった癒着胎盤に対し開腹子宮縫合術(Square suture変法)を行い子宮温存し得た1例・清水操、江川晴人、秦さおり、奥田亜紀子
国内学会	第50回日本周産期・新生児医学会学術集会・胎児心拍数図にて異常を示したアルコール依存症合併妊婦の1例・江川晴人、清水操、秦さおり、奥田亜紀子、黒須英雄、河田興
国内学会	第6回京都周産期カンファレンス・川村洋介、江川晴人、下園寛子、中木絢子、秦さおり、奥田亜紀子、伊藤美幸、住友理浩、高尾由美、山本紳一、北岡有喜、高倉賢二
国内学会	第15回京都女性のヘルスケア研究会・当院における宗教的輸血拒否患者の現状・川村洋介、江川晴人、下園寛子、中木絢子、秦さおり、奥田亜紀子、伊藤美幸、住友理浩、高尾由美、山本紳一、北岡有喜、高倉賢二
国内学会	京都産科婦人科学会平成26年度学術集会・分娩進行中に全周性の子宮腔部脱落を認めた1例ー画像と文献的考察ー・中木絢子、下園寛子、平田侑里子、川村洋介、秦さおり、奥田亜紀子、伊藤美幸、住友理浩、江川晴人、高尾由美、山本紳一、北岡有喜、高倉賢二
国内学会	平成26年度治験・臨床研究研修会、パネル・ディスカッション 「誰にでも分かりやすいIRBでない」と意味がない!」高倉賢二

□ 投稿論文など

	タイトル・著書・雑誌名・著者
日本産科婦人科内視鏡学会雑誌,29(2),483-488,2014	初診時に子宮奇形を疑った子宮頸部polypoid endometriosisの一例・関山健太郎、秦さおり、清水操、山西優紀夫、奥田亜紀子、伊藤美幸、徳重誠、高倉賢二
治療薬ハンドブック2014,783-786	薬剤選択と処方のポイント 44 女性生殖器用薬・関山健太郎
日本周産期・新生児医学会雑誌,50(3),1083-1087,2014	胎児心拍数陣痛図で頻脈を示し、禁酒により改善を認めたアルコール依存症合併妊婦の1例・江川晴人、清水操、奥田亜紀子、秦さおり、黒須英雄、河田興

緩和ケア科



専門分野
緩和ケア

診療部長
(緩和ケア外科)
土屋 宣之



専門医資格等
日本緩和医療学会暫定
指導医
専門分野
緩和ケア

診療科長
(緩和ケア内科)
久保 速三

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	石田 大助	婦人科学会専門医	緩和ケア	

□ 診療科の特徴

施設認定等 日本緩和医療学会

□ 主な対象疾患

癌一般

□ 診療(業務)内容

- 与えられた構造の中で環境整備—視覚(照明、花木)、聴覚(院内放送の個室内制限)など—
- 利用者の価値観や生き方を尊重するためにことさら根気と丁寧さを要するケア、自立性を奪われていく困難と苦痛の中で行われるケア
- 上記のような場を提供・俯瞰、特殊な感情労働に従事するケアスタッフへの目配り
- 場の提供に続いてそこで有意義な時間空間を作る力を持った利用者や家族の選択のために入棟の適応の可否を判定員会で議論検討する。
- 目的としてでなく手段としての症状緩和、薬剤による対処療法の役割は限定的である。たとえ症状緩和に成功しなくとも生きる場所を提供できる可能性もある。自宅に遠く及ばなくとも、多職種による行事企画や音楽療法、食事への気配り、家人への配慮を通してかけがえない時間を過ごす場を作りうる。あくまで我々は触媒でしかないのだが。
- 在宅への橋渡し、レスパイト入院への門戸開放
- 遺族への配慮:訪問遺族の傾聴に時間をかける他に遺族会、遺族への書状を通して継続的な関わりを試みる
- 緩和ケアチームを中心とした、一般病棟、地域医療への貢献

□ 診療実績(平成26年度)

緩和ケア内科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	9.7名	4名	103.8日

緩和ケア内科外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	0.2名

緩和ケア外科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	10.7名	74名	46.0日

緩和ケア外科外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	3.8名

□ 地域医療連携・広報活動

- ・宇治徳州会病院 ファシリテーター及び演者 2014/1/18-19
- ・公立南丹病院 ファシリテーター 2014/2/9、11
- ・浜松医療センター ファシリテーター及び演者 2014/2/15-16
- ・京都市立病院 ファシリテーター及び演者 2014/3/1-2
- ・愛知医科大学 ファシリテーター及び演者 2014/3/7-8
- ・独立行政法人国立病院機構 京都医療センター フォローアップ研修会 企画責任者 2014/7/6
- ・市立奈良病院 ファシリテーター及び演者 2014/7/12-13
- ・静岡市立静岡病院 ファシリテーター及び演者 2014/7/26-27
- ・愛知県緩和ケアフォローアップ研修会 ファシリテーター及び演者 2014/10/13
- ・名古屋医療センター ファシリテーター及び演者 2014/10/18-19
- ・独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 企画責任者 2014/11/15-16

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
講演	市立奈良病院 緩和ケア勉強会 『緩和ケアと緩和ケア病棟』 2014/3/20
国内学会	第38回 日本死の臨床研究会年次大会 ポスター演題 2-B-03 『若い管理栄養士を成長させた緩和ケア病棟という場とその力』 2014/11/2
座長	第8回日本緩和医療薬学会 シンポジウム20『難治性疼痛に対する多職種アプローチ』 2014/10/5

眼科



診療部長
喜多 美穂里

専門医資格等 京都大学臨床教授
京都大学非常勤講師
京都大学医学博士
日本眼科学会指導医・日本眼科学会専門医
PDT認定医
Best Doctors 2012-2015

専門分野 網膜硝子体疾患
内視鏡併用硝子体手術

得意疾患 網膜剥離
糖尿病網膜症

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	濱 祥代	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医師	川越 直顕	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医師	藤井友起子	日本眼科学会専門医	眼科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等 日本眼科学会研修施設

- ・科長交代があった2012年より、手術・検査機器を整備し、網膜硝子体手術を本格始動いたしました。
- ・当院眼科は、白内障手術を多く手掛けること、網膜硝子体疾患に強いことが特長です。
- ・最新硝子体・白内障手術装置、広角観察システム、眼内シャンデリア照明、眼内内視鏡を用いた小切開硝子体手術で、糖尿病網膜症・網膜剥離・増殖硝子体網膜症などの高難度の網膜硝子体疾患の治療を行っています。
- ・2012年4月より新しく保険収載となった眼内内視鏡硝子体手術を積極的に行っています。内視鏡手術では、国内外で先駆的な役割を果たしています。
- ・眼科全般に、高度で最新の医療を提供します。
- ・新しい治療方法・手術機器の開発や、手術成績などに関して、国内外に情報を発信し、他施設との連携を密に行い、毎日の診療の場に還元できるように努力しています。
- ・糖尿病網膜症：当院がWHO指定の糖尿病センターであることもあり、当院糖尿病センター・内分泌代謝疾患センターと連携して、糖尿病患者さんの網膜症診療を担当しています。病気の進行を定期的にチェックし、必要に応じて、レーザーによる網膜光凝固術や、合併症である白内障や糖尿病網膜症に対し、手術治療を行います。
- ・未熟児網膜症：NICUを有する当院小児科と連携して、未熟児の重篤な合併症である網膜症に対し、赤ちゃんの視力を守るための検査・治療を行います。

□ 主な対象疾患

- ・網膜剥離・増殖硝子体網膜症・糖尿病網膜症・黄斑円孔・黄斑上膜・黄斑浮腫・加齢黄斑変性などの網膜硝子体疾患
- ・白内障全般、緑内障全般
- ・感染症および非感染性ぶどう膜炎・眼内炎・角膜炎、視神経疾患

□ 診療(業務)内容

1. “見える”というゴールを目標に、全身の一部としての眼科治療をめざします
眼科的疾患のほかにも様々な全身疾患を併せ持つ患者さんにも、手術をはじめ、様々な治療を安全に効率良く提供し、より良い視力の獲得にむけて努力しています。
2. 地域医療の一翼として、開業医や他病院の先生方と協力し、より良い医療の提供をめざします
さまざまな医療資源を備える総合病院として、ホームドクターの先生との連携のもと、より高度な医療の提供に努力しています。内視鏡硝子体手術をはじめとする先進的医療の実践に努めます。
3. メディカルスタッフ一丸となって、安心して確かな医療を実践します
医師、看護師、視機能訓練士、メディカルクラーク等のチームワークを大切に、各々の職種が全力で日々切磋琢磨し、安心して確かな医療を受けていただけるように努力しています。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

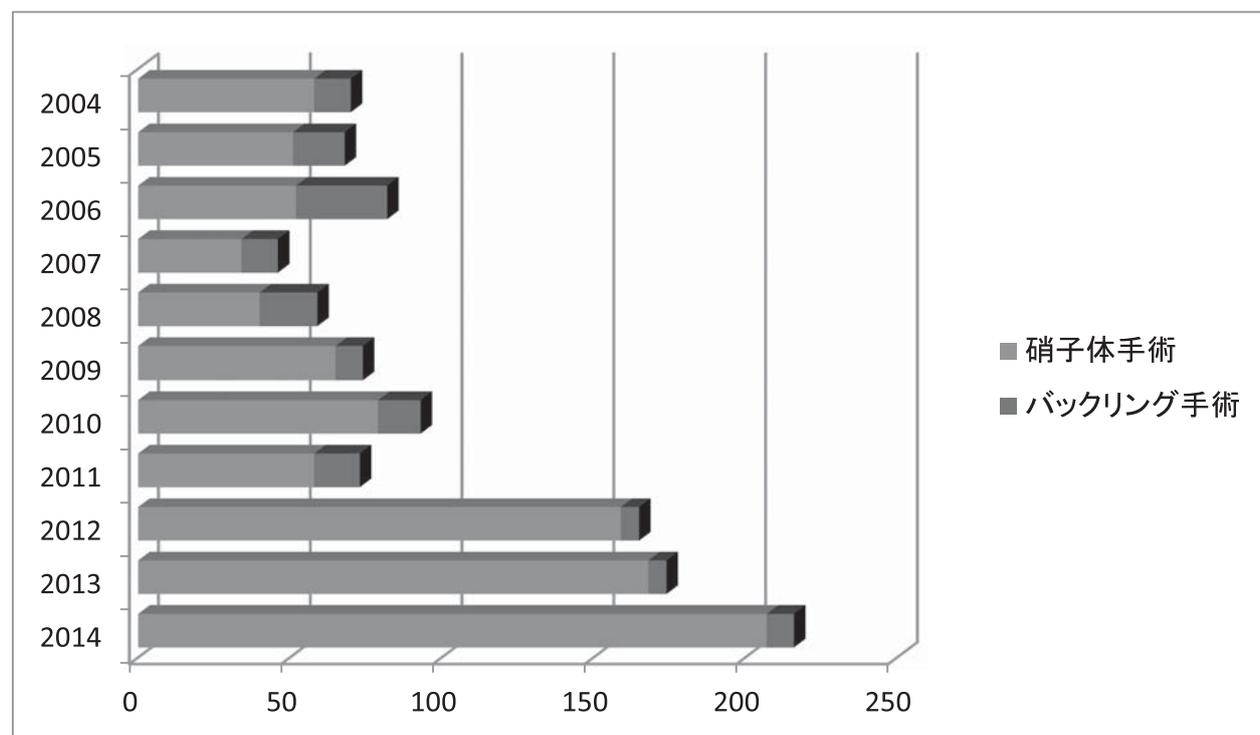
	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	16.8名	831名	7.4名

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	62.0名

主な手術・検査の件数など

	水晶体再建術	硝子体手術	網膜復位術	緑内障手術	手術件数合計
2014年度	1,028件	207件	9件	5件	1,157件



□ 地域医療連携・広報活動

- ・喜多美穂里：眼科診療最前線!「OCTで斬る!」：糖尿病センターだより27：14-15、2014
- ・喜多美穂里：眼科診療最前線!「糖尿病と網膜剥離」：糖尿病センターだより28：10-11、2014
- ・喜多美穂里：眼科診療最前線!「糖尿病と緑内障」：糖尿病センターだより29：12-13、2014
- ・喜多美穂里：眼科診療最前線!「糖尿病と白内障」：糖尿病センターだより30：12-13、2015
- ・喜多美穂里：糖尿病網膜症を斬る!(ビデオレター)：第4回京都医療センター医療連携フォーラム、京都市、2015.1.31

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
国際学会	Mihori Kita, Chi-Chun Lai, Marcio Nehemy, Kourous Rezaei, Kazuaki Kadonosono, Andre Gomes, Tarek Hassan, David Chow: Sweet dream to nightmare. (invited video): WOC2014, Tokyo, 2014.4.2-6.
国内学会	喜多美穂里、大島佑介、門之園一明、木村英也、日下俊次、栗山晶治、竹内忍：網膜剥離ファイトクラブ一症例をシェアして自分のものにする(インストラクションコース)：第68回日本臨床眼科学会、神戸、2014.11.14-16.
国内学会	平形明人、日下俊次、井上真、大島佑介、門之園一明、瓶井資弘、喜多美穂里、國方彦志：網膜硝子体手術一合併症の予防と対策(シンポジウム)：第53回日本網膜硝子体学会総会、第31回日本眼循環学会合同学会、大阪市、2014.11.28-30.
国内学会	喜多美穂里：糖尿病網膜症に対する光凝固と硝子体手術。手術基本手技(教育セミナー)：第38回日本眼科手術学会、京都市、2015.1.30-2.1.
国内学会	今井大輔、山本素土、藤井友起子、川越直顕、濱祥代、喜多美穂里：糖尿病網膜症における最周辺蛍光眼底造影検査の有用性：第65回京大眼科同窓会学会、京都市、2014.10.26.
国内学会	喜多美穂里：(座長)糖尿病黄斑浮腫における抗fumarase抗体の同定など：第65回京大眼科同窓会学会、京都市、2014.10.26.
国内学会	今井大輔、山本素土、藤井友起子、川越直顕、濱祥代、喜多美穂里：糖尿病網膜症における超広角レンズを用いた4方向視最周辺蛍光眼底造影の有用性：第53回日本網膜硝子体学会総会、第31回日本眼循環学会合同学会、大阪市、2014.11.28-30.
国内学会	谷生えり、山本素土、川端真美、日野富美子、西本浩子、田部直子、富沢由美子、細田祥勝、陣上陽子、服部秀嗣、林寿子、松本美保、栗山晶治：Vogt-小柳-原田病の漿液性網膜剥離消失後にReticular Pseudodrusenの出現を認めた1例：第55回日本視能矯正学会 京都 2014.11.29
国内学会	山本素土、平田泰介、松田由香理、吉永真由美、古谷友香、青木剛、森哲、宮原晋介：脈絡膜循環障害の急性期に脈絡膜厚を測定した1例：第53回日本網膜硝子体学会・第31回日本眼循環学会 大阪 2014.11.28-30
国内学会	川端真美、山本素土、日野富美子、西本浩子、田部直子、谷生えり、富沢由美子、細田祥勝、陣上陽子、服部秀嗣、林寿子、松本美保、栗山晶治：強度近視眼の短後毛様動脈を複数の検査機器で観察した1例：第53回日本網膜硝子体学会・第31回日本眼循環学会 2014.11.28-30
国内学会	吉仲さおり、山本素土、山藤満、大門彩香、横山純子、今井大輔、喜多美穂里：超広角走査レーザー検眼鏡撮影時のアーチファクトを除外する開眼方法の検討：第55回日本視能矯正学会 京都、2014.11.29
国内学会	山本素土、村山レオ、藤原喜久美、多賀俊介、渡辺佳代子、東浦理恵、内海隆生：眼底血管造影中に皮下に多数の滲出斑の副作用を来した1例：第55回日本視能矯正学会 京都、2014.11.29
国内学会	喜多美穂里：網膜硝子体、硝子体手術1(座長)：第38回日本眼科手術学会、京都市、2015.1.30-2.1.
国内学会	喜多美穂里：いまだきの眼内観察系はここまで進化した!(特別講演)：第9回京都緑内障クラブ一昴の会、京都市、2014.5.22.
国内学会	喜多美穂里：なんてたって内視鏡(特別講演)：第3回なでしこセミナー、京都市、2014.5.31.
国内学会	喜多美穂里(オーガナイザー)、大澤俊介、岡田守生、門之園一明、日下俊次、栗山晶治、小堀朗、本田茂：コールドケースの検討：第2回眼科コールドケース、京都市、東京、横浜市、福井市、津市、倉敷市、神戸市、2014.12.4
国内学会	喜多美穂里：どうして必要?眼科受診—あなたの説明で失明を防ぐ—：平成26年度内分泌・代謝性疾患研修会、京都市、2014.11.5.
国内学会	喜多美穂里：糖尿病網膜症の治療最前線—眼によりやさしい治療へ—(特別講演)：第26回京都糖尿病医学会学術講演会、京都市、2014.12.13.
国内学会	喜多美穂里：(特別講演 座長)フェイスリフトと難症例：市中病院セミナー、京都、2015.1.24
国内学会	喜多美穂里：M I V SにおけるシリコンオイルとP F C Lの使い方：市中病院セミナー、京都、2015.1.24
国内学会	藤井友起子、川越直顕、濱祥代、喜多美穂里：ディスカッション「糖尿病と眼病変—眼科の立場—」：第26回京都糖尿病医学会学術講演会、京都市、2014.12.13.
国内学会	喜多美穂里：薬物、眼科疾患：第37回コメディカル講習会、京都市、2015.2.21.
国内学会	喜多美穂里、渡部大介：裂孔原性網膜剥離：おもしろ看護眼科学 東京、2015.2.8
国内学会	喜多美穂里、渡部大介：ぶどう膜炎：おもしろ看護眼科学 東京、2015.2.8
国内学会	喜多美穂里、渡部大介：加齢黄斑変性：おもしろ看護眼科学 東京、2015.2.8
国内学会	喜多美穂里、渡部大介：これから：おもしろ看護眼科学 東京、2015.2.8
国内学会	渡部大介、喜多美穂里：なぜものが見えるか：おもしろ看護眼科学 東京、2015.2.8
国内学会	渡部大介、喜多美穂里：白内障：おもしろ看護眼科学 東京、2015.2.8
国内学会	渡部大介、喜多美穂里：糖尿病網膜症：おもしろ看護眼科学 東京、2015.2.8
国内学会	渡部大介、喜多美穂里：緑内障：おもしろ看護眼科学 東京、2015.2.8

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
Mihori Kita. Endoscope-assisted vitrectomy. World J Ophthalmol 4:52-55, 2014.
Akio Oishi, Noriko Miyamoto, Michiko Mandai, Shigeru Honda, Toshiyuki Matuoka, Hideyasu Oh, Mihori Kita, Tomoko Nagai, Nobu Bessho, Mamoru Uenishi, Yasuo Kurimoto, Akira Negi. LAPTOP study: a 24-month trial of verteporfin versus ranibizumab for polypoidal choroidal vasculopathy. Ophthalmol 121:1151-2, 2014.
喜多美穂里:細菌性眼内炎. 編集:坂本泰二. 専門医のための眼科診療クオリファイ 21. 眼科救急スクランブル, 327-329, 中山書店、東京、2014.
喜多美穂里:クリニカルケースション. 真菌性眼内炎の特徴を教えてください. 編集:坂本泰二. 専門医のための眼科診療クオリファイ 21.眼科救急スクランブル, 330-331, 中山書店、東京、2014.
喜多美穂里:網膜剥離. 今日の治療指針. 私はこう治療している. 監修:山口徹、北原光夫、総編集:福井次矢、高木誠、小室一成、1377-1379、医学書院、東京、2015.
川端真美、山本素士、栗山晶治:家族性ドルーゼン. 臨床眼科 68 1260、2014
喜多美穂里:眼内異物への対応. まさかに備える!眼外傷. 眼科グラフィック 3:82-85、2014.
喜多美穂里:内視鏡手術. 特集 網膜硝子体手術の特殊なデバイスの使い方. 眼科手術27:181-186、2014.
山本素士:眼底自発蛍光検査の現状と課題. 循環タイムズ 4:16-17、2014.3

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



診療科長
(耳鼻咽喉科)
辻 純

専門医資格等
日本耳鼻咽喉科専門医
京都大学医学博士
京都大学医学部臨床
教授
日本耳鼻咽喉科学会
代議員
専門分野
耳科学・耳鼻咽喉科
得意疾患
中耳疾患、めまい疾患



診療科長
(頭頸部外科)
安里 亮

専門医資格等
日本耳鼻咽喉科専門医
頭頸部がん専門医
内分泌・甲状腺外科専門医
気管食道科専門医
日本がん治療認定医
専門分野
頭頸部外科
得意疾患
頭頸部癌・甲状腺癌

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医員	嘉田 真平	日本耳鼻咽喉科学会専門医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部癌・甲状腺癌・音声疾患
医員	本多 啓吾	日本耳鼻咽喉科専門医 頭頸部がん専門医 日本がん治療認定医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部癌・甲状腺癌
医員	辻村 隆司	日本耳鼻咽喉科学会専門医・気管食道科専門医	耳鼻咽喉科一般、鼻副鼻腔疾患	鼻副鼻腔炎
専修医	片岡 通子		耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	耳鼻咽喉科一般

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修施設 内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医制度専門医研修施設 日本気管食道科専門医認定施設
-------	--

1. 伝音再建を中心とした中耳疾患手術
2. 頭頸部進行癌に対する拡大手術を中心とした集学的治療による治癒率向上
3. 頭頸部癌による低侵襲手術の開発によるQOL向上
4. QOLを考慮した甲状腺手術
5. 頭頸部・甲状腺外科執刀医養成のシステム
6. スタッフ全員による入院患者の診断・治療
7. 中耳・頭蓋底手術セミナーへ講師として参加

□ 主な対象疾患

- ・真珠腫性中耳炎・慢性中耳炎
- ・頭頸部癌(口腔癌:舌癌・歯肉癌・頬粘膜癌・口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、鼻・副鼻腔癌:上顎洞癌・篩骨同癌、耳下腺癌・顎下腺癌など)
- ・甲状腺癌・甲状腺良性腫瘍・副甲状腺腫瘍・バセドウ病(手術)
- ・頭頸部良性腫瘍・頭蓋底進展腫瘍・咽頭表在癌

□ 診療(業務)内容

耳鼻咽喉科と頭頸部外科はともに外来・病棟・手術を行っている(手術数などは両科合同)。真珠腫・中耳炎・めまい・顔面神経麻痺など耳科全域を行っている。一般的な頭頸部癌・甲状腺癌の治療はもとより進行癌の治療も積極的に行い根治治療を目指しており、再建を要する頭頸部進行癌や縦隔浸潤する甲状腺癌・頭蓋底に進展する頭頸部腫瘍は関西一円はもとより関東・中国地方などからも治療をうけにこられている。また、低侵襲手術としての口腔癌に対するPGAシート被覆法を開発し、学会などで積極的に発表し標準治療としての普及を図っている。さらに経口的な咽頭がんの切除により、QOLを保った治療も積極的に行っており、これらも関西以外からも手術を希望されて当科に紹介される場合が多い。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2014年度	30.1名	545名	20.0日

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	58.9名

主な手術・検査の件数など

	頭頸部癌手術	甲状腺癌手術	甲状腺・副甲状腺良性手術	頭頸部良性手術
2014年度	94件	74件	52件	83件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者	演題	学会名
研究会	辻村隆司	頭蓋内進展した篩骨洞癌再発例に対するセツキシマブの使用経験	第1回京都南部頭頸部がん研究会 2013/9/20(京都)
国内学会	辻村隆司, 片岡道子, 本多啓吾, 嘉田真平, 安里亮, 辻純	当科における口腔白板・紅板症切除例の検討	第115回日本耳鼻咽喉科学会 2014/5/16(福岡)
国内学会	片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 嘉田真平, 神田智子, 安里亮, 辻純	上肢感覚神経障害を来した咽頭腔外魚骨異物例	第115回日本耳鼻咽喉科学会 2014/5/16(福岡)
国内学会	嘉田真平, 片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 安里亮, 辻純	高齢者乳頭癌症例の検討	第115回日本耳鼻咽喉科学会 2014/5/16(福岡)
国内学会	本多啓吾, 安里亮, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 神田智子, 辻純	口腔癌T2-3c N0症例における予防郭清の意義	第115回日本耳鼻咽喉科学会 2014/5/16(福岡)
国内学会	辻村隆司, 安里亮, 辻純, 神田智子, 嘉田真平, 本多啓吾, 片岡通子	TPLE時におけるルビエールリンパ節郭清の有用性	第38回頭頸部癌学会 2014/6/12(東京)
国内学会	本多啓吾, 安里亮, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 神田智子, 辻純	頭頸部癌に対する段階手術	第38回頭頸部癌学会 2014/6/12(東京)
研究会	安里亮, 本多啓吾, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 辻純	当科における先端可動型硬性内視鏡下経口的咽頭手術	第15回頭頸部表在癌研究会 2014/6/14(東京)
研究会	安里亮, 本多啓吾, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 辻純	甲状腺乳頭癌内頸静脈切除例	第14回京都滋臨床甲状腺懇話会 2014/7/5(京都)
国内学会	片岡道子, 辻村隆司, 本多啓吾, 嘉田真平, 安里亮, 辻純	甲状腺癌を疑った副甲状腺癌例	第119回日耳鼻京滋合同地方会 2014/12/13(京都)
国内学会	辻村隆司, 片岡道子, 本多啓吾, 嘉田真平, 安里亮, 辻純	パセドウ病の術式の検討	第119回日耳鼻京滋合同地方会 2014/12/13(京都)
国内学会	本多啓吾, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 安里亮, 辻純	頭頸部癌術後早期再発例の検討	第119回日耳鼻京滋合同地方会 2014/12/13(京都)
国内学会	本多啓吾, 片岡道子, 辻村隆司, 嘉田真平, 安里亮, 辻純	当科における甲状腺癌縦隔郭清例の検討	第47回日本甲状腺外科学会 2014/10/30(福岡)
国内学会	嘉田真平, 片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 安里亮, 辻純	二次性副甲状腺機能亢進症に副甲状腺癌を合併した症例	第47回日本甲状腺外科学会 2014/10/30(福岡)
研究会	片岡通子	甲状腺癌を疑った副甲状腺癌例	第25回京都耳鼻咽喉科研究会 2014/12/6(京都)
研究会	辻村隆司	TPLE時におけるルビエールリンパ節郭清の有用性	第25回京都耳鼻咽喉科研究会 2014/12/6(京都)
研究会	本多啓吾	甲状腺癌に対する縦郭郭清施行例の検討	第25回京都耳鼻咽喉科研究会 2014/12/6(京都)
研究会	安里亮, 片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 嘉田真平, 辻純	予防的頸部郭清	第29回近畿手術手技研究会 2015/1/31(大阪)

研究会	安里 亮	頭頸部がん 診断と治療	第11回京都医療センター がん診療セミナー 2014/9/24 (京都)
研究会	安里 亮	頭頸部癌に対する手術戦略 —基本手技から頭蓋底手術まで—	兵庫頭頸部腫瘍研究会 2014/7/2 (神戸)
研究会	安里 亮	頭頸部癌手術	第27回伏見医師会 癌医療病診連携の会 2014/11/29 (京都)
研究会	安里 亮	予防的頸部郭清について	第24回京滋頭頸部外科懇話会 2015/1/17 (京都)
研究会	本多 啓吾	手術供覧	第24回京滋頭頸部外科懇話会 2015/1/17 (京都)
国内学会	安里 亮	京都医療センター頭頸部外科での臨床	第6回東和耳鼻咽喉科医療研究会 2015/2/14 (奈良)

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著 者	タイトル	巻・ペ ー ジ
ENTONI	安里 亮	高齢者における口腔癌の特徴と治療	No.178 10-17 2015
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	安里 亮	ネオパール(創傷被覆材)	vol.87 No.1 97-101 2013
JOHNS	安里 亮	頸部リンパ節転移癌が頸動脈に浸潤している!	vol.30 No.9 1355-57 2015

麻酔科



診療科長
七野 力

専門医資格等 厚労省標榜医
日本麻酔科学会指導医・専門医
日本集中治療学会専門医
京都大学医学部臨床教授
関西医科大学臨床教授
専門分野 麻酔管理一般、集中治療、心臓血管外科麻酔

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	平方 秀男	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般 血小板および血栓止血学	
医 師	杉本 亮大	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般、心臓血管外科麻酔	
医 師	嵯峨 慶子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般、集中治療	
医 師	野口 英梨子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医 師	原 祐介	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医 師	原 りさ	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医 師	子安 聡子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医 日本周術期経食道エコー認定試験(JBPOT)合格	麻酔管理一般	
医 師	水津 悠	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医 日本周術期経食道エコー認定試験(JBPOT)合格	麻酔管理一般	
専 修 医	鈴木 陽世	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
専 修 医	山内 千奈		麻酔管理一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本麻酔科学会研修施設 日本集中治療学会認定施設
-------	-----------------------------

1. 麻酔管理
2. 集中治療管理

□ 主な対象疾患

麻酔管理: 外科手術一般

集中治療: 敗血症、肺炎、ARDS、多臓器不全、術後管理一般

□ 診療(業務)内容

手術を受けられる患者さんに対する麻酔の施行と全身管理

当科では患者さんのご希望を最大限に尊重しながら、患者さんの全身状態、手術の内容を勘案してもっとも安全で苦痛の少ない麻酔法を選択しています。近年は全身麻酔と神経ブロックなど、各種麻酔法を組み合わせる方法が増加しています。それぞれの長所を生かしつつ、かつ短所を最小限に抑えることにより、手術が終わっても痛みが少なく、安全でしかも目覚めがよい麻酔を心がけています。

重症患者さんに対する集中治療室(ICU)での集学的治療

本院は院内に2か所の集中治療室を有する全国でも数少ない施設です。救命センターと手術室フロアにそれぞれ設置されており、ともに日本集中治療学会認定の専門医が従事しています。麻酔科ではこのうち、手術室フロアのICU(院内ICU)の管理を行っています。院内ICUでは主に手術後の患者さんと重症の入院患者さんの全身管理を行っています。

□ 診療実績(平成26年度)

主な手術・検査の件数など

全身麻酔(鎮静を含む)	全身麻酔(+脊、硬、ブロック)	脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔
2,163件	920件	517件

麻酔科管理症例 計	院内ICU入室患者数
3,600件	656件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
論文	子安聡子、池浦麻紀子、石井久成、七野力 肺塞栓を発生したトルソー症候群患者のエコーガイド下内径静脈穿刺においてガイドワイヤーが椎骨静脈に留置された1症例 麻酔 2014; 63: 1043-6
論文	平方秀男 手術侵襲は血小板にどのような影響を与えるか Thrombosis Medicine 2014; 4: 333-40
国内学会	佐田蓉子、加藤啓洋、七野力 婦人科短時間手術での麻酔法の違いによる患者満足度調査. 日本麻酔科学会. 2014年5月16日: 横浜
国内学会	佐田蓉子、杉田尚子、平方秀男 デスフルランはin vitroでヒト血小板凝集能を抑制する. 日本麻酔科学会. 2014年5月16日: 横浜
国内学会	加藤啓洋、佐田蓉子、七野力 高齢患者での麻酔後回復室による覚醒の質—セボフルランとデスフルランの比較—. 日本麻酔科学会 2014年5月17日: 横浜
国際学会	Naoko Sugita, Hideo Hirakata, Kyo Inoue, Kazuya Tatsumi, Toshiya Murai. A novel flow chamber system for modeling human venous thrombosis. International Society of Thrombosis and Homeostasis 2014.06.23; Milwaukee USA
国内学会	杉本亮大、原祐介、原りさ、嵯峨慶子、七野力 air-Qとライトフンドを用いた挿管. 日本麻酔科学会第60回関西支部学術集会. 2014年9月6日: 大阪
国内学会	子安聡子、石井久成、七野力 大動脈弓部人工血管全置換術(TAR)後に左総頸動脈完全閉塞を来とし、バイパス術を施行した一症例. 日本心臓血管麻酔学会第19回学術大会. 2014年9月20日: 大阪
国内学会	原祐介、子安聡子、水津悠、原りさ、杉本亮大、七野力 子宮内反症により危機的出血を来した一症例. 日本臨床麻酔学会 2014年11月2日: 東京
教育講演	七野力 覚醒・抜管を考える. 日本麻酔科学会関西支部症例検討会 2014年11月15日: 大阪
国内学会	子安聡子、水津悠、山内千奈、杉本亮大、原りさ、原祐介、七野力 敗血症性ショックを伴った特発性食道穿孔に対する緊急手術中に尿崩症が疑われた一症例. 日本集中治療学会学術集会 2015年2月10日: 東京
国内学会	鈴木陽世、瀬川一、谷本圭司、田中具治、福田和彦 ICU入室時に血糖を呈した症例. 日本集中治療学会学術集会 2015年2月10日: 東京
国内学会	井上京、杉田尚子、平方秀男、巽和也. 血栓症研究に有望な新しい流路システムの開発. 第15回TTMフォーラム 2015年3月7日: 東京
国内学会	石田幸穂、伊井仁志、平方秀男、杉田尚子、越山顕一郎、和田成生 血液凝固因子の生化学反応と形成される血栓の粘弾性を考慮した血栓成長モデルの構築. 日本機械学会 関西支部第90期定時総会. 2015年3月16日: 京都

放射線科



医療技術部長
伊藤 剛

専門医資格等 日本医学放射線学会専門医、
臨床研修指導医
京都大学医学部臨床教授

専門分野 画像診断

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
放射線治療科科長	荒木 則雄	日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会専門医、がん治療認定医、臨床研修指導医	放射線腫瘍学	放射線治療
放射線診断科科長	広川 侑奨	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医	画像診断、IVR	腹部画像診断
放射線科医師	黒田 昌志	日本医学放射線学会専門医	画像診断	骨軟部画像診断
放射線科医師	浜中 訓生		画像診断、IVR	救急画像診断
放射線科レジデント	佐藤 敏之		画像診断	
放射線科レジデント	大嶋 園子		画像診断	
放射線科レジデント	キシュボルバーラ		画像診断	
技師長	片倉 和雄	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、医学物理士		
副技師長	上垣 忠明	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、マンモグラフィ認定技師		
副技師長	伊藤 篤	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
主任	山中 早苗	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、マンモグラフィ認定技師		
主任	坂本 龍彦			
主任	榎本 直之	核医学専門技師		
主任	森川 進	X線CT認定技師		
主任	麻布三枝子	マンモグラフィ認定技師		
主任	樋口 孝次	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師		
技師	川端 清志	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
技師	菊川 絢子	マンモグラフィ認定技師		

技 師	大西 孝志	マンモグラフィ認定技師、肺がんCT認定技師、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
技 師	西川 峰生	救急撮影認定技師		
技 師	前原 健吾	救急撮影認定技師、医療情報技師、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
技 師	山本 崇	マンモグラフィ認定技師		
技 師	永井 康宏	マンモグラフィ認定技師		
技 師	小田 晴義	マンモグラフィ認定技師、救急撮影認定技師		
技 師	竹原 和宏			
技 師	新家 睦巳			
技 師	熊給 淳			
技 師	浅野 朱香	マンモグラフィ認定技師		
技 師	嵯峨根真也			
技 師	辰野 絢香			
技 師	濱田 佳代子			
技 師	藤田 訓充			
技 師	若畑 旬弥			
技 師	山本 翼			
技 師	池上 周平			
技 師	岡本 有布			

診療科の特徴

施設認定等	日本医学放射線学会修練施設
-------	---------------

主な対象疾患

悪性腫瘍全般

診療(業務)内容

ほぼ全領域の画像診断、頭部および心臓血管領域を除くIVR、悪性腫瘍を中心とする放射線治療

診療実績(平成26年度)

外来患者数

	1日平均患者数
2014年度	35.1名

主な手術・検査の件数など

放射線治療	年間治療件数
2014年度	10,811件

学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	桑原遼、広川侑奨、矢嶋諒、亀山恭子、黒田昌志、荒木則雄、伊藤剛 退形成性膵管癌破裂の一例 第307回日本医学放射線学会関西地方会、大阪、2014/6/21
国内学会	亀山恭子、矢嶋諒、桑原遼、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛 診断に苦慮した肝偽リンパ腫の3例 第308回日本医学放射線学会関西地方会、大阪、2014/10/25
国内学会	キンシュ・ボルバール、亀山恭子、矢嶋諒、桑原遼、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛 Hereditary diffuse leukoencephalopathy with spheroidsの一例 第309回日本医学放射線学会関西地方会、大阪、2015/2/14
国内学会	菊川絢子、西野敏弘、伊藤篤、片倉和雄、上垣忠明※1 和田恵子※2 ※1 和歌山病院 ※2 福井病院 距踵関節撮影法の検討—第二報—、第68回国立病院総合医学会、横浜、2014/11/14

国内学会	菊川絢子、西野敏弘、伊藤篤、片倉和雄、上垣忠明※1 和田恵子※2 ※1 和歌山病院 ※2 福井病院 距踵関節撮影法の検討—第二報—、第23回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会、大阪、2014/10/4
国内学会	熊給淳、大西孝志、坂本龍彦、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄、肩関節における放射状MRI撮像法の検討、平成26年度京都府放射線技師会夏季研修会、京都、2014/8/30
国内学会	熊給淳、大西孝志、坂本龍彦、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄、肩関節における放射状MRI撮像法の検討、第23回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会、大阪、2014/10/4
国内学会	熊給淳、大西孝志、坂本龍彦、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄、肩関節における放射状MRI撮像法の検討、平成26年度近畿地域放射線技師会学術大会、京都、2015/2/15
国内学会	新家睦巳、西川峰生、森川進、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄、3D-CTAにおける逐次近似応用再構成法を用いた小焦点撮影の検討 第23回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会、大阪、2014/10/4
国内学会	西川峰生、森川進、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄、3D-CTAにおける逐次近似再構成を用いた小焦点撮影の検討、第68回国立病院総合医学会、横浜、2014/11/14
国内学会	辰野絢香、森川進、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄、放射線診療業務における患者対応Q&Aマニュアルの作成、第23回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会、大阪、2014/10/4

リハビリテーション科



診療科長
岩辻 賢一郎

専門医資格等 日本神経学会専門医
専門分野 神経内科

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野
医 長	中島 康代	日本循環器病学会専門医 日本内科学会総合内科専門医	循環器内科
医 師	井村 美紀	日本リハビリテーション医学会認定医	循環器内科
看 護 師	横山 知枝	1名(心大血管等リハビリ専属)	
理学療法士	12名(士長1名、主任1名)		
作業療法士	5名(主任1名)		
言語聴覚士	0名(神経センター雇用常勤STが2名協力)		
医療クラーク	1名(一般と心臓分野)		
事務クラーク	2名		

□ 診療科の特徴

1. 入院患者の急性期リハビリを主眼に置いています。
2. 外来は退院後の失語症治療と心臓大血管リハビリの集団療法のみです。

□ 主な対象疾患

詳しくはHPに掲載しております。

主治医からご依頼があれば新生児から全疾患に対応しております。

□ リハビリテーション統計

2014年度部門別毎月リハビリ

部 門	年 間 件 数	最 小 ～ 最 大	平 均
一般理学療法	2,296件	167～223件	191.3件
心臓理学療法	432件	23～54件	36.0件
作業療法	1,109件	77～110件	92.4件
言語療法	305件	13～34件	25.4件

取り扱い	脳血管疾患等I	廃用症候群I	運動器I	呼吸器I	がん患者	心大血管I
PT	13,733	1,078	4,772	8,567	4,213	6,286
OT	8,646	460	2,153	2,754	789	94
ST	2,440	29	0	0	105	0
合計	24,819	1,567	6,925	11,321	5,107	6,380
上記百分率	44.23%	2.79%	12.34%	20.17%	9.10%	11.37%
実施単位数	42.95%	2.13%	11.71%	16.10%	7.23%	19.88%

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
国内学会	澤田真理子、山根拓也、松島由美、赤尾昌治、中島康代 高齢慢性心不全患者の6分間歩行距離の違いに関連する因子の検討 第20回日本心臓リハビリテーション学会京都 2014.7.19
国際学会	Mariko SAWADA, Takuya YAMANE, Yumi MATSUSIMA, Moritake IGUCHI, Masaharu AKAO, Minori IMURA, and Yasuyo NAKAJIMA. Exercise tolerance related factors of chronic heart failure in Japanese elderly people 4th Asia-Oceanian Conference of Physical and Rehabilitation Medicine 2014, バンコク, 2014.12.11
国内学会	原田 洋一 リハビリテーションとは 近畿地区国立病院 第56回看護学会 大阪 2014.10.18
国内学会	井村美紀、木山裕美、阿水利沙、中島康代 定期的な発達評価により乳児化膿性髄膜炎に合併した硬膜下水腫の血腫化が早期発見された1例 第37回日本リハビリテーション医学会近畿地方会 大阪、2014.9.20
国際学会	Minori Imura, Hiromi Kiyama, and Yasuyo Nakajima. EARLY DETECTION OF SUBDURAL HEMATOMA PRECEDED BY PERSISTENT SUBDURAL EFFUSION IN PEDIATRIC BACTERIAL MENINGITIS THROUGH REHABILITATIVE DEVELOPMENTAL ASSESSMENT: A CASE REPORT 4th Asia-Oceanian Conference of Physical and Rehabilitation Medicine 2014 バンコク、2014.12.11

歯科口腔外科



診療科長
吉田 和也

専門医資格等 日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎関節学会専門医・指導医、日本補綴歯科学会専門医・指導医、日本睡眠学会認定歯科医・評議員、日本睡眠歯科学会専門医・指導医・評議員、大阪歯科大学歯学博士、京都大学医学博士、厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医

専門分野 口腔外科一般

得意疾患 睡眠時無呼吸症候群、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズム）、顎顔面補綴

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	大野 純	日本小児口腔外科学会認定医、厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医	口腔外科一般	歯科用インプラント、顎変形症
レジデント	下郷麻衣子		口腔外科一般	口腔ケア
レジデント	福原紫津子	日本口腔外科学会認定医、厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医、日本口腔ケア学会認定医	口腔外科一般	口腔ケア

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本口腔外科学会認定機関 日本顎関節学会認定機関 日本睡眠学会認定機関 日本補綴歯科学会認定機関
-------	---

1. 迅速で的確な診断を心がけます。
2. 複数の治療法を呈示し、十分に話し合った後、最適な治療を行います。
3. 治療にあたっては低侵襲を心がけます。
4. 口腔ケアや口腔衛生指導によって、治療と予防を実践します。

□ 主な対象疾患

親知らず（智歯）、埋伏歯の抜歯・口の中の腫瘍（腫れ物）、のう胞（膿の袋）・顎の骨折や歯、口腔の外傷・顎関節症、その他の顎関節疾患・顎変形症（歯並び、咬み合わせ、顎の形の異常）・口腔乾燥や唾液の異常、舌痛症・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療・手術、放射線治療、化学療法前後の口腔衛生指導、口腔ケア・歯茎、顎の骨の炎症・口内炎、舌や頬の炎症・入院患者さんあるいは全身疾患（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など）のある外来患者さんの歯科治療

専門で取り扱っている疾患

- ・睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）
- ・顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ブラキシズム、ジスキネジアなど）
- ・顎変形症（下顎前突症、下顎後退症、顔面非対称、上顎前突症など）
- ・顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）
- ・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損

□ 診療(業務)内容

当科は日本口腔外科学会の認定機関であるばかりではなく、日本顎関節学会、日本睡眠学会、日本補綴歯科学会の認定機関でもあり、顎口腔領域のさまざまな疾患の総合的な診断と一貫した治療が可能です。多くの大学医学部あるいは歯学部附属病院や総合病院から多数の患者さんが紹介受診されています。一般的な口腔外科的治療や救急対応、有病者(心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など)の歯科治療、入院患者さん(一般病棟、ICU、緩和ケア病棟)の歯科治療や手術前後の口腔ケアを行います。口腔外科的治療とは主に顎変形症、顎関節疾患、口腔腫瘍、顎顔面外傷などの手術を要する疾患に対して行われる治療を指します。

専門で取り扱っている疾患と治療として睡眠呼吸障害(睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群)に対する口腔内装置治療(マウスピース)や顎矯正手術、顎関節疾患(顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など)の補綴的あるいは口腔外科的治療、インプラント治療、顎口腔領域の不随意運動(ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズムなど)の内服治療、局所麻酔薬によるブロック療法(MAB療法)、ボツリヌス療法や口腔外科的手術療法、顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療などがあります。口と顎の領域のジストニアを専門で治療や研究を行っている科は全国的にも例がありません。当科ホームページよりアクセス可能な患者さん用のサイト(<http://sites.google.com/site/oromadibulardystonia/>)があり、日本全国および海外からも問い合わせ、受診が急増しております。遠方の患者さんにはSkype(スカイプ)を利用したコンピューター上での遠隔診断も行なっています。治療のため当院に入院していただくメディカルツーリズム(医療観光)により遠方からも患者さんに受診していただけるよう願っております。

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
1.6名	92名	6.1日

外来患者数

1日平均患者数
39.3名

主な手術・検査の件数など

拔牙術	嚢胞摘出術	腫瘍摘出術	インプラント手術	消炎手術
821件	68件	40件	17件	22件

顎変形症手術	骨折手術
10件	10件

□ 地域医療連携・広報活動

- ・吉田 和也. 睡眠時無呼吸と不随意運動の歯科口腔外科的治療. 第4回京都医療センター医療連携フォーラム. 2015年1月31日:京都
- ・下郷 麻衣子. 抗血栓療法患者に対する拔牙時の対応について. 京都府伏見区歯科医師会月例会. 2014年4月25日:京都
- ・下郷 麻衣子. 骨吸収抑制薬と顎骨骨髓炎・顎骨壊死. 京都医療センター医局会ミニレクチャー. 2015年2月25日:京都
- ・福原 紫津子, 下郷 麻衣子. 気管挿管患者および一般病棟における口腔ケア. 京都医療センターRST主宰口腔ケア研修会. 2015年1月19日:京都
- ・福原紫津子. スポーツ時の外傷と歯科治療 2. F M79.9MH z きょうとこれからラジオ 2014年6月19日:京都
- ・福原紫津子. 創傷治癒について～治癒不全が生じる理由～ 京都府伏見区歯科医師会月例回 2014年5月23日

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	内 容
国内学会	吉田 和也, 福原 紫津子, 下郷 麻衣子, 大野 純, 兵 行忠. 顎口腔領域の不随意運動の遠隔診断と医療観光. 第68回国立病院総合医学会. 2014年11月14-15日; 横浜
国内学会	福原 紫津子, 下郷 麻衣子, 大野 純, 吉田 和也, 兵 行忠. 内顎動脈損傷を危惧し, 長期間待機後に観血的整復固定術を施行した下顎骨折の1例. 第59回日本口腔外科学会総会. 2014年10月17-19日; 千葉
国内学会	大野 純, 下郷麻衣子, 福原 紫津子, 吉田 和也, 兵 行忠. 上顎洞内に進展した角化嚢胞性歯原性腫瘍の1例. 第26回日本口腔科学会近畿地方部会. 2014年12月6日; 京都
国内学会	大野 純, 鈴木 克彦. 下顎エナメル上皮腫に対して腸骨移植後にインプラント治療を行った一例. 日本口腔インプラント学会第34回近畿北陸支部学術大会. 2015年2月21日; 京都
国内学会	下郷 麻衣子, 福原 紫津子, 大野 純, 吉田 和也, 兵 行忠. 広範囲に頸部静脈奇形を伴った下顎智歯抜歯の1例. 第45回日本口腔外科学会近畿支部学術集会. 2014年6月21日; 奈良

□ 投稿論文など

年	著書・雑誌名	内 容
2015	日本口腔外科学会雑誌 2015 (in press)	福原 紫津子, 山崎 亨, 高橋 克, 浅井 啓太, 家森 正志, 園部 純也, 別所 和久. 上顎洞に炎症が波及したビスホスホネート関連顎骨骨髓炎の治療経験.
2014	糖尿病センターだより, 7, 12, 2014	吉田 和也. ビスホスホネート系薬剤による顎の骨への影響.
2014	糖尿病センターだより, 7, 12, 2014	吉田 和也. う蝕と食物.
2014	糖尿病センターだより, 7, 14, 2013	吉田 和也. 咀嚼の健康への効果.
2015	糖尿病センターだより, 8, 14, 2013	吉田 和也. 咀嚼法について.
2015	糖尿病センターだより, 8, 7, 2013	吉田 和也. 咀嚼法による減量効果について.

救命救急センター（救命救急科）



センター長
志馬 伸朗

専門医資格等

日本救急医学会専門医
日本集中治療医学会専門医
日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医
麻酔科標榜医
日本感染症学会感染症専門医
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医/認定医
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育医/
認定医
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医
日本ペインクリニック学会専門医
日本小児麻酔学会認定医
PALSインストラクター
Infection control doctor

専門分野

集中治療医学
救急医学
感染症学
麻酔科学
得意疾患
急性呼吸不全
重症感染症
小児救急・集中治療

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
診療科長	笹橋 望	日本救急医学会専門医 日本外科学会認定医 日本胸部外科学会認定医・指導医	救急医学	ER
医長	別府 賢	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医 麻酔科標榜医 JATECインストラクター FCCSインストラクター ICLSインストラクター/ディレクター	集中治療 麻酔 感染症 救急医学	重症感染症
医師	竹下 淳	日本集中治療医学会専門医 麻酔科標榜医 日本麻酔科学会専門医・認定医 日本心臓血管麻酔学会正式認定 心臓血管麻酔専門医 日本周術期経食道心臓エコー認定医 (JB-POT) National Board of Echocardiography Advanced PTEeXAM Testamur(米国周術 期経食道心エコー認定医)	心臓麻酔 小児超音波ガ イド下血管カテ ーテル留置、 神経ブロック 集中医療医学	
医師	田中 博之	日本救急医学会専門医 日本内科学会認定医/総合内科専門医 日本医師会認定産業医 呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 JATECインストラクター ITLSインストラクター JPTECインストラクター ICLSインストラクター/ディレクター JMECCインストラクター/ディレクター 日本DMAT隊員・統括DMAT	救急医学 呼吸管理 災害医療	呼吸器疾患、 災害医療

医 師	藤井 雅士	日本麻酔学会専門医 日本ペインクリニック学会専門医	麻酔 ペインクリニック	
医 師	濱中 訓生	日本救急医学会専門医 麻酔科標榜医 マンモグラフィー読影認定医	救急放射線	救急 救急放射線
医 師	吉田 浩輔	日本救急医学会専門医 日本内科学会認定医	救急、集中治療	重症感染症
医 師	堤 貴彦	麻酔科標榜医	救急、麻酔	外傷
専 修 医	狩野 謙一		救急、集中治療	重症感染症
専 修 医	藤野 光洋		救急、集中治療	
顧 問	金子 一郎	帝京大学救急医学講座 准教授 日本救急医学会指導医 日本外科学会指導医	心肺蘇生法 外傷 救急医学	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本救急医学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医認定施設
-------	------------------------------------

1. 京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2. 重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3. 循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4. 積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

□ 主な対象疾患

敗血症/重症感染症、多発外傷、重症熱傷、急性呼吸不全、中毒

□ 診療(業務)内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など
重症救急患者への集中治療
院内重症患者に対する集中治療
他院からの重症紹介症例の受け入れ
多施設との症例検討会や情報交換
各種災害訓練の実施と参加
蘇生講習などへの参加と指導
研修医教育(京都大学、京都府立医科大学病院研修医を含む)
臨床医学教育(京都大学、京都府立医科大学、同志社大学、橘大学)
コメディカルに対する教育研修
市民に対する救急啓蒙教育
消防局との連携ならびに情報交換
医師会、他病院との連携ならびに情報交換

□ 診療実績(平成26年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
15.3名	1,098名	6.7日

外来患者数

1日平均患者数
10.6名

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演 者・演 題・学 会 名
国際学会	Shime N.Ultrasound-guided catheter insertion in PICU. The 7th World Congress on Pediatric Intensive and Critical Care, Istanbul 2014.5.7
国際学会	Shime N.Ventilator-associated events in pediatrics.The 7th World Congress on Pediatric Intensive and Critical Care, Istanbul 2014.5.7
国際学会	Yasuda H, Sanui M, Komuro T, Hatakayama J, Matsukubo S, Kawano S, Yamamoto H, Andoh K, Seo R, Shime N Comparison of threecutaneous antiseptic solutions for the prevention of catheter colonization in the adult intensive care unit: A multicenter prospective randomized controlled trial Comparison of threecutaneous antiseptic solutions for the prevention of catheter colonization in the adult intensive care unit: A multicenter prospective randomized controlled trial The 35th international symposium on intensive and emergency medicine,Brussels 2015.3.18
国内学会	志馬 伸朗 ICUにおける体温評価と発熱管理. クリティカルケアセミナーin 神戸 2014.4.19
国内学会	志馬 伸朗 人工呼吸器関連肺炎. 第11回呼吸ケアカンファレンス 大阪 2014.4.25
国内学会	志馬 伸朗 敗血症における抗菌療法～抗MRSA薬を中心に. 第3回救急集中治療領域感染症学術講演会 和歌山 2014.5.17
国内学会	志馬 伸朗 人工呼吸器関連肺炎予防～鎮静鎮痛観点をを中心に. 平成26年度首都圏集中治療セミナー 東京 2014.5.24
国内学会	志馬 伸朗 敗血症性ショックの抗菌療法+α 第88回日本感染症学会学術講演会/第62回日本化学療法学会総会 福岡 2014.6.19
国内学会	志馬 伸朗 気道管理の基本. 最新人工呼吸管理セミナー2014 京都 2014.6.14
国内学会	志馬 伸朗 敗血症のふたつの治療～over the 4 decades. 第2回京都周術期代謝管理セミナー 京都 2014.6.21
国内学会	志馬 伸朗 小児敗血症診療アップデート 多摩小児救急集中治療セミナー 立川 2014.7.1
国内学会	志馬 伸朗 小児敗血症診療～ゴールは何か? 成育医療研究センター手術集中治療部モーニングカンファレンス. 東京 2014.7.4
国内学会	志馬 伸朗 シンプル院内感染管理. 奈良医大院内感染防止セミナー 奈良 2014.7.11
国内学会	志馬 伸朗 人工呼吸器関連肺炎～診断治療における最近のトピックス. 大阪シンポジウム 大阪 2014.7.26
国内学会	志馬 伸朗 シンプル院内感染管理 市立福知山市民病院院内感染対策講習会 福知山 2014.7.28
国内学会	志馬 伸朗 外科・救急・集中治療領域(リスク因子と診断) 第5回近畿感染制御ネットワーク研究会 大阪 2014.8.9
国内学会	志馬 伸朗 ショックとクラッシュ症候群 救急救命士の処置範囲拡大に関する講習 京都 2014.8.12
国内学会	志馬 伸朗 新生児の呼吸管理 第19回3学会合同呼吸療法認定士認定講習会 東京 2014.8.31
国内学会	志馬 伸朗 新生児の呼吸管理 第19回3学会合同呼吸療法認定士認定講習会 東京 2014.9.1
国内学会	志馬 伸朗 小児敗血症診療のコントロール2014 小児救命医療講演会 津 2014.9.11
国内学会	志馬 伸朗 ショックとクラッシュ症候群 救急救命士の処置範囲拡大に関する講習 京都 2014.9.10
国内学会	志馬 伸朗 ガイドラインを使いこなそう:真菌とMRSA. 救急感染症塾 for ER Training summer camp 東京 2014.9.13
国内学会	志馬 伸朗 重症患者の生体反応と全身管理のポイント 京都府看護協会研修会 京都 2014.9.17
国内学会	志馬 伸朗 人工呼吸器関連肺炎:2014アップデート 第13回大阪人工呼吸器セミナー 大阪 2014.9.20
国内学会	志馬 伸朗 救命救急センターにおける抗菌薬の使い方. 第23回適正抗菌化学療法研究会 名古屋 2014.9.27
国内学会	志馬 伸朗 人工呼吸器関連肺炎. 第4回呼吸治療関連指定講習会 東京 2014.9.27
国内学会	志馬 伸朗 小児心臓手術とステロイド. 成育医療研究センター手術集中治療部モーニングカンファレンス 東京 2014.10.9
国内学会	志馬 伸朗 教育講演:感染症科医への敗血症ガイドラインの紹介. 第57回日本感染症学会中日本地方会学術集会 岡山 2014.10.23
国内学会	志馬 伸朗 小児敗血症の診療戦略～成人と何が同じで何が違うのか?第42回日本救急医学会総会・学術集会 福岡 2014.10.28
国内学会	志馬 伸朗 敗血症診療ガイドライン2014. 北海道サージカル・インフェクション・フォーラム 札幌 2014.11.7
国内学会	志馬 伸朗 体重症患者での体温評価と管理 Medicon Training Center Program 2014 東京 2014.11.14
国内学会	志馬 伸朗 EGDT再考 第5回麻酔周術期医学講演会 京都 2014.11.14
国内学会	志馬 伸朗 Community-acquired and Healthcare-acquired pneumonia.Multiprofessional critical care review course. 東京 2014.11.22
国内学会	志馬 伸朗 Antibacterial, Antiviral, and Antifungal Therapy in the ICU.Multiprofessional critical care review course. 東京 2014.11.23
国内学会	志馬 伸朗 小児鎮痛鎮静に関する最近の話題 理想的な鎮静を考える研究会 東京 2014.11.28
国内学会	志馬 伸朗 耐性菌/耐性機序と抗菌薬選択/抗菌薬投与設計の考え方 第1回 京都伏見 抗菌薬適正使用教育セミナー 京都 2014.12.1
国内学会	志馬 伸朗 ICUにおける耐性菌/真菌感染症の治療戦略 第27回日本外科感染症学会イブニングセミナー 東京 2014.12.4
国内学会	志馬 伸朗 血液培養の正しい取り方と解釈 第27回日本外科感染症学会外科感染症入門講座 東京 2014.12.4
国内学会	志馬 伸朗 ICUにおける発熱マネジメント. 第8回横浜集中治療懇話会 横浜 2014.12.11
国内学会	志馬 伸朗 敗血症診療2014UP TO DATE. 第3回長崎CIDセミナー 長崎 2014.12.20
国内学会	志馬 伸朗 小児敗血症の診療戦略. 長野県立こども病院講演会 安曇野 2014.12.22

国内学会	志馬 伸朗 論文を読もう!研究をしよう!成育医療研究センター手術集中治療部モーニングカンファレンス 東京 2015.1.9
国内学会	志馬 伸朗 SPEED!カテーテル関連血流感染症を防ぐための5tips 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.10
国内学会	志馬 伸朗 特定集中治療室管理量1/2算定施設に対する実態調査報告. 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.11
国内学会	志馬 伸朗 重症患者の生体反応と患者管理のポイント 日総研セミナー 大阪 2015.2.1
国内学会	志馬 伸朗 ICUにおける重症感染症マネジメント～抗菌療法から全身管理まで 第24回適正抗菌化学療法研究会 in 北陸 金沢 2015.2.13
国内学会	志馬 伸朗 敗血症性ショックの抗菌療法+ α シオノギwebカンファレンス 吹田 2015.2.16
国内学会	志馬 伸朗 救急集中治療における適正抗菌療法～エビデンスから実践まで 群馬急性期医療セミナー2015 前橋 2015.2.18
国内学会	志馬 伸朗 小児の呼吸管理 メディカ出版小児集中治療セミナー2015 神戸 2015.2.22
国内学会	志馬 伸朗 ガイドラインを踏まえた敗血症治療の実際～基礎疾患治療の重要性と合併症対策 リコモジュリンWEBカンファレンス 東京 2015.2.27
国内学会	志馬 伸朗 重症患者の生体反応と患者管理のポイント 日総研セミナー 東京 2015.3.8
国内学会	志馬 伸朗 小児の呼吸管理 メディカ出版小児集中治療セミナー2015 東京 2015.3.29
国内学会	志馬 伸朗 敗血症(セブシス)治療ガイドライン 日欧米の違い:敗血症の抗菌治療(de-escalationを中心に) 日本化学療法学会総会 福岡 2014.6.19
国内学会	志馬 伸朗 シンポジウム4:初心者のための小児麻酔:エキスパートの教え方 日本麻酔科学会第61回学術集会 横浜 2014.5.16
国内学会	志馬 伸朗 パネルディスカッション 第36回日本呼吸療法医学会学術総会 秋田 2014.7.21
国内学会	志馬 伸朗 ICUのケアでVAPを予防できるか 第27回日本外科感染症学会シンポジウム11; 週周期感染管理ベストプラクティス～OP前からOP室、病棟まで～. 東京 2014.12.4
国内学会	志馬 伸朗 第4回MIICS～ICUにおける感染症患者を救うために. 第42回日本集中治療医学会 東京 2015.2.9
国内学会	志馬 伸朗 症例検討2:74歳、男性、炎症反応上昇 第16回真菌症フォーラム 東京 2015.2.14
国内学会	志馬 伸朗 敗血症における抗菌治療. シンポジウム5:抗菌薬適正使用を極める(原因別/病態別)～Empiric & definitive therapyの選択からPK/PD・TDMまで. 第30回日本環境感染学会総会 神戸 2015.2.20
国内学会	葉山 学、志馬 伸朗 侵襲性肺炎アスペルギルス症を続発したIdiopathic systemic capillary leak syndromeの一例. 第88回日本感染症学会学術講演会/第62回日本化学療法学会総会 福岡 2014.6.19
国内学会	朴井 三矢、志馬 伸朗 バンコマイシンの有効トラフ値と腎機能障害の関連 第57回日本感染症学会中日本地方学術集会 岡山 2014.11.14
国内学会	齋藤 駿河、志馬 伸朗、笹橋 望、別府 賢、竹下 淳、田中 博之、濱中 訓生、吉田 浩輔、藤井 雅士、堤 貴彦、藤野 光洋 血管内治療および腎摘出術で救命し得た外傷性近位腎動脈損傷の1例. 第41回日本救急医学会総会・学術集会 福岡 2014.11.14
国内学会	山下 大生、志馬 伸朗、笹橋 望、別府 賢、竹下 淳、田中 博之、濱中 訓生、吉田 浩輔、藤井 雅士、堤 貴彦、藤野 光洋 糖尿病性ケトアシドーシスから急性呼吸促進症候群を発生し、静脈-静脈経皮的心肺補助装置を使用した一例. 第41回日本救急医学会総会・学術集会 福岡 204.11.22
国内学会	森 智治、齋藤 龍史、趙 見済、武信 洋平、大鶴 繁、佐藤 格夫、西山 慶、鈴木 崇生、小池 薫、吉田 浩輔、志馬 伸朗 急性一酸化炭素中毒(軽症)に対し遅発性神経症状予防的に高圧酸素治療を施行した一例. 第41回日本救急医学会総会・学術集会 福岡 2014.11.23
国内学会	濱中 訓生、藤野 光洋、狩野 謙一、堤 貴彦、吉田 浩輔、藤井 雅士、田中 博之、竹下 淳、別府 賢、笹橋 望、志馬 伸朗 糖尿病性ケトアシドーシス発症直後に非閉塞性腸管虚血を併発した1例. 第41回日本救急医学会総会・学術集会 福岡 2014.11.28
国内学会	堤 貴彦、別府 賢、笹橋 望、志馬 伸朗 髄膜炎の鑑別疾患としての視神経脊髄炎. 第41回日本救急医学会総会・学術集会 福岡 2014.12.1
国内学会	吉田 浩輔、藤野 光洋、狩野 謙一、堤 貴彦、藤井 雅士、濱中 訓生、田中 博之、竹下 淳、別府 賢、笹橋 望、志馬 伸朗 救急ICUでの細菌培養陽性例における耐性菌検出率の検討. 第41回日本救急医学会総会・学術集会 福岡 2014.10.28
国内学会	濱中 訓生、志馬 伸朗、伊藤 剛 Limitations of diagnostic imaging for acute abdomen 第50回日本医学放射線学会秋季臨床大会 神戸 2014.9.26-28
国内学会	堤 貴彦、濱中 訓生、志馬 伸朗、桑原 遼、広川 侑晃、伊藤 剛 左副腎腫瘍の破裂に対し、動脈塞栓術を施行した一例 第50回日本医学放射線学会秋季臨床大会 神戸 2014.9.26-28
国内学会	濱中 訓生、志馬 伸朗、狩野 謙一 診断が遅れたRFA後に発症した横隔膜ヘルニアの一例 第51回日本腹部救急外科学会 京都 2015.3.6
国内学会	田畑 雄一、笠井 正志、志馬 伸朗 小児開胸下ECMO管理における抗菌薬投与と感染合併症 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.9
国内学会	狩野 謙一、藤野 光洋、堤 貴彦、吉田 浩輔、藤井 雅士、濱中 訓生、田中 博之、竹下 淳、別府 賢、志馬 伸朗 経験的抗菌薬投与とプロトコル導入による菌血症治療への影響 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.9
国内学会	安田 英人、讃井 将満、志馬 伸朗、河野 真二、畠山 淳司、松窪 将平、安藤 幸吉、小室 哲也、山本 泰文、瀬尾 隆太郎 カテーテルコロニゼーションに対するクロルヘキシジンアルコールの有用性の検討 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.9
国内学会	藤野 光洋、狩野 謙一、堤 貴彦、藤井 雅士、吉田 浩輔、濱中 訓生、田中 博之、竹下 淳、別府 賢、志馬 伸朗 急速に致死経過をとったB型肝炎ウイルス劇症肝炎の一例 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.9
国内学会	吉田 浩輔、藤野 光洋、狩野 謙一、藤井 雅士、濱中 訓生、竹下 淳、堤 貴彦、田中 博之、別府 賢、志馬 伸朗 敗血症性ショック患者における感染症予測スコアの有用性について 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.9
国内学会	濱中 訓生、狩野 謙一、藤井 雅士、吉田 浩輔、竹下 淳、堤 貴彦、田中 博之、別府 賢、笹橋 望、志馬 伸朗 当院でのICU胸部ポータブルレントゲン写真の現状調査 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.9
国内学会	田中 博之、志馬 伸朗、笹橋 望、別府 賢、竹下 淳、藤井 雅士、狩野 謙一、藤野 光洋、吉田 浩輔、堤 貴彦 ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染若年患者における急性呼吸不全の一例 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.10
国内学会	藤井 雅士、藤野 光洋、狩野 謙一、吉田 浩輔、濱中 訓生、田中 博之、竹下 淳、別府 賢、志馬 伸朗 当院ICUにおける気管挿管に伴う合併症の調査報告 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.10

国内学会	堤 貴彦、狩野 謙一、藤井 雅士、吉田 浩輔、田中 博之、竹下 淳、別府 賢、志馬 伸朗 左副腎腫瘍の破裂に対し動脈塞栓術を施行した一例 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.11
国内学会	堤 貴彦、志馬 伸朗 入院後に気道狭窄を来し、緊急気道確保を来した右顎下腺腫瘍の一例 第111回近畿救急医学研究会 和歌山 2015.3.7
国内学会	志馬 伸朗 座長 京都セブシスフォーラム2014 京都 2015.5.31
国内学会	志馬 伸朗 座長 第7回京滋クリティカルケアヤングアカデミー 京都 2014.6.21
国内学会	志馬 伸朗 座長 関西セブシスフォーラム 大阪 2014.6.27
国内学会	志馬 伸朗 座長 第59回日本集中治療医学会近畿地方会:教育講演2 高槻 2014.7.12
国内学会	志馬 伸朗 座長 第36回日本呼吸療法医学会学術総会:ランチョンセミナー 秋田 2014.7.20
国内学会	志馬 伸朗 座長 第36回日本呼吸療法医学会学術総会:一般講演 秋田 2014.7.21
国内学会	志馬 伸朗 座長 京滋クリティカルケアヤングアカデミーサマーセミナー 京都 2014.8.23
国内学会	志馬 伸朗 座長 第23回JSEPTICセミナー:パネルディスカッション 東京 2014.9.14
国内学会	志馬 伸朗 座長 京都敗血症セミナー:ミニレクチャー 京都 2014.10.4
国内学会	志馬 伸朗 座長 第22回小児集中治療ワークショップ:ランチョンセミナー 2014.10.18
国内学会	志馬 伸朗 座長 第22回小児集中治療ワークショップ:Debate 2014.10.18
国内学会	志馬 伸朗 座長 第13回急性期NPPV研究会 大阪 2014.12.6
国内学会	志馬 伸朗 座長 南京都地区救急診療卒後臨床セミナー2014 京都 2014.12.8
国内学会	志馬 伸朗 座長 京滋クリティカルケアヤングアカデミー 京都 2014.12.13
国内学会	志馬 伸朗 座長 BAL cath. working group meeting 東京 2014.12.26
国内学会	志馬 伸朗 座長 SessionIII, 京都セブシスフォーラム2015 winter 京都 2015.1.21
国内学会	志馬 伸朗 座長 教育セミナー-8. 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.9
国内学会	志馬 伸朗 座長 招聘講演9. 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.9
国内学会	志馬 伸朗 座長 委員会報告 6. 第42回日本集中治療医学会総会 東京 2015.2.11
国内学会	志馬 伸朗 座長 パネルディスカッション3. 第51回日本腹部救急学会総会 京都 2015.3.5
国内学会	田中 博之、藤野 光洋、狩野 謙一、堤 貴彦、吉田 浩輔、濱中 訓生、藤井 雅士、竹下 淳、別府 賢、笹橋 望、志馬 伸朗 難治性の心室性不整脈を頻発した急性薬物中の一例 第68回国立病院医学会 神奈川 2014.11.14
国内学会	田中 博之、藤野 光洋、狩野 謙一、堤 貴彦、吉田 浩輔、濱中 訓生、藤井 雅士、竹下 淳、別府 賢、笹橋 望、志馬 伸朗 ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染若年患者に悪血急性呼吸不全の一例 第42回集中治療医学会学術集会 東京 2015.2.9
国際学会	H Tanaka, J Shimada Nuclear Reactor Collapse 2014 ITLS International Trauma Conference USA 2014.11.4
国内学会	竹下 淳 小児患者における超音波ガイド下末梢血管穿刺(基礎編)～超音波ガイド下穿刺のコツとピットフォール～ 日本麻酔科学会 第61回学術集会シンポジウム 神奈川 2014.5.15
国内学会	竹下 淳、中山 力恒、前田 祥子、小川 寛、中嶋 康文、溝部 俊樹 術中経食道心エコープローブが術野に突出し、食道穿孔が判明した症例 日本心臓血管麻酔学会第19回学術集会 大阪 2014.9.20
国内学会	狩野 謙一、藤野 光洋、堤 貴彦、吉田 浩輔、藤井 雅士、濱中 訓生、田中 博之、竹下 淳、別府 賢、志馬 伸朗 経験的抗菌薬投与とプロトコル導入による菌血症治療への影響 第42回集中治療医学会学術集会 東京 2015.2.9
国内学会	藤野 光洋、狩野 謙一、堤 貴彦、吉田 浩輔、藤井 雅士、濱中 訓生、田中 博之、竹下 淳、別府 賢、志馬 伸朗 急速に致死転帰をとったB型肝炎ウイルス性劇症肝炎の一例 第42回集中治療医学会学術集会 東京 2015.2.9

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年 および月
志馬 伸朗	8.呼吸管理2)その後のエビデンスと日本での活用.	敗血症(セブシス)救命治療の最前線			234-240	竹末芳生編集	医薬ジャーナル社	2014
志馬 伸朗 (分担執筆)		深在性真菌症の診断・治療ガイドライン2014.				深在性真菌症のガイドライン作成委員会	協和企画	2014
志馬 伸朗	47. 集中治療(5) 小児集中治療.	麻酔科学レビュー2013			234-240	天羽啓祐監修	総合医学社	2014
志馬 伸朗	De-escalationは真に遂行可能か.	敗血症治療:一刻を争う現場での疑問に答える.			114-119	真弓俊彦編集	羊土社	2014
志馬 伸朗	院内肺炎と人工呼吸器関連肺炎.	日本胸部臨床	73	増刊号	S123-132		克誠堂	2014
志馬 伸朗	人工呼吸器関連肺炎の定義・予防・治療	呼吸療法アップデート			122-133	榎田浩史編集	真興交易	2014
志馬 伸朗	小児集中治療.	集中治療999の謎			451-510	田中龍馬編集		2015
志馬 伸朗(編著)		わかって動ける!人工呼吸器ポケットブック.				志馬伸朗編著	羊土社	2014.10
志馬 伸朗 (分担執筆)		NPPV(非侵襲的陽圧換気法)ガイドライン				日本呼吸器学会NPPVガイドライン作成委員会	南江堂	2015.2
志馬 伸朗	敗血症性ショックの輸液管理をどうするか	症例で学ぶ新しい周術期の輸液管理			118-123	松永 明編集	メディカルサイエンスインターナショナル	2014.8
志馬 伸朗	人工呼吸器関連肺炎	クリティカルケアにおける呼吸管理			113-126	氏家良人編集	克誠堂	2014
藤田直久、志馬伸朗、中西正樹、藤友結実子	実例2:医師の立場から	学ぶ、取り組む、実践する!AST(抗菌薬適正使用支援チーム)			89-94	二木芳人編著	医薬ジャーナル社	2014
Shime N, MacLaren G.	Innovation, cost, and sustainability of pediatric ventricular assist device programs.	Pediatr Crit Care Med.	(accepted for publication)					2015
志馬 伸朗	人工呼吸器関連肺炎対策.	日本外科感染症学会雑誌	10	2	225-231			2014
志馬 伸朗	体温と予後予測	救急医学	37	9	1013-1016			2014
志馬 伸朗	人工呼吸器関連肺炎(VAP)の診断と治療.	Medicina	50	12	1986-1990			2014
徳平 夏子, 志馬 伸朗.	血栓と抗凝固薬:重症敗血症に伴うDICを中心に.	小児内科	46	2	263-267			2014
志馬 伸朗, 羽鳥 文麿, 氏家 良人, 中川 聡, 清水 直樹, 中村 友彦, 岩崎 達雄, 竹内 宗之, 平井 克樹, 植田 育也, 齋藤 修, 新津 健裕, 笠井 正志, 金澤 伴幸, 清水 義之, 窪田 祥吾, 大平 智子, 川崎 達也, 織田 成人;日本集中治療医学会小児集中治療委員会	日本での小児重症敗血症診療に関する合意意見	日本集中治療医学会雑誌	21	1	67-88			2014
志馬 伸朗	敗血症性ショックにおける感染症診断と抗菌治療.	化学療法の領域	30	4	631-640			2014
志馬 伸朗	カフ上部吸引孔付き気管チューブをルーチン使用してよいか?~適正使用される前提のもと,全例でルーチン使用を.	Intensivist	6	2	199-202			
志馬 伸朗	頭高位は人工呼吸器管理患者のルーチン体位か?~エビデンスの検討と他体位との比較.	Intensivist	6	2	204-207			2014
志馬伸朗, 羽鳥 文麿, 氏家 良人, 中川 聡, 清水 直樹, 竹内 宗之, 平井 克樹, 植田 育也, 森崎 浩;日本集中治療医学会小児集中治療委員会	小児特定集中治療室管理料の算定対象となるPICU(pediatric ICU)のあり方.	日本集中治療医学会雑誌	21	3	297-299			2014

志馬 伸朗	敗血症診療ガイドライン:日本版ガイドラインとSSCGの比較.	日本腹部救急医学会雑誌	34	4	807-813			2014
瀬田 公一, 志馬 伸朗	プライマリ・ケアで遭遇する救急疾患:急性腎不全.	治療	96	7	1099-1104			2014
志馬 伸朗	定義・診断～さよならSIRS.	Intensivist	6	3	347-350			2014
遠藤文司, 志馬伸朗.	感染源コントロール～最適なタイミングで低侵襲かつ最大限の効果を旨す.	Intensivist	6	3	459-469			2014
志馬 伸朗	VAP予防の基本とVAPバンドル	呼吸器ケア	12	9	12-19			2014
志馬 伸朗	臍とポンプの密接な関係～右心バイパス手術後患者における呼吸管理	日集中医誌	21	5	473-475			2014
辻尾 有利子, 志馬 伸朗.	小児重症患者の看護褥瘡ケアと鎮静管理を中心に	小児看護	37	11	1443-47			2015
吉田 浩輔, 志馬 伸朗.	Damage control resuscitation その実際:凝固線溶異常を予防・回避するための蘇生:トラネキサム酸	救急・集中治療	26	7-8	1145-9			2014
志馬 伸朗	院内肺炎と人工呼吸器関連肺炎.	日本胸部臨床	73	増	S123-32			2014
志馬 伸朗	VAP予防の基本とVAPバンドル.	呼吸器ケア	12	9	840-847			2014
志馬 伸朗, 小阪 直史	PK-PDパラメーターを活用した感染症治療の実際 ④敗血症.	感染と抗菌薬	17	4	347-352			2014
志馬 伸朗	抗菌薬使用に関するエビデンス	救急医学	39	2	178-184			2015
志馬 伸朗	ECMOにおける感染制御.	救急・集中治療	26	11-12	1478-1483			2015
Nakayama Y, Nakajima Y, Sessler DI, Ishii S, Shibasaki M, Ogawa S, Takeshita J, Shime N, Mizobe T.	A novel method for ultrasound-guided radial arterial catheterization in pediatric patients.	Anesth Analg.	118	5	1019-26			2014
Hayama M, Shime N, Mio T.	Invasive pulmonary aspergillosis in a patient presenting with idiopathic systemic capillary leak syndrome.	BMJ Case Rep. doi: 10.1136/bcr-2014-203764						2014.5.23
Umenai T, Shime N (contributed equally as first authors), Asahara T, Nomoto K, Itoi T.	A pilot study of Bifidobacterium breve in neonates undergoing surgery for congenital heart disease.	Journal of Intensive Care	2	1	36			2014
Oda S, Aibiki M, Ikeda T, Imaizumi H, Endo S, Ochiai R, Kotani J, Shime N, Nishida O, Noguchi T, Matsuda N, Hirasawa H; Sepsis Registry Committee of The Japanese Society of Intensive Care Medicine.	The Japanese guidelines for the management of sepsis.	Journal of Intensive Care	2	1	55			2014
Shime N.	A survey of the competency of ambulance service personnel in the diagnosis and management of sepsis.	J Emerg Med			Epub ahead of Print			2015 Mar 20
志馬伸朗, 羽鳥文磨, 氏家良人, 中川聡, 清水直樹, 竹内宗之, 平井克樹, 植田育也, 森崎 浩	小児特定集中治療室管理料の算定対象となるPICU(pediatric ICU)のあり方.	日本集中治療医学会雑誌	21	3	297-9			2014
木下真央, 柴崎雅志, 志馬伸朗, 中嶋康文, 横野諭, 天谷文昌, 佐和貞治.	小児気管チューブ多施設横断現状調査.	麻酔	64	1	98-102			2015
志馬 伸朗	はじめに～変わりゆくもの、変わらないもの	Intensivist	6	3	345			2014
志馬 伸朗	解説～severe sepsis & septic shock.	Intensivist	6	3	511-513			2014
志馬 伸朗	レポート～真菌症フォーラム第15回学術集会.	Medicamentnews	2158		20-21			2014.5
志馬 伸朗	Current topic:敗血症診療ガイドライン.	Japan Medicine Monthly	52	5	11			2014.4.25

健診センター



健診センター長
田上 哲也

専門医資格等 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医、
近畿支部評議員
日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医・指導医・
教育責任者、評議員
日本甲状腺学会 専門医、評議員
厚生労働省 臨床研修指導医
京都大学医学部 臨床教授・非常勤講師
京都大学 医学博士

専門分野 内科、内分泌・代謝
得意疾患 内分泌疾患、甲状腺疾患

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
副健診センター長	島 伸子	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本ヘリコバクター学会 H・pylori(ピロリ菌) 感染症認定医	内科、 消化器内科、 消化器内視鏡検査	消化器疾患、 消化器内視鏡検査
非常勤医師	小坂田元太	日本内科学会 認定内科医、指導医 日本循環器学会 専門医、近畿支部評議員 日本超音波学会 専門医、指導医 日本人間ドック学会 認定医 京都大学 医学博士	内科、 循環器内科、 超音波医学	循環器疾患、 超音波検査

□ 診療科の特徴

現代人を取り巻く生活環境は、ここ数年で劇的に変化してきています。特に、食生活をはじめとするライフスタイルの欧米化により、糖尿病や高血圧、脂質異常症などの生活習慣病が急激に増えています。これらを放置すると、脳卒中や心筋梗塞などの“死”に直結する病気を発症する危険が高まります。また、以前から住民検査などで早期発見の目標とされている“がん”についても、依然として様々な臓器において増加が指摘されています。京都医療センターでは、受診されるみなさまの健康状態を把握することで、病気の早期発見・早期治療だけでなく、みなさまの“さらなる健康”と“より良い暮らし”をサポートさせていただくよう、健診センターを開設しています。

□ 診療(業務)内容

より高度、より贅沢な設備、スタッフ

当医療センターは、各種の高度専門医療施設に指定されていますので、それぞれの診療設備については、高度かつ精密な検査機器が配備されています。また、各学会認定の専門医が多数常勤しており、より専門的かつ高度な診断が可能となっています。当健診センターでは、これらのより高度で、より最高の設備・スタッフを駆使することにより、みなさまにより安心していただける健診を提供させていただきます。

健診センター専用棟での迅速な健康診断

平成16年5月に完成した健診センター専用棟には、待合ロビー、診察室、心電図室、超音波検査室、肺機能検査室、X線一般撮影/造影撮影室がすべて完備されていますので、それぞれの検査・診察が効率的かつ迅速にすすめることが可能となっています。(コース、オプションの内容によっては、中央診療棟での検査・診察となる場合がありますので、ご了承ください。)

このほか当センターでは、待ち時間の短縮など、受診されるみなさまのご負担をできるだけ軽減できますよう、常にこころがけておりますので、是非ご利用いただけますよう職員一同お待ちしております。

1. より迅速に、よりの確な健診を心がけています。

健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、X線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査を迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています（コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査、診察になります）。また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的での確な診断が可能になっています。

2. “点”から“線”の健診へ

従来の結果を眺めるだけの“点”の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ“線”の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患、ヘリコバクターピロリ菌感染症については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

3. より確実な早期発見を目指して

各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。また近年、がんに対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検診の試みも始まっています。当センターでは、子宮がん検診に、子宮頸がんのリスクファクターとされるhuman papilloma virus (HPV)検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を、前立腺癌にPSA測定を導入し、また、2014年10月からPETがん検診を開始し各疾患の早期発見を目指しています。

4. より“楽な”検査へ

胃がんの早期発見には内視鏡検査（胃カメラ検査）の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで“つらい”検査の一つでした。当センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって“つらい”検査から“楽な”検査への転換を図っています。

〈健診コース〉

基本コース	<p>★基本コース（一般コース・脳ドック・レディースコース）に加えて、各種オプション（肺：胸部CT検査、婦人科：診察・US、乳がん：マンモグラフィなど）を受診者の希望に応じて実施しています。また、本年度からPET健診を始めました。</p> <p>★血液サラサラ健診 血液は体内に必要な栄養素、酵素等を運び、老廃物を取り除く働きをします。</p> <p>生活習慣病予防のために「血液サラサラ健診」を受けてみませんか？</p> <p>★鼻から行う内視鏡 鼻から行う内視鏡をご存じですか？</p> <p>経鼻内視鏡検査は、口からの検査に比べ検査時の吐き気、不快感が少ないものとなっています。</p>
一般健診	
生活習慣病	
脳ドック	
レディース	
オプション	
脳オプション	
動脈硬化オプション	
血液サラサラ度オプション	
骨粗鬆症オプション	
各種がんオプション：肺、前立腺、乳腺、子宮	
PET健診	

□ 健診実績

〈受診者数〉

基本健診

	総受診者数	一般健診	生活習慣病	脳ドック	レディース	PET
2011年度	992	891	8	26	26	-
2012年度	844	764	11	27	30	-
2013年度	866	805	6	34	16	-
2014年度	1041	972	6	25	27	11

オプション

	脳	動脈硬化	血液流動性検査	骨粗鬆症
2011年度	137	94	21	102
2012年度	118	94	36	101
2013年度	122	85	43	93
2014年度	144	135	88	135

がんオプション

	肺がん	前立腺がん	乳がん	子宮がん
2011年度	48	199	169	157
2012年度	48	161	183	140
2013年度	54	175	197	136
2014年度	76	207	221	138

〈健診で発見されたがん〉

	2013年度	2014年度
早期胃がん	5	3
食道表在がん	1	1
咽喉頭がん	1	1
乳がん		1
肺がん疑い		1

〈大腸がん検診〉

	2013年度	2014年度
便検査実施者数	781	962
便潜血陽性者数	73	162
便潜血陽性率	73/781=9.3%	162/962=16.8%
要精密検査者数	73	157
追跡可能者数(大腸内視鏡検査済み)	37(当院30、他院7)	77(当院69、他院8)
追跡率	37/73=50.7%	77/157=49.0%
大腸癌	2	0
精密検査受診者における発見率	2/37=5.4%	0%
ポリープ(腺腫)	6	28
精密検査受診者における発見率	6/37=16.2%	28/77=36.3%

〈上部消化管検査内訳〉

	2014年度
内視鏡総数	800
経口内視鏡	410
経鼻内視鏡	390
胃透視	152

〈2014年度 胃がんリスク検診(ABC検診)〉

967人中、評価対象外197人(HP除菌後、PPI内服、胃切除後)を除く769人の結果

		抗HP IgG 抗体	
		陰性	陽性
ペプシノゲン法	陰性	A: 616 (80.1%)	B: 88 (11.4%)
	陽性	D: 9 (1.2%)	C: 56 (7.3%)

評価対象外 197人の内訳(重複含む)

HP除菌後 : 155+PPI内服中8+胃切除後4+ESD後1	168
PPI内服中 : 21+除菌後8	29
胃切除後 : 8+除菌後4+PPI内服中1	13

★2014年5月～2015年5月に、当院で治療を希望された103人に対してピロリ菌除菌治療を行った。

〈サリドマイド健診〉

前研究班の成果を踏まえ、中年期を向かえたサリドマイド胎芽症患者(以下、患者)の医療上・生活上の問題点を明確にし、有効な医療および支援のあり方を検討する。また、外国での患者に対する医療の取組みも調査し、国際的な医療情報交換を推進して患者に対する支援のあり方や取組みを世界的規模で展開する。

【目的】先の「全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究班」の研究成果を踏まえ、中年期を向かえた患者の今後の医療上・生活上の問題点を明確にし、有効な医療及び支援のあり方を検討する。また、外国での患者に対する医療の取組みに関する調査も進め、国際的な医療情報交換を推進し、患者に対する支援のあり方、取組みを世界的規模で検討していく。

京都医療センター健診センターでは、西日本居住者を対象に健診を実施している。

	サリドマイド健診
2012年度	10名
2013年度	8名
2014年度	8名

〈福島県県外甲状腺健診〉

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、東京電力福島第一原子力発電所では、放射性物質の放出を伴う事故(以下、福島第一原発事故という)が発生した。この事故は、国際原子力・放射線事象評価尺度(International Nuclear and Radiological Event Scale: INES)において、1986年4月26日に旧ソビエト連邦(現ウクライナ)で発生したチェルノブイリ原子力発電所事故(以下「チェルノブイリ原発事故」という)と同等の「7」(暫定)とされている。チェルノブイリ原発事故においては、事故直後に食品等の規制がなされなかったことなどに起因し、周辺住民の放射性ヨウ素による内部被ばくが拡大し、小児の甲状腺がんが激増する事態となった。このことから、福島第一原発事故においても小児の甲状腺がん発症への懸念が高まっている。

このため、福島県では県民の健康見守り事業である「県民健康管理調査」を実施し、その中で、福島第一原発事故発生時に18歳以下の子どもだった者に対する甲状腺検査を行っている。

「県民健康管理調査」事業は、福島第一原発事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげることで、将来にわたる県民の健康維持・増進を図ることを目的としている。財源には、国及び福島県からの出資金並びに東京電力株式会社から福島県への賠償金等から構成される「福島県民健康管理基金」が充てられている。検査・診断等は、福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターが主体となって行っている。県民健康管理調査は、外部被ばく線量の推計を目的とした「基本調査」と、健康状態の把握を目的とした「詳細調査」から構成されている。

甲状腺検査

事故当時18歳以下の子ども(平成4年4月2日以降に生まれた者)を対象とし、以下の2つの検査から構成されている。

先行検査 平成23年10月から平成26年3月末までに行われる、1回目の甲状腺検査

本格検査 平成26年4月以降、20歳までは2年ごと、それ以降は5年ごとに継続して行われる甲状腺検査

チェルノブイリ原発事故のデータから、小児甲状腺がんが増加するのは事故後4～5年を経過して以降とされている。このことを踏まえつつ、事故直後に開始された先行検査は、福島第一原発事故後3年以内の子どもの甲状腺の状態を把握することで、放射線被ばくによる影響が考えにくい時点での疾患の頻度を記録し、将来の健康管理の土台をつくることを目的としている。一方、事故後3年を経て開始される予定の本格検査は、放射線被ばくの影響についての追跡調査と健康管理を目的としている。平成25年現在行われているのは先行検査である。

先行検査はさらに、対象者全員に対して行われる一次検査と、一次検査で疑わしい所見のあった者に対してのみ行われる、診断確定のための二次検査で構成される。

一次検査は甲状腺エコー検査(超音波検査)である。二次検査は甲状腺エコー検査に加え、採血・尿検査が行われるほか、必要な場合は細胞診(甲状腺の細胞を採取して行う検査)が行われる。

京都医療センター内分泌・代謝内科では、京都府下への避難者(京都府内居住者)を対象に一次検査と二次検査を実施している。

	福島甲状腺エコー
2012年度	9件
2013年度	31件
2014年度	33件

臨床研究センター



臨床研究センター長
臨床研究企画運営部長(併任)
糖尿病研究部長(併任)
治験管理室長(併任)
研究室長(糖尿病合
併症:併任)
島津 章

専門医資格等 日本内科学会 内分泌代謝科専門医・指導医
日本糖尿病学会 糖尿病専門医
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医
専門分野 内科・内分泌代謝・神経内分泌、検査医学

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野
副センター長・内分泌代謝 高血圧研究部長・研 究室長(高血圧:併任)	成瀬 光栄	日本内科学会 指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会 糖尿病専門医 日本腎臓学会 腎臓専門医・指導医 日本高血圧学会 専門医	内科・内分泌代謝(副 腎疾患)・高血圧
展開医療研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医(FAHA) アメリカ心臓病学会専門医(FACC) 日本禁煙科学会認定 禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、 心血管危険因子管理・ 特に禁煙指導、心血管 展開医療研究
研究室長(予防医学)	坂根 直樹	日本内科学会 認定医 日本肥満学会 評議員	糖尿病、糖尿病教育
研究室長(臨床内分泌 代謝)	臼井 健	日本内科学会認定医・指導医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医 日本人類遺伝学会/日本遺伝子カウンセリング 学会 臨床遺伝専門医・指導医 臨床研修指導医	内科・内分泌代謝・臨 床遺伝学
研究室長(先端医療技 術開発)	和田 啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファク ター管理、予防医学、臨 床研究(バイオマーカ ー、メタボリックシンド ローム、喫煙)、実験医 学(心筋梗塞、高血圧 性心疾患、血管新生)
研究室長(臨床代謝栄養)	浅原 哲子	日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会 認定内科医 日本肥満学会 評議員 日本病態栄養学会 評議員 臨床遺伝専門医	糖尿病、肥満(メタボリッ クシンドローム)疾患
研究室長(分子内分泌 代謝:併任)	田上 哲也	日本内科学会 総合内科専門医・認定医・指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医 ・教育責任者 日本甲状腺学会 専門医臨床研修指導医	内科・内分泌代謝 (甲状腺疾患)

	氏名	専門医資格等	専門分野
研究室長(内分泌系腫瘍:併任)	奥野 博	日本泌尿器科学会 指導医・専門医 日本生殖医学会 評議員 日本アンドロロジー学会 評議員 京都大学 医学博士京都大学医学部 臨床教授関西医科大学 臨床教授 米国泌尿器科学会 日本癌治療認定医 日本臨床腎移植学会 腎移植認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 日本泌尿器内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医	前立腺がん、体腔鏡手術、女性・男性泌尿器科学
研究室長(臨床疫学情報:併任)	小山 弘	日本内科学会総合内科専門医	内科一般、内科診断学、医学教育、臨床疫学
研究室長(糖尿病:併任)	河野 茂夫	日本糖尿病学会 糖尿病専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会 評議員	糖尿病、足病変
研究室長(がん医療:併任)	猪飼伊知夫	日本外科学会 外科専門医、指導医 日本消化器外科学会 外科専門医、指導医 日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	肝胆膵外科(肝臓がん、胆道がん、膵臓がん)
研究室長(血管障害:併任)	塚原 徹也	日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会 脳卒中専門医・評議員 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会 脳卒中専門医・評議員	脳卒中外科、脳血管障害、脳腫瘍、脳神経外科一般
研究室長(生命情報科学:併任)	七野 力	厚生労働省による麻酔科標榜許可日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医・指導医 日本集中治療医学会認定 集中治療専門医	麻酔科学全般 心臓血管外科手術の麻酔管理 集中治療における呼吸・循環管理
研究室長(情報化推進:併任)	北岡 有喜	日本産科婦人科学会専門医 国立病院等総合情報ネットワーク研究会副会長 I Tコンソーシアム京都 医療情報化部会長	生殖分子生理学医療情報学・情報システム学 集中治療における呼吸・循環管理
流動研究員	松島 大介		
流動研究員	津崎 ころ		
流動研究員	田中 将志		
流動研究員	曾和 尚也		

□ 診療(業務)内容

京都医療センターは平成11年3月「内分泌・代謝性疾患」の高度専門医療施設(準ナショナルセンター)として位置づけられ、その研究体制強化の一環として平成15年10月1日付で臨床研究センターが設置されました。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度から「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになりました。

今までの研究基盤の上に立ち、内分泌・代謝性疾患に加え、がん医療、成育医療、循環器疾患、腎疾患、感覚器疾患など幅広い医療分野において、他の研究施設や大学には備わっていない当院独自の特性を生かした臨床研究を行う学術機関として位置づけられています。現在、臨床研究センターは、臨床研究企画運営部、内分泌代謝高血圧研究部、糖尿病研究部、展開医療研究部の4部門15研究室から構成され、院内の臨床部門と密接に連携協力し、研究体制の支援、あわせて院外研究員や諸機関と広く協力して、研究施設の効率的運用を図り、医療の向上に資する臨床研究を強力に推進しています。

□ 地域医療連携・広報活動

- 1) 下垂体患者の会 医療講演(関西) 2014年11月16日 講演「間脳下垂体疾患:最近の動向と生活面の注意面」
看護助産学校視聴覚室
- 2) 京都市委託難病患者医療講演会相談会 2014年6月29日(京都)
- 3) 京都府教育大学附属桃山小学校 育友会(保険体育部)講演会 「肥満・メタボリックシンドローム対策の必要性」 2015年2月27日(京都)
- 4) 第4回京都医療センター医療連携フォーラム 「骨粗鬆症Update」 2015年1月31日(京都)
- 5) 健康アクション佐賀 2 県民会議 「からだのリズムは食事から ～“いつ食べる?”からはじめる時間栄養学～」
2014年10月28日(佐賀)
- 6) 伏見内分泌代謝ネットワーク 第21回連携の会 「生活習慣病診療と医療経済」 2014年4月19日 伏見
医師会館
- 7) 伏見内分泌代謝ネットワーク 連携の会講演会 2014年7月17日(京都)
- 8) 伏見内分泌代謝ネットワーク 第22回連携の会 「高血圧診療ガイドライン」 2014年10月23日 伏見医師
会館 他

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

演 者	タイトル	学 会 名
Yuno A, Usui T, Koizumi S, Shimatsu A	Molecular Characterization of Genetic and Epigenetic Alterations in Japanese Patients with Pseudohypoparathyroidism(PHP)	Endocrine Society's 96th Annual Meeting & Expo 2014, Chicago, USA, 2014/6/21-24
Kawashima Y, Okayama Y, Fujimoto M, Miyahara N, Nishimura R, Hanaki K, Usui T, Kanzaki S	Congenital Adrenal Hyperplasia Due to 21-Hydroxylase Deficiency Derived from Novel Compound Heterozygous Mutations (IVS2-13 A/C>G and p.E431K)	Endocrine Society's 96th Annual Meeting & Expo 2014, Chicago, USA, 2014/6/21-24
Naruse M, Matsuo N, Tsuike M, Nakao K, Kakita M, Nakatani R, Nanba K, Hirokawa Y, Usui T, Tagami T, Shimatsu A	Reproducibility of Subtype Classification By Adrenal Venous Sampling in Primary Aldosteronism	Endocrine Society's 96th Annual Meeting & Expo 2014, Chicago, USA, 2014/6/21-24
Umakoshi H, Ogasawara T, Hirota K, Yokota M, Nakatani R, Kakita M, Tsuike M, Tagami T, Usui T, Hirokawa Y, Shimatsu A, Naruse M	Cortisol Concentration Is a Necessary but Not a Sufficient Reference Condition for Lateralizing Aldosterone Excess By Adrenal Venous Sampling in Primary Aldosteronism	Endocrine Society's 96th Annual Meeting & Expo 2014, Chicago, USA, 2014/6/21-24
Kono S	Symposium : Diabetic Foot Day/International Perspectives and Updates「Diabetic Foot Problems in Asia	The 24th Conference of the European Wound Management Association, Madrid, Spain, 2014/5/13-16
Satoh-Asahara N, Matsuo Y, Tanaka M, Sasaki Y, Yamakage H, Muranaka K, Ikai I, Hata H, Shimatsu A, Inoue M, Tae-Hwa Chun	Sexually dimorphic, fat depot-dependent expression of a fibrogenic adipokine, thrombospondin 1 (THBS1) in human obesity	2015 Keystone Symposia Conference, Kanada, British Columbia, Wistler, 2015/3/22-27
Tanaka M, Matsuo Y, Muranaka K, Yamakage H, Sasaki Y, Shimatsu A, Satoh-Asahara N	GLP-1 receptor agonist attenuates the oxidized-LDL-induced foam cell formation through autophagy in macrophages and monocytes	2015 Keystone Symposia Conference, Kanada, British Columbia, Wistler, 2015/3/22-27
Satoh-Asahara N	The Utility of CAVI in Predicting the cardiovascular risks of Obesity and Metabolic Syndrome.	The Pulse of Asia in ATHENS, Greece, Athens, 2014/6/12-13
Umakoshi H, Matsuo N, Hirokawa Y, Tsuike M, Nakao K, Nanba K, Kakita M, Nakatani R, Usui T, Tagami T, Shimatsu A, Naruse M	Reproducibility of Subtype Testing by Adrenal Venous Sampling in Primary Aldosteronism : Is Repeated Sampling Needed?	International 40th Aldosterone Conference 2014, Chicago, USA, 2014/6/19-20
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, Yamamoto T	Impaired awareness of hypoglycemia in insulin-treated patients with type 2 diabetes mellitus	50th European Association for the Study of diabetes Annual Meeting, Vienna, Austria, 2014/9/15-19

Sakane N, Okazaki K, Kotani K, Takahashi K, Sano Y, Tsuzaki K, Sato J, Suzuki S, Morita S, Oshima Y, Izumi K, Kato M, Ishizuka N, Noda M, Kuzuya H	Japan Diabetes Outcome Intervention Trial-1(J-DOIT1), Effects of telephone-delivered lifestyle support on the development of diabetes in subjects at high risk of type 2 diabetes: J-DOIT1, a pragmatic cluster randomized trial in the primary health care setting	74th scientific sessions, American Diabetes Association, San Francisco, 2014/7/13-17
Shimatsu A, Sauter N, Kelly RY, Unge P, Fleseriu M	Study design of a phase III, multicenter, double-blind, randomized withdrawal study following a 24-week, single-arm, open-label osilodrostat (LCL699) treatment to evaluate the long-term safety and efficacy of osilodrostat in patients with Cushing's disease(CD).	Endocrine Society's 97th Annual Meeting & Expo 2015, SAN DIEGO, USA, 2015/3/5-8
Wada H, Takabayashi K, Akao M, Ura S, Unoki T, Yamashita Y, Hamatani Y, Masunaga N, Ishii M, Abe M, Iguchi M, Ogawa H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K	Correlation between Serum Levels of Placental Growth Factor and Cardiovascular Events Following Coronary Drug-eluting Stent Implantation	The 18th International Vascular Biology Meeting , Kyoto, Japan, 2014/4/14-17
Hasegawa K	Hypertrophic cardiomyopathies structural and signaling substrates	World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2014, Melbourne Australia, 2014/5/4-7
Komiyama M, Wada H, Ura S, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimada S, Shimatsu A, Koyama H, Kono K, Takahashi Y, Hasegawa K	Influence of post-smoking cessation weight gain on atherogenic α 1-antitrypsin-low density lipoprotein	World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2014, Melbourne Australia, 2014/5/4-7
Komiyama M, Wada H, Ura S, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimada S, Shimatsu A, Koyama H, Kono K, Takahashi Y, Hasegawa K	The effects of weight gain after smoking cessation on atherogenic alpha1-antitrypsin-low-density lipoprotein	European Society of Cardiology Congress , Barcelona Spain , 2014/8/30-9/4
Ura S, Wada H, Satoh-Asahara N, Akao M, Abe M, Ono K, Morimoto T, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K	Self-rating Depression Scale Score as an Inverse and Independent Predictor of Successful Smoking Cessation with a Pharmacological Treatment for Nicotine Addiction	American Heart Association Scientific Sessions, Chicago, Illinois, USA, 2014/11/16-19
Wada H, Satoh-Asahara N, Akao M, Abe M, Ono K, Morimoto M, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K	Self-rating Depression Scale Score as an Inverse and Independent Predictor of Successful Smoking Cessation with a Pharmacological Treatment for Nicotine Addiction	American Heart Association Scientific Sessions, Chicago, Illinois, USA, 2014/11/16-19
Shimada S, Komiyama M, Wada H, Ura S, Yamakage H, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K	Time-dependent changes in two atherogenic lipoproteins after smoking cessation	19th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy, Adelaide, Australia, 2014/11/26-28
Sunagawa Y, Suzuki M, Katanasaka Y, Yamakage H, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T	Auraptene, a Coumaric Compounds analogous, Prevented Cardiac Hypertrophy by Activating PPAR α After Myocardial Infarction in Rats	19th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy, Adelaide, Australia, 2014/11/26-28

他、947件

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年および月
Ueda Y, Usui T, Watanabe T, Kaneko K, Nakatani R, Kobayashi M, Tanase-Nakao K, Nanba K, Tsuiki M, Tagami T, Naruse M, Toyoda Y, Homma K, Hasegawa T, Shimatsu A	Elevated levels of plasma immunoassayable aldosterone in a mild form of 17 alpha-hydroxylase/17,20-lyase deficiency diagnosed at the age of 50.	The American Association of Clinical Endocrinologists (AACE) Clinical Case Reports		in press	DOI:10.4158/EP14388.CR			2014.9.28
Itoshima S, Yuno A, Kato T, Kamada H, Ikota A, Usui T, Shimatsu A, Koizumi S	Denosumab for the treatment of refractory hypercalcemia in metastatic parathyroid carcinoma.	The American Association of Clinical Endocrinologists (AACE) Clinical Case Reports	1	2	e1-e4,			2015
Kakita Kobayashi M, Ueda Y, Tanase-Nakao K, Usui T, Watanabe T, Yamamoto T, Nanba K, Tagami T, Naruse M, Asato R, Shimatsu A	A case of C cell hyperplasia in an asymptomatic V804M RET mutation carrier; can the calcium infusion test predict C cell hyperplasia?	Endocrine Practice		in press	DOI:10.4158/EP14240.CR			2014.9.16
Kakita-Kobayashi M, Usui T, Sasano H, Shimatsu A	18F-FDG-PET-positive adrenal tumour	BMJ Case Reports			doi:10.1136/bcr-2015-209379			2015
Ueda Y, Tagami T, Tamanaha T, Kakita M, Tanase-Nakao K, Nanba K, Usui T, Naruse M, Shimatsu A	A family of RTH β with p.R316C mutation presenting occasional syndrome of inappropriate secretion of TSH	Endocrine Journal	62	3	251-260			2015
Tsukamoto Kawashima S, Usui T, Tenjin A, Asai S, Tanaka Y, Hoshikawa M, Shimatsu A, Katabami T	IN SILICO ANALYSIS IDENTIFICATION OF A NOVEL GERM-LINE VHL MUTATION IN A PATIENT OF MALIGNANT PHEOCHROMOCYTOMA	ENDOCRINE PRACTICE	20	6	e96-101			2014
Tsukamoto Kawashima S, Usui T, Ueda Y, Kakita Kobayashi M, Tsuiki M, Tanase-Nakao K, Nanba K, Tagami T, Naruse M, Watanabe Y, Asato R, Kato S, Shimastu A	Primary hyperparathyroidism due to atypical vertically long cystic adenoma	Endocrinology, Diabetes & Metabolism CASE REPORTS(E-pub: Oct 1, 2014 as doi: 10.1530/EDM-14-0086)			140086			2014
Kawashima ST, Tagami T, Nakao K, Nanba K, Tamanaha T, Usui T, Naruse M, Minamiguchi S, Mori Y, Tsuji J, Tanaka I, Shimatsu A	Serum levels of IgG and IgG4 in Hashimoto thyroiditis.	Endocrine	45	2	236-243			2014
Nanba K, Tsuiki M, Nakao K, Nanba A, Usui T, Tagami T, Hirokawa Y, Okuno H, Suzuki T, Shimbo T, Shimatsu A, Naruse M	A subtype prediction score for primary aldosteronism	Journal of Human Hypertension	28	12	716-720			2014
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Takahashi K, Usui T, Uchiyama S, Fujiwara S	Equol producers can have low leptin levels among prediabetic and diabetic females.	Annales d'endocrinologie	75	1	25-28			2014
Tanase-Nakao K, Naruse M, Nanba K, Tsuiki M, Tagami T, Usui T, Okuno H, Shimatsu A, Hashimoto S, Katabami T, Ogo A, Okumura A, Umakoshi H, Suzuki T	Chronic kidney disease score for predicting postoperative masked renal insufficiency in patients with primary aldosteronism.	Clinical Endocrinology (Oxf)	81	5	665-670			2014
Yamakage H, Ito R, Tochiya M, Muranaka K, Tanaka M, Matsuo Y, Odori S, Kono S, Shimatsu A, Satoh-Asahara N	The Utility of Dual Bioelectrical Impedance Analysis in Detecting Intra-abdominal Fat Area in Obese Patients during Weight Reduction Therapy in Comparison with Waist Circumference and Abdominal CT	Endocrine Journal	61	8	807-819		Endocrine Journal	2014.8

Komiyama M, Wada H, Ura S, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimada S, Akao M, Koyama H, Kono K, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K	The effects of weight gain after smoking cessation on atherogenic α 1-antitrypsin-low-density lipoprotein.	Heart and Vessel(E-pub: Aug. 3, 2014 as doi: 10.1007/s00380-014-0549-9)	Epub ahead of print				Heart Vessels	2014.8.3
Ito R, Yamakage H, Kotani K, Wada H, Otani S, Yonezawa K, Ogo A, Okajima T, Adachi M, Araki R, Yoshida K, Saito M, Nagaoka T, Toyonaga T, Tanaka T, Yamada T, Ota I, Oishi M, Miyana F, Shimatsu A, Satoh-Asahara N, The Japan Diabetes and Obesity Study (J-DOS) Group.	The Japan Diabetes and Obesity Study (J-DOS) Group. Comparison of Cystatin C- and Creatinine-based Estimated Glomerular Filtration Rate to Predict Coronary Heart Disease Risk in Japanese Patients with Obesity and Diabetes.	Endocrine Journal	62	2	201-207		Endocrine Journal	Feb. 27, 2015
Umakoshi H, Tanase-Nakao K, Wada N, Ichijo T, Sone M, Inagaki N, Katabami T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Tsuiki M, Shimatsu A, Naruse M.	Importance of contralateral aldosterone suppression during adrenal vein sampling in the subtype evaluation of primary aldosteronism.	Clinical Endocrinology (Oxf) (E-pub: Mar.2, 2015 as doi: 10.1111/cen.12761)						2015 Mar
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Takahashi K, Nagai N, Moritani T, Egawa K, Yoshimura M, Kitagawa Y, Shibata H	Short-term effects of supplementation with a multi-ingredient weight-loss product on weight maintenance and fat oxidation in obese female with weight reduction: preliminary results	Journal of obesity & weight loss therapy	4	4	1000231			2014.11
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, and Yamamoto T	Impaired awareness of hypoglycemia and driving mishaps in patients with type 1 diabetes mellitus: A multi-center survey in Japan	Journal of Diabetes Research	1	1	101			2014.10
Sakane N, Sato J, Tsushita K, Tsujii S, Kotani K, Tominaga M, Kawazu S, Sato Y, Usui T, Kamae I, Yoshida T, Kiyohara Y, Sato S, Tsuzaki K, Takahashi K, Kuzuya H; the Japan Diabetes Prevention Program (JDPP) Research Group	Effect of baseline HbA1c level on the development of diabetes by lifestyle intervention in primary healthcare settings: Insights from subanalysis of the Japan Diabetes Prevention Program	BMJ Open Diabetes Research & Car	2	1	e000003			2014.4
Kotani K, Tsuzaki K, Sakane N	The Relationship Between Gamma-Glutamyltransferase (GGT), Bilirubin (Bil) and Small Dense Low-Density Lipoprotein (sdLDL) in Asymptomatic Subjects Attending a Clinic for Screening Dyslipidaemias	ANNALS Academy of Medicine Singapore	43	4	216-219			2014.4
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, Yamamoto T	Fear of hypoglycemia and patient-physician communication in adult patients with type 1 diabetes mellitus	Diabetes Research and Treatment	1		113			2014

Sakane N, Kotani K, Takahashi K, Sano Y, Tsuzaki K, Okazaki K, Sato J, Suzuki S, Morita S, Oshima Y, Izumi K, Kato M, Ishizuka N, Noda M, Kuzuya H	Effects of telephone-delivered lifestyle support on the development of diabetes in subjects at high risk of type 2 diabetes: J-DOIT1, a pragmatic cluster randomized trial	BMJ Open						2014 (accepted)
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y, Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, Yamamoto T	Fear of hypoglycemia and its determinants in insulin-treated patients with type 2 diabetes mellitus	Journal of Diabetes Investigation						2015.2 (in press)
Ito R, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Sasaki Y, Odori S, Kono S, Wada H, Suganami T, Ogawa Y, Hasegawa K, Shimatsu A	An increase in the EPA/AA ratio is associated with improved arterial stiffness in obese patients with dyslipidemia	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	21	3	248-260			2014
Sunagawa Y, Sono S, Katanasaka Y, Funamoto M, Hirano S, Miyazaki Y, Hojo Y, Suzuki H, Morimoto E, Marui A, Sakata R, Ueno M, Kakeya H, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T	Optimal Dose-Setting Study of Curcumin for Improvement of Left Ventricular Systolic Function After Myocardial Infarction in Rats.	Journal of Pharmaceutical Sciences	126	4	329-336			2014.11
Sunagawa Y, Hirano S, Katanasaka Y, Miyazaki Y, Funamoto M, Okamura N, Hojo Y, Suzuki H, Doi O, Yokoji T, Morimoto E, Takahashi T, Ozawa H, Imaizumi A, Ueno M, Kakeya H, Shimatsu A, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T	Colloidal Submicron-particle Curcumin Exhibits High Absorption Efficiency -A double-blind, 3-Way Crossover Study	Journal of Nutritional Science and Vitaminology, in press						2014
Iwata T, Tamanaha T, Koezuka R, Tochiya M, Makino H, Kishimoto I, Mizusawa N, Ono S, Inoshita N, Yamada S, Shimatsu S, Yoshimoto K	Germline deletion and a somatic mutation of the PRKAR1A gene in a Carney complex-related pituitary adenoma.	European Journal of Endocrinology	172	1	K5-K10			2015.1
Ito T, Igarashi H, Nakamura K, Sasano H, Okusaka T, Takano K, Komoto I, Tanaka M, Imamura M, Jensen R, Takayanagi R, Shimatsu A	Epidemiological trends of pancreatic and gastrointestinal neuroendocrine tumors in Japan: a nationwide survey analysis.	Journal of Gastroenterology	50	1	58-64			2015.1
Hattori N, Ishihara T, Yamagami K, Shimatsu A	Macro TSH in patients with subclinical hypothyroidism. (E-pub: Nov. 11, 2014 as doi: 10.1111/cen.12643)	Clinical Endocrinology (Oxf)		in press				2015

他、318件

□ 獲得した競争的研究資金

項目	研究課題	研究者名	研究事業者名	主任分担の例	主任/分担研究者 直接経費金額
文部科学省関連研究費	時間栄養学を活用した生活習慣病予防と治療のための食事指導法開発についての研究	津崎 ころこ	基盤研究(C)	主任	80万円
文部科学省関連研究費	妊娠糖尿病予防のための構造化された簡易な食事支援プログラムの開発に関する研究	坂根 直樹	基盤研究(C)	主任	125万円
文部科学省関連研究費	血管内皮増殖因子Cの動脈硬化における役割と心血管イベントとの関連	和田 啓道	基盤研究(C)	主任	125万円
文部科学省関連研究費	マクロファージ機能・炎症を標的とした肥満・糖尿病血管合併症の早期診断と治療戦略	浅原 哲子	基盤研究(C)	主任	120万円
文部科学省関連研究費	肥満治療におけるうつ状態に基づいたリバウンド防止と心血管病予防法の確立	姫野 亜紀裕	若手研究(B)	主任	150万円
文部科学省関連研究費	心腎連関進展予防の為に至適脂質指標と効果的脂質管理法に関するコホート研究	山陰 一	若手研究(B)	主任	150万円
文部科学省関連研究費	偽性副甲状腺機能低下症のエピゲノム解析	湯野 暁子	若手研究(B)	主任	130万円
文部科学省関連研究費	地域食材を生かした合併症予防のための糖尿病食(低AGE食)レシピの開発と効果検証	鋤納 心	基盤研究(C)	主任	80万円
文部科学省関連研究費	偽性副甲状腺機能低下症をモデルとしたエピゲノム病の病態基盤解析	白井 健	基盤研究(C)	主任	150万円
文部科学省関連研究費	心血管病予防に向けた摂取栄養素とアディポサイトカインに基づく効果的栄養指導	佐々木 洋介	若手研究(B)	主任	160万円
文部科学省関連研究費	低アディポネクチン血症克服のための新規分泌調節の解明ーレドックス制御の関与ー	松尾 禎之	研究活動スタート支援	主任	110万円
国立高度専門医療センター等研究費	中国における糖尿病・代謝症候群の治療戦略における内臓脂肪量評価の意義	成瀬 光栄	国際開発費25指1	分担	220万円
国立高度専門医療センター等研究費	アジア開発途上国における糖尿病合併症に対する介入戦略に関する研究	河野 茂夫	国際開発費25指1	分担	198万円
その他財団等からの研究費	2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験(J-D O I T 3)	河野 茂夫	J-D O I T 3	主任	120万円
国立高度専門医療センター等研究費	1-2機能性農林水産物・食品による高齢者(健常者・病者)のロコモティブシンドロームおよび脳機能改善効果の検証	坂根 直樹	SIP「次世代農林水産業創造技術」委託試験研究	分担	312.4万円
その他財団等からの研究費	先進諸国における薬局薬剤師による慢性疾患管理に関する実態調査	岡田 浩	ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成金	主任	300万円
その他財団等からの研究費	薬局検査普及のための現況調査とこれに基づく提言	小谷 和彦	ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成金	主任	100万円
厚生労働科学研究費	間脳下垂体機能障害における診療ガイドラインの作成に関する研究	島津 章	難治性疾患政策研究事業	主任	1152万円
厚生労働科学研究費	サリドマイド胎芽病患者の健康・生活実態に関する研究	田上 哲也	医薬品・医療機器等4「フューチャーイノベーション」総合研究事業	分担	90万円

厚生労働科学研究費	笑い等のポジティブな心理介入が生活習慣病発症・重症化予防に及ぼす影響についての疫学研究 (H25-循環器等(生習)一般-008)	浅原 哲子	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	100万円
厚生労働科学研究費	簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立(H25-循環器等(生習)一般-017)	和田 啓道	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	主任	1539万円
その他厚生労働省関連研究費	日本人糖尿病の合併症重症度評価パネルの確立と重症化予防の為の効率的医療連携体制の構築 (H26-循環器等実用化一般-015)	浅原 哲子	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	主任	923万円
その他財団等からの研究費	マクロファージの泡沫化及び炎症反応に対するインクレチンの作用とその機序の解明	浅原 哲子	日本イーライリリー助成金	主任	100万円
その他財団等からの研究費	禁煙後の糖尿病発症を予知するバイオマーカーの開発	和田 啓道	喫煙科学研究財団研究助成金	主任	200万円
その他財団等からの研究費	糖尿病・肥満における心腎関連因子としての脂質炎症関連分子の意義とその効果的治療法の検討	浅原 哲子	アストラゼネカ研究助成金	主任	270万円
その他財団等からの研究費	糖尿病患者の心血管合併症発症・進展に対する早期評価系確立に関する研究ーシスタチオンCの有用性ー	山陰 一	アストラゼネカ研究助成金	主任	100万円
その他財団等からの研究費	生活習慣病における単球機能に着目した心血管合併症の新たな早期評価系及び予防法の構築	田中 将志	アストラゼネカ研究助成金	主任	100万円
その他財団等からの研究費	糖尿病・メタボリック症候群における脳心血管障害に及ぼすマクロファージ機能と喫煙/禁煙の影響-頸動脈プラーク内炎症・M1/M2マクロファージの検討	浅原 哲子	喫煙科学研究財団研究助成金	主任	200万円
その他財団等からの研究費	生活習慣病におけるEPA/DHAおよびミツバチ成分の抗炎症・抗動脈硬化作用と分子機序の解明	浅原 哲子	山田養蜂場みつばち研究助成金	主任	192.4万円
その他財団等からの研究費	肥満症・メタボリックシンドロームにおける大豆イソフラボン代謝産物エクオール投与の心血管病リスク軽減効果に関する研究	浅原 哲子	不二たん白質研究振興財団助成金	主任	100万円
その他財団等からの研究費	肥満症・メタボリックシンドロームにおける大豆イソフラボンの心血管疾患リスク軽減効果と腸内環境-プロバイオティクスの有効性	浅原 哲子	ダノン学術研究助成金	主任	200万円
その他財団等からの研究費	原発性アルドステロン症における in vitro オートラジオグラフィーを用いたアルドステロン合成酵素の発現・局在の検討(共同研究)	成瀬 光栄	日本メジフィジックス(株)	主任	98万円
その他財団等からの研究費	高血圧性心肥大患者さんを対象とした高吸収カルシウムによる左室拡張障害改善検証のための二重盲検無作為化比較試験	長谷川 浩二	(株)セラバリュース	主任	100万円
その他財団等からの研究費	経口糖尿病薬効果不十分例に対するイブラグリフロジン併用の有効性と安全性(スーグラ研究)	浅原 哲子	アステラス製薬(株)	主任	129.6万円
その他財団等からの研究費	心血管イベント予知因子としてのCAVIに関する前向き研究	浅原 哲子	サイトサポート・インスティテュート(株)	主任	106.4万円

他、91件

医療安全管理部



医療安全管理部長
白神 幸太郎



医療安全管理副部長
阿部 充



医療安全管理係長
右野 恵



副看護師長
黒川 久美子



訴訟専門職
山崎 茂

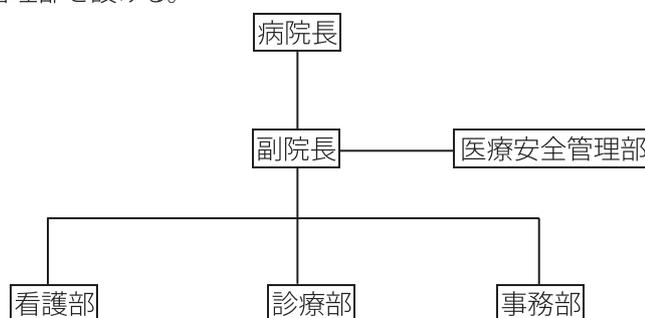
当院は病院理念として『私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、患者さんが安心できる医療を提供します。』を掲げている。これを実践していく上で患者安全の確保、医療事故等の防止、医療の質向上に対する取り組みは必須であり、安全文化の醸成は医療機関としての責務である。

当院は、医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために、医療安全管理委員会、医療事故対策本部（随時）、医療安全管理室を設置し、各部署に医療安全推進担当者（リスクマネージャー）をおいて医療安全管理体制を整備している。インシデント・アクシデント事例を収集し、個々の事例に対応するだけでなく、マニュアル等の定期的な見直しを行い医療安全管理体制の強化充実を図っている。また院内で共有すべき情報については積極的に情報発信を行い、スタッフ教育にも力を注いでいる。

これらの取り組みを通じて、医療に伴って発生する様々な危険や有害事象をモニターし、調査、分析して医療に反映させること、重大な有害事象に対して病院をあげて迅速に対応すること、スタッフ教育や院内システムの改善に役立てることを目標としている。

1. 医療安全組織図

1) 副院長直下に医療安全管理部を設ける。



2) 構成メンバー

医療安全管理部長 1名

医療安全管理副部長 1名

訴訟専門職 1名

医療安全管理係長 1名

看護部医療安全担当副看護師長:1名(平成26年3月1日配置)

医療安全推進担当者(リスクマネージャー)各部署から1名 計59名(平成27年3月現在)

2. 医療安全に関する日常活動

- 1) 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査(定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検)
- 2) マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等

- 3) インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理
- 4) 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
- 5) 医療安全に関する職員への啓発、広報
- 6) 医療安全に関する教育研修の企画・運営
- 7) 医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
- 8) 医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3. 業務実績

1) 医療事故に関する会議開催状況

- ① 拡大医療安全管理委員会 0件
- ② 医療事故本部対策会議 2件
- ③ オカーレンス事例検討会議 26件
- ④ ハイリスク診療検討会議 7件

2) マニュアル、ガイドラインの作成・改訂

- ・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン改訂版(2014年改訂)
- ・中心静脈カテーテル運用マニュアル(2012年)
- ・術前リスクと術後合併症評価ガイドライン(2012年)
- ・インスリン指示に関する対症指示テンプレート整備(2012年)
- ・ロヒプノール院内使用指針(2014年)
- ・事故防止対策マニュアル改訂(2014年)

3) インシデント・アクシデントレポート収集

・平成26年度報告件数

インシデント 3,418件
 アクシデント 121件

・平成26年度職種別報告件数

看護部:3,305件(90.8%)
 医師:141件(3.9%)

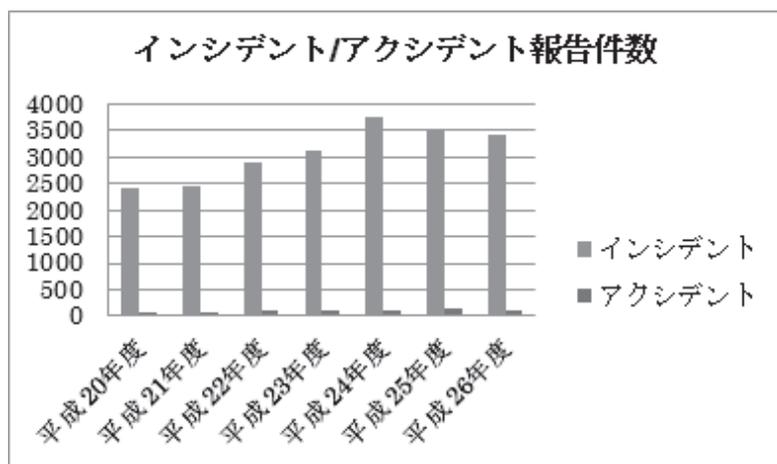


表1 職種別報告件数

職種	報告件数	割合
看護部	3,305	90.8%
医師	141	3.9%
薬剤	20	0.5%
栄養	36	1.0%
検査	34	0.9%
放射線	58	1.6%
リハビリ	18	0.5%
臨床工学技士	18	0.5%
事務	9	0.3%
合計	3,639	

4) 平成26年度 緊急コール件数

ドクターハートコール:30件
 M E T Sコール(平成25年9月稼働):5件
 ホワイトコードコール:18件
 警察対応事例:4件

5) 医療安全に関する活動及び情報提供

- ・医療安全管理委員会 1回/月 計12回
- ・リスクマネージャー会議 1回/月 計12回
- ・診療科長会議、医局会、管理診療会議での報告や注意喚起
- ・医療安全管理室ニュースレター・事故事例の情報発信等 1回/1～2月発行
計12回 (針刺し予防、麻薬、転倒転落予防、看護技術再確認、輸液ルートと接続部の確認、患者取り違え、誤認、誤薬等)
- ・「2回チャレンジルール」11月開始

6) 医療安全に関する教育研修

(1) 医療事故防止研修シリーズ

研修内容	開催月	対象	人数	時間
パワーポイント説明会	7・8月	看護師	55	0.5
ピュアライン説明会	4月	救命看護師		0.5
麻薬について (病棟内伝達)	5・6月	看護師	全病棟	0.5
指差呼称 DVD (病棟内LG)	5・6月	看護師	新人	0.5
緊急気道確保シミュレーション	4月	全職員	38	1.5
CVC・PICCシミュレーション	4月	全職員	21	1.5
麻薬・向精神薬・ハイリスク薬について	9月	全職員	131	1
抗がん剤について	10月	全職員	85	1
輸血について	7月	全職員	174	1
転倒予防について	9月	全職員	107	1
MR検査について	6月	全職員	109	1
造影剤検査について	6月	全職員	74	1
食物アレルギーについて	10月	全職員	63	1
Dr ハートを振り返る	2月	全職員	97	1

(2) 医局会・診療会議医療安全アップデート

医療安全アップデート内容
麻薬に関する事故
入院患者の異状死
局所麻酔薬の静脈投与
CTでの肺腫瘍病変の見落とし
化学療法における内服薬誤投与
消化器内視鏡的胃瘻造設術中の患者急変
誤薬の状況報告
地域医療と診療拒否の問題
臨床検査オーダー上のミス
アレルギー登録について
「ドクターハラスメント」について
ガーゼ体内遺残について

7) 医療安全に関する講義

新採用者研修、幹部看護師任用候補者研修、スペシャルメディカルクラーク、看護学校、実習指導者講習会等

8) 平成26年度 病院間医療安全相互チェック

姫路医療センター(11/18)・刀根山病院(12/11)・京都医療センター(12/1)の3施設で実施

9) 平成26年度 病院機能評価受審

医療情報部



部長

情報システム管理室室長
診療情報管理室室長
臨床研究センター政策医療企画研究部情報化推進研究室室長

北岡 有喜

専門医資格等

京都大学博士(医学)

同志社大学博士(政策科学)

日本産科婦人科学会 専門医

ジャパン・クラウド・コンソーシアム 健康・医療クラウドWG総合監修

ITコンソーシアム京都 医療情報化部会長

京都府がん医療戦略推進会議 院内がん登録部会 部会長

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏 名	専門医資格等
副 部 長	八幡 兼成	京都大学博士(医学) 日本腎臓学会 専門医・指導医 日本透析医学会 専門医・指導医 日本糖尿病学会 専門医 日本内科学会 専門医
診療情報管理室 主任	金子 悦代	診療情報管理士・院内がん登録実務指導者
診療情報管理室 室員	前田 夕子	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室 室員	秋好 香織	診療情報管理士
診療情報管理室 室員	上田 好美	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室 室員	口村 恭子	診療情報管理士
スペシャル医療クラーク	松田安由美	産婦人科担当・助産師
スペシャル医療クラーク	木村 仁美	眼科担当
スペシャル医療クラーク	長谷川紗世	内分泌代謝センター担当
スペシャル医療クラーク	成田 朋代	泌尿器科担当
スペシャル医療クラーク	赤井 樹理	外科担当・院内がん登録実務初級者・日本癌治療学会認定データマネージャー・JCOG(日本臨床腫瘍研究グループ)臨床試験セミナー入門編修了
スペシャル医療クラーク	甲田 実樹	呼吸器内科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	柴田 暢子	形成外科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	品川 智子	循環器内科担当・薬剤師
スペシャル医療クラーク	村上 雅代	救命センター担当
スペシャル医療クラーク	中村 繭子	消化器内科・内視鏡センター担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	西山万里子	血管外科担当・看護師
スペシャル医療クラーク	小川 文代	呼吸器外科担当・管理栄養士
スペシャル医療クラーク	中條 夏子	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	三浦 圭代	小児内科担当

スペシャル医療クラーク	中尾 真理	腎臓内科担当
スペシャル医療クラーク	藤本 容子	糖尿病センター担当・薬剤師
スペシャル医療クラーク	加藤由美子	緩和ケア科担当
スペシャル医療クラーク	目片 香織	皮膚科担当
スペシャル医療クラーク	南野 和代	整形外科担当・院長室
スペシャル医療クラーク	田中 直美	心臓外科担当
スペシャル医療クラーク	黒田 果奈	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	横山 順子	放射治療科担当
スペシャル医療クラーク	木下 幸子	腫瘍内科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	井上 恭子	脳神経センター・地域連携室担当
スペシャル医療クラーク	馬場真由子	消化器内科・内視鏡センター担当
スペシャル医療クラーク	西尾真理子	眼科担当
スペシャル医療クラーク	細川真莉奈	麻酔科担当
スペシャル医療クラーク	川口裕希子	消化器内科・内視鏡センター担当
スペシャル医療クラーク	木原 菜美	リハビリテーション科担当
医療クラーク	松本紀美子	事務助手(地域連携室担当)
医療クラーク	戸田由美子	事務助手(手術室担当)
情報システム管理室 室員	園田 淳	運用管理職員(委託)
情報システム管理室 室員	奥田 英智	運用管理職員(委託)
情報システム管理室 室員	細江 俊樹	運用管理職員(委託)
情報システム管理室 室員	太田 佳子	運用管理職員(委託)
流動研究員	松島 大介	システムエンジニア・データベーススペシャリスト・情報セキュリティスペシャリスト・ソフトウェア開発技術者
非常勤研究員	中辻 善行	システムエンジニア・上級医療情報技師
非常勤研究員	小川 麻理	日医認定ITインストラクター・情報処理士
非常勤研究員	横田 健吾	システムエンジニア
非常勤研究員	滝川 裕介	システムエンジニア
非常勤研究員	小森 由宗	システムエンジニア
非常勤研究員	小森谷祥明	システムエンジニア
非常勤研究員	田中 啓之	システムエンジニア

□ 診療科の特徴

1. 京都医療センター医療情報部は、独立行政法人化以前の2003年7月に国立病院としては初めて設置が認可された医療情報部です。
2. 医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当しており、ベンダーに依存することなく、医療現場のニーズにマッチした情報システムの要件定義や開発・導入・構築を迅速かつ適価で行っています。
3. 京都府・京都市が設置した情報基盤協議会である「ITコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し、「ポケットカルテ」などの二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画・設計・開発・構築・運用・整備なども行っています。

4. 情報システムや診療記録管理だけでなく、診療諸記録作成の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し各診療科に配置することで、医師・看護師などの専門職が専門業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療諸記録の質の向上ならびに診療の質の向上に努めています。

□ 診療(業務)内容

医療情報部は3部署で構成されています。各部署の名称と主な業務内容は以下の通りです。

1. 病院情報システム管理室
病院情報システム(電子カルテシステム)の開発・構築・運用・整備および将来計画に関すること
2. 診療情報管理室
診療諸記録及び診療情報の管理・調査・研究およびがん登録に関すること
3. 診療支援チーム
スペシャル医療クラークを独自に育成し、各診療科などに配置することで、医師など専門職の事務作業を軽減すると共に、診療諸記録の精度向上や処理を迅速化すること

また、研究業務は臨床研究センター情報化推進研究室と一体化し、医療情報の研究、教育及び利用、病院の運営及び診療の管理に係る情報化などの研究開発を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

第19回院内がん登録実務WG、京都医療センター、2014年4月10日
第22回院内がん登録部会、京都医療センター、2014年4月10日
第44回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年4月17日
第22回院内がん登録部会研修会、京都医療センター、2014年4月19日
第45回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年5月15日
クラウド型個人向け健康・医療・福祉・介護履歴管理サービス ポケットカルテ -CATVにおける今後の展開について- 北岡 有喜、2014年度日本ケーブルテレビ連盟東海支部総会・講演会、2014年5月29日
第20回院内がん登録実務WG、京都医療センター、2014年6月5日
第23回院内がん登録部会、京都医療センター、2014年6月5日
第46回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年6月19日
第23回院内がん登録部会研修会、京都医療センター、2014年6月21日
第47回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年7月17日
個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ -これまでの取組と今後の展開について- 北岡 有喜、鈴鹿市医師会 講演、2014年7月18日
平成26年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル講師 看護情報論(看護情報に活かす情報管理) 北岡 有喜、公益社団法人福岡県看護協会、2014年8月2日
第21回院内がん登録実務WG、京都医療センター、2014年8月7日
第24回院内がん登録部会、京都医療センター、2014年8月7日
第48回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年8月21日
第24回院内がん登録部会研修会、京都医療センター附属看護助産学校、2014年8月23日
マイナンバー配布を目前に控えて、健康・医療・福祉・介護関連ICTインフラはどう進化すべきか? ~ポケットカルテの考案からJPKIとの接続など今後の展開について~ 北岡 有喜、IBM社内向け勉強会「Skill Up Seminar」、2014年9月12日

第49回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年9月18日
第50回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年10月16日
第22回院内がん登録実務WG、京都大学医学部附属病院、2014年10月23日
第25回院内がん登録部会、京都大学医学部附属病院、2014年10月23日
第25回院内がん登録部会研修会、京都大学医学部附属病院、2014年10月23日
第51回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年11月20日
がん登録データからみた当院における最新のがん診療情報 前田 夕子、金子 悦代、北岡 有喜、京都医療センターCANCER・BOARDがん診療セミナー(第12回)第2回グランドセミナー、2014年11月27日
第23回院内がん登録実務WG、京都医療センター、2014年12月11日
第26回院内がん登録部会、京都医療センター、2014年12月11日
第26回院内がん登録部会研修会、京都医療センター、2014年12月11日
第52回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2014年12月18日
平成27年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル講師 看護情報論(看護情報に活かす情報管理) 北岡 有喜、公益社団法人福岡県看護協会、2015年1月9日
第53回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2015年1月15日
個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ -これまでの取組と今後のCATVにおける展開について- 北岡 有喜、日本ケーブルテレビ事業協同組合定例会、2015年1月23日
個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ -これまでの取組と今後の展開について- 北岡 有喜、NPO法人生駒の地域医療を育てる会総会、2015年1月29日
マイナンバーと個人のヘルスケア情報管理「ポケットカルテ」プロジェクトの現在とこれからを中心に 北岡 有喜、第16回京都研究会、2015年1月30日
第54回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡 有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2015年2月19日
第24回院内がん登録実務WG、京都市立病院、2015年2月26日
第27回院内がん登録部会、京都市立病院、2015年2月26日
第27回院内がん登録部会研修会、京都市立病院、2015年2月26日
個人向け健康・医療・福祉・介護履歴情報管理(PHR)サービス「ポケットカルテ」-これまでの取組と今後の展開について- 北岡 有喜、クラウド・センサーの医療・介護分野における利活用に関する懇談会(第3回)、2015年3月5日
「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」北岡 有喜、地方創生に資する地域情報化大賞総務大臣賞授賞式、パネルディスカッション、2015年3月6日
第55回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡 有喜ほか、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2015年3月19日
個人向け健康・医療・福祉・介護履歴管理(PHR)サービス「ポケットカルテ」-これまでの取組と今後の展開について- 北岡 有喜、一般財団法人情報通信振興会 平成26年度情報通信講演会、2015年3月30日

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

演者・演題・学会名
西岡 敬祐、塚本 達雄、北岡 有喜、柳田 素子 個人向け健康医療福祉履歴管理(personal health record: PHR)システムを用いた災害時対策を含む透析患者情報管理 第59回日本透析医学会学術集会・総会.2014年6月13日:神戸
北岡 有喜 個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ -これまでの取組とハイリスク児フォローアップなど今後の展開について- 第50回日本周産期・新生児医学会学術大会.2014年7月13日:浦安
松島 大介、北岡 有喜 診療情報オンライン統計分析システムCLISTA!の高度利活用方法 新規ターゲット作成による診療データの高度二次利用例について 公益財団法人田附興風会医学研究所 第89回学術講演会・第13回研究発表会.2014年7月19日:大阪
北岡 有喜 病院オーダーリングシステム導入・運用における光と影 第68回国立病院総合医学会シンポジウム.2014年11月14日:横浜
北岡 有喜 個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ 希少難治性消化管疾患症例の登録と長期フォローアップ体制の構築について九州大学小児外科リサーチコアカンファレンス講演.2015年1月8日:福岡

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
中外製薬 メディカルフォーラム中外 18(2) 1-15	北岡 有喜、塚本 達雄 わが国の医療施策に変更を迫るポケットカルテからの提言
株式会社 情報機構 医療・ヘルスケア分野向けエレクトロニクス技術の最新展開～参入のポイントから技術開発、ビジネス化まで～ 226-239	北岡 有喜 クラウド型PHR(Personal Health Records)サービス:ポケットカルテの概要とその利活用
同志社大学大学院総合政策科学研究科博士論文集 甲第652号 1-129	北岡 有喜 根拠に基づく保健福祉政策の実現に関する研究 -新たな指標「健康費」の概念形成について-
日本周産期・新生児医学会雑誌 50(2)554	北岡 有喜 個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス ポケットカルテ -これまでの取組とハイリスク児フォローアップなど今後の展開について-
一般財団法人全国地域情報化推進協会 Future 18 80-88	北岡 有喜 (「地域情報化大賞」総務大臣賞受賞)「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」

□ 院内情報処理業務支援

2014年度	病診連携用画像CD-R作成件数(放射線科、内視鏡センター)	5271件	(月平均439件)
2013年度	病診連携用画像CD-R作成件数(放射線科、内視鏡センター)	3771件	(月平均314件)
2012年度	病診連携用画像CD-R作成件数(放射線科、内視鏡センター)	3684件	(月平均307件)

感染制御部



感染制御部長
奥野 博

専門医資格等
日本泌尿器科学会専門医・指導医
京都大学臨床教授
関西医科大学臨床教授
日本生殖医学会評議員
日本アンドロロジー学会評議員
日本癌治療認定医
日本移植学会腎移植認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会・腹腔鏡技術認定医
京都大学医学博士

専門分野
泌尿器科一般
得意疾患
前立腺癌
男性学
尿路感染症



副部長
(専任)
ICTリーダー
小田垣孝雄

専門医資格等
ICD:Infection Control Doctor
日本内科学会総合内科専門医/指導医
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医/指導医
日本医師会認定産業医

専門分野
内科一般、感染制御
得意疾患
一般内科疾患

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
副部長	志馬 伸朗	ICD:Infection control doctor 日本感染症学会 感染症専門医 日本化学療法学会 評議員・抗菌化学療法指導医/認定医 日本外科感染症学会 評議員・外科周術期感染管理暫定教育医/認定医 日本版敗血症ガイドライン策定委員 真菌症ガイドライン2014策定委員 肺炎診療ガイドライン策定委員	救急・集中治療	集中治療医学 救急医学 感染症学 麻酔科学
医師	畑 啓昭	ICD:Infection control doctor 日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 日本外科感染症学会 周術期感染管理認定医・教育医・評議員・教育委員 日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医 日本食道学会 食道科認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	上部消化管外科感染症	胃がん 食道がん
医師	遠藤 文司	ICD:Infection control doctor 日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医・同近畿支部評議員 日本肝臓学会 肝臓専門医 日本消化器がん検診学会 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医 日本胆道学会 日本膵臓学会 国際膵臓学会 日本医師会認定産業医 臨床研修指導医	内科、消化器内科全般	胆道・膵疾患検査・治療

薬剤師 (専任)	朴井 三矢	抗菌化学療法認定薬剤師 感染制御認定薬剤師		
薬 剤 師	福田 良子	救急認定薬剤師		
副看護師長 (専従)	宮地 聡子	CNIC: Certified Nurse Infection control 感染管理認定看護師		
検査科主任 (専任)	福田 修			
経営企画 室 長	西川 祐史			
事 務	諸木 真知			

□ 診療(業務)内容

平成9年4月に院内感染対策チームが(ICT)設立し、平成22年4月にはICTを核とする感染制御部が発足しました。そのモットーは院内の感染管理と職員の健康管理を通じて、患者さんが安心して診療を受けられる環境を提供することを目標としています。

さらにその使命として医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務など多くの職員がそれぞれに得意とする分野を分担し、責任をもってこれを行っています。実務はICTリーダーを中心に週に1回ICTミーティングを行い、さらに週に1回定期的に院内ICTラウンドを実施しています。また日常の感染対策に関する相談に関しても随時対応しています。

活動例)

- ①インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核などの院内感染対策業務
- ②手術部位感染、中心静脈カテーテル関連血流感染などのサーベイランス業務
- ③針刺し・切創事故対応業務
- ④職員対象の各種ワクチン接種業務
- ⑤抗菌薬適正使用推進業務
- ⑥その他、院内感染対策に必要とされる業務

この活動内容は病院長直轄の「院内感染対策委員会」(月1回)と平成22年4月に発足した「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」(月1回)にて報告・審議・決定がなされるシステムとなっています。

平成24年度には感染防止対策推進に関する診療報酬が改定され、これまで以上に感染対策チーム(ICT)の活動が求められるようになりました。平成26年度の改訂でも大きな変更点はなく継承されています。

*感染防止対策加算2を算定する当院連携施設:弘仁会大島病院 真和会京都大橋総合病院 NTT西日本京都病院 国立病院機構南京都病院 淀さんせん会金井病院

*感染防止対策加算1施設を算定している連携医療機関:京都市立病院機構 京都市立病院

□ 地域医療連携・広報活動

院内感染対策講習会 「微生物検体のちゃんとした採取を学ぼう!」 2014年6月17日・7月10日

院内感染対策講習会 「手指衛生を極める」 2014年10月2日

第1回感染防止対策地域連携カンファレンス 2014年6月14日

第2回感染防止対策地域連携カンファレンス 2014年9月12日

第3回感染防止対策地域連携カンファレンス 2014年11月7日

第4回感染防止対策地域連携カンファレンス 「この一年間の活動の総括」 2015年2月13日

抗菌薬適正使用教育セミナー 2014年12月1日

感染防止対策地域連携加算相互評価:京都市立病院 2014年12月11日・12月18日

V.A.C.Summit 関西 症例報告 畑啓昭 2014年5月10日

第75回伏見医師学術集談会 「ESBL産生菌が検出された急性胃腸炎の1例」 畑啓昭 2014年5月17日

研修医のための輸液セミナー 「術後輸液」の部屋何を どれだけ どんな根拠で? 畑啓昭 2014年9月7日

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演 者・演 題・学 会 名
院内講習会	福田 修 「喀痰の採取の仕方」 2014年6月17日・7月10日
院内講習会	畑 啓昭 「膿検体の採取法」 2014年6月17日・7月10日
院内講習会	遠藤 文司 「便検体の採取法」 2014年6月17日・7月10日
地域連携 カンファレンス	福田 修 「クリストリディウム ディフィシルについて(臨床検査の視点から)」 2014年6月14日
地域連携 カンファレンス	朴井 三矢 「抗菌薬適正使用における薬剤師の役割～V C MにおけるT D Mを例に～」 2014年9月12日
地域連携 カンファレンス	福田 修 「薬剤感受性検査の落とし穴」 2014年11月7日
国内学会 (京都市)	奥野 博 座長:特別講演 濱砂 良一「尿路感染症-ウソとホント」伏見泌尿器科連携の会 2015.02.14
国内学会 (横浜市)	小田垣 孝雄 「京都医療センターにおける季節性インフルエンザ院内感染対策について」国立病院総合医学会2014年11月15日
国際学会 (イソタンブール)	Shime N. Ventilator-associated events in pediatrics. The 7th World Congress on Pediatric Intensive and Critical Care. 2014.5.7
国際学会 (ブラジル)	Yasuda H, Sanui M, Komuro T, Hatakayama J, Matsukubo S, Kawano S, Yamamoto H, Andoh K, Seo R, Shime N. Comparison of threecutaneous antiseptic solutions for the prevention of catheter colonization in the adult intensive care unit: A multicenter prospective randomized controlled trial. The 35th international symposium on intensive and emergency medicine. 2015.3.18
国内学会 (神戸)	志馬 伸朗「ICUにおける体温評価と発熱管理 クリティカルケアセミナーin 神戸」2014.4.19
国内学会 (大阪)	志馬 伸朗 「人工呼吸器関連肺炎」第11回呼吸ケアカンファレンス 2014.4.25
国内学会 (和歌山)	志馬 伸朗 「敗血症における抗菌療法～抗MRSA薬を中心に」第3回救急集中治療領域感染症学術講演会 2014.5.17
国内学会 (福岡)	志馬 伸朗 「敗血症性ショックの抗菌療法+ α 」第88回日本感染症学会学術講演会/第62回日本化学療法学会総会 2014.6.19
国内学会 (京都)	志馬 伸朗 「敗血症のふたつの治療～over the 4 decade」第2回京都周術期代謝管理セミナー 2014.6.21
国内学会 (立川)	志馬 伸朗 「小児敗血症診療アップデート」多摩小児救急集中治療セミナー 2014.7.1
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「小児敗血症診療～ゴールは何か?」成育医療研究センター手術集中治療部モーニングカンファレンス 2014.7.4
国内学会 (奈良)	志馬 伸朗 「シンプル院内感染管理」奈良医大院内感染防止セミナー 2014.7.11
国内学会 (大阪)	志馬 伸朗 「人工呼吸器関連肺炎～診断治療における最近のトピックス」大阪シンポジウム 2014.7.26
国内学会 (福知山)	志馬 伸朗 「シンプル院内感染管理」市立福知山市民病院院内感染対策講習会 2014.7.28
国内学会 (津)	志馬 伸朗 「小児敗血症診療のコントロールバナー2014」小児救命医療講演会 2014.9.11
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「ガイドラインを使いこなそう:真菌とMRSA。」救急感染症塾 for ER Training summer camp 2014.9.13
国内学会 (大阪)	志馬 伸朗 「人工呼吸器関連肺炎:2014アップデート」第13回大阪人工呼吸器セミナー 2014.9.20
国内学会 (名古屋)	志馬 伸朗 「救命救急センターにおける抗菌薬の使い方。」第23回適正抗菌化学療法研究会 2014.9.27
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「人工呼吸器関連肺炎」第4回呼吸治療関連指定講習会 2014.9.27
国内学会 (岡山)	志馬 伸朗 「教育講演:感染症科医への敗血症ガイドラインの紹介」第57回日本感染症学会中日本地方会学術集会 2014.10.23
国内学会 (福岡)	志馬 伸朗 「小児敗血症の診療戦略～成人と何が同じで何が違うのか?」第42回日本救急医学会総会・学術集会 2014.10.28
国内学会 (札幌)	志馬 伸朗 「敗血症診療ガイドライン2014」北海道サージカル・インфекション・フォーラム 2014.11.7

国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「体重症患者での体温評価と管理」Medicon Training Center Program 2014 2014.11.14
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「Community-acquired and Healthcare-acquired pneumonia」Multiprofessional critical care review course 2014.11.22
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「Antibacterial, Antiviral, and Antifungal Therapy in the ICU」Multiprofessional critical care review course 2014.11.23
国内学会 (京都)	志馬 伸朗 「耐性菌/耐性機序と抗菌薬選択/抗菌薬投与設計の考え方」第1回 京都伏見 抗菌薬適正使用教育セミナー 2014.12.1
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「ICUにおける耐性菌/真菌感染症の治療戦略」第27回日本外科感染症学会イブニングセミナー 2014.12.4
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「血液培養の正しい取り方と解釈」第27回日本外科感染症学会外科感染症入門講座 2014.12.4
国内学会 (横浜)	志馬 伸朗 「ICUにおける発熱マネジメント」第8回横浜集中治療懇話会 2014.12.11
国内学会 (横浜)	志馬 伸朗 「ICUにおける発熱マネジメント」第8回横浜集中治療懇話会 2014.12.11
国内学会 (長崎)	志馬 伸朗 「敗血症診療2014UP TO DATE.」第3回長崎CIDセミナー 2014.12.20
国内学会 (安曇野)	志馬 伸朗 「小児敗血症の診療戦略」長野県立こども病院講演会 2014.12.22
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「SPEED!カテーテル関連血流感染症を防ぐための5tips」第42回日本集中治療医学会総会 2015.2.10
国内学会 (大阪)	志馬 伸朗 「重症患者の生体反応と患者管理のポイント」日総研セミナー 2015.2.1
国内学会 (金沢)	志馬 伸朗 「ICUにおける重症感染症マネジメント～抗菌療法から全身管理まで」第24回適正抗菌薬化学療法研究会 in 北陸
国内学会 (吹田)	志馬 伸朗 「敗血症性ショックの抗菌療法+ α 」シオノギwebカンファレンス 2015.2.16
国内学会 (前橋)	志馬 伸朗 「救急集中治療における適正抗菌療法～エビデンスから実践まで」群馬急性期医療セミナー2015 2015.2.18
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「ガイドラインを踏まえた敗血症治療の実際～基礎疾患治療の重要性と合併症対策」リコモジュリンWEBカンファレンス
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「重症患者の生体反応と患者管理のポイント」日総研セミナー 2015.3.8
国内学会 (福岡)	志馬 伸朗 「敗血症(セブシス)治療ガイドライン 日欧米の違い:敗血症の抗菌治療(de-escalationを中心に)」日本化学療法学会総会 2014.6.19
国内学会 (東京)	志馬 伸朗 「ICUのケアでVAPを予防できるか」第27回日本外科感染症学会シンポジウム11; 周術期感染管理ベストプラクティス～OP前からOP室、病棟まで～ 2014.12.4
国内学会 (福島)	畑 啓昭、直原 駿平、菊地 志織、中西 宏貴、川口 清貴、佐治 雅史、花田 圭太、松末 亮、成田 匡大、坂田 晋吾、山口 高史、大谷 哲之、猪飼 伊和夫 「術後感染創の2次・3次治癒における陰圧閉鎖療法の工夫」第76回 日本臨床外科学会総会
国内学会 (東京)	畑 啓昭 教育委員会企画プログラム「感染対策としてのERASとその課題」「検査技師からみた抗菌薬適正使用について」第27回 日本外科感染症学会総会学術集会
国内学会 (東京)	畑 啓昭 スポンサーシップシンポジウム3 「SSI予防のための抗菌薬の種類/投与タイミング/追加投与について」第27回 日本外科感染症学会総会学術集会
国内学会 (京都)	畑 啓昭 外科感染症 Up To Date 2015 腹部救急医学会 ランチョンセミナー
国内学会 (金沢)	畑 啓昭 「CDCガイドラインドラフト版を読み解く」日本外科感染症学会特別セミナー
国内学会 (東京)	遠藤 文司、水本 吉則、勝島 慎二、下釜 翼、江坂 直樹、太田 義之、岩本 諭、米田 俊貴、島 伸子、前川 高天 「当院で施行した急性胆嚢炎に対する経乳頭的胆嚢ドレナージについての検討」ポスター 第100回日本消化器病学会総会 2014/4/25
国内学会 (福岡)	遠藤 文司、水本 吉則、勝島 慎二、下釜 翼、江坂 直樹、太田 義之、岩本 諭、島 伸子、前川 高天 「十二指腸ステント留置後の急性膵炎に対して超音波内視鏡ガイド下膵管ドレナージが奏効した一例」ポスター 第87回日本消化器内視鏡学会総会 2014/5/15
国内学会 (大津市)	遠藤 文司 「Roux-en-Y再建後腸管に対する胆膵管挿管の工夫」 口演 第6回京滋ERCPテクニク交流会 2015/3/7

国内学会 (京都)	遠藤 文司 「IgG4関連疾患の1例」第6回深草消化器医療連携の会 2014/5/31
国内学会 (京都)	遠藤 文司 「当院における胆膵疾患診療の現状」一般講演 京阪奈胆膵フォーラム 2014/6/27
国内学会 (東京)	遠藤 文司 「胆管ステントのさらなる機能向上を目指して～逆流防止機構付胆管ステントの開発経緯と今後への期待～」ランチョンセミナー演者 第50回日本胆道学会学術集会 2014/9/27
国内学会 (横浜市)	朴井 三矢、福田 良子、河合 実、玉田 太志、東野 和美、北村 良雄 「病棟薬剤師とICT薬剤師の連携によるTDM実施向上への取り組み」第68回国立病院総合医学会 2014年11月15日
国内学会 (横浜市)	朴井 三矢、志馬 伸朗 「バンコマイシンの有効トラフ値と腎機能障害の関連」第57回日本感染症学会中日本地方会学術集会 2014.10.23
国内学会 (横浜市)	福田 良子、朴井三矢、河合 実、玉田 太志、北村 良雄 「抗インフルエンザ薬の予防投与の使用状況調査」第68回国立病院総合医学会 2014年11月14日
研修会 (大阪)	福田 修 座長 「MBL産生菌について」 国臨協近畿支部微生物検査研修会 2014年4月26日
研修会 (大阪)	福田 修 「微生物検査の標準化について」 国臨協近畿支部微生物検査研修会 2014年7月12日
セミナー (大阪)	福田 修 「BDフェニックスシステムを利用した迅速結果報告への挑戦！」 第7回関西BDフェニックスセミナー 2014年9月6日
セミナー (長崎)	福田 修 「BDフェニックスシステムを利用した迅速結果報告への挑戦！」 第2回長崎BDフェニックスセミナー 2014年10月18日
講習会 (京都)	福田 修 「適切な培養検体採取に関して」 金井病院感染対策講習会 2014年10月28日
国内学会 (横浜)	福田 修 「当センターにおける血液培養検査の現状」 第68回国立病院総合医学会 2014年11月14日
研修会 (大阪)	福田 修 「疾患に立ち向かう臨床検査8」 国臨協近畿支部学術研修会 2014年1月31日

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年 および月
志馬 伸朗	8.呼吸管理2)その後のエビデンスと日本での活用	敗血症(セブシス)救命治療の最前線			234-240	竹末芳生	医薬ジャーナル社	2014
志馬 伸朗		深在性真菌症の診断・治療ガイドライン2014.				深在性真菌症のガイドライン作成委員会	協和企画	2014
志馬 伸朗	De-escalationは真に遂行可能か	敗血症治療:一刻を争う現場での疑問に答える.			114-119	真弓俊彦	羊土社	2014
志馬 伸朗	院内肺炎と人工呼吸器関連肺炎	日本胸部臨床	73	増刊号	S123-132		克誠堂	2014
志馬 伸朗	人工呼吸器関連肺炎の定義・予防・治療	呼吸療法アップデート			122-133	槇田浩史	真興交易	2014
志馬 伸朗	敗血症性ショックの輸液管理をどうするか	症例で学ぶ新しい周術期の輸液管理			118-133	松永 明	メディカルサイエンスインターナショナル	2014
志馬 伸朗	人工呼吸器関連肺炎	クリティカルケアにおける呼吸管理			113-126	氏家良人	克誠堂	2014
志馬 伸朗	実例2:医師の立場から	学ぶ、取り組む、実践する!AST(抗菌薬適正使用支援チーム)			89-94	二木芳人	医薬ジャーナル社	2014
志馬 伸朗	人工呼吸器関連肺炎対策	日本外科感染症学会雑誌	10	2	225-231			2014
志馬 伸朗	体温と予後予測	救急医学	37	9	1013-1016			2014
志馬 伸朗	人工呼吸器関連肺炎(VAP)の診断と治療	Medicina	50	12	1986-1990			2014

志馬 伸朗・他	日本での小児重症敗血症診療に関する合意意見	日本集中治療医学会雑誌	21	1	67-88			2014
志馬 伸朗	敗血症性ショックにおける感染症診断と抗菌治療	化学療法の領域	30	4	631-640			2014
志馬 伸朗	敗血症診療ガイドライン：日本版ガイドラインとSSCGの比較	日本腹部救急医学会雑誌	34	4	807-813			2014
志馬 伸朗	定義・診断～さよならSIRS	INTENSIVIST	6	3	347-350			2014
志馬 伸朗	VAP予防の基本とVAPバンドル	呼吸器ケア	12	9	12-19			2014
志馬 伸朗、小阪 直史	PK-PDパラメーターを活用した感染症治療の実際④敗血症	感染と抗菌薬	17	4	347-352			2014
Oda S, Aibiki M, Ikeda T, Imaizumi H, Endo S, Ochiai R, Kotani J, Shime N, Nishida O, Noguchi T, Matsuda N, Hirasawa H; Sepsis Registry Committee of The Japanese Society of Intensive Care Medicine.	The Japanese guidelines for the management of sepsis	Journal of Intensive Care	2	1	55			2014
志馬 伸朗	解説～severe sepsis & septic shock	INTENSIVIST	6	3	511-513			2014
志馬 伸朗	レポート～真菌症フォーラム 第15回学術集会	Medicamentnews	2158		20-21			2014.5
志馬 伸朗	Current topic;敗血症診療ガイドライン	Japan Medicine Monthly	52	5	11			2014.4.25
畑 啓昭	ズバリ!日常診療の基本講座3 救急や病棟で必ず役立つ基本手技 外傷への対応あれこれ その19 ちょっとしたキズの処置 手とり足とり	レジデントノート別冊			177-182			2014.4
遠藤 文司、志馬 伸朗	感染源コントロール～最適なタイミングで低侵襲かつ最大限の効果を指す	INTENSIVIST	6	3	459-469			2014.07

教育研修部



教育研修部長
小山 弘

専門医資格等 日本内科学会内科指導医

□ 教育研修部の特徴

施設認定等	臨床研修指定病院
-------	----------

1. スーパーローテーション方式を採用しています
2. 臨床研修医は、ERの担当を通じ幅広く急性疾患、外傷に対応する能力を習得すると同時に、地域医療に貢献しています
3. 古くからの教育病院として、臨床研修医を教える文化のある病院です

□ 診療(業務)内容

当院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医、および京都大学医学部、京都府立医科大学、滋賀医科大学などの臨床研修プログラムに所属する臨床研修医で、協力病院として当院で研修を行う臨床研修医の、研修に関する諸問題を担当しています。

また、京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会の委員として、京都府全体の臨床研修に関する活動を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会副委員長

京都府地域医療支援センター運営会議委員

医療系大学間共用試験実施評価機構医学系OSCE実施小委員会委員

伏見医師会理事

地域医療部



地域医療部長
秋山 祐一



地域医療連携室長
瀬田 公一

□ 急性期病院の見直しが進行了しました。

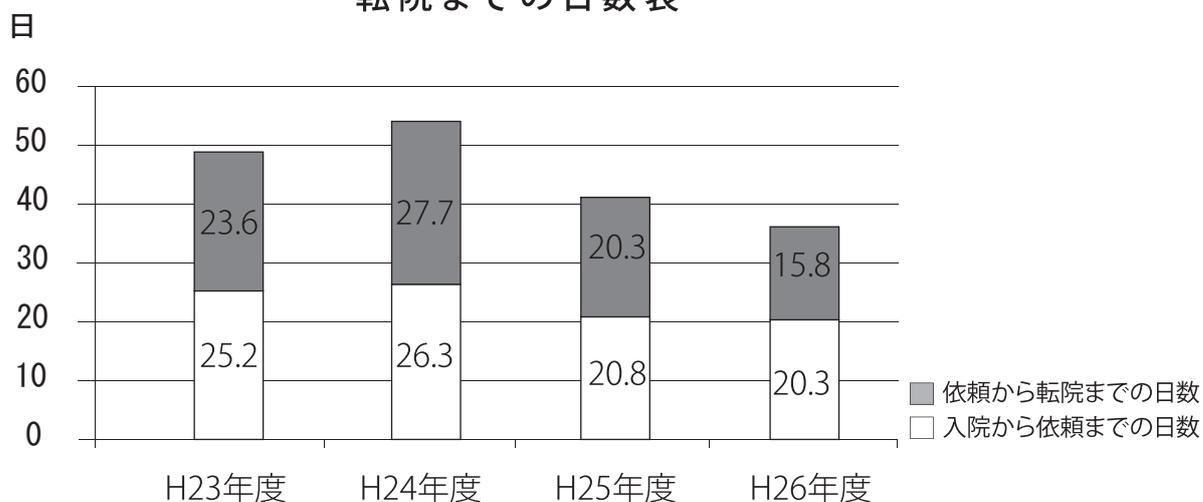
2014年には75歳以上の高齢人口の増加を見据えて、第6次の医療法の改正がなされました。医療機関の役割分担を従来より明確に行い、特に都市でははじめから大病院ではなくまずはかかりつけ医を受診することが常識になったと思います。当院でも2014年4月から紹介状なしの初診料(選定療養費)は5,400円(税込)となり紹介状なしの初診外来患者さんの減少が1年間持続してみられました。急性期の病院は経営面でDPCと平均在院日数の厳格化により長期入院ができないような制度化が進みました。急性期病院は、急性期を脱した患者さんの早期転院を促す制度設計になっています。紹介率、逆紹介率の基準が厳しくなりました。7:1の看護の基準も厳格になり、急性期病院の見直しが進んでいます。地域医療連携室は地域の病院・診療所との連携の要としてますますその存在が重要になってきました。がん診療の地域の拠点としての連携業務もその比重がおおきくなりつつあります。しかし制度の変化の対応以前に、患者さん中心の丁寧な服薬の説明の徹底など、医療の原点にもスタッフ一同意識してとりこんでいます。

地域医療部長 秋山 祐一

□ 地域医療連携室

京都医療センターの急性期病院としての役割を果たすための方策のひとつとして、転院支援を円滑にすることを目標に挙げて取り組んできました。その結果、グラフのように転院までの日数、特に連携室に転院調整依頼がおりてきてから転院するまでの日数が短くなりました。

転院までの日数表

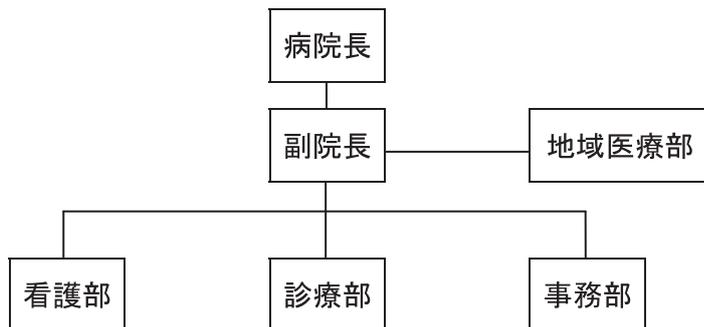


□ スタッフ

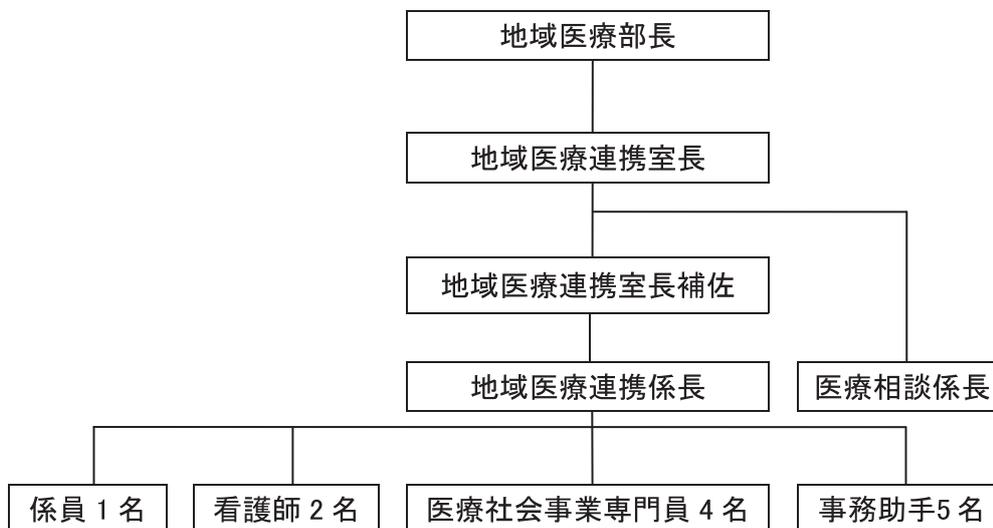
経営企画室長・地域医療連携室長補佐	西川 祐史
地域医療連携係長・病床管理師長	塚本 直子
主任医療社会事業専門員	宅間 親恵
看護師	杉本 明美
看護師	井上 綾乃
医療社会事業専門員	長田 沙友梨
医療社会事業専門員	弘中 孝佳
医療社会事業専門員	吉岡 孝師
地域医療連携係	小國 駿
事務	森野 裕子
事務	植田 奈緒子
予約担当	八重津 広子
予約担当	諸木 真知
予約担当	吉岡 頼枝

1. 沿革と体制

- 2002年 地域医療連携室設置
- 2007年 地域がん診療拠点病院の指定
- 2008年 地域医療支援病院の承認



構成メンバー



2. 地域医療連携室の日常活動

〈前方連携〉

- 診察・検査事前予約
- 救急紹介受診の受付と手配
- 開放型病床のデータ管理
- 紹介患者の返信確認と入退院の情報提供

〈後方連携〉

- 退院支援(転院・在宅)
- 後方支援機関との連携の強化
- 後方支援機関への紹介患者

〈相談〉

- 療養上の相談や受診についての相談
- 経済的問題の解決
- 各種制度(介護保険・障害者医療など)の相談

〈広報〉

- 外来担当表等の発送
- 広報誌『うづら便り』の発送
- 医療連携フォーラムの開催
- 各医療機関への訪問

3. 業務実績(2014年実績)

地域医療連携室経由予約件数 診療予約8,246件 検査予約1,185件
1日平均予約件数38.7件

相談件数9,511件 転院支援実績694件

転院支援実績在院日数36.1日 地域連携診療計画管理料適用患者数137件

救急受診受付670件 救急受診受入後入院件数304件

セカンドオピニオン相談件数143件 セカンドオピニオン実績件数21件

紹介率66.5% 逆紹介率86.8% 開放型病床登録医数190件

地域医療連携委員会 1回/月

地域支援病院運営委員会 四半期1回

院内発表

平成26年7月 1日(火) 介護保険の基礎知識

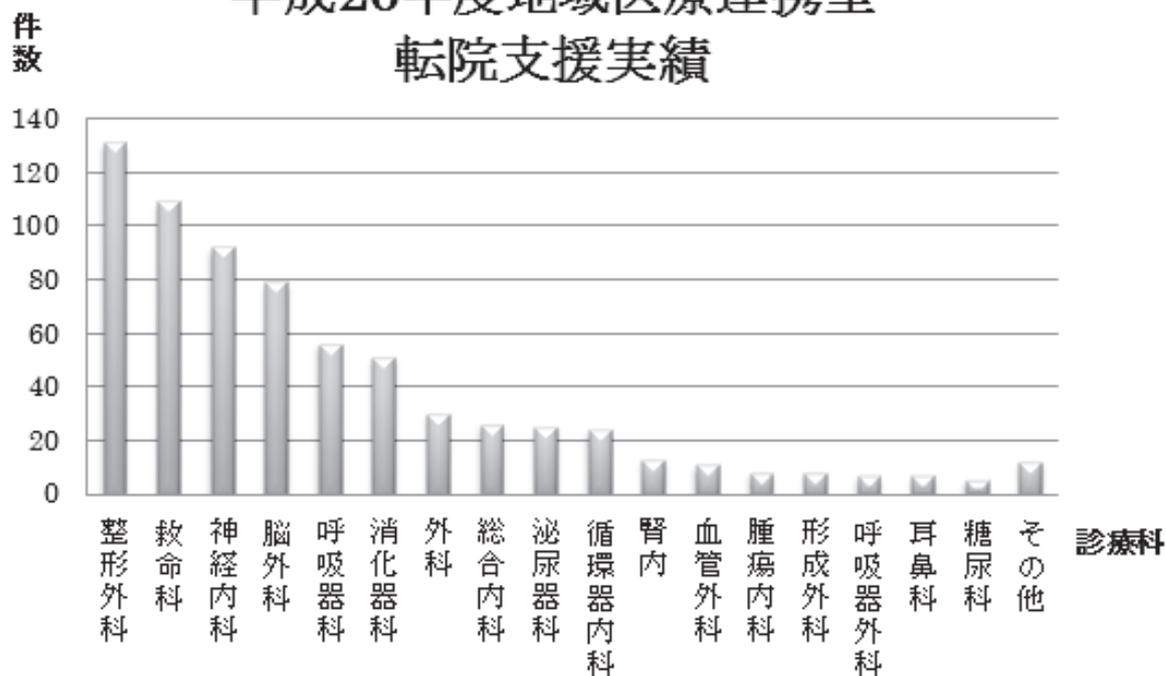
平成26年7月11日(水)

平成27年2月 7日(土) 成果発表会

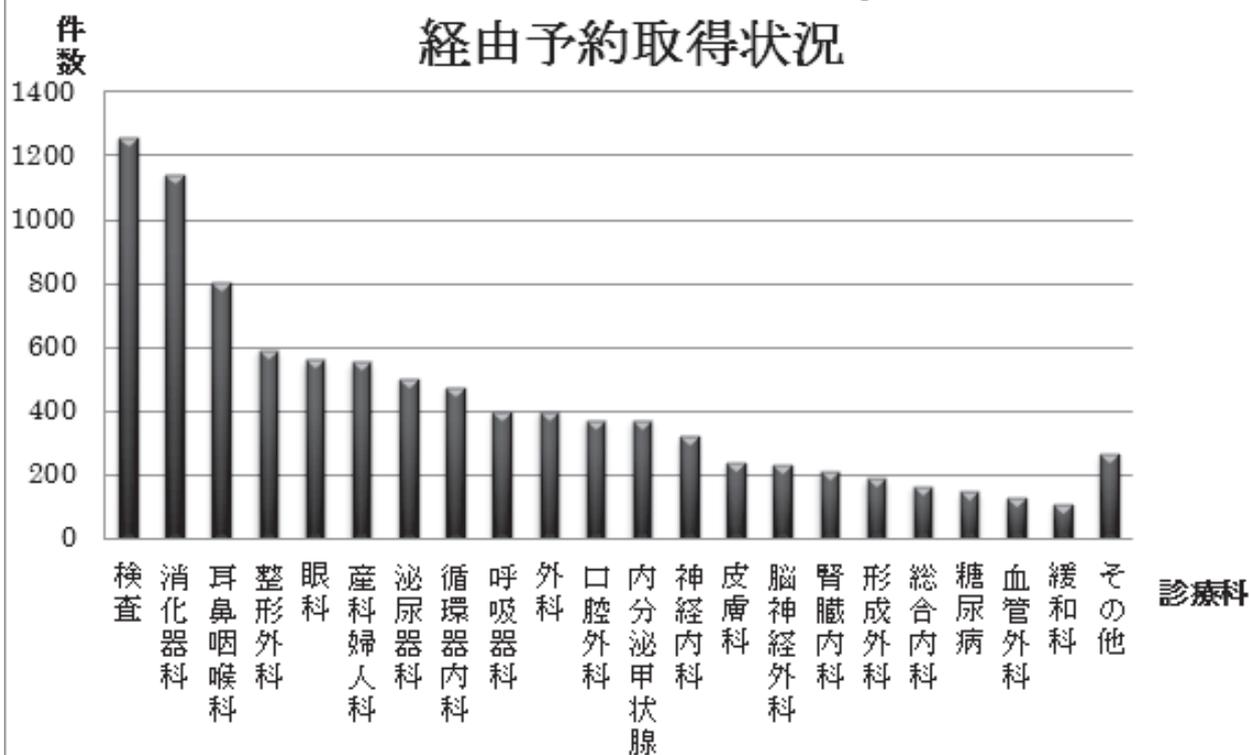
「退院時共同指導料及び介護連携指導料算定への取り組み」 口述

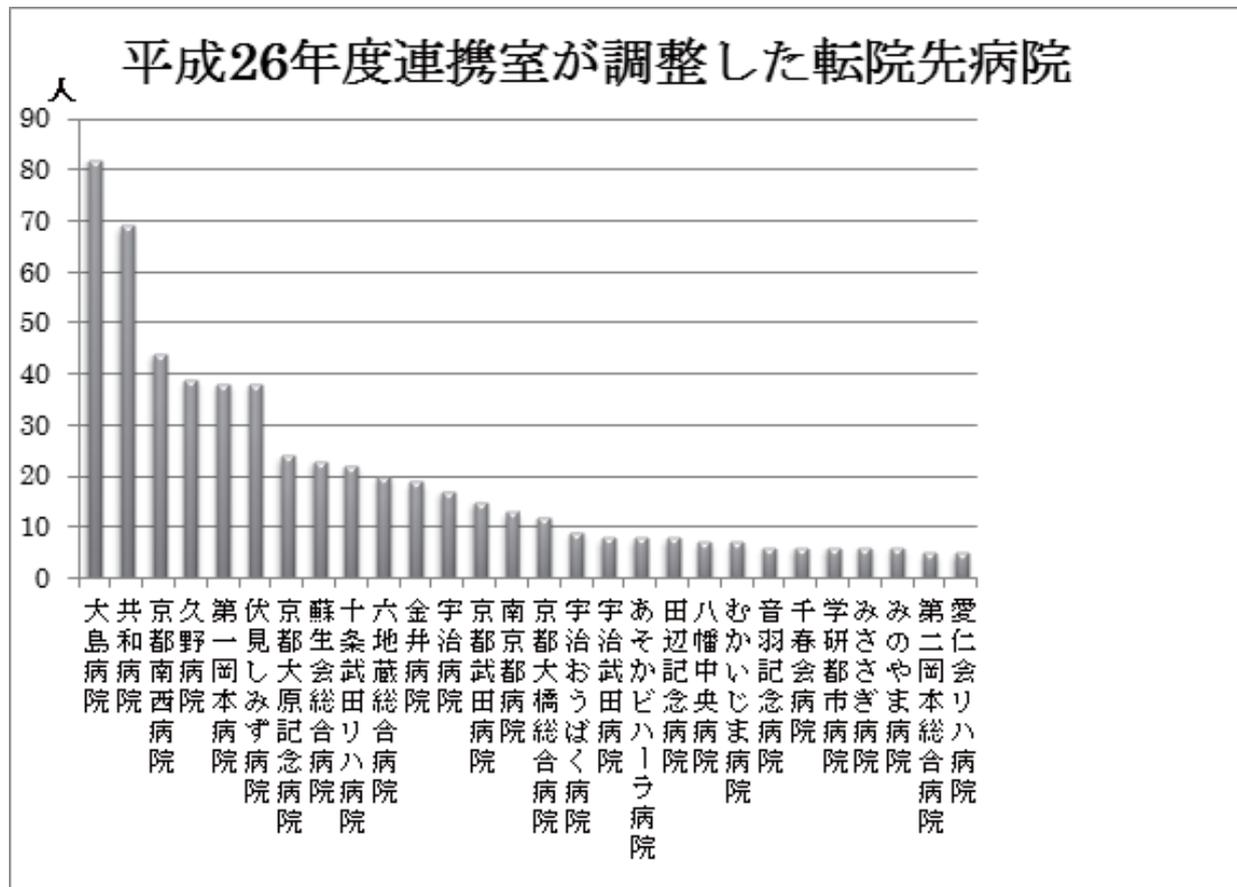
「紹介患者数増加に向けた訪問活動報告」 ポスター

平成26年度地域医療連携室 転院支援実績

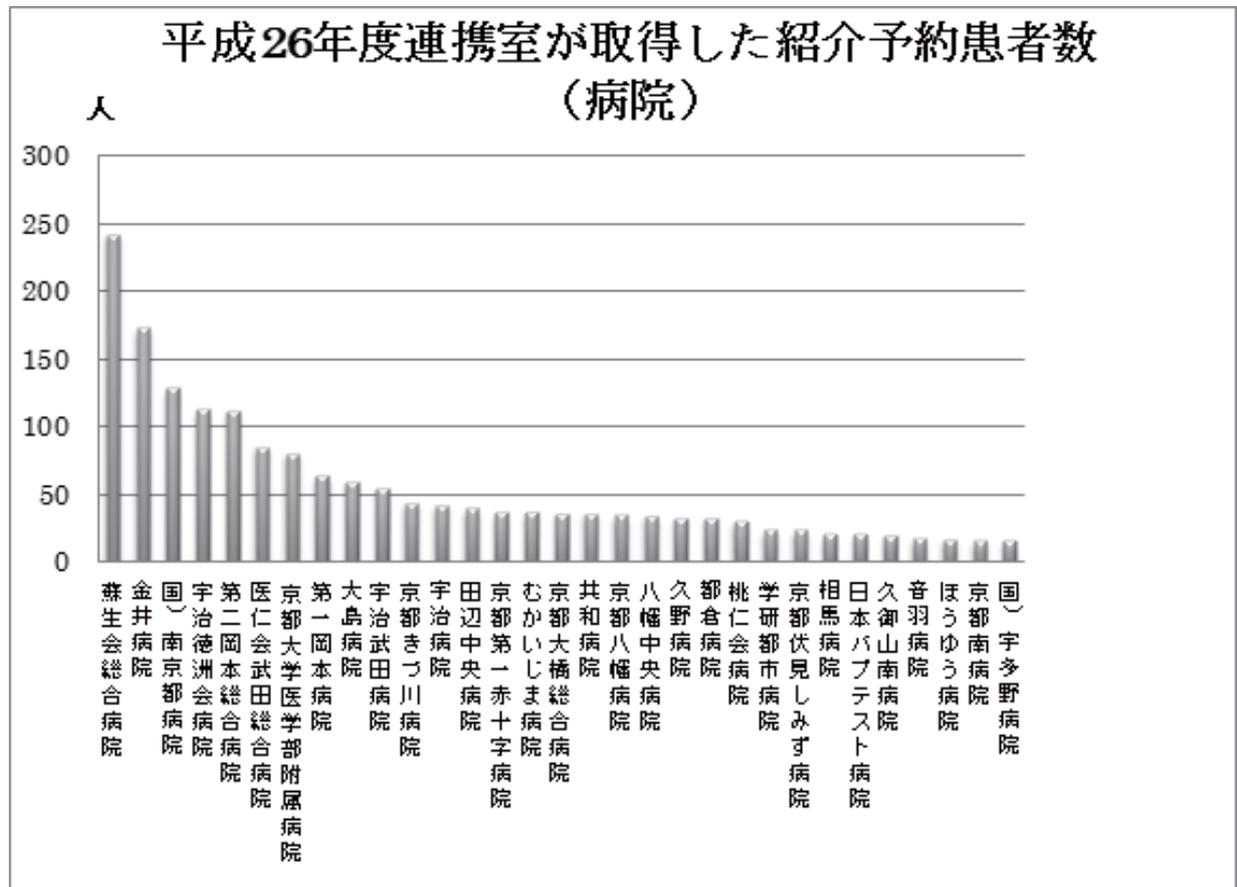


平成26年度地域医療連携室 経由予約取得状況





転院件数 5 件以上の病院を掲示



紹介件数上位 30 の病院を掲示

薬剤部



薬剤部長
北村 良雄

専門医資格等

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門資格等
副薬剤部長	玉田 太志	日本臨床薬理学会認定CRC、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
副薬剤部長	河合 実	日本医療薬学会認定薬剤師、日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬務主任	小林 雅典	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
治験主任	山本 靖子	日本臨床薬理学会認定CRC、日本糖尿病療法指導士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
調剤主任	永井 聡子	日本糖尿病療法指導士、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
製剤主任	畝 佳子	日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師
調剤主任	服部 雄司	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師、日本DMAT隊員、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
調剤主任	竹松 茂樹	日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師、NST専門療養士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
試験・検査主任	水津 智樹	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	馬場 雅子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	朴井 三矢	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・感染制御認定薬剤師、日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師
薬剤師	後藤 智美	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本臨床薬理学会認定CRC
薬剤師	物部加容子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師・妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
薬剤師	木原 理絵	日本糖尿病療法指導士、日本腎臓病薬物療法学会認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	淵崎恵美子	小児薬物療法認定薬剤師
薬剤師	水本 知宏	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・感染制御認定薬剤師
薬剤師	福田 良子	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師

薬 剤 師	田 邨 保 之	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療法指導士
薬 剤 師	藤 村 尚 子	小児薬物療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬 剤 師	神 林 由 樹	
薬 剤 師	藤 末 慎	
薬 剤 師	岸 本 周 子	
薬 剤 師	横 山 晋 一 郎	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬 剤 師	藤 井 大 和	
薬 剤 師	松 本 信 彦	
薬 剤 師	東 又 め ぐ み	
薬 剤 師	北 宅 良 祐	
薬 剤 師	竹 之 下 祥 愛	
薬 剤 師	吉 水 浩 史	
薬 剤 師	喜 田 孝 史	
薬 剤 師	植 田 裕 美	
薬 剤 師	堀 尾 綾 香	
薬 剤 師	小 玉 美 希 子	
薬 剤 師	宮 地 由 香 里	
薬 剤 師	上 田 浩 人	

□ 診療科の特徴

1. 各病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算を特殊病棟を除く全患者を対象に実施している。
2. 外来化学療法室での抗がん剤無菌調製、レジメンチェック、服薬指導を実施している。
3. 救命救急、ICU、NICU病棟に専任の薬剤師を配置し、ハイケア患者に対する薬物療法の質の向上を図っている。
4. ICT、NST、がん、緩和医療をはじめとしたチーム医療と各診療科の専属薬剤師が連携を取り、医師やその他の医療従事者と共働で入院患者の薬物療法の質の向上に努めている。
5. 早期体験実習生や年間27名の長期実務実習生を受け入れなど、質の高い教育研修を行っている。
6. 平成24年度に京都薬科大学との包括協定の締結や摂南大学との人事交流にて、教育や臨床研究の発展を図っている。
7. 治験・臨床研究実施におけるCRC業務等を実施している。

□ 診療(業務)内容

「薬学的介入によるアウトカムの検証」

〈病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務〉

医師、看護師らとの連携により、可能な限り入院患者の初回投与時及び退院時の服薬指導を実施するとともに、薬剤管理指導の増大と医療の質の向上に寄与する。

〈医薬品の安全性の確保〉

積極的に副作用情報を収集し、医薬品の安全性を確保するとともに医薬品情報の収集・提供体制の強化を図る。さらに、プレアボイド情報の収集に努め、迅速な対応を行う。また、医薬品関連インシデントの解析から、病棟専任薬剤師が医療事故防止策に積極的にアプローチする。

〈注射薬の無菌調製業務〉

全診療科の抗悪性腫瘍剤の無菌調製を実施し、医療従事者の安全性を確保するとともに医療事故の防止に努める。患者の安全性確保のため抗悪性腫瘍剤のレジメン管理の適正化を薬剤師主導で実施する。

〈医薬品管理の適正化〉

薬事委員会を通じて同種同効薬の整理を行い、採用医薬品数の縮減に努める。

〈教育研修・研究〉

積極的に各種研修に参加し資格認定及び専門薬剤師等の取得に努める。

薬学実務実習生、研修生を積極的に受け入れ、質の高い教育研修を行う。また、業務の効率化及び医療の質の向上を目的とした研究業務を行い、学会などに積極的に参加する。

〈調剤過誤防止〉

ヒヤリ・ハット報告の収集・分析・対策を迅速に行い、再発防止に努めるとともに鑑査の徹底により調剤過誤を減少させる。

〈チーム医療、クリニカルパスへの参画〉

薬剤師の専門性を活かした業務を押し進め、緩和ケア、糖尿病療養、ICT、NST、救命救急などのチーム医療に貢献する。また、クリニカルパスの運用において、薬剤部として積極的に関わり薬物療法の適正化に努める。

〈地域医療連携の強化〉

地域連携パスにおいて、服用薬の管理等、薬学的管理事項に関与し、在院日数の短縮に貢献するとともに、お薬手帳で薬薬連携の充実を図る。

また平成26年度は上記目標に加え、病院運営方針に則り、下記の目標についても現在実施中である。

国内外の学会や研究活動に積極的に参加し、最新の医学・薬学の知識修得に努めている。

また、薬学生の長期実務実習を積極的に受け入れている。

□ 地域医療連携・広報活動

平成26年度降圧薬勉強会 平成26年10月30日

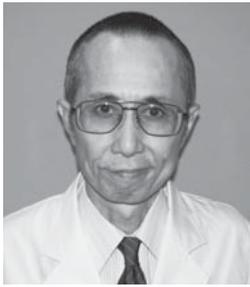
平成26年11月6日

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
著述発表	北村 良雄、玉田 太志、上野 裕之 医薬品の適正使用を目指した「病棟薬剤業務実施加算」算定の取り組み 国立医療学会誌 医療 vol.69 No.3 134-137
国内学会	喜田 孝史、岸本 周子、河合 実、北村 良雄、井口 守文、小川 尚、阿部 充、赤尾 昌治、和田 啓道、長谷川 浩二 アピキサバン投与前後の凝固指標評価の有用性に関する検討 第62回日本心臓病学会 2014年9月27日：仙台市
国内学会	藤村 尚子 総合病院小児科における薬剤師の介入 第24回日本医療薬学会年会 2014年9月27日：名古屋市
国内学会	畝 佳子、北宅 良祐、田邨 保之、物部 加容子、馬場 雅子、上野 裕之、河合 実、北村 良雄 外来化学療法センター常駐薬剤師によるプレアポイド事例の解析 第24回日本医療薬学会年会 2014年9月28日：名古屋市
国内学会	朴井 三矢、藤村 尚子、福田 良子、河合 実、玉田 太志、北村 良雄、志馬 伸朗 当院における抗MRSA薬の使用調査 第24回日本医療薬学会年会 2014年9月27日：名古屋市
国内学会	田邨 保之、畝 佳子、河合 実、玉田 太志、久保 速三、土屋 宣之、北村 良雄 難治性の痛み～薬剤師の視点から～ 第8回日本緩和医療薬学会年会 2014年10月5日：松山市
国内学会	朴井 三矢、藤村 尚子、福田 良子、河合 実、玉田 太志、北村 良雄、志馬 伸朗 当院における抗MRSA薬の使用調査 第62回日本化学療法学会西日本支部総会 2014年10月25日：名古屋市
国内学会	福田 良子、朴井 三矢、河合 実、玉田 太志、北村 良雄 抗インフルエンザ薬の予防投与の使用状況調査 第68回国立病院総合医学会 2014年11月14日：横浜市
国内学会	朴井 三矢、福田 良子、河合 実、玉田 太志、東野 和美、北村 良雄 病棟薬剤師とICT薬剤師の連携によるTDM実施向上への取り組み 第68回国立病院総合医学会 2014年11月15日：横浜市

国内学会	藤末 慎、森 英人、水津 智樹、河合 実、玉田 太志、青木 友和、北村 良雄 京都医療センターにおける神経膠腫患者に対する薬物療法の使用実態調査 第68回国立病院総合医学会 2014年11月15日:横浜市
国内学会	竹松 茂樹、井上 悠、岩嶋 貴子、金井 修、永井 聡子、河合 実、玉田 太志、北村 良雄 当院におけるHIV患者の骨密度測定について 第28回日本エイズ学会学術集会・総会 2014年12月4日:大阪市
国内学会	藤村 尚子、朴井 三矢、福田 良子、水津 智樹、河合 実、玉田 太志、北村 良雄、 京都医療センターにおけるESBL産生菌に対する抗菌薬の使用状況調査 第36回日本病院薬剤師会近畿学術大会 2015年1月25日:和歌山市
国内学会	東又 めぐみ、朴井 三矢、藤村 尚子、水津 智樹、河合 実、玉田 太志、河田 興、岡庭 暁子、北村 良雄 NICUにおけるテオフィリン使用患児の薬物治療アセスメントシート作成への取り組み 第36回日本病院薬剤師会近畿学術大会 2015年1月24日:和歌山市
国内学会	上田 浩人、横山 晋一郎、植田 裕美、木原 理絵、竹松 茂樹、水津 智樹、河合 実、玉田 太志、北村 良雄 当院におけるアフチニブの使用成績調査 第36回日本病院薬剤師会近畿学術大会 2015年1月24日:和歌山市
国内学会	喜田 孝史、松本 信彦、竹松 茂樹、河合 実、玉田 太志、北村 良雄 ダクラタスビル塩酸塩及びアスナプレビル投与患者に対する薬物相互作用チェックの取り組み 近畿国立病院薬剤師会学術集会, 2015年3月7日:大阪市
国内学会	宮地 由香里、吉水 浩史、水津 智樹、永井 聡子、河合 実、玉田 太志、北村 良雄 白内障患者に対する退院時集団指導の取り組み 近畿国立病院薬剤師会学術集会, 2015年3月7日:大阪市
国内学会	北宅 良祐、畝 佳子、河合 実、岡崎 俊介、安井 久晃、北村 良雄 低用量CDDPに対する制吐療法の検討 日本臨床腫瘍薬学会2015 2015年3月15日:京都市

臨床検査科



専門医資格等
日本整形外科学会

臨床検査科長
藤森 洋一

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏 名	専門医資格等
エコー指導医	小坂田元太	日本循環器学会 日本内科学会 日本超音波医学会
臨床検査技師長	益田 喜信	
副臨床検査技師長	住田 善之	超音波検査士(循環器)
副臨床検査技師長	末武 貢	超音波検査士(循環器・消化器) 認定緊急臨床検査士
主任臨床検査技師	常松 裕子	認定緊急臨床検査士
主任臨床検査技師	木村 明	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	溝上 泰司	
主任臨床検査技師	福田 修	超音波検査士(循環器)
主任臨床検査技師	小原 伸之	超音波検査士(循環器・消化器・血管領域) 糖尿病療養指導士
主任臨床検査技師	池田 俊彦	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	角谷 勇実	認定輸血検査技師
主任臨床検査技師	林 文子	超音波検査士(循環器)
臨床検査技師	鶴田 康倫	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	鈴木 雅樹	超音波検査士(循環器)
臨床検査技師	島田 良員	
臨床検査技師	大上 哲也	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	小森 法子	認定血液検査技師
臨床検査技師	西山 智美	超音波検査士(循環器) 認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	相原美奈子	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	松本 俊一	
臨床検査技師	栗山 陽子	認定輸血検査技師 認定血液検査技師
臨床検査技師	伊藤 千慧	

臨床検査技師	伊瀬あゆみ	
臨床検査技師	山本 紗綾	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	塩澤 洋子	認定輸血検査技師 認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	吹田 卓也	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	園田美代子	
臨床検査技師	永阪麻衣子	
臨床検査技師	前川美翠穂	
臨床検査技師	土田麗央奈	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	内山有里紗	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	谷畑和可苗	日本細胞検査士
臨床検査技師	三觜 智子	
臨床検査技師	中村 美咲	
非常勤技師	佐伯 ミカ	
非常勤技師	水谷 幸子	
非常勤技師	清水木綿子	
事務助手	村井 佳世	
事務助手	小野 忍	
事務助手	岡 由美	
事務助手	岩崎 京子	
事務助手	川口 真弓	
事務助手	北村 直子	

□ 科(室)の特徴

1. 正しいデータを臨床側に返すことは、臨床検査技師の大切な任務であり、その命ともいえる精度管理に大きなエネルギーを注いでいます。
2. 当センターは日本の政策医療で、内分泌・代謝性疾患の基幹的役割を担っています。当科は臨床検査のトップ集団であることを自覚し、政策医療関連の検査の充実を図っています。
3. 緊急検査は、24時間対応しています。
4. 感染防御という立場から積極的に取り組むため、ICT(感染防御チーム)の活動に臨床検査技師も参加しています。
5. 輸血業務を一元化し、安全かつ適正な輸血管理業務を行っています。

□ 業務内容

当科の業務は臨床検査を行うことであり、臨床検査は検体検査と生理機能検査の2つの分野に大きく分かれます。

1. 検体検査：血液、尿、便、痰、手術により切り出された組織、穿刺液等を用いて行う検査です。肝機能検査や生活習慣病の血糖・尿糖検査、貧血検査、がん細胞検査等がこの中に含まれます。検査部門としては血液学検査、生化学検査、免疫学検査、輸血関連検査、微生物学検査、病理学検査、一般検査があります。
2. 生理機能検査：直接患者さんの身体に接して、体内からの情報や変化の状態を数字や画像に変換して目で見るようにした検査です。分野別に心電図検査、肺機能検査、脳波検査、筋電図検査、超音波検査、聴力検査、睡眠時無呼吸検査、出血時間検査があります。

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演 者・演 題・学 会 名
国内学会	末武 貢.臨床検査から見た医療安全.平成26年度医療安全管理研修会
国内学会	内山 有里紗,吹田 卓也,山本 紗耶香,末武 貢,住田 善之,益田 喜信,藤森 洋一.アーキテクト high sensitive トロポニン試薬の基礎的検討.第41回国臨協近畿支部定期総会学会
国内学会	福田 修.微生物検体のちゃんとした採取を学ぼう!第1回院内感染対策講習会
国内学会	大上 哲也.第31回細胞診教育セミナー.日本臨床細胞学会京都府支部細胞検査士会
国内学会	福田 修.国臨協近畿支部 微生物研修会
国内学会	福田修.第7回関西BDフェニックスセミナー
国内学会	大上 哲也.国臨協平成26年細胞検査士育成研修会.国立病院臨床検査技師協会近畿支部
国内学会	福田 修.第2回長崎BDフェニックスセミナー
国内学会	池田 俊彦.精度管理について.国臨協近畿支部学術研修会
国内学会	塩澤 洋子.精度管理について.国臨協近畿支部学術研修会
国内学会	福田 修.感染対策講習会.京都金井病院
国内学会	小原 伸之.腹部超音波講習会中級編「オタクの勧め」.京都府臨床検査技師会
国内学会	塩澤 洋子.血液研修会.国臨協近畿支部研修会
国内学会	福田 修,伊藤 千慧,中村 美咲,常松 裕子,末武 貢,住田 善之,益田 喜信,藤森 洋一.当センターにおける血液培養検査の現状.第68回国立病院総合学会
国内学会	内山 有里紗,吹田 卓也,相原 美奈子,溝上 泰司,池田 俊彦,末武 貢,住田 善之,益田 喜信,藤森 洋一.アーキテクト high sensitive トロポニン試薬の基礎的検討.第68回国立病院総合学会
国内学会	小原 伸之.超音波検査の腹水のチェックポイント.京都医療センターがん診療セミナー第2回ランドセミナー
国内学会	大上 哲也.病理検査精度管理報告及び解説.京都府臨床検査技師会病理細胞検査講演会
国内学会	末武 貢.臨床検査技師から見た医療安全.国立病院機構主催医療安全管理研修
国内学会	塩澤 洋子.京都府技師会血液精度管理報告.京都府臨床検査技師会
国内学会	角谷 勇実.平成26年度輸血技術研修(実地研修).国立病院機構近畿グループ主催
国内学会	塩澤 洋子.血液研修会.国臨協近畿支部研修会
国内学会	角谷 勇実.輸血管理室の取り組み.平成26年度チーム医療のための研修会
国内学会	福田 修.疾患に立ち向かう臨床検査8.国臨協近畿支部学術研修会
国内学会	中村 美咲,伊藤 千慧,福田 修,常松 裕子,末武 貢,住田 善之,益田 喜信,藤森 洋一.迅速な菌種同定報告による有用性について.京都医療センター成果発表会
国内学会	塩澤 洋子.血液研修会.国臨協近畿支部研修会
国内学会	大上 哲也.病理検査部門精度管理報告及び解説.第30回京都府臨床検査技師会精度管理調査合同報告会
国内学会	塩澤 洋子.血液研修会.国臨協近畿支部研修会

病理診断科



病理診断科長
山本 鉄郎

専門医資格等 日本病理学会・病理専門医
日本臨床細胞学会、細胞診専門医
死体解剖資格

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
病理医師	森吉 弘毅	日本病理学会 日本臨床細胞学会 死体解剖資格		
主任臨床検査技師	木村 明	日本細胞検査士 国際細胞検査士		
臨床検査技師	鶴田 康倫	日本細胞検査士 国際細胞検査士		
臨床検査技師	大上 哲也	日本細胞検査士 国際細胞検査士		
臨床検査技師	谷畑和可苗	日本細胞検査士		
臨床検査技師	永阪麻衣子			

□ 科(室)の特徴

1. 常勤病理医2名でダブルチェックを行い、診断精度の向上を図っています。
2. 細胞検査士の資格を持つ検査技師と協力し、細胞診業務を行っています。
3. コンサルテーション等で京大病院病理診断科との協力体制を築いています。
4. 組織診、細胞診、術中迅速診断、病理解剖、CPCのいずれについても正確かつ迅速な診断を心がけています。
5. カンファレンス等を通じて臨床医とのコミュニケーションを図ることで、より臨床の現場に即した診断が行えるよう努めています。

□ 診療(業務)内容

1. 組織診断: 生検や手術によって採取された検体に対し、良悪性の判定、炎症の有無などを調べ、診断名を確定します。また、治療効果や腫瘍のステージ、転移の有無などの判定を行い、以後の治療方針の決定に役立てています。2014年は7509件の組織診断を行いました。
2. 細胞診: 子宮頸部擦過、尿、喀痰、甲状腺やリンパ節の穿刺などによって得られた細胞を観察し、良悪性の判定を行います。2014年は8503件の細胞診を行いました。
3. 他院標本診断: セカンドオピニオンや転院によって当院を受診された患者さんが持参された標本を改めて検討し、診断の確認を行っています。2014年は組織診126件、細胞診54件の他院標本診断を行いました。

4. 術中迅速診断:手術中に提出された検体を15-20分程度で診断し、手術範囲や術式の決定に役立てています。2014年は436件の術中迅速診断を行いました。
5. 病理解剖:亡くなられた患者さんのご遺体を解剖し、病態を詳しく調べて、生前に分からなかった事も解明しています。2014年は17件の病理解剖を行いました。
6. CPC:臨床各科と合同で病理解剖症例の検討を行い、様々な視点から病態を調べて、今後の診断や治療に役立てています。また、研修医と共に発表を行い、医学教育に寄与しています。2014年は9件のCPCを行いました。
7. カンファレンス:臨床各科と定期的にカンファレンスを実施し、臨床情報と病理所見の摺り合わせを行っています。また、手術検体の切り出しの際の外科医立ち会いや、個別症例についてのディスカッションを通じて臨床医とのコミュニケーションを図ることで、より臨床の現場に即した診断が行えるよう努めています。

学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演者・演題・学会名
国内学会	山本 鉄郎、舌根部唾液腺型腫瘍の一例、第103回 日本病理学会総会
国内学会	山本 鉄郎、皮膚の色素性病変、第67回 日本病理学会近畿支部学術集会

投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Histopathology	Fujimoto M, Sumiyoshi S, Yoshizawa A, Sonobe M, Kobayashi M, Moriyoshi K, Kido A, Tanaka C, Koyanagi I, Date H, Haga H. "SALL4 immunohistochemistry in non-small-cell lung carcinomas"
Head Neck Pathol	Yamamoto T, Minamiguchi S, Watanabe Y, Tsuji J, Asato R, Manabe T, Haga H. "Kimura disease of the epiglottis: a case report and review of literature"
Int Immunol	Kataoka TR, Kumanogoh A, Fukuishi N, Ueshima C, Hirata M, Moriyoshi K, Tsuruyama T, Haga H. "CD72 negatively regulates mouse mast cell functions and down-regulates the expression of KIT and FcεRIα"
京都医学会雑誌	武井 玲生仁、井上 英樹、孫 瑜、北村 知嵩、葉山 学、金井 修、小林 岳彦、岡村 美里、森吉 弘毅、山本 鉄郎、浅本 仁、三尾 直士、剖検により肺大細胞癌と診断した原発不明癌の1例
日本消化器外科学会雑誌	村上 隆英、成田 匡大、山本 鉄郎、花田 圭太、谷 昌樹、松末 亮、畑 啓昭、山口 高史、大谷 哲之、猪飼 伊和夫、十二指腸乳頭部に発生したmixed adenoneuroendocrine carcinomaの1例

臨床栄養科



臨床栄養科長
大谷 哲之

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏 名	専門医資格等
栄養管理室長	西田 博樹	
副栄養管理室長	大池 教子	日本糖尿病療養指導士・病態栄養専門師・NST専門療法士
主任栄養士	市岡 利恵	日本糖尿病療養指導士
栄養士	山地 聡子	
栄養士	内川 巖志	
栄養士	騎馬 沙苗	日本糖尿病療養指導士
栄養士	繁井三智子	
非常勤栄養士	大塚 歩美	
非常勤事務助手	山城智佐子	
調理師長	福井 勝	
副調理師長	河添 幸弘	
副調理師長	石井 俊雄	
主任調理師	山田 弘喜	
主任調理師	西田 正直	
調理師	坂本 尚人	
調理師	柘村 勝利	
調理師	澤辺 元弘	
調理師	荒川 和彦	
調理師	博多 健二	
調理師	松尾 隆生	
調理師	蒲生 亘	
非常勤調理助手	藤井 恵子	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設
-------	---------------------

1. 管理栄養士専従による栄養サポートチーム活動
2. 専門外来栄養指導の実施

3. 特別メニュー食の提供
4. 個人対応食(PS食)の提供
5. 緩和ケア病棟での特別行事食の実施

□ 診療(業務)内容

1. 食事の提供

入院患者を対象に大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた管理のもと、安全な食事(一般食及び治療食)を提供。また、今年度については、衛生管理マニュアルの改訂を実施した。患者サービス、喜ばれる食事の環として、週3回の選択食や月1回の行事食を実施すると共に、特別室病棟を対象に特別献立による食事の提供を行っている。緩和ケア病棟、化学療法における食欲不振時には、低食欲時食や個人対応食(PS食)を提供している。産科病棟に於いて母乳分泌促進のため夜食の提供を実施。今年度はクローン病食、潰瘍性大腸炎食をリニューアルした。

2. 栄養食事指導

外来及び入院患者を対象に個人指導や糖尿病教室、母親教室などの集団指導を実施。個人指導では、1型糖尿病ポンプ外来や2型糖尿病専門外来、メタボリックシンドローム外来などの専門外来指導も実施している。

3. チーム医療

栄養サポートチーム(管理栄養士専従)や、摂食嚥下対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなどチームの一員として管理栄養士が積極的に参加している。

4. 教育研修

今年度は5大学より、24名の実習生を受入れた。

□ 地域医療連携・広報活動

第28回DM京都「食品交換表のおはなし」 2014年7月19日

看護の日 栄養相談 2013年6月23日

第5回腎臓病教室「腎臓食のわかりやすい作り方」(参加者81名) 2014年9月23日

ホスピス緩和ケア週間 栄養食事相談 2013年10月10日

糖尿病週間 栄養相談コーナー 2013年11月19日

第11回京都医療センター1型糖尿病セミナー「リアルタイムCGMとSAPのエビデンス」2015年2月14日

世界腎臓病デイ 栄養相談コーナー 2015年3月12日

第12回脳卒中市民講座「脳卒中を防ぐヘルシー食事メニュー」(参加者111名) 2015年1月10日

第15回メタボリックシンドローム会「やせるレシピ～自宅で簡単病院推奨レシピ～」(参加者91名) 2015年1月25日

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
国内学会	騎馬 沙苗、三浦 あゆみ、内川 巖志、山地 聡子、真鍋 悟、大池 教子、西田 博樹、久保 速三、土屋 宣之 緩和ケア病棟における栄養管理室の取り組みについて 京滋緩和ケア研修会. 2014年6月21日:神戸市
国内学会	市岡 利恵、松岡 幸代、藤本 容子、山田 和範 「低血糖予防に難渋している60歳1型糖尿病患者の1例」糖尿病医療学研究会. 2014年10月12日:橿原市

医療技術部 臨床工学科



医療技術部長
伊藤 剛

□ スタッフ

平成26年10月1日時点

	氏 名	専門医資格等
主任臨床工学技士	井上 裕之	3学会合同呼吸療法認定士・体外循環技術認定士
臨床工学技士	柳澤 雅美	3学会合同呼吸療法認定士・透析技術認定士
臨床工学技士	清水真樹子	3学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	川西 恭輔	透析技術認定士
臨床工学技士	大谷 直哉	DMAT隊員・体外循環技術認定士
臨床工学技士	中村 健志	
臨床工学技士	井原 由奈	
臨床工学技士	丸宮 千冬	
臨床工学技士	町屋敷 薫	

□ 科(室)の特徴

患者さんへ安全かつ安心して、高度な医療技術が受けただけの環境づくりに努める。

□ 業務内容

臨床工学科の業務内容

臨床工学の業務は、大きく分けると【臨床支援業務】と【医療機器管理業務】の2つの分野があります。

『臨床支援業務』:呼吸・循環・代謝に関わる生命維持装置の操作

『医療機器管理業務』:院内での医療機器の効率的な運用を行う為、機器の選定から廃棄に至るまで医療機器の総合的管理

日々高度化する医療において、不可欠な人工呼吸器(呼吸療法)・人工透析(血液浄化療法)・人工心肺(体外循環)など、生命に直結する重要な生体機能を代行する医療機器の管理と操作のプロフェッショナルとして活動しています。また、患者さんの状態に合わせて安全に最適な条件で治療の手助けを行い、病院内の医療機器全般について、いつでも、有効かつ安全・安心して臨床使用できるように運用・保守管理するという重要な役割も担っています。医療の中心にある患者さんを見据え、臨床工学技士として、必要な専門知識と技術を『工学分野』と『医学分野』を交え日々努力しています。

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	大谷直哉、井原由奈、中村健志、川西恭輔、清水真樹子、柳澤雅美、井上裕之 研究内容:電気設備の不具合により突発的に起こった停電への対応。第24回日本臨床工学会。2014年5月10～11日:仙台
国内学会	柳澤雅美、井上裕之、葉山学(呼吸器内科)、三尾直士(呼吸器内科)、志馬伸朗(救命科) 研究内容:VAEサーベイランスと重症部門システム。第36回日本呼吸療法学会。2014年7月19日～20:秋田

国内学会	川西恭輔、井原由奈、中村健志、大谷直哉、清水真樹子、柳澤雅美、井上裕之 研究内容:在宅血液透析導入を経験して・第21回近畿臨床工学会, 2014年10月11~12日:滋賀
国内学会	井上裕之 研究内容:呼吸サポートチーム(RST)におけるメリット・デメリット~臨床工学技士の立場から~当院のRSTの活動を振り返り・第21回近畿臨床工学会, 2014年10月11~12日:滋賀
国内学会	井原由奈、町屋敷薫、丸宮千冬、中村健志、大谷直哉、川西恭輔、清水真樹子、柳澤雅美、井上裕之 研究内容:深夜に発生した突発的停電の経験について・第21回近畿臨床工学会, 2014年10月11~12日:滋賀
国内学会	井上裕之 研究内容:腹水濾過濃縮再静注法(CART)と使用成績調査, 第33回日本アフェリシス学会 関西地方会, 2015年2月28日:大阪

看護部



看護部長
三井 佐代子

国立病院機構の理念に沿った病院の使命を認識し、機構の看護職員として以下の役割を果たす。

1. 機構及び病院の理念を踏まえた良質の看護サービスの提供に努める。
2. 看護の質の向上を目指し、臨床看護の研究、業務の改善を行う。
3. 良質な看護を提供するために、看護職員をはじめ看護に関係する職員の教育研修を行う。
4. 看護の提供と経営効率の調和を図り、病院経営に参画する。
5. チーム医療推進のための調整を図る。
6. 地域住民への健康教育活動に参画する。

□ 看護部の理念

私たちは、常に患者さんと共に歩み、
安心して納得のいく医療を受けていただくために、
わかりやすく丁寧な看護を提供いたします。

□ 看護部の運営計画

【B S C】

(別紙1：B S C戦略)

【平成26年度 看護部目標】

スローガン 「看護の今を見据え、明日を構築する」

1. 選ばれる病院・選ばれる看護の創生
2. ひとりひとりの看護の質の向上と、教育システムの再構築
3. 地域に根ざした急性期医療の更なる推進と、安定した経営

□ 看護部の体制

I. 看護部組織図

(別紙2：看護部組織図)

II. 看護部会議・委員会

(別紙3：看護部会議・委員会機能図)

平成26年度看護部運営方針

病院目標

チーム医療を活かした如何なる医療環境にも対応できる組織づくり

看護部スローガン

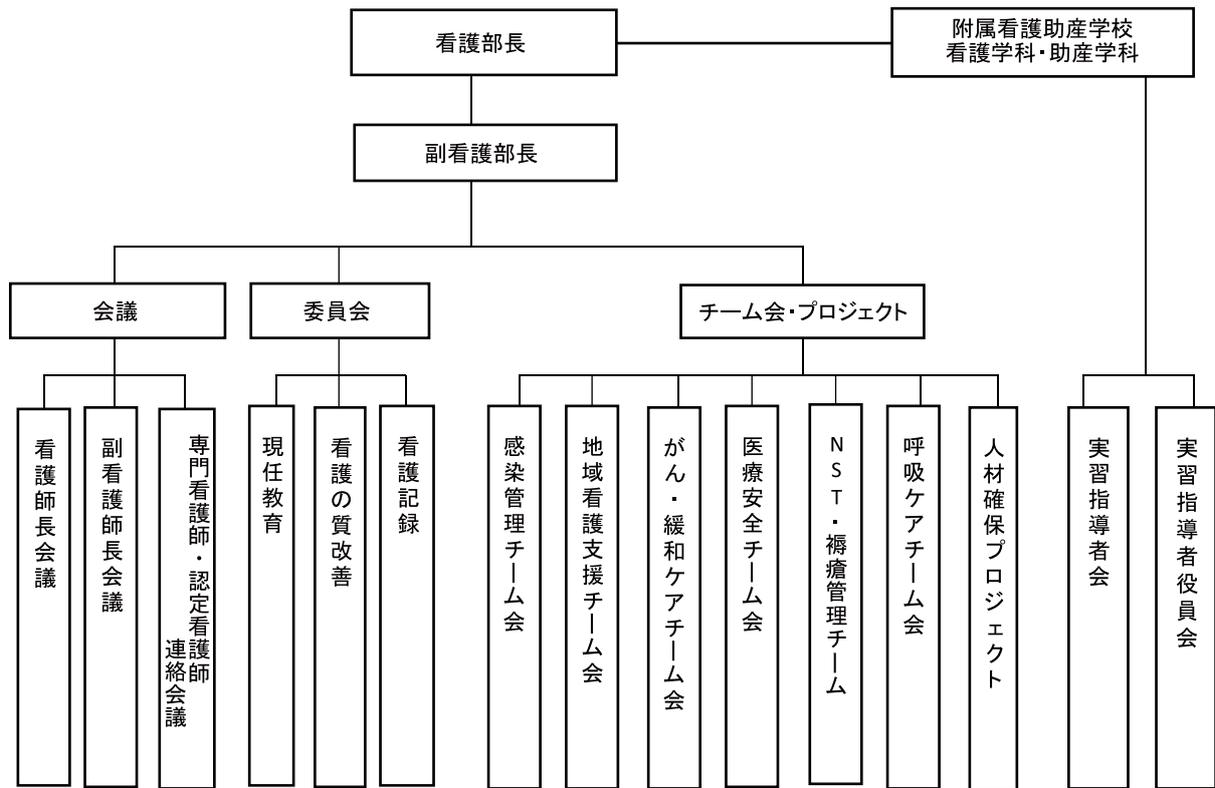
看護の今を見据え、明日を構築する

看護部目標

- 選ばれる病院・選ばれる看護の創生
- ひとりひとりの看護の質の向上と、教育システムの再構築
- 地域に根ざした急性期医療のさらなる推進と、安定した経営

区分	戦略目標	戦略シナリオ	重要成功要因
財務の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○京都府南部の基幹病院(高度急性期総合医療センター)として目指す医療 ○DPCのⅢ群からⅡ群を目指す ○更なる患者数確保を目指す 		<ol style="list-style-type: none"> ①平均在院日数の短縮 ②地域医療連携の推進 ③救急医療の充実 断らない医療 ④地域がん診療拠点病院の推進 ⑤新外来棟の開棟・PET導入 新規外来患者数の増加 ⇒ 入院患者数の増加 ⑥経営・病院機能充実ワーキングの拡大
顧客の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○患者満足の向上 ○職員満足の向上 ○患者、職員(学生を含む)から選ばれる病院づくり 		<ol style="list-style-type: none"> ①病院機能評価受審に向けた準備 病院機能充実ワーキングの立上げ ②外来看護の機能の再構築 第2外来棟の整備 入院支援センターの開設 ③看護師の定着促進と離職防止 人材確保プロジェクトの立上げ 新たな看護師の確保対策
内部プロセスの視点	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム医療の更なる推進 ○働きやすい職場環境の構築 ○看護職としての自信と誇りの醸成 		<ol style="list-style-type: none"> ①チーム医療の強化 他職種連携推進ワーキングの継続 病院機能評価受審 ②電子カルテ更新準備 電子カルテ更新準備ワーキングの立上げ 看護記録委員会との連動 ③看護管理基準・各種ガイドライン等の見直し・改訂 看護師長会:看護管理基準の改訂 副看護師長会:看護基準の改訂 看護の質改善委員会:看護手順の見直し ④働きやすい職場環境の整備 看護体制の評価 業務改善・5S活動の推進 承認しあえる組織 新人看護師のフォロー体制強化 労働と看護の質データベース事業への参画
成長と学習	<ul style="list-style-type: none"> ○京都医療センター看護師・助産師に求められる能力の育成強化 ○看護研究の推進と看護実践の評価・発展を目指す 		<ol style="list-style-type: none"> ①集中治療領域に求められる能力の明確化と教育システム作り 集中治療領域の教育システム構築ワーキングの継続 ②看護管理者の能力育成・向上 看護管理能力の向上ワーキングの立上げ ③看護研修に必要な能力と素地づくり 看護研修学会の運営参画 看護研究推進ワーキングの立上げ

別紙 3：看護部会議・委員会組織図（機能図）



看護師自治会

看護師宿舍自治会

- 看護部が関わる主な病院諸会議
- 管理診療会議
 - 経営企画・業績評価委員会
 - サービス向上委員会
 - 薬事委員会・医療材料委員会
 - 診療報酬管理委員会
 - 病床管理委員会・小委員会
 - 外来管理委員会
 - 手術室運営委員会
 - 集中治療室運営委員会
 - 救命救急委員会
 - 緩和ケア運営委員会
 - 地域医療連携委員会
 - 褥瘡対策委員会
 - 栄養管理委員会・NST委員会
 - 透析委員会・小委員会
 - 臨床検査委員会
 - 輸血療法委員会・小委員会
 - 化学療法委員会
 - 医療安全管理委員会
 - 医療事故対策委員会
 - リスクマネージャー会
 - 院内感染対策委員会
 - 災害対策委員会
 - 医療機器安全管理委員会
 - 医療情報委員会・小委員会
 - クリティカルパス委員会
 - 広報委員会
 - 安全衛生委員会
 - 過半数代表者会議・選出選挙委員会

□ 会議・委員会活動

Ⅰ. 会議・委員会

1. 副看護師長会議

目的・目標	<p>目的 (1) 看護部の目標達成に向け、副看護師長の役割果たす</p> <p>目標 (1) 看護基準を改訂することができる</p> <p>(2) 医療安全管理に関する知識を習得し、現場での実践に活かすことができる</p>
活動内容	<p>1) 看護基準を改訂</p> <p>①現在の看護基準の問題抽出</p> <p>②看護基準見直し、新規看護基準作成</p> <p>③看護基準編集</p> <p>2) 医療安全管理に関すること</p> <p>①インシデント事例の事実確認、問題の抽出</p> <p>②インシデントカンファレンス場面でのスタッフ指導、教育</p> <p>③医療安全管理をする副師長として行動できる具体的な方策</p>
成果と課題	<p>1) 看護基準の改訂ができた。今後は改訂した看護基準を使用し評価する</p> <p>2) 医療安全管理に関する知識の習得ができ、現場での実践に活かした</p>

2. 専門・認定連絡会議

目的・目標	<p>目的</p> <p>1) 専門看護師・認定看護師が各分野において専門的知識・技術を元に高度な看護実践を行うこと、そして各分野の専門看護師・認定看護師が協力し合い、看護師への教育・指導に携わり京都医療センターの看護の質の向上を図る</p> <p>目標</p> <p>1) 当院看護師のアセスメント能力の向上に繋がる院内研修が実施できる</p> <p>2) 専門・認定看護師の広報活動を行い、コンサルテーション件数を増やすことができる</p> <p>3) 地域に向けた情報発信ができる</p> <p>4) 事例検討を通して、自らの地域向上と啓発ができる</p>
活動内容	<p>1) 各部門の専門看護師・認定看護師が企画した研修をとりまとめて、専門看護師・認定看護師連絡会が企画・支援する体制を整えた</p> <p>2) 専門看護師・認定看護師のメンバー紹介のポスター更新、院内報うづら便りへのリレー掲載、ホームページ更新、専門看護師・認定看護師をめざす看護師との交流会の企画・運営</p> <p>3) 地域に向けた専門・認定看護師セミナーの企画・運営</p> <p>4) 事例検討を実施</p>
成果と課題	<p>1) 企画した研修は下記の学習会実施結果の通り参加があったが、開催時期・対象者の選定が課題</p> <p>2) 広報活動を行うことで所属病棟以外からのコンサルテーションがみられ、活動範囲が広がった</p> <p>3) 平成26年10月26日実施のセミナーには院内35名、院外65名の参加があったが、リピーターを増やす企画内容の検討が課題</p> <p>4) 2事例、3回の事例検討を行った。スキルアップに向けたテーマディスカッションが課題</p>

成果と課題	専門看護師・認定看護師連絡会 学習会実施結果				
	日	分野名	テーマ	講師	参加人数
	9月 1日	脳卒中リハビリテーション看護	脳神経系のフィジカルアセスメント	樋口	38
	9月25日	透析看護	透析患者の体重管理 ～ドライウエイトってなに？～	川瀬	9
	10月15日	感染管理	嘔吐物の処理方法 (ノロウイルスによる感染性胃腸炎対策)	宮地	15
	10月27日	皮膚・排泄ケア	ストーマケア～術後編～	河合	22
	11月12日	糖尿病看護	インスリンと血糖測定 ～高齢者体験してみよう～	小久保	13
	11月20日	摂食・嚥下障害看護	ベッドサイドで行える嚥下評価	宇治本	19
	12月 1日	乳がん看護	アピアランスケア	荒木	11
	12月15日	脳卒中リハビリテーション看護	高次脳機能障害	樋口	25
	1月 8日	急性重症患者看護	災害看護	堀	14
	1月23日	がん看護	意思決定支援	櫻井	18
	2月 9日	皮膚・排泄ケア	ストーマケア～在宅編～	河合	15

3. 現任教育委員会

目的・目標	<p>目的</p> <p>1) 当院の使命を自覚し、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践能力、専門的知識・技術・態度に優れた看護師を育成する</p> <p>目標</p> <p>1) 経年別研修計画の企画運営ができ、研修生が到達目標を達成することができるよう支援する</p> <p>2) 集合教育と機会教育の連携を強化し、教育体制を充実させる</p>																					
活動内容	<p>1) 看護職員能力開発プログラム到達目標に沿った集合研修の企画運営</p> <p>2) 機会教育における研修前課題、研修後課題の計画的な支援と指導者への周知研修計画までの取り決め事項を作成し、研修前課題、動機付け計画的に支援し充実させた。研修後は、看護実践に活かせるよう研修後課題を通して指導者の関わり強化した。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>新採用者研修</td> <td>77名</td> <td>8テーマ13回、2日間の看護技術演習 リフレッシュ研修1日間</td> </tr> <tr> <td>既卒研修</td> <td>10名</td> <td>1テーマ1回</td> </tr> <tr> <td>実務Ⅰ前期(2年目)研修</td> <td>57名</td> <td>4テーマ8回</td> </tr> <tr> <td>実務Ⅰ後期(3年目)研修</td> <td>63名</td> <td>3テーマ6回、一日院内留学研修</td> </tr> <tr> <td>実務Ⅱ(4年目)研修</td> <td>55名</td> <td>3テーマ6回</td> </tr> <tr> <td>実務Ⅱ(5年目)研修</td> <td>55名</td> <td>3テーマ3回、看護管理研修(自部署にて一日間)</td> </tr> <tr> <td>実地指導者研修(6年目以上)研修</td> <td>121名</td> <td>1テーマ1回</td> </tr> </tbody> </table>	新採用者研修	77名	8テーマ13回、2日間の看護技術演習 リフレッシュ研修1日間	既卒研修	10名	1テーマ1回	実務Ⅰ前期(2年目)研修	57名	4テーマ8回	実務Ⅰ後期(3年目)研修	63名	3テーマ6回、一日院内留学研修	実務Ⅱ(4年目)研修	55名	3テーマ6回	実務Ⅱ(5年目)研修	55名	3テーマ3回、看護管理研修(自部署にて一日間)	実地指導者研修(6年目以上)研修	121名	1テーマ1回
新採用者研修	77名	8テーマ13回、2日間の看護技術演習 リフレッシュ研修1日間																				
既卒研修	10名	1テーマ1回																				
実務Ⅰ前期(2年目)研修	57名	4テーマ8回																				
実務Ⅰ後期(3年目)研修	63名	3テーマ6回、一日院内留学研修																				
実務Ⅱ(4年目)研修	55名	3テーマ6回																				
実務Ⅱ(5年目)研修	55名	3テーマ3回、看護管理研修(自部署にて一日間)																				
実地指導者研修(6年目以上)研修	121名	1テーマ1回																				
成果と課題	<p>1) 研修目標達成度とやる気度の年間平均値(研修アンケート結果より)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年目</th> <th>2年目</th> <th>3年目</th> <th>4年目</th> <th>5年目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標達成度</td> <td>94%</td> <td>85%</td> <td>98%</td> <td>85%</td> <td>84%</td> </tr> <tr> <td>やる気度(10MAX)</td> <td>6.7</td> <td>6.2</td> <td>5.9</td> <td>6.9</td> <td>5.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>キャリア支援参加率は64% 6年目以上の研修計画の見直しが課題である</p> <p>2) 2週間前に研修生へ計画書が配信されることで、研修前課題や動機付けへの支援は充実した。研修後のOJTの関わりはまだ不十分であり、今後OJTの関わり強化が課題である</p>		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標達成度	94%	85%	98%	85%	84%	やる気度(10MAX)	6.7	6.2	5.9	6.9	5.7			
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目																	
目標達成度	94%	85%	98%	85%	84%																	
やる気度(10MAX)	6.7	6.2	5.9	6.9	5.7																	

4. 看護記録委員会

目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> 1) 電子カルテ更新に向けて準備を進めることができる 2) 看護記録の内容の質を向上させる 3) 看護過程の思考プロセスを理解し看護展開ができる
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 1) 電子カルテ更新に向けて、看護データベース、看護計画、看護オーダー、指示受け機能、看護サマリーの問題点を抽出し、電子カルテ仕様書に文章化した 2) 6月11月に看護記録監査を実施した。入院時情報、看護計画、経過記録、看護計画の評価、退院時の要約の5項目を監査した。6月での比率の低い項目を中心に記録の質の向上へ取り組んだ 3) 看護過程の思考プロセスに基づいて、前年度作成の標準看護計画の追加、紙ベースの標準看護計画の電子カルテに反映できるように、病態等の定義の削除と看護実践基準をもとに患者目標を設定した
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 看護師の意見をまとめ看護支援システム看護過程を中心に電子カルテ仕様書を作成。今後、業者との意見調整が必要 2) 看護記録監査結果○の比率 6月77.6% 11月89.5%と上昇しており、記録の質の向上できた。今後、看護記載要項、モデルカルテを作成し看護記録教育システムの構築を図る必要がある 3) 標準看護計画を修正追加し、電子カルテ看護支援システムに連動できる形式になった。標準看護計画の質の再検討、カテゴリー分類が課題である

5. 看護の質改善委員会

目的・目標	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護部の理念に基づき、看護職員の資質の向上・発展を図るために、看護ケアの質評価を行い、看護ケアの質の改善の推進を図る <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 退院時アンケートを実施、評価した結果を看護の質改善に活用する 2) 当院の看護職員としてふさわしい接遇を身に付けるため啓発活動を実施する 3) 看護基準・手順の見直しを実施して看護ケアの統一を図る
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 1) 退院時アンケートの改訂を行い、退院時アンケートを実施(8月・12月)。退院時アンケートの結果からポスターでの注意喚起の実施、各病棟で「看護師間の連携について」について改善策を実施した 2) 強化項目に沿った身だしなみチェック(髪型・髪カラー、靴・靴下)と、病棟ラウンドを12月に実施。10月には言葉使いセルフチェックを実施。6・10月は、サービス向上委員会主催の「あいさつ」推進週間を実施した 3) 看護手順の見直しを51項目実施した
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 退院時アンケートの結果は、総合評価で5段階評価のうち、やや満足・大変満足と答えた割合は、前期は81.1%、後期は80.5%であった。各病棟で実施した「看護師間の連携について」の取り組みは効果があった。次年度は年3回の退院時アンケートを継続する 2) 身だしなみチェックの結果、守れていた割合は、髪型・髪カラー:97.3%、靴・靴下:97.4%であった。病棟ラウンドは、女性98%、男性99%が当院での身だしなみの基準を守っていた。今後も当院の看護師としてふさわしい身だしなみと接遇マナー向上を図る 3) 看護手順においてH21年度から見直し出来ていない項目が今後の課題である

II. 委員会

1. 感染管理チーム会

目的・目標	1) 感染予防対策の充実に向けた活動を継続する 2) 感染対策に対する知識の向上と啓発を行う 3) 各部署の感染対策の向上を推進する
活動内容	1) 根拠をもった標準予防策、経路別予防策が実施、徹底される ・ゴージョの使用量の調査と分析 ・手指衛生のチェックの実施 2) 院内で注意すべき感染症に対する知識の向上と対策の強化ができる ・インフルエンザウイルスについてとノロウイルスについてのレクチャーの実施 3) 病棟ラウンドを継続し、各部署の感染対策の向上につなげることができる ・病棟ラウンドの実施
成果と課題	1) キャンペーン活動を行うことでゴージョの使用量は増加した 手指衛生はレクチャーを行うことで必要性は周知できたが、実施においては評価指標がなく十分な評価ができなかった 2) レクチャーの参加率はノロウイルス62%、インフルエンザ73%と、参加したスタッフからはよく分かったなどの反応が得られた。理解度の確認が十分できなかった ので検討が必要 3) 自部署でのラウンドを取り入れること、病棟でのカンファレンスの開催は環境改善に効果があった

2. 地域看護支援チーム会

目的・目標	目的 1) 患者・家族が安心して退院・転院を迎えることができるよう退院支援を強化する 目標 1) 入院時から退院支援にむけて早期介入ができる 2) 地域の訪問看護ステーションとの連携をはかる
活動内容	1) 入院早期から退院困難な要因を抽出し早期介入を図るため、退院支援カンファレンスの記録の充実、テンプレートの作成と活用を推進した。また、退院調整に必要な知識の向上を目的に事例検討を実施した 2) リンクナースを対象に2回学習会を実施 11月17日に訪問看護師との交流会を開催した
成果と課題	1) 退院支援カンファレンスが定着した。今後さらに、地域の医療チームと協働し退院支援の強化をはかることが課題である 2) 訪問看護師交流会は院外より講師として訪問看護認定看護師の講演と医師によるミニレクチャーと意見交換会を行った。20施設30名の訪問看護師、当院看護師44名が参加し、在宅医療チームとの連携強化の必要性を再認識した

3. がん緩和ケアチーム会

目的・目標	1) 疼痛アセスメントシートを用いて、疼痛緩和への看護を実践することで、疼痛緩和に対する患者の満足度を50%以上にする 2) CTCAE(化学療法、放射線療法における有害事象グレード評価)を用いて、有害事象に対する看護を実践することで、化学療法を受ける患者のセルフケア支援ができる 3) 意思決定支援が必要な患者に対し、IC場面に同席し、意思決定支援への介入および専門家への介入および専門家への橋渡しを行うことができる
-------	---

活動内容	<p>1) 疼痛アセスメントシートの記載方法の周知と使用率の調査とフィードバック。活用方法を理解するための事例検討</p> <p>2) CTCAE使用率、グレード評価2以上の場合の看護計画立案状況の調査とフィードバックセルフケア支援についての講義および事例検討</p> <p>3) 意思決定支援についての講義とIC前後の介入についての事例検討</p>
成果と課題	<p>1) 疼痛アセスメントシート使用率の向上(1月の使用率調査では前年度31%今年度67%)。疼痛緩和への満足度50%以上の患者は約70%で変化はなかった(満足度の記載は半数程度)疼痛アセスメントシートの活用および患者の満足度のさらなる向上については課題</p> <p>2) CTCAEの使用率は前年度63%(1週間調査)、今年度140%(1ヶ月調査)で向上した。また、CTCAEグレード評価2以上の看護計画の立案は、昨年度はほとんどできていなかったが、今年度は約40%ができており、CTCAE活用への意識も向上した。</p> <p>3) 意思決定支援の必要性の周知およびIC同席への意識の向上は図れた意思決定支援の看護実践と専門家への橋渡しが課題</p>

4. 医療安全チーム会

目的・目標	<p>1) リンクナースとして、インシデントやアクシデント事例を分析し、病棟への解決策の周知・実践ができるよう活動する</p> <p>2) 患者参画の医療安全の取り組みができる</p>
活動内容	<p>1) 転ばぬ先のパンフレット使用状況の確認と今後の使用方法について検討、転倒アセスメントスコアシートの活用を促す</p> <p>2) 指差呼称の定着へ向けて、指差呼称のテスト、監査(点滴・内服・インスリン投与)の実施</p> <p>3) 昨年度のルート類自己抜去インシデント件数の把握、自己抜去のハイリスクの評価方法を検討</p> <p>4) ゼロレベルインシデントの分析、対策立案、実践、評価、改善内容の発信</p>
成果と課題	<p>1) 7月にRCA分析の勉強会を実施し、9月検体の取り扱い、10月麻薬、12月転倒、1月注射の事例で、RCA分析を行い、解決策を導き出した。病棟の事例に活用していくことが課題である</p> <p>2) パンフレットの使用は継続とし、医療事故防止マニュアルの転倒の項目について修正を行った。転倒アセスメントスコアシートの活用状況は、入院時でも71%の記載率であったため、活用方法の周知が必要である</p> <p>3) 指差呼称のテスト、監査の結果、6Rの中でも投与目的の確認が弱いことが分かった。6Rの確認を行ったインシデント事例を用い意識付けを行った。患者誤認のインシデントも続いているため、継続して取り組んでいく</p> <p>4) ルート類自己抜去予防に向けたアセスメントツール作成に向けて、看護研究に取り組み中</p> <p>5) ゼロレベルレポートより、臨時・緊急オーダー時の検体の取り扱いについて、手順とフローチャートの作成を行った。今後は使用後の評価を行う</p>

5. NST・褥瘡管理チーム会

目的・目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 褥瘡予防のための正しいポジショニング技術を身につけ、実践できるようにする 2) 褥瘡発生の原因を総合的にアセスメントし、予防行動がとれるようにする 3) 栄養管理について理解し、患者を栄養管理の視点からアセスメントできるようにする 4) 嚥下状態について評価し、正しく摂食を援助できるようにする 5) 学習会を中心として、リンクナースの知識・技術の向上を図る
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 毎月、褥瘡発生状況報告を行い、発生状況や起こりやすい原因について情報共有実施 2) 褥瘡診療計画書の記載の徹底 リンクナースにDESIGN-Rや褥瘡発生因子の勉強会を実施 3) SGA評価方法の見直しと入院時のSGA評価を正しく評価することの意識づけ 4) リンクナースが各病棟で嚥下評価の実践経験を実施 5) リンクナース自身が理解を深め、病棟での褥瘡管理栄養管理の推進者を目指した
成果と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) リーダーとなりうるスタッフにポジショニングを指導し、病棟への教育を図った。褥瘡発生状況は、褥瘡発生率1.8%。昨年度の発生率から減少していない。褥瘡発生リスクの感性を高めていくこと、適切な観察とマット選択やポジショニングなど予防対策をとれることが必要 2) 褥瘡診療計画書の記載はほぼ100%できているが、リスクアセスメントはいかせていない。褥瘡のリスクアセスメントや（DESIGN-R）による評価をリンクナースを中心に病棟に効果的に指導できる体制を構築する 3) 入院時のSGA評価について、「特別な栄養管理の必要あり」の件数が40件⇒500件以上に増加している状況から、「栄養不良の可能性あり」からスタートされている件数は増えている。栄養評価が栄養管理に結び付くよう、診療部との連携を図ることが望ましい 4) 会議内の勉強会により、リンクナースは知識をえて病棟内での実践を1事例は行う事ができた。各病棟で安全な摂食に取り組めるよう、リンクナースの知識・技術の向上が必要 5) ポジショニング方法、褥瘡発生因子、リスクアセスメント、褥瘡評価方法（DESIGN-R）、嚥下評価方法、摂食ケア、栄養食品について学習を行った。病棟スタッフが実践するには、リンクナース、病棟スタッフ双方のさらなる努力と学習会のあり方について検討が必要

6. 呼吸ケアチーム会

目的・目標	<p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師の呼吸ケア実践能力の向上を図る <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸フィジカルアセスメント力の向上 2) 呼吸理学を習得し、実践で活用できる 3) 呼吸ケアを実践し評価ができる
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) RST協賛による学習会の開催（6回） 2) ①「呼吸ケアマニュアル」の周知・活用と内容の評価 ②呼吸ケアチームによる病棟ラウンド（6病棟）

	<p>3) ① 1 事例 (長期呼吸ケアが必要な患者の実践状況) の評価を行い、呼吸ケアチーム会の病棟ラウンドの実際と病棟の取り組みについて成果発表を行った</p> <p>② 口腔ケアチェックリストの活用状況把握と評価を行った</p>
成果と課題	<p>1) 参加病棟に偏りがあった</p> <p>2) 一部の病棟では呼吸回数・呼吸音・アセスメントについての記録が改善した</p> <p>3) チェックリスト活用によって、実施状況 (課題) が確認できた</p>

7. 人材確保プロジェクト

目的・目標	<p>1) 質の高い看護職員の確保に向けた積極的活動を行う</p> <p>2) 看護職員の離職防止に向けた活動を行う</p>
活動内容	<p>1) 就職説明会で使用する看護部紹介DVDとブース用のポスターの作成</p> <p>2) 平成28年度募集用のパンフレットの作成</p> <p>3) 看護部ホームページのタイムリーな更新</p> <p>4) 看護体験・インターンシップの企画と運営</p> <p>5) メッセージカードを使用して、承認し合う活動の実施</p>
成果と課題	<p>1) 作成したDVD・ポスターを用いて、就職説明会に参画した</p> <p>2) 改訂したパンフレットは3月より配布し、京都らしいと好評であった</p> <p>3) ふれあい看護体験2名、中学生チャレンジ体験12名、インターンシップ (7月) 9名、インターンシップ (3月) 80名が参加</p> <p>4) 全看護職員に対してメッセージカードでの承認行動を実施し、アンケートを行った。次年度はアンケート結果を活かし、効果的な活動を検討する</p>

III. ワーキング

1. 経営・病院機能充実ワーキング

目的・目標	<p>1) 病院機能評価受審の機会を通して、環境を整え安全・安心な看護を提供する</p> <p>2) 診療報酬改定に伴う変更点を共通認識し、病床管理・看護管理ができる</p>
活動内容	<p>1) 病院機能評価受審内容の理解と病院の受審スケジュールに合わせ、第2領域を中心に各病棟自己評価と課題の抽出、ワーキングメンバーで病棟ラウンドの実施 (第1回項目ラウンド【第2領域】11/10-11/13、第2回項目ラウンド【第2領域】12/3-12/8)。病棟で統一する内容 (掲示物、個人情報に関すること、マニュアル、入院オリエンテーションパンフレット等) を検討</p> <p>2) 看護必要度の変更点を共通認識。5月に平成26年度診療報酬改訂等の勉強会変更点を共通認識 (高度急性期と一般急性期を担う病床の機能分化: 医療・看護必要度の変更、短期手術基本料の見直しに伴う病床管理等) ICU加算に対応する病床管理について、HCUから一般病棟への転棟、スムーズな受け入れ体制について、意見交換と課題の整理</p>
成果と課題	<p>1) 受審スケジュールに応じて看護実践が徹底できるよう取り組めた。機能評価受審はきっかけであり、現在のシステムで不具合な点や、患者にとって必要な情報が提供され継続できるよう今後も確認する必要がある。3/11~13 病院機能評価: 一般病院 (3rdG: Ver.1.0) 付加機能評価: 救急医療 (Ver.2.0) を受審。C評価はなくほぼA評価であった</p> <p>2) 学習会を通して個人は知識を持つことはできた。緊急入院への対応など病棟でも柔軟に受け入れるような意識は持てた。具体的な事例検討が出来なかった為、病床管理や看護管理に結び付けられたかはわからない</p>

2. 電子カルテ更新ワーキング

目的・目標	1) 電子カルテ更新に向けて準備を進めることができる
活動内容	1) 電子カルテ更新に向けて、看護支援システム、病床管理システム、看護勤務管理システム、助産録システム、看護必要度の電子カルテ仕様書を作成
成果と課題	1) 電子カルテ更新に向けて意見をまとめ仕様書を作成。来年度の更新に向けて業者との意見調整をする

3. 看護体制検討ワーキング

目的・目標	1) 看護の質の向上のため、看護体制の評価検討を行い、適正な看護体制を構築する 2) 看護管理基準の改定をする
活動内容	1) 8月に全看護職員対象にPNS学習会を実施した。PNSと固定チームナーシングを導入している病棟に、それぞれ監査表を作成し、ラウンドを行った。ラウンド結果は各病棟にフィードバックした 2) 看護管理基準について、既成の看護基準を踏まえ作成するにあたり、「看護管理基準の構成と考え方」新たに作成した。看護管理基準を検討、修正した
成果と課題	1) 勉強会参加者77名のアンケート結果から、PNSのメリットは97.4%がほぼ理解できたとの回答を得た。ラウンドでは、本来のPNS・固定チームの定義通り実施できていない現状があった。今年度看護体制の構築までは至らなく、今後病棟ラウンドを継続し看護体制が構築できるように働きかけを行う必要がある 2) 構成、書式を統一し、途中で漫然と入っていた資料を整理した。既成の看護管理基準から大幅に見直し、削除した内容もあるため、完成版について再度見直す必要はある

4. 看護管理能力向上ワーキング

目的・目標	目的 1) 看護師長・副看護師長の看護管理実践の向上を図る 目標 1) 看護管理実践に活用できる知識・技術・態度が習得できる 2) 各自の看護管理能力の課題を明確化できる 3) 看護管理過程が展開できる能力を高める 4) 看護部目標評価から次年度の課題を抽出する
活動内容	1) ①看護管理に関する資料を配布 (MaIN 2、看護マネジメントリフレクションの活用と実際、虎ノ門病院看護管理者のコンピテンシーモデル、効果的な会議運営のためのチェックリスト、看護管理者の承認行動チェックリスト) 活用後の集計とフィードバックを行った ②「看護管理とは」師長、副師長合同学習会を実施した。グループワークでマネジメントの4つの機能をどのような場面で活用しているかリフレクションを行った 2) 各種チェックリストの活用と評価結果を各自の課題としてフィードバックした 3) ランチミーティングや研修等のディスカッションで各自の看護管理課題についての取り組み、結果を共有化できるような環境を調整し、グループで検討を行った 4) 各病棟、委員会、チーム会、プロジェクトより目標評価を収集し、整理を行った
成果と課題	1) チェックリスト 2回チェックを実施したことによって、1年間での各自の変化が把握できたが、各自の課題についての支援には至らなかった 2) 資料に基づいたチェックリストの活用によって、全体の傾向と自己の課題が可視化できた

□ 看護部の運営実績

(別紙4)

□ 地域医療連携・広報活動

1. がん看護研修ステップⅠ・Ⅱ

ステップⅠ:11月8日・11月29日の計12時間 修了者:院外8名、院内29名 計37名

ステップⅡ:7月8日・7月18日・10月17日の計13時間 修了者:院内9名

2. 糖尿病看護教育セミナー

第1回:10月29日、第2回:11月26日、第3回:2月16日、第4回:2月23日 計4時間

参加者:院内23名、院外4施設7名

3. 専門・認定看護師セミナー

10月26日開催、14テーマにて講義・演習を実施

参加者:100名(院外65名、院内35名)

4. ふれあい看護体験

7月23日:高校生2名参加

5. 生き方探求・チャレンジ体験

11月 5日～ 7日(3日間) 中学生3名

11月10日～13日(4日間) 中学生2名

11月11日～13日(2日間) 中学生5名

□ 学術活動

1. 投稿 (別紙5)

2. 院外発表 (別紙6)

3. 院内発表 (別紙7)

平成26年度看護部運営実績

病院目標 チーム医療を活かした如何なる医療環境にも対応できる組織づくり

看護部スローガン 看護の今を見据え、明日を構築する

看護部目標

- 選ばれる病院・選ばれる看護の創生
- ひとりひとりの看護の質の向上と、教育システムの再構築
- 地域に根ざした急性期医療のさらなる推進と、安定した経営

看護部目標 モニタリングシート

区分	戦略目標	重要成功要因	平成26年度 目標値	実績	内容		
財務の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○京都府南部の基幹病院（高度急性期総合医療センター）として目指す医療 ○DPCのⅢ群からⅡ群を目指す ○更なる患者数確保を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ①平均在院日数の短縮 ②地域医療連携の推進 ③救急医療の充実 ・断らない医療 ④地域がん診療拠点病院の推進 ⑤新外来棟の開棟・PET導入 ・新規外来患者数の増加 ⇒入院患者数の増加 ⑥経営・病院機能充実 ワーキングの拡大 	経常収支率	103.5%	101.1%		
			医業収支率	103.6%			101.0%
			平均在院患者数	5392人	531.5人		
			病床利用率	89.9%	88.6%		
			病床稼働率	%	95.0%		
			平均在院日数	14.1日	13.9日		
			有料個室利用率		有料個室利用率:81.9%		
					減免率: 6.4%		
					30日以上: 97.3人/月		長期入院患者は昨年度より減少した。転院調整については、依頼から転院までの期間が1〜2か月要している。来年度は、当院の急性期の機能を果たすために、医師と連携をはかり在院日数の短縮を図る。
					100日以上: 12.4人/月		
					200日以上: 2.8人/月		
					紹介率: 58.4%		紹介率: 66.5%
		逆紹介率: 81.4%		逆紹介率: 86.8%			
		退院時共同指導	退院時共同指導料	82件/年			
		三者合同加算	三者合同加算	33件/年			
		地域連携バスの稼働	脳卒中/バス	脳卒中/バス: 76件/年			
		地域医療連携室で入院を断った件数	大腿骨頸部骨折/バス	大腿骨頸部骨折/バス: 53件/年			
		訪問看護師交流会開催	35件以下	38件/年			
		救急車不応受率	1回/年	11月18日交流会実施	看護部地域看護支援チーム会が中心となり、訪問看護師との交流会を実施。院外より講師と院内腫瘍内科医師による講義と意見交換会を行った。20施設30名の訪問看護師と当院看護師44名参加		
		救急車不応受率	5.8%以下	5.5%			
		救急搬送件数		救急患者数: 1,169.7			
				救急搬送患者数: 386.9			
				(月平均)			

成長と学習	○京都医療センター看護師・助産師に求められる能力の育成強化 ○看護研究の推進と看護実践の評価・発展を目指す	①集中治療領域に求められる能力の明確化と教育システム作り ・集中治療領域の教育システム構築ワーキングの継続 ②看護管理者の能力育成・向上 ・看護管理能力の向上ワーキングの立上げ ③看護研修に必要な能力と素地づくり ・看護研究会の運営参画 ・看護研究推進ワーキングの立上げ	看護管理基準	看護師長会にて改訂	平成27年3月看護管理基準改訂	看護管理基準改訂に当たり、『看護管理基準の構成と考えかた』を見直し、大幅に見直しを行った。		
			看護基準・手順	副看護師長会にて改訂	平成27年3月看護基準改訂	看護基準の定義を見直し、看護基準と看護手順を別綴りとした新看護基準を作成した。		
			職場環境整備	看護体制の評価	平成27年3月看護手順改訂	今年度は優先順の高い51項目について修正を行った。病院機能評価受審に向け、看護基準と別綴りとし編纂した前回病院機能評価受審時から改訂されていない項目が70項目残っているため、次年度改訂を行う		
				夜勤専従の一般病棟への拡大	PNSと固定チームナーシングの評価	PNS一部導入7病棟と固定チームの病棟にラウンドし監査を実施 各看護体制の定義通り実施できていない現状があり、看護体制構築への働きかけが必要である		
			新人看護師フォロー体制	メッセージカードの活用	一般病棟の夜勤専従の実施	救命救急・救外、集中治療室に加え、特別個室病棟、2-3病棟、GCU、2-5病棟にて夜勤専従を導入		
				年2回の実施 全体平均3.2以下	看護師の質とデータベース	人材確保プロジェクトが中心となり、メッセージカードを活用した承認行動についての取り組みを実施		
			チーム成長のインベンタリー	年2回の実施 全体平均3.2以下	10月全体平均：3.3 3月全体平均：3.3	教育担当師長による面談(77名)、相談窓口(4件) 各病棟の体制・精神的サポートはパートナー、技術指導は実地指導者、実習指導者		
			労働と看護の質データベース	年2回の実施 全体平均3.2以下	試行事業への参画(2年目)	チーム活動を評価するために、前期10月と後期3月の2回実施した。全体の平均は3.3であるが、病棟間の差は大きい。特に集中治療系病棟でのチーム内での懸念が大きく、働きやすい職場環境の改善に向け、評価結果の検証を行っていく		
			成長と学習	①集中治療領域に求められる能力の明確化と教育システム作り ・集中治療領域の教育システム構築ワーキングの継続 ②看護管理者の能力育成・向上 ・看護管理能力の向上ワーキングの立上げ ③看護研修に必要な能力と素地づくり ・看護研究会の運営参画 ・看護研究推進ワーキングの立上げ	集中治療領域の教育	経年別研修	年間計画の実施	看護職員能力開発プログラム到達目標に沿った経年別の集合研修を実施 1年目フジカルケアセミナー、2年目ケーススタディ、3年目一日院内留学、4年目リーダーシップ、5年目看護管理、キャリア支援として6年目以上にも研修を実施した。研修前課題や動機づけへの支援はできたが、研修後のOJTとの連携が課題である
						集中治療領域の教育	システムづくり	集中治療室に勤務する看護師の能力を明確化し、到達目標と教育内容・方法・評価について検討 集中治療領域のクリニカルラダーを作成
看護管理者の能力育成	看護管理能力向上ワーキング活動	看護管理についての学習会、グループワークを実施 Main2評価表を用いたコピレテ評価、看護管理者の承認行動チェックリスト評価、効果的な会議運営チェックリストを活用						
看護研究	看護研究推進ワーキング立上げ	看護研究を実施するためのガイドライン作成はできた。院外27題、院内40題の看護研究発表の実績につながった。しかし、看護研究の質的向上が必要であり、看護研究倫理の検討が必要である						
看護研究	看護研究推進ワーキング立上げ	看護研究会の企画・運営への参画	第12回国立病院看護研究学会の学会長施設として、企画・運営に参画を行った 2015年1月10日 京都テルサにて開催					

別紙5 学術活動

1. 平成26年度 雑誌投稿・執筆

出版社	雑誌名	テーマ	部署	著者名
メディカ出版	消化器外科ナーシング	重症度別に観察&対応ができる！説明できる！がん化学療法の副作用はや調べ集ー先輩ナースの『お助け』アドバイス付きー	外来	田中 雅子
日本メディカルセンター	臨床透析	知的障がいにより知識の獲得が困難な患者への関わりを振り返って～体重記録ノート活用を試みた事例～	2病棟8階	川瀬 真紀子

別紙6

2. 平成26年度 院外研究発表

No.	テーマ	学会名	開催日	部署	発表者名
1	外来化学療法で支えるその人らしい生活～音楽と教え子を愛する患者の支援～	京滋緩和ケア研究会	5月31日	外来	田中 雅子
2	監査表を用いた点滴注射時の指差呼称定着の効果	第16回 日本医療マネジメント学会学術総会	6月13、14日	医療安全管理室	右野 恵
3	ICU退室後訪問による看護の振り返り～患者の意見を反映した改善策の検討～	第59回 日本集中治療医学会近畿地方会	7月12日	集中治療室	大西 弥生
4	病棟看護師を対象とした持続皮下インスリン療法の学習会の効果	第19回 日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9月20日、21日	2病棟8階	大塚 桂容子
5	ナラティブが手術室看護師に及ぼす影響	第28回 日本手術看護学会年次大会	10月9日～11日	手術室	栗岡 聡子
6	チームインベントリーを活用した外来化学療法センター看護チームの分析と評価	第56回 近畿地区国立病院看護学会	10月18日	外来	青山 佳代子
7	死後のケアとしてミスト浴を行った家族の思い～死後1年後の家族の思いを調査して～	第56回 近畿地区国立病院看護学会	10月18日	緩和ケア	坂本 圭子
8	上部消化管内視鏡検査(EGD)における前処置法(ジメチコン水)の検討	第73回 日本消化器内視鏡技師学会	10月25日	外来	長崎 紗野香
9	未成年者の禁煙について、一成功例からの考察	第9回 日本禁煙科学会 学術集会	10月25、26日	外来	寺嶋 幸子
10	難治性腹水と息子の介護のため血液透析から腹膜透析に治療変更を行なった患者への支援	第17回 日本腎不全看護学会学術集会	11月8日、9日	2病棟8階	川瀬 真紀子
11	がん性疼痛・不安からくる不眠への取り組み～苦痛を4側面から捉えて～	第68回 国立病院総合医学会	11月14日、15日	2病棟4階	布施 克美
12	死後のケアとしてミスト浴を行った家族の思い	第68回 国立病院総合医学会	11月14日、15日	緩和ケア	坂本 圭子
13	臨床的脳死状態となった患者家族へ清潔ケア参加を促した看護の一例	第68回 国立病院総合医学会	11月14日、15日	救命救急センター	堀 友紀子
14	院内指針に基づく季節性インフルエンザの持ち込み防止策	第68回 国立病院総合医学会	11月14日、15日	感染管理CN	宮地聡子
15	CRCのキャリア開発に向けての現状と課題(1)～施設実態調査より～	第68回 国立病院総合医学会	11月14日、15日	CRC	松井 いづみ
16	禁煙支援のコツ！	第68回 国立病院総合医学会(シンポジウム)	11月14日、15日	外来	寺嶋幸子
17	婦人科術後に化学療法を受ける患者のセルフケア行動の変化	第68回 国立病院総合医学会	11月14日、15日	2病棟3階	松本 悠見
18	腰椎術後に残存する下肢しびれに対する足浴効果の有用性	第68回 国立病院総合医学会	11月14日、15日	2病棟5階	四月朔日 希
19	多職種協働による薬物療法アセスメントシート作成の取り組み	第24回 日本新生児看護学会学術集会	11月10、11日	NICU	岡庭 暁子
20	外来化学療法センターでの実習における学生の学び～イメージマップを用いた分析、第一報～	第12回 国立病院看護研究学会	1月10日	外来	田中 雅子
21	急性期一般病棟で終末期がん患者のケアを提供する看護師の困難感	第12回 国立病院看護研究学会	1月10日	がん看護CNS	櫻井 真知子
22	頭部温電法による術後せん妄発生予防への取り組み - 第一報 -	第12回 国立病院看護研究学会	1月10日	2病棟7階	杉村 真波
23	CRCのキャリア開発に向けての現状と課題 - 職業別・経験年数別におけるCRC教育の課題 -	第12回 国立病院看護研究学会	1月10日	CRC	松井 いづみ
24	2事例を通して、音楽が看護ケアに及ぼす効果を考える	第8回 音楽医療研究会学術集会	1月11日	特室	若林 有佳
25	救命ICUで流れる音楽に関する看護師の認識	第8回 音楽医療研究会学術集会	1月11日	救命センター	西田 和美
26	手術室での音楽に対する患者の好感度の実態調査	第8回 音楽医療研究会学術集会	1月11日	OP	福島 由美香
27	開心術後患者におけるせん妄の発生要因の検討	第42回 日本集中治療医学会学術集会	2月9日～11日	集中治療室	岡田 紘和

3. 平成26年度 院内研究発表

No.	テーマ	部署	発表者名
1	口腔・咽喉野に放射線治療を行う患者の口腔粘膜炎悪化防止の援助	1病棟4階	加藤 麻弓
2	退院支援の現状と退院調整の遅延・停滞の要因 ー医師と看護師の退院調整への認識の比較からー	1病棟5階	今井 智恵
3	病棟における内服薬のインシデント発生要因分析 ー入退院が多い当病棟の特徴との関連性ー	1病棟5階	西谷 麻衣子
4	安全で快適な職場環境と療養環境を目指して	1病棟6階	谷藤 美紀
5	クリティカルパスの効果的な使用を目指して	1病棟7階	藤井 めぐみ
6	患者が話せる場所を作りたい～HV看護外来立ち上げから現在まで、今後の展望～	1病棟8階	中川 悠
7	ネーザルハイフロー療法の退院支援	1病棟8階	吉野 めぐみ
8	小児急変に強くなるようプロジェクト	2病棟3階、小児科	内堀 貴美子
9	ピンクレンジャー出動！MRSAをやっつけろ！～見直した私達の感染予防対策～	NICU GCU	河野 真里佳
10	嚥下障害患者が経口摂取できるまで～他職種との連携を通して～	2病棟4階	光居 優華
11	口腔アセスメントシート導入後の看護師の意識の変化	2病棟4階	増田 可奈
12	チームで情報を共有し、患者に安全安楽な看護の提供をおこなう	2病棟5階	篠田 いずみ
13	整形外科看護技術の質の向上に向けた取り組み	2病棟5階	村上 侑子
14	褥瘡予防の取り組み	2病棟5階	佐伯 愛
15	看護師職務満足度調査 1	2病棟5階	西谷 保
16	患者参画型カンファレンスを実施しての評価と今後の課題	2病棟6階	玉木 舞
17	頸部温罨法による術後せん妄発生予防への取り組みー第1報ー	2病棟7階	杉村 真波
18	インスリンインシデント減少にむけた取り組み	2病棟8階	小久 保敦子
19	遺族会に参加した遺族の思い	緩和ケア病棟	坂本 圭子
20	片付く仕組みをつくる ～使いやすい職場環境作りへの挑戦～	緩和ケア病棟	白水 裕子
21	緩和ケア病棟開設後4年間の傾向と、今後の課題について考える	緩和ケア病棟	落合 恵
22	積極的なコミュニケーションにより医師との連携不足を改善する	特別室個室病棟	田中 美佳
23	救命救急センターにおける深部静脈血栓・肺塞栓予防策の適切な運用にむけた取り組み	救命救急センター	森口 真吾
24	ほぼ意識清明下の気管挿管患者においてせん妄スクリーニングツールの使用が身体拘束に及ぼす影響	救命救急センター	森口 真吾
25	意識清明患者の「床上安静」指示に伴うストレスと緩和につながる看護介入について	救命救急センター	太田 美沙
26	5 Sに対する意識付け清掃についての取り組みについて	救命救急センター	篠原 麻里
27	患者満足度の向上 ～持ち物チェックシートを導入して～	救命救急センター	奥田 良美
28	ICUにおけるリハビリ早期導入に向けた取り組み～リハビリスタッフとの連携システム構築を目指して～	救命救急センター	中野 達也
29	ICUにおけるチューブ類自己抜去インシデントを分析して	救命救急センター	山火 大樹
30	救命センターHCUにおける新人教育体制の構築	救命救急センター	佐々木 友香
31	看護師職務満足度調査 2	救命救急センター	西田 和美
32	救急外来患者アンケートを実施して	救急外来	池本 知子
33	救急外来における電話相談の現状	救急外来	龍田 幹政
34	救急外来におけるE-CPRシミュレーション教育導入の効果	救急外来	豊崎 宏行
35	ダヴィンチ手術の導入における取り組み	手術室	涌嶋 奈津子
36	手術室でのゴージョー使用に対する意識向上についての報告～部屋置きゴージョーから手持ちゴージョーへ～	手術室	大鶴 安里沙
37	手術室におけるパートナーシップ制の効果ートリオでの支援体制を試みてー	手術室	小椋 裕美
38	当集中治療室スタッフの鎮静評価の現状～R A S Sを用いて正しい鎮静評価を行うために～	集中治療室	中西 愛
39	集中治療室入室前オリエンテーションの見直し～術後の状態をイメージしやすいパンフレットと統一した説明方法の検討	集中治療室	森 晶子
40	外来化学療法センターでの実習による看護学生の学びー第一報ー	外来	田中 雅子
41	訪問看護ステーションとの連携～F A Xを利用した継続看護～	外来	西村 真由子
42	上部消化管内視鏡検査における前処置法変更後の効果～ジメチコン水の内服時間を検査直前に変えて～	外来内視鏡センター	長崎 沙耶香
43	外来化学療法センターにおける自記式問診票導入後の評価	外来 化学療法センター	青山 佳代子
44	退院時共同指導料及び介護連携指導料算定への取り組み	地域医療連携室	井上 綾乃
45	看護記録監査結果報告	看護記録委員会	山本 なおみ
46	感染予防対策の充実に向けた活動	感染管理チーム会	石橋 憲介
47	患者・家族の望む意思決定支援とは	がん・緩和ケアチーム会	布施 克美
48	がん看護・緩和ケアチーム会 活動報告	がん・緩和ケアチーム会	近田 美由
49	自己抜去・自己抜管リスクアセスメントシート作成にむけて	医療安全チーム会	深川 哲嗣
50	転倒転落アセスメントスコアシートの活用に向けて	医療安全チーム会	宮岡 まさみ
51	リンカーナスの安全な摂食への取り組み	NST・褥瘡管理チーム会	小川 友歌
52	呼吸ケアチーム会の病棟ラウンド報告	呼吸ケアチーム会	香川 綾花
53	長く働き続けられる職場環境作りを目指して～メッセージカードの活用～	人材確保プロジェクト	大村 栄

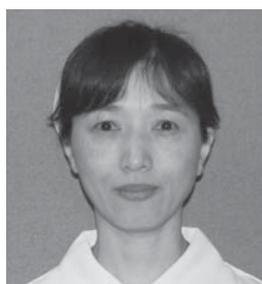
京都看護助産学校



副学校長
山本 薫里



助産師科 教育主事
渡邊 玲子



看護師科 教育主事
野々川 陽子



看護師科 教育主事
岡村 稔子

I 看護学校の概要

1. 名称

独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター附属京都看護助産学校

2. 所在地

〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町 1 の 1

TEL (075) 641-9191 (直通) HP <http://www.hosp.go.jp/~kyotolan/>

3. 沿革

- 昭和24年 4月 1日 国立京都病院附属高等看護学院として開設
1 学年定員30名 総定員 90名
- 昭和43年 4月 1日 1 学年定員50名 総定員150名
- 昭和44年 4月 1日 助産婦科の附設 1 学年定員35名 総定員35名
国立京都病院附属高等看護助産学院に名称変更
- 昭和50年 4月 1日 国立京都病院附属看護助産学校に名称変更
- 昭和51年 4月 1日 専修学校(専門課程)に認定
- 平成16年 4月 1日 国立療養所宇多野病院附属看護学校(3年課程)と国立療養所南京都
病院附属看護学校(2年課程)と3校が統合、大型校となり独立行政
法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校に名称変更
看護師科 1 学年定員80名 総定員240名
助産師科 1 学年定員35名 総定員 35名
- 平成27年 4月 1日 助産師科定員 25名 総定員25名

卒業生数(平成27年 3月31日現在)

看護師科(1 回生～53回生)… 1,968名

(1 回生～11回生)… 819名(統合後)

助産師科(1 回生～46回生)… 1,352名

4. 課程・定員

課程	学科	入学定員	総定員	在籍者数（平成 27年3月1日現在）			
				1年生	2年生	3年生	合計
看護専門課程	看護師科 (3年課程)	80人	240人	84人	73人	70人	227人
看護専門課程	助産師科	35人	35人	25人			25人
計		115人	275人	109人	73人	70人	252人

II 教育理念・目的

1. 教育理念

本校は、国立病院機構附属の養成所であり、国立病院機構の病院が担っている役割や機能を理解し、将来の国立病院機構の医療をリードしていく看護実践力をもつ看護師を育成することを責務としている。

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、感じる心・考える力・主体的に行動する学生の育成を目指している。感じる心とは、人間に関心をもつことができ、生命の大切さや多様な価値観を感性豊かに感じとり物事の変化に気づくこと、考える力とは、状況の意味を自ら考え、専門的知識を活用して分析・判断する力のこと、主体的に行動するとは、感じ考えたことを自らすすんで表現し行動に繋げることができ責任がとれること、自己の目標達成に向けて卒業後も継続的に学習することを言う。

人間は、自己実現を目指し変化しようとしている存在であるが、現代の若者は生活体験が乏しいことから事象をイメージしにくく想像力・理解力が未熟な傾向にあるため、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得にあたり、体験的・実践的学習をとりいれわかりやすい授業を実践する。また、臨地実習での学びを充実させるために学びやすい環境づくりに力を入れる。さらに、医療・看護の動向をふまえ、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

2. 教育目的

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

3. 教育目標

1. 生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う
2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養う
3. 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践する
4. 科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を養う
5. 健康の保持・増進、疾病の予防および健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割および他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養う
7. 社会の動向に関心を持ち、常に主体的に看護を探究する姿勢と自己研鑽し続ける能力を養う

コンセプト

感じる心 考える力 そして・・・行動を

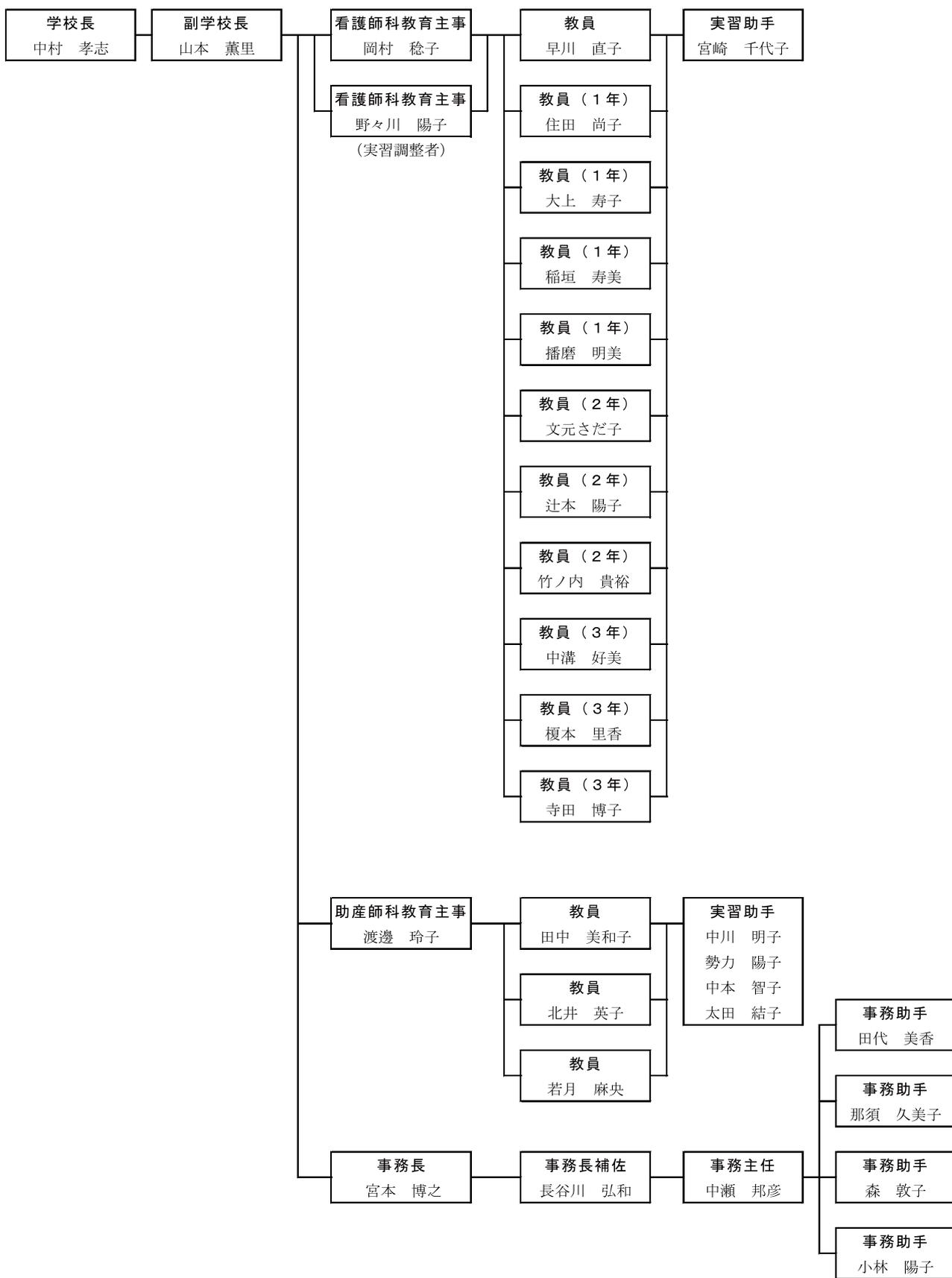
4. 平成26年度 部門(看護学校)目標

部門目標		看護師科
1	指導計画や授業実践の改善・充実につながる授業評価や研修の充実を図り、教員の指導力の向上につとめる	<input type="checkbox"/> 授業研究活動の活発化(教員最低1回)による授業力アップ
		<input type="checkbox"/> 研修、学会等への積極的参加や文献などに目を向け自己啓発を図る
		<input type="checkbox"/> 自己の研究テーマを持ち、研究に取り組む
		<input type="checkbox"/> 研究等の発表数の増加
		<input type="checkbox"/> 専門領域の研修
		<input type="checkbox"/> 研修日の確保
2	学校評価の充実と、学校の透明性を推進する	<input type="checkbox"/> 自己点検・自己評価及び第三者評価の実施と公表
		<input type="checkbox"/> 学生による授業評価の実施と講師へのフィードバック
		<input type="checkbox"/> 卒業時カリキュラム評価の目標平均値3.0以上
3	学校の課題解決に向けた工夫・改善を図り、組織的な教育活動の実践に努める	<input type="checkbox"/> カリキュラムの円滑な運営・実施
		<input type="checkbox"/> カリキュラム評価により随時教育内容の見直し
		<input type="checkbox"/> チームとしての業務遂行(連携・調整の強化)
		<input type="checkbox"/> 効率的で確実な教育態勢作り
		<input type="checkbox"/> 勤務時間管理の徹底と自己管理(自己コントロール)
4	国立病院機構に貢献できる優秀な人材の確保と育成	<input type="checkbox"/> 広報活動の強化(HPの充実 リアルタイムな情報提供)
		<input type="checkbox"/> 地域(地元高校)・看護協会等との積極的交流や連携強化
		<input type="checkbox"/> 臨床との連携による看護技術教育の充実
		<input type="checkbox"/> 国立病院機構への就職率看護師科70%以上、助産師科50%以上
		<input type="checkbox"/> 国家試験合格率が当該年度の国立病院機構全国平均以上
5	学生が自ら学び自ら問題を解決していく意思と態度や、つねに探求する姿勢を養う 《感じ、考え、行動する》	<input type="checkbox"/> 少人数制の授業・演習形態やグループワークの活用
		<input type="checkbox"/> 「自分で創る学校生活」を意識させ、学生主体で企画・運営する機会を設ける
		<input type="checkbox"/> 自治会活動・クラブ活動への支援
		<input type="checkbox"/> ボランティア活動等の推奨
6	学生理解を土台にした相談活動の充実をはかる	<input type="checkbox"/> 学生相談室活用への支援強化
		<input type="checkbox"/> 教員間での学生情報の共有
		<input type="checkbox"/> きめ細やかな指導、タイムリーな指導
		<input type="checkbox"/> 学生のペースに合わせた指導

部門目標		助産師科
1	指導計画や授業実践の改善・充実につながる授業評価や研修の充実を図り、教員指導力の向上に努める。	<input type="checkbox"/> 授業研究活動の活発化(教員最低1回)による授業力アップ
		<input type="checkbox"/> 研修・学会等の積極的参加や文献等に目を向けた自己啓発を図る(1人2回以上の専門学会・研修会への参加)
		<input type="checkbox"/> 自己の研究テーマを持ち、研究に取り組む
		<input type="checkbox"/> 研究発表数の増加(1人1題以上の研究活動への参画)
		<input type="checkbox"/> 研修日の確保(月1回)
		<input type="checkbox"/> 中間評価の実施による授業改善
2	学校評価の充実と、学校の透明性を推進する。	<input type="checkbox"/> 自己点検・自己評価及び第三者評価の実施と公表
		<input type="checkbox"/> 学生による授業評価の実施と講師へのフィードバック
		<input type="checkbox"/> 卒業時カリキュラム評価の目標平均値3.0以上
3	学校の課題解決に向けた工夫・改善を図り、組織的な教育活動の実践に努める。	<input type="checkbox"/> カリキュラムの円滑な運営・実施
		<input type="checkbox"/> カリキュラム評価により随時教育内容の見直し
		<input type="checkbox"/> チームとしての業務遂行(連携・調整の強化)
		<input type="checkbox"/> 効率的で確実な教育体制作り
		<input type="checkbox"/> 勤務時間管理の徹底と自己管理(自己コントロール)
4	国立病院機構に貢献できる人材の確保と育成	<input type="checkbox"/> 広報活動の強化(HPの充実、リアルタイムな情報提供)
		<input type="checkbox"/> 地域(地元高校)、看護協会との積極的交流や連携強化
		<input type="checkbox"/> 臨床との連携による看護技術教育の充実
		<input type="checkbox"/> 病院・地域と連携した性教育講座、両親学級の企画運営
		<input type="checkbox"/> 地域のニーズに対応した室の高い学生の育成(定員25名)
		<input type="checkbox"/> 国立病院機構への就職率助産師科50%以上
		<input type="checkbox"/> 国家試験合格率が当該年度の国立病院機構全国平均以上
5	学生が自ら学び、自ら問題を解決していく意思と態度や、常に探求する姿勢を養う。	<input type="checkbox"/> 少人数制の授業・演習形態やグループワークの活用
		<input type="checkbox"/> 「自分で創る学校生活」を意識させ、学生主体で企画・運営する機会を設ける
		<input type="checkbox"/> 自治会活動、クラブ活動への支援
		<input type="checkbox"/> ボランティア活動等への推奨
6	学生理解を土台とした相談活動の充実を図る	<input type="checkbox"/> 学生相談室活用への支援強化
		<input type="checkbox"/> 教員間での学生情報の共有
		<input type="checkbox"/> きめ細やかな指導、タイムリーな指導
		<input type="checkbox"/> 学生の学習進度に応じた個別指導(教員による学生の個別指導)

III. 本学の組織

1. 組織図



2. 教育経験年数

	教員の種別	教育年数	専門領域
看護 師 科	副学校長（山本 薫里）	19年	基礎看護学
	教育主事（岡村 稔子）	13年	基礎看護学
	教育主事（野々川 陽子）	10年	在宅看護論
	教員（早川 直子）	8年	成人看護学
	教員（文元 さだ子）	8年	成人看護学
	教員（中溝 好美）	6年	老年看護学
	教員（辻本 陽子）	4年	母性看護学
	教員（榎本 里香）	4年	成人看護学
	教員（住田 尚子）	4年	小児看護学
	教員（大上 寿子）	3年	成人看護学
	教員（寺田 博子）	3年	成人看護学
	教員（稲垣 寿美）	3年	基礎看護学
	教員（播磨 明美）	0年	老年看護学
	教員（竹ノ内 貴裕）	0年	精神看護学
	実習助手（宮崎 千代子）		母性看護学
助 産 師 科	教育主事（渡邊 玲子）	助12年	助産学・母性看護学
	教員（田中 美和子）	看1年・助5年	助産学
	教員（北井 英子）	助2年	助産学
	教員（若月 麻央）	助0年	助産学
	実習助手（中川 明子） （勢力 陽子） （中本 智子）		

3. 職員・講師数

教職員に関する事項	教員の種別	専任	兼任		職員の種別	専任	兼任
			(看)	(助)			
	保健師	0名	0名	1名	事務職員	3名	3名
	助産師	5名	4名	9名	その他の職員	0名	0名
	看護師	13名	40名	2名	合計	3名	3名
	医師 （歯科医師含む）	0名	68名	16名			
	その他の教員	0名	40名	6名			
	合計	18名	148名	34名			

IV. 学生募集

1. 入学試験実施状況

<看護師科>

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成27年 1月22日 (木)	平成27年 1月24日 (土)	平成27年 1月29日 (木)
社会人入学試験	平成26年11月20日 (木)	平成26年11月22日 (土)	平成26年11月27日 (木)
推薦入学試験	平成26年11月20日 (土)		平成26年11月27日 (木)

<助産師科>

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成27年 1月22日 (木)	平成27年 1月24日 (土)	平成27年 1月29日 (木)
特別選抜入学試験	平成26年11月20日 (木)		平成26年11月27日 (木)

2. 入学状況

<看護師科>

年度 (回生)	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成 22 年 (第 9 回生)	社会人	109	101	43	39		
	一般	156	147	56	42		
	合計	265	248	99	81	7	75
平成 23 年 (第 10 回生)	社会人	108	106	44	39		
	一般	177	172	61	43		
	合計	285	278	105	82	1	80
平成 24 年 (第 11 回生)	社会人	108	100	46	42		
	一般	134	130	59	36		
	合計	242	230	105	78	4	69
平成 25 年 (第 12 回生) 在学中	推薦	8	8	8	8		
	社会人	89	83	38	36		
	一般	158	149	61	34		
	合計	255	240	107	78		
平成 26 年 (第 13 回生) 在学中	推薦	9	9	9	9		
	社会人	82	76	33	33		
	一般	171	164	72	40		
	合計	262	249	114	82		
平均		261.8	249	106	80.2	2.4	

<助産師科>

年度 (回生)	試験	応募 者数	受験 者数	合格 者数	入学 者数	退学 者数	卒業 者数
平成 24 年 (第 44 回生)	特別選抜 (学校)	11	11	11	11		
	特別選抜 (施設)	2	2	2	1		
	一般	89	87	23	8		
	合計	102	100	36	30	1	29
平成 25 年 (第 45 回生)	特別選抜 (学校)	9	9	9	9		
	特別選抜 (施設)	3	3	3	3		
	一般	72	54	18	15		
	合計	84	66	30	27	3	24
平成 26 年 (第 46 回生)	特別選抜 (学校)	10	10	10	10		
	特別選抜 (施設)	0	0	0	0		
	一般	69	62	18	18		
	合計	79	72	28	28	3	25
平均		88.3	79.3	31.3	28.3	2.3	

3. オープンキャンパスの実施

<看護師科>

	日 程	内 容 / 参加人数	
1	平成 26 年 5 月 12 日 (月)	看護の日 記念行事として卒業高校の訪問(15施設)	
2	平成 26 年 5 月 28 日 (水)	高校の進路指導部の教員対象の説明会	10 人
3	平成 26 年 6 月 14 日 (土)	学校の概要説明、校舎内見学 学校生活紹介、学生メッセージ 入試概要説明 質疑・応答、個別相談	22 人
4	平成 26 年 7 月 26 日 (土)		60 人
5	平成 26 年 7 月 28 日 (月)		24 人
6	平成 26 年 8 月 16 日 (土)		45 人
7	平成 26 年 8 月 17 日 (日)		48 人
10	平成 26 年 9 月 6 日 (土)	学校説明会・公開授業	38 人
11	平成 26 年 10 月 25 日 (土)	学校説明会・公開講座	51 人
		合計	298 人

<助産師科>

	日 程	内 容 / 参加人数	
1	平成 26 年 6 月 28 日 (土)	学校の概要説明、校舎内見学 学校生活紹介、学生メッセージ 入試概要説明 質疑・応答	10 人
2	平成 26 年 7 月 19 日 (土)		30 人
3	平成 26 年 8 月 23 日 (土)		51 人
4	平成 26 年 8 月 30 日 (土)		41 人
		合計	132 人

V. 学生生活

1. 心身の健康保持・増進

1) カウンセリング

カウンセラーによるカウンセリングを週1回(放課後)に実施している。

2) 健康診断

健康管理規定に基づき、定期的を実施している。

項目	対象	4月	7月	10月	1月
1. 身体測定	全学生	○	○	○	○
2. 胸部X線撮影	全学生	○			
3. 血圧測定	全学生	○		○	
4. 検尿 (糖、蛋白、潜血、ウビリノーゲン)	全学生	○		○	
5. 内科総合診断	全学生	○		○	
6. 採血 (梅毒反応、HB、HCV、麻疹、風疹 水痘、ムンプス抗体検査)	新入生	○			
7. ツベルクリン反応検査	新入生(2,3年生 の陰性者)	○			
* 検便は実習前に実施					

2. 課外活動 : 看護師科

1) 自治会活動

	< 前期 >		< 後期 >
5月	自治会総会	11月	自治会総会
6月		12月	大掃除
7月	大掃除	1月	新春コンサートへの参加
8月		2月	国家試験激励会、予選会
9月		3月	
10月	戴帽式のお祝い 自治会総括 後期自治会選挙	4月	新入生歓迎会 自治会総括 前期自治会選挙

2) クラブ活動

(1) バレーボール部

毎週 火・水・木・金 曜日 16:30～18:00 体育館

あじさい杯 平成26年7月5日(土) 開催

* 京都看護助産学校主催で近畿グループ病院附属看護学校5校のバレーボール部が集まる大会。
毎年開催している。

(2) 茶道部

隔週 木 曜日 16:30～18:30 在宅看護実習室

七夕茶会 平成26年7月18日(金) 開催

初釜茶会 平成27年1月16日(金) 開催

(3) 園芸部

不定期開催

患者さんたちに季節の花を見てもらえるよう、草花を植えて手入れをしている。

(4) 合唱サークル

不定期開催

みんなで楽しむとともに、病院コンサートや実習でのレクリエーションで患者さんに喜んでもらえるよう、練習している。

(5) アロマサークル

不定期開催

ハンドマッサージやアロマスプレーを作るなど、みんなで楽しむとともに、看護に活かせるよう練習している。

(6) バドミントンサークル

月曜日(不定期開催)

身体を動かし、リフレッシュしている。

3) ボランティア活動

	実施時期	学年	実施内容
1	平成 26年 5月 12日	学生全員	看護の日記念行事コンサート・カードの配布(京都医療センター)
2	平成 26年 7月 23日	1年生	サマーコンサート(京都医療センター)
3	平成 26年 12月 10日	1年生	クリスマスコンサート
4	平成 27年 2月 24日	3年生	病院清掃ボランティア

VI. 卒業生の進路

1. 就職・進学状況

<看護師科>

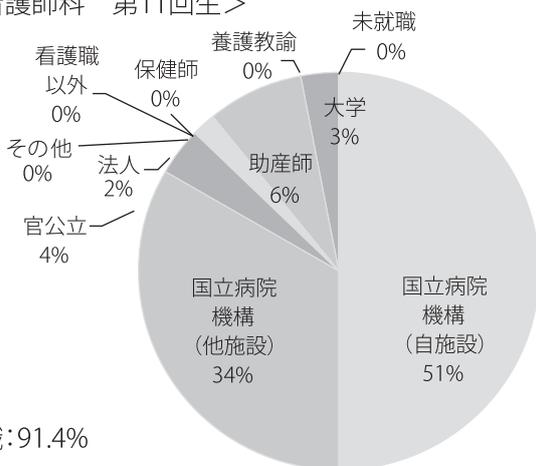
年月	回生	卒業 者数 (人)	就 職 (人)						進学 (人)				未 就 職
			国立病院機構		官 公 立	法 人	そ の 他	看護職 以外	保 健 師	助 産 師	養 護 教 諭	大 学	
			自施設	他施設									
平成 25 年 3 月	第 9 回生	75	35	22	1	2	2	0	0	7	0	6	0
平成 26 年 3 月	第 10 回生	80	32	28	3	3	0	0	0	9	0	5	0
平成 27 年 3 月	第 11 回生	70	36	24	3	1	0	0	0	4	0	2	0
平 均			34.3	24.6	2.3	2	0.6	0	0	6.7	0	4.3	0

<助産師科>

年月	回生	卒業 者数 (人)	就 職 (人)						進 学	未 就 職
			国立病院機構		官 公 立	法 人	そ の 他	看護職 以外		
			自施設	他施設						
平成 25 年 3 月	第 44 回生	29	5	10	9	2	3	0	0	
平成 26 年 3 月	第 45 回生	24	6	10	6	2	0	0	0	
平成 27 年 3 月	第 46 回生	25	4	10	8	3	0	0	0	
平 均			5	10	7.6	2.3	1	0	0	

平成27年3月 進路状況

<看護師科 第11回生>

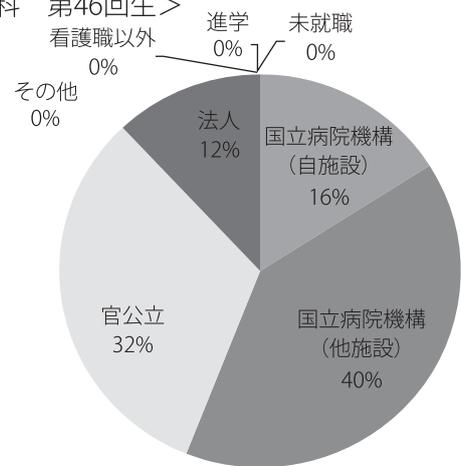


就職:91.4%

進学:8.6%

就職者の中の機構就職率:93.7%

<助産師科 第46回生>



就職:100%

就職者の中の機構就職率:56%

2. 国家試験

<看護師科>

		全国 (%)	機構附属 (%)		
			全国	近畿	京都
103回 (H26.3)	全体 (新卒)	89.8 (95.2)	98.2 (98.9)	98.9	100
104回 (H27.3)	全体 (新卒)	90.0 (95.5)	98.6 (99.0)	99.7	100

<助産師科>

		全国 (%)	機構附属 (%)	
			全国	京都
97回 (H26.3)	全体 (新卒)	96.9 (97.6)	100	100
98回 (H27.3)	全体 (新卒)	99.9 (99.9)	100	100

VII. 教員の研究および研修参加

1. 研究活動

<学会発表>

日程	学会名	テーマ	研究者(○発表)
平成26年 11月14日～15日	第68回国立病院総合医学会	実習指導者育成のための取り組み 第1報	○松浦美代、中村陽子 中野智子、釘宮泰子、松下和恵、 北井英子、寺田博子、藤々木美帆、 伊藤睦美、小林由里、山本薫里
		近畿管内看護助産学校5校による学校相互評価の取り組み	○渡邊玲子(口演) 清家百合枝
平成26年 9月14日	第55回日本母性衛生学会学術集会	助産師学生の助産実践能力向上を目指した入学前演習の実践と評価 —妊婦健康診査演習を通して—	○北井英子(ポスター) 田中美和子 若月麻央 渡邊玲子
ペリネタルケア 2014 夏季増刊	雑誌掲載	脳血管疾患合併症妊娠	○田中美和子(掲載)

<教員研修会 研究グループ>

	テーマ	教員
1G	実習指導者研修プログラム内の1授業「実習目標を意識した指導方法」の知識活用状況	中溝 好美・北井 英子
2G	教育の質向上を目指した「公開授業」の取り組みについて	榎本 里香・竹ノ内 貴裕
3G	学生確保に向けた取り組みの現状把握	辻本 陽子・寺田 博子
4G	看護教員が働き続けられる要因から職場づくりについて考える	文元 さだ子・若月 麻央
5G	周手術期における演習指導案の作成	住田 尚子・稲垣 寿美
6G	老年看護学における演習計画案の検討	早川 直子・播磨 明美
7G	既習の知識を統合させる症状別看護の授業案の作成	大上 寿子・田中 美和子

<授業研究>

日程	授業内容	教員
平成 26 年 9 月 11 日 (木)	(授業見学:大阪医療センター) 成人援助論演習 周手術期の看護	稲垣 寿美
平成 26 年 9 月 17 日 (水)	(授業見学:大阪医療センター) 診療援助技術Ⅱ 与薬・ME機器(講義)	榎本 里香
平成 26 年 9 月 30 日 (火)	(授業見学:大阪医療センター) 看護基本技術Ⅱ :フィジカルアセスメント(演習)	住田 尚子
平成 26 年 10 月 31 日 (金)	(公開授業) 看護の統合と実践Ⅳ 援助技術の適応と判断と実践 (演習)	榎本 里香
平成 26 年 11 月 18 日 (火)	(公開授業) 基礎看護技術Ⅴ 診療・検査に伴う技術:採血	稲垣 寿美
平成 26 年 11 月 28 日 (金)	(公開授業) 成人看護学演習 周手術期看護 (講義)	早川 直子
平成 26 年 12 月 3 日 (水)	(授業見学:姫路医療センター) 日常生活援助基礎技術 清潔(演習)	文元 さだ子 大上 寿子
平成 26 年 12 月 8 日 (月)	(公開授業) 看護の統合と実践Ⅳ 援助技術の適応と判断と実践 (演習)	榎本 里香
平成 27 年 1 月 13 日 (火)	(公開授業) 母性看護学演習Ⅱ 新生児の沐浴(演習)	辻本 陽子
平成 27 年 1 月 14 日 (水)	(授業見学:大阪南医療センター) 治療処置別援助技術Ⅰ 輸血管理(講義)	寺田 博子
平成 27 年 1 月 19 日 (月)	(公開授業) 老年看護援助技術 障害・疾病をもつ高齢者の看護(講義)	中溝 好美
平成 27 年 2 月 2 日 (月)	(授業見学) 生活援助技術Ⅲ 排泄:一時的導尿	播磨 明美 竹ノ内 貴裕 若月 麻央
平成 27 年 2 月 12 日 (木)	(公開授業) 看護過程展開技術 (グループワーク)	早川 直子

2. 研修参加状況

日程	主催	研修内容	参加人数
平成 26 年 7 月 30 日	副学校長・教育主事・教員 夏期合同研修会	講演:教師の時間術	18人
平成 26 年 7 月 31 日	近畿グループ	3年目以上教員研修	10人

VIII. 社会への貢献

1. 公開講座

	日 程	テーマ	参加者数
看護師科	平成 26 年 6 月 7 日 (土)	ホームカミングデイ 「ツボでリフレッシュ!」 ～自分を癒す技を身につけよう～	50 人
	平成 26 年 7 月 26 日 (火)	看護学生体験:ベッドメイキング・血圧測定体験	39 人
	平成 26 年 8 月 16 日 (土)	看護学生体験:ベッドメイキング・血圧測定体験	39 人
	平成 26 年 8 月 17 日 (日)	看護学生体験:ベッドメイキング・血圧測定体験	31 人
	平成 26 年 9 月 6 日 (土)	ミニ講義:フィジカルアセスメントについて	38 人
	平成 26 年 10 月 25 日 (土)	公開講座:健康長寿をめざして ～楽しく続けるロコモ体操～	14 人
		合計	211人

2. ガイダンス

日程	研修内容	教員
平成 26 年 5 月 29 日	府立城南菱創高校 高校内ガイダンス(1年生職業理解)	山本 薫里
平成 26 年 8 月 1 日	京都予備校	山本 薫里

3. 教員の講習会、研修等の講師

日程	研修内容	教員
平成26年 6月～7月	平成26年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会 講義講師	山本 薫里 岡村 稔子 野々川 陽子
	平成26年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会 演習指導案助言講師	早川 直子
平成26年 9月24日 10月16日 10月29日	京都医療センター附属 京都看護助産学校 実習指導者研修プログラム (第1回～第3回)	山本 薫里 岡村 稔子 野々川 陽子 早川 直子 中溝 好美 辻本 陽子 住田 尚子 寺田 博子 北井 英子
平成26年 7月～8月	京都府専任教員養成講習会 教育課程演習 助言講師	山本 薫里
平成26年 8月～9月	京都府専任教員養成講習会 教育評価演習 助言講師	岡村 稔子 野々川 陽子

4. 研修受け入れ

日程	研修内容		受け入れ数
平成26年9月30日 平成26年10月 14日～31日	教育実習	京都府専任教員養成講習 主催	2人
平成26年11月28日	教員 インターンシップ	近畿グループ副学校長 教育主事協議会主催	1人
平成26年11月 4日～7日	教員 インターンシップ	近畿グループ副学校長 教育主事協議会主催	2人
平成27年2月18日	教員 インターンシップ	近畿グループ副学校長 教育主事協議会主催	3人
平成27年2月19日	教員 インターンシップ	近畿グループ副学校長 教育主事協議会主催	3人

IX. 施設と設備

1. 建物の概要

	区 分	建築年数	構造・階	面積 (㎡)	摘 要
看護師科	校 舎	平成16年	RC4階	延: 3037㎡ 建: 1002㎡	
助産師科	校 舎	昭和54年	RC2階	延: 850㎡ 建: 469㎡	
	寄宿舍		RC5階	延: 540㎡ 建: 111㎡	
共通	図書棟	平成16年	RC2階	延: 704㎡ 建: 421㎡	
	体育館	平成3年	RC2階	延: 664㎡ 建: 600㎡	

2. 図書・ビデオ保有数

<図書>

(平成27年3月31日現在)

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	雑誌	合計
看護師科	3,404	2,565	8,945	37	20種	14,971
助産師科	594	941	2,013	8	20種	3,576

<ビデオ>

(平成27年3月31日現在)

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	合 計
看護師科	28	139	778	0	945
助産師科	0	74	240	0	314

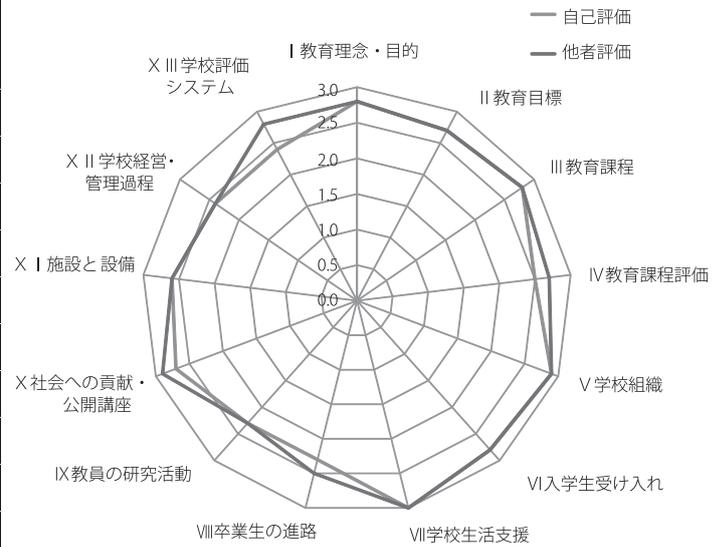
X. 会議一覧

月	平成 26 年度 開催状況
4 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(7回/月)
5 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(4回/月)
6 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(4回/月)
7 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(4回/月)
8 月	教員会議(7回/月)
9 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(4回/月)
10 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(5回/月)
11 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(4回/月) 入試委員会(社会人入試・特別選抜入試) 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
12 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(4回/月)
1 月	運営会議 教員会議(4回/月) 入試委員会(一般入試) 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
2 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(4回/月)
3 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議(6回/月)

XI. 平成26年度 看護師養成所自己点検・自己評価結果

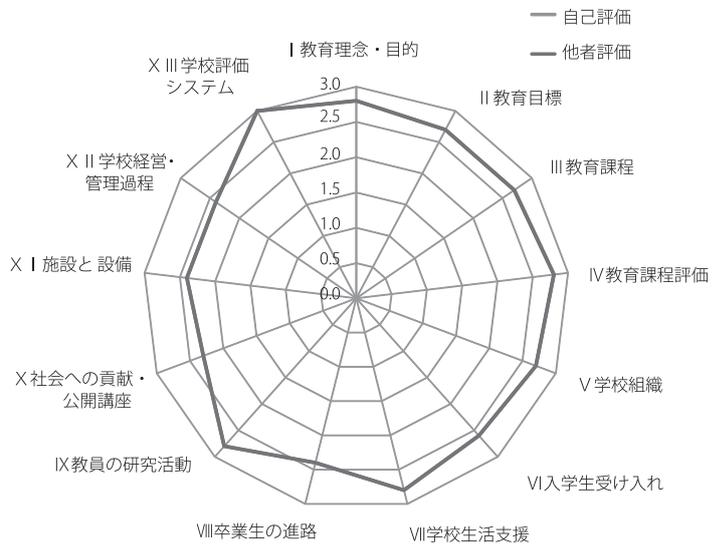
<看護師科>

No	評価項目		自己評価	他者評価
I	教育理念・目的	6項目	2.8	2.8
II	教育目標	6項目	2.7	2.7
III	教育課程	26項目	2.8	2.8
IV	教育課程評価	6項目	2.5	2.7
V	学校組織	7項目	2.9	2.9
VI	入学生の受け入れ	5項目	2.8	2.8
VII	学校生活支援	12項目	3.0	3.0
VIII	卒業生の進路	6項目	2.3	2.5
IX	教員の研究活動	4項目	2.3	2.3
X	社会への貢献・公開講座	7項目	2.7	2.9
XI	施設と設備	5項目	2.6	2.6
XII	学校経営・管理過程	7項目	2.4	2.4
XIII	学校評価システム	5項目	2.4	2.8
全体の平均			2.6	2.7



<助産師科>

No	評価項目		自己評価	他者評価
I	教育理念・目的	6項目	2.8	2.8
II	教育目標	6項目	2.7	2.7
III	教育課程	26項目	2.7	2.7
IV	教育課程評価	6項目	2.8	2.8
V	学校組織	7項目	2.7	2.7
VI	入学生の受け入れ	5項目	2.6	2.6
VII	学校生活支援	12項目	2.8	2.8
VIII	卒業生の進路	6項目	2.4	2.4
IX	教員の研究活動	4項目	2.8	2.8
X	社会への貢献・公開講座	7項目	2.3	2.3
XI	施設と設備	5項目	2.4	2.4
XII	学校経営・管理過程	7項目	2.4	2.4
XIII	学校評価システム	7項目	3.0	3.0
全体の平均			2.6	2.6



編集後記

平成26年度のアニュアルレポートをお届けします。

この年度内にあった京都医療センター最大の出来事は、第2外来棟が完成したことです。6月9日に竣工式を行い、PET/CTを新たに稼働させ、がん拠点病院としてさらなる躍進を目指します。それに負けず劣らずの大きな出来事は、手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)の設置です。8月20日に第一例目の前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術を施行し、その後順調に症例を重ねています。また9月には新しい心血管撮影装置を備えた心血管治療センターを立ち上げ、同時に脳血管、腹部血管に対しても新血管撮影室を開設し、心血管、脳血管障害に対してもさらにレベルの高い医療を提供できるようになりました。

地域に対する情報発信として京都医療センター地域医療連携フォーラムを、第3回は「がん診療～総合力の京都医療センター～・診断から緩和ケアまで」、第4回は「健康寿命を延ばす医療」というテーマで、それぞれ開催しました。当院の診療科を外の医療機関の方々に紹介する目的で開催している地域医療連携フォーラムですが、院内の参加者も他の診療科がどのような診療をしているのか初めて知って驚かされることもありました。同様のことがこのアニュアルレポートについてもいえます。1年間の院内の業績をまとめることで、お互いの活躍を認識し切磋琢磨することにつながるものと考えます。

京都医療センターがこれからも発展・革新していくことで地域に貢献できるように、スタッフ一同一丸となって邁進してまいります。毎年発行するアニュアルレポートがその歩みの足跡となるよう、広報委員会も努力していきます。

広報委員会

瀬田公一 塚原徹也